

**恵那市第8期高齢者福祉計画・
介護保険事業計画策定のための
実態調査結果報告書**

令和2年3月

岐阜県 恵那市

目 次

第1章 調査の実施概要	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の内容.....	3
3 電算処理および報告書の記載方法.....	6
4 調査票の配布と回答状況.....	6
5 地域課題のまとめ.....	11
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果	19
1 あなたのご家族や生活状況について.....	19
2 からだを動かすことについて.....	24
3 食べることについて.....	34
4 毎日の生活について.....	39
5 地域での活動について.....	53
6 たすけあいについて.....	55
7 健康について.....	59
8 介護予防について.....	64
9 さまざまな制度について.....	65
10 防災について.....	67
11 高齢社会について.....	68
第3章 在宅介護実態調査結果	73
1 ご本人（要介護者）の状況について.....	73
2 主な介護者等の状況（属性等）について.....	77
3 支援・サービス・訪問診療の利用状況・ニーズについて.....	85
4 主な介護者の就労状況について.....	94
5 介護生活を続ける際の不安や困りごと.....	96
6 介護離職の要因について.....	99
7 防災について.....	109
8 さまざまな制度について.....	110
9 高齢社会について.....	112
第4章 施設サービス利用者実態調査結果	115
1 ご本人（要介護者）について.....	115
2 ご本人（要介護者）の生活について.....	116

3	ご本人（要介護者）が入所している施設について	117
第5章	介護サービス提供事業者実態調査結果	127
1	貴事業所について	127
2	人材教育・質の向上について	128
3	業務について	131
4	災害対策について	133
5	給付の適正化について	134
6	事業運営について	134
7	サービスについて	138
8	関係機関との連携について	142
9	高齢者虐待について	143
10	今後の介護サービスについて	145
第6章	ケアマネジャー実態調査結果	149
1	ご本人について	149
2	ケアプランの作成について	151
3	高齢者虐待について	157
4	地域包括支援センターについて	159
5	サービスについて	160
6	今後について	162
第7章	日常生活圏域別地域分析	165
1	“5つの高齢者像”からみた地域分析	166
2	介護予防・日常生活支援総合事業に関する出現率と地域差	168
3	認知症高齢者に関する出現率と地域差	174
4	在宅医療・介護の推進	175
5	介護離職の要因と問題軽減	178
6	住まいのニーズ	183
7	地域資源等の把握	185
8	高齢者の公共交通機関の利用状況	192
9	健康について	193
資料編	199
1	電算処理の判定条件等	199

第1章

調査の実施概要

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

「恵那市第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたっては、高齢者等の日常生活実態及び介護者の介護実態を把握し、本市における地域を含めた課題整理を行い、今後目指すべき地域包括ケアシステム構築のあり方とサービス基盤の方向性を検討する必要があります。

本調査は、計画策定に必要となる将来推計の基礎資料を得ることを目的としています。

2 調査の内容

(1) 介護予防・日常生活支援調査

要介護状態になる前の高齢者に対する「要介護度の悪化につながるリスクの発生状況」及び「要介護度の悪化に影響を与える日常生活の状況」のアンケートを実施し、地域包括ケアシステム構築のための地域課題の抽出とサービス基盤の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年11月1日現在、恵那市に居住する65歳以上の一般高齢者（要介護認定者を除く）1,000人を無作為抽出	
調査方法	令和元年12月1日～12月16日対象者へ郵送にて調査	
調査票の設計	1 あなたのご家族や生活状況について	9設問
	2 からだを動かすことについて	15設問
	3 食べることについて	11設問
	4 毎日の生活について	25設問
	5 地域での活動について	5設問
	6 たすけあいについて	8設問
	7 健康について	16設問
	8 介護予防について	2設問
	9 さまざまな制度について	3設問
	10 防災について	1設問
	11 高齢社会について	4設問
		設問数合計

(2) 在宅介護認定者実態調査

介護する家族に対するアンケートを実施し、「地域包括ケアの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」などのニーズ把握をするとともに、介護給付サービスをはじめ各種類の「量の見込み」を設定するための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年 11 月 1 日現在、恵那市に居住する 65 歳以上の要支援・要介護認定者 703 人を無作為抽出	
調査方法	600 通：令和元年 12 月 1 日～12 月 16 日、対象者へ郵送にて調査 103 通：令和元年 10 月 1 日～12 月 28 日、対象者に調査員が聞き取り	
調査票の設計	1 あなたご自身（あて名のご本人）のことについて	7 設問
	2 支援・サービス・訪問診療の利用状況・ニーズについて	7 設問
	3 防災について	1 設問
	4 さまざまな制度について	3 設問
	5 高齢社会について	1 設問
	6 主な介護者等の状況（属性等）について	5 設問
	7 主な介護者の就労状況について	4 設問
	8 介護生活を続ける際の不安や困りごと	1 設問
	設問数合計	

(3) 施設サービス利用者実態調査

市内在住の要支援・要介護認定を受けている方で、施設サービスを利用している方にアンケートを実施し、入所施設の状況等について把握し、計画策定に必要となる基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元 11 月 1 日現在、要支援・要介護認定を受けている方で、施設サービスを利用されている方 200 人を無作為抽出	
調査方法	令和元年 12 月 1 日～12 月 16 日、対象者へ郵送にて調査	
調査票の設計	1 あなたについて	4 設問
	2 あなたの生活について	4 設問
	3 あなたが入所している施設について	15 設問
	設問数合計	

(4) 介護サービス提供事業者実態調査

市内介護サービス提供事業者の管理者の方にアンケートを実施し、業務や内部研修、サービス等について把握し、計画策定に必要となる基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年11月1日現在、市内の介護サービス提供事業者の中から117事業者を無作為抽出	
調査方法	令和元年12月1日～12月16日、対象者へ郵送にて調査	
調査票の設計	1 貴事業所について	1設問
	2 人材教育・質の向上について	6設問
	3 業務について	5設問
	4 災害対策について	2設問
	5 給付の適正化について	1設問
	6 事業運営について	6設問
	7 サービスについて	5設問
	8 関係機関との連携について	2設問
	9 高齢者虐待について	3設問
	10 今後の介護サービスについて	4設問
	設問数合計	

(5) ケアマネジャー実態調査

市内のケアマネジャーの方にアンケートを実施し、ケアプランの作成をはじめとした業務やサービス等について把握し、計画策定に必要となる基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年11月1日現在、市内のケアマネジャーの中から97人を無作為抽出	
調査方法	令和元年12月1日～12月16日、対象者へ郵送にて調査	
調査票の設計	1 あなたご自身について	5設問
	2 ケアプランの作成について	12設問
	3 高齢者虐待について	3設問
	4 地域包括支援センターについて	3設問
	5 サービスについて	2設問
	6 今後について	3設問
	設問数合計	

3 電算処理および報告書の記載方法

(1) 電算処理

集計処理にあたっては、回答結果から世帯状況、健康自立度別高齢者像（元気高齢者、一般高齢者、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者）の設定条件や、運動器の機能低下リスク、口腔機能の低下リスク、低栄養の傾向リスク、閉じこもり傾向リスク、認知機能の低下リスク、うつ傾向リスク等の判定条件を基に行いました。その条件内容は資料編に記載しています。

また、集計表やグラフの%表示は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

(2) 報告書の記載方法

報告書の記載にあたっては、テーマごとに関連する設問を集約し分析を行っているため、調査票の設問番号順になっていません。グラフや表に記載しているタイトル番号は、調査票の設問番号を用いています。

また、年齢階級別での比較は対象者数が少ない年齢階級については、5歳階級別に記載していない場合や、年齢と関係なく病気や障害の要因で悪化していることが多い要支援者は記載していない場合があります。

報告書に記載している用語について、「一般高齢者」は要支援・要介護認定者を除いた65歳以上高齢者を称しています。また、要支援認定者は「要支援者」、要介護認定者は「要介護者」として略称を用いています。

4 調査票の配布と回答状況

(1) 有効回答者数と回答率

本調査の回答状況は以下のとおりです。

表 1.1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答状況

圏域名	調査票の配布数 (人)	有効回答数 (人)	有効回答率 (%)
市全域	1,000	658	65.8
恵那中央圏域	510	335	65.7
恵那北部圏域	92	61	66.3
恵那南部圏域	398	262	65.8

※回収した調査票の中に白紙回答者が2人いました。

表 1.2 在宅介護実態調査（要支援・要介護認定者）回答状況

圏域名	調査票の配布数 (人)	有効回答数 (人)	有効回答率 (%)
市全域	703	471	67.0
恵那中央圏域	379	261	68.9
恵那北部圏域	54	37	68.5
恵那南部圏域	270	173	64.1

※回収した調査票の中に白紙回答者が1人いました。

(2) 有効回答者の年齢階級別の状況

表 1.3 市全域の調査別性別年齢階級別有効回答者

単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
ニーズ調査 (一般高齢者)	586 100.0	83 14.2	63 10.8	50 8.5	45 7.7	15 2.6	8 1.4	67 11.4	62 10.6	52 8.9	67 11.4	48 8.2	26 4.4
ニーズ調査 (要支援者)	72 100.0	1 1.4	2 2.8	3 4.2	7 9.7	1 1.4	3 4.2	1 1.4	2 2.8	3 4.2	12 16.7	21 29.2	16 22.2
在宅介護 実態調査	471 100.0	9 1.9	12 2.5	24 5.1	35 7.4	45 9.6	45 9.6	9 1.9	11 2.3	24 5.1	57 12.1	96 20.4	104 22.1

※「総合事業対象者」は「要支援者」に含みます。

表 1.4 「恵那中央圏域」の調査別性別年齢階級別有効回答者

単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
ニーズ調査 (一般高齢者)	300 100.0	43 14.3	27 9.0	29 9.7	21 7.0	11 3.7	5 1.7	35 11.7	38 12.7	25 8.3	29 9.7	26 8.7	11 3.7
ニーズ調査 (要支援者)	35 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	2 5.7	1 2.9	0 0.0	1 2.9	1 2.9	2 5.7	8 22.9	10 28.6	9 25.7
在宅介護 実態調査	261 100.0	5 1.9	8 3.1	14 5.4	16 6.1	26 10.0	22 8.4	5 1.9	9 3.4	15 5.7	33 12.6	59 22.6	49 18.8

※「総合事業対象者」は「要支援者」に含みます。

表 1.5 「恵那北部圏域」の調査別性別年齢階級別有効回答者 単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
ニーズ調査 (一般高齢者)	57 100.0	5 8.8	5 8.8	5 8.8	5 8.8	1 1.8	0 0.0	8 14.0	3 5.3	2 3.5	7 12.3	7 12.3	9 15.8
ニーズ調査 (要支援者)	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
在宅介護 実態調査	37 100.0	2 5.4	1 2.7	0 0.0	3 8.1	4 10.8	2 5.4	0 0.0	1 2.7	1 2.7	6 16.2	9 24.3	8 21.6

※「総合事業対象者」は「要支援者」に含みます。

表 1.6 「恵那南部圏域」の調査別性別年齢階級別有効回答者 単位：上段/人、下段/%

調査対象者	計	男性						女性					
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
ニーズ調査 (一般高齢者)	229 100.0	35 15.3	31 13.5	16 7.0	19 8.3	3 1.3	3 1.3	24 10.5	21 9.2	25 10.9	31 13.5	15 6.6	6 2.6
ニーズ調査 (要支援者)	33 100.0	1 3.0	1 3.0	2 6.1	5 15.2	0 0.0	3 9.1	0 0.0	1 3.0	1 3.0	3 9.1	10 30.3	6 18.2
在宅介護 実態調査	173 100.0	2 1.2	3 1.7	10 5.8	16 9.2	15 8.7	21 12.1	4 2.3	1 0.6	8 4.6	18 10.4	28 16.2	47 27.2

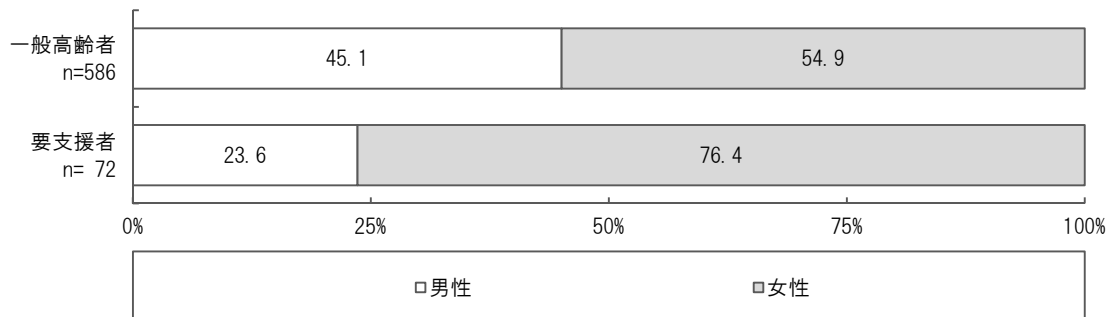
※「総合事業対象者」は「要支援者」に含みます。

(3) 有効回答者の属性

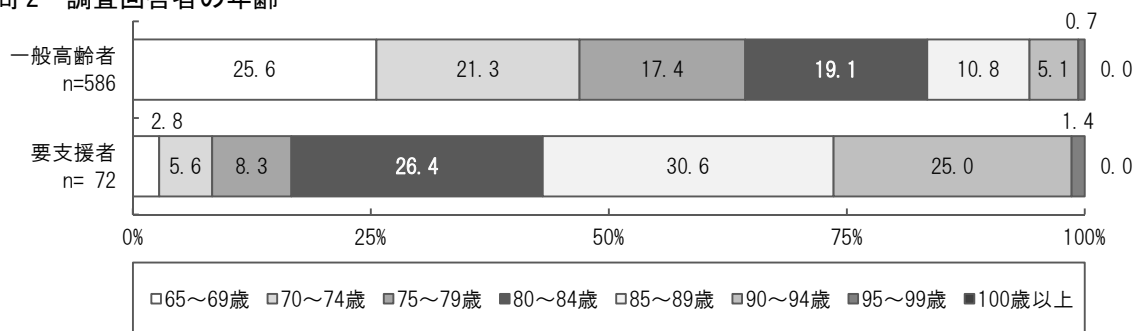
本調査における有効回答者の属性は以下のとおりです。

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

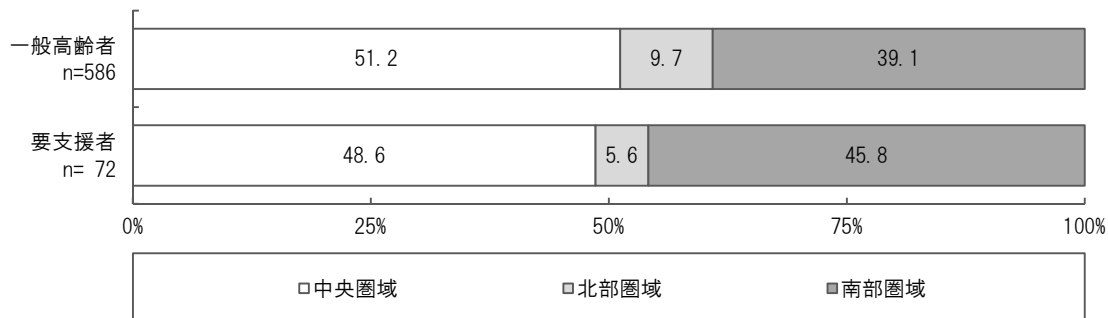
問1 調査回答者の性別



問2 調査回答者の年齢

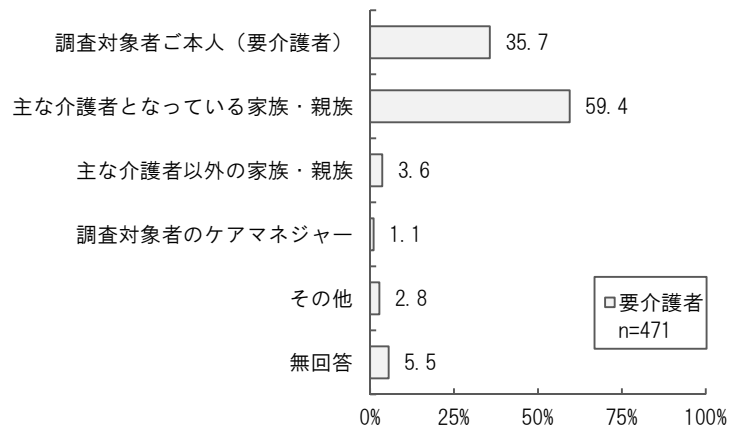


問3 調査回答者の居住地区

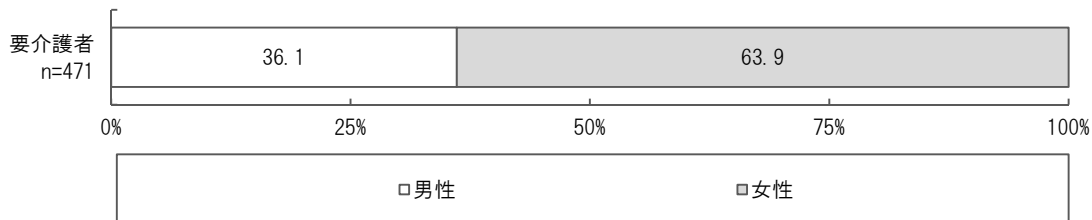


② 在宅介護実態調査

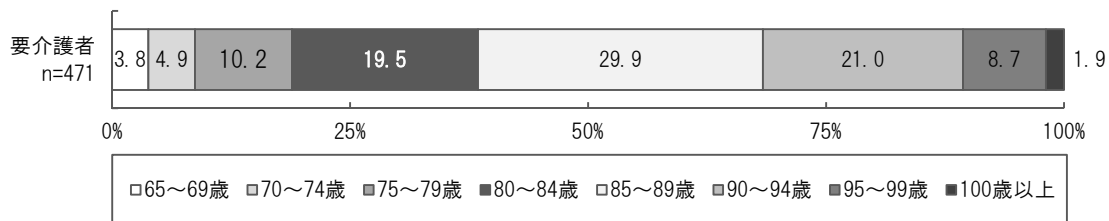
[問A] 調査回答者



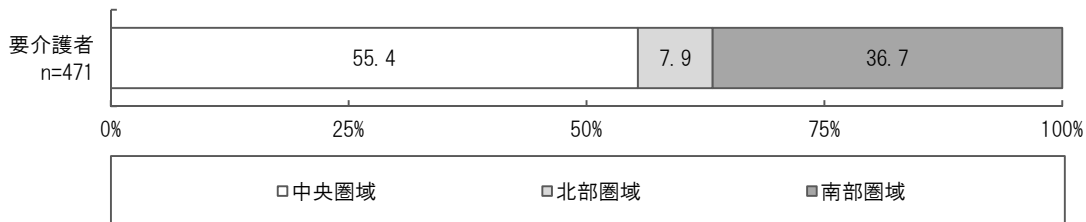
[問1] 調査対象者の性別



[問2] 調査対象者の年齢



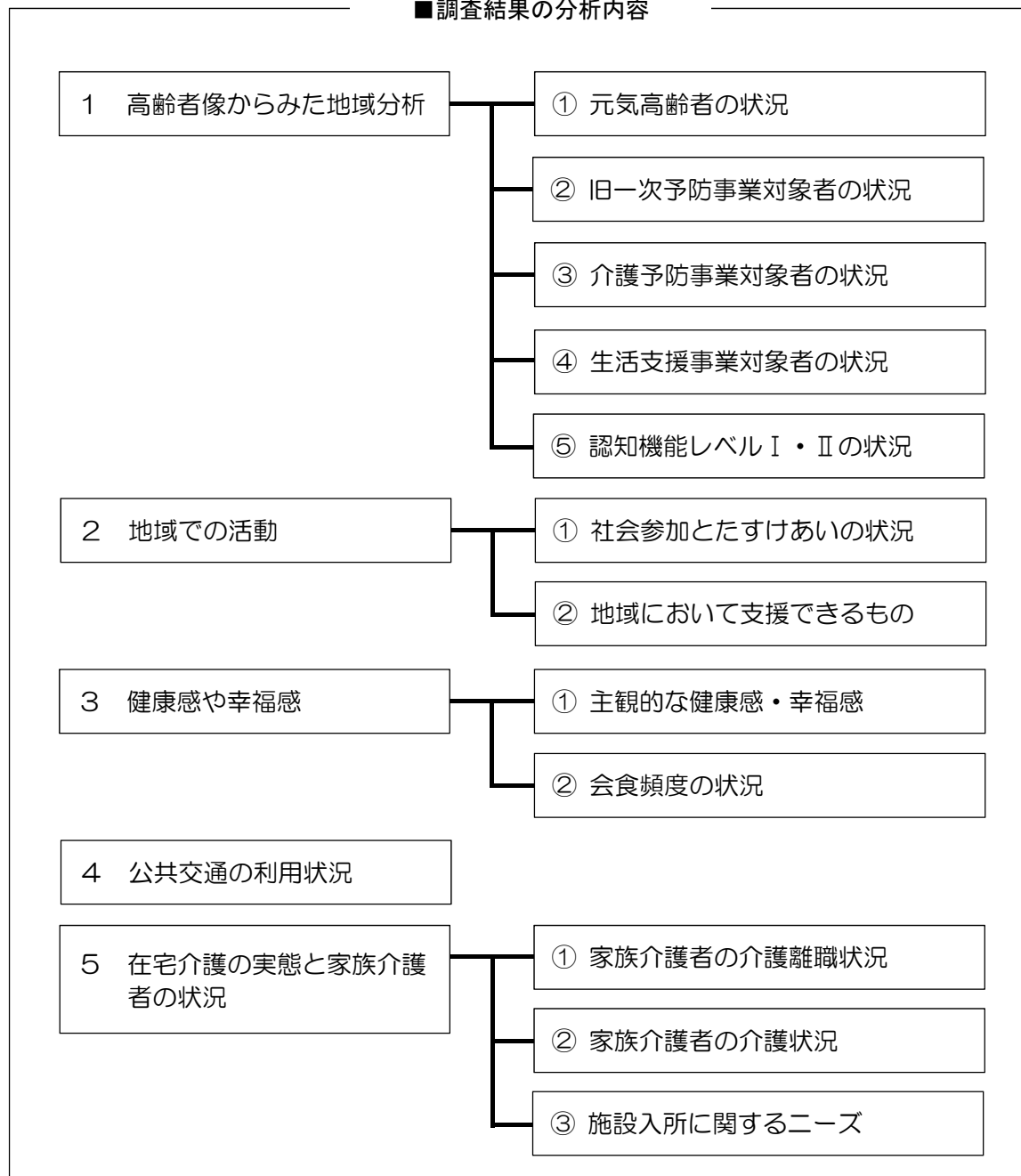
[問3] 調査対象者の居住地区



5 地域課題のまとめ

本市の地域課題の抽出にあたっては、調査結果から算出した市平均値等と3つの圏域の調査結果を比較しながら少しでもマイナスとなる数値等の分析項目を抽出し、市平均値との差異を記載しました。

■調査結果の分析内容



(1) 「恵那中央圏域」の課題

調査結果分析		主な課題
高齢者像からみた地域分析	元気高齢者の状況	○特に課題等は見当たりません。
	旧一次予防事業対象者の状況	○特に課題等は見当たりません。
	介護予防事業対象者の状況	○特に課題等は見当たりません。
	生活支援事業対象者の状況	○要支援者の出現率が市平均値より 10.4 ^{ポイント} 高い。
	認知機能レベル I・II の状況	○特に課題等は見当たりません。
地域での活動	社会参加とたすけあいの状況	<ul style="list-style-type: none"> ○一般高齢者で「ボランティアのグループ」への参加意向割合が市平均値より 0.5^{ポイント}低い。 ○一般高齢者で「老人クラブ」への参加意向割合が市平均値より 2.4^{ポイント}低い。 ○一般高齢者で「収入のある仕事」への参加意向割合が市平均値より 4.8^{ポイント}低い。 ○要支援者で「趣味関係のグループ」への参加意向割合が市平均値より 1.1^{ポイント}低い。 ○要支援者で「介護予防のための通いの場」への参加意向割合が市平均値より 2.4^{ポイント}低い。 ○一般高齢者で「地域活動にお世話役としての参加希望」について、参加意向割合が市平均値より 2.2^{ポイント}低い。 ○一般高齢者で「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」「病気の時に看病や世話をしてあげてくれない」方が市平均値よりともに 1.1^{ポイント}高い
健康感や幸福感	主観的健康感・幸福感	○一般高齢者の主観的健康感で「あまりよくない」+「よくない」の割合の計は市平均値より 0.2 ^{ポイント} 高い。
	会食の頻度	○要支援者で「だれかと一緒に食事することがほとんどない」方の割合は市平均値より 4.6 ^{ポイント} 高い。
公共交通の利用状況		○一般高齢者で公共交通利用率が市平均値より 0.1 ^{ポイント} 低い。
在宅介護の実態と家族介護者の状況	家族介護者の介護離職状況	○特に課題等は見当たりません。
	家族介護者の介護状況	<ul style="list-style-type: none"> ○継続就労者で不安に思う介護等は「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」が市平均値より 0.4^{ポイント}高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「衣服の着脱」が市平均値より 4.3^{ポイント}高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「外出の付き添い、送迎等」が市平均値より 7.5^{ポイント}高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「服薬」が市平均値より 2.6^{ポイント}高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「食事の準備」が市平均値より 2.5^{ポイント}高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が市平均値より 6.8^{ポイント}高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が市平均値より 3.5^{ポイント}高い。

	施設入所に 関するニーズ	○施設等への入所・入居を検討及び予定をしている割合は市平均値より「要介護3」では2.3 ^{ポイント} 、「要介護4」では11.3 ^{ポイント} 、「要介護5」では7.7 ^{ポイント} 高い。
--	-----------------	--

(2)「恵那北部圏域」の課題

調査結果分析		主な課題
高齢者像から みた地域分析	元気高齢者の 状況	○出現率が市平均値より1.1 ^{ポイント} 低い。
	旧一次予防事業 対象者の状況	○出現率が市平均値より2.2 ^{ポイント} 低い。
	介護予防事業 対象者の状況	○出現率が市平均値より一般高齢者で3.7 ^{ポイント} 、要支援者で2.8 ^{ポイント} 高い。 ○一般高齢者と要支援者ともに「運動器の機能低下リスク」の出現率が市平均値より4.2 ^{ポイント} 高い。 ○「口腔機能の低下リスク」の出現率が市平均値より一般高齢者が10.0 ^{ポイント} 、要支援者が48.6 ^{ポイント} 高い。 ○「閉じこもり傾向」の出現率が市平均値より一般高齢者が5.7 ^{ポイント} 、要支援者が38.9 ^{ポイント} 高い。 ○「認知機能の低下」の出現率が市平均値より一般高齢者が5.7 ^{ポイント} 高い。 ○「うつ傾向リスク」の出現率が市平均値より一般高齢者が1.1 ^{ポイント} 、要支援者が15.3 ^{ポイント} 高い。
	生活支援事業 対象者の状況	○一般高齢者の出現率が市平均値より4.6 ^{ポイント} 高い。
	認知機能レベル I・IIの状況	○要支援者の出現率が市平均値より13.9 ^{ポイント} 高い。
地域での活動	社会参加と たすけあいの状況	○一般高齢者で「ボランティアのグループ」について、参加意向割合が市平均値より1.5 ^{ポイント} 低い。 ○一般高齢者で「スポーツ関係のグループやクラブ」について、参加意向割合が市平均値より5.0 ^{ポイント} 低い。 ○一般高齢者で「趣味関係のグループ」について、参加意向割合が市平均値より11.6 ^{ポイント} 低い。 ○一般高齢者で「収入のある仕事」について、参加意向割合が市平均値より1.2 ^{ポイント} 低い。 ○要支援者で「心配事や口を聞いてあげる人がいない」「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」で市平均値より11.1 ^{ポイント} ・1.4 ^{ポイント} 高い。
健康感や 幸福感	主観的 健康感・幸福感	○特に課題等は見当たりません。
	会食の頻度	○特に課題等は見当たりません。
公共交通の利用状況		○特に課題等は見当たりません。
在宅介護の 実態と家族 介護者の状況	家族介護者の 介護離職状況	○継続就労者の出現率が町平均値より3.9 ^{ポイント} 高い。
	家族介護者の 介護状況	○継続就労者で不安に思う介護等は「入浴・洗身」が市平均値より7.2 ^{ポイント} 高い。 ○継続就労者で不安に思う介護等は「屋内での移乗・移動」が市平均値より10.1 ^{ポイント} 高い。

		<p>○継続就労者で不安に思う介護等は「認知症状への対応」が市平均値より14.9^{ポイント}高い。</p> <p>○継続就労者で不安に思う介護等は「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」が市平均値より17.5^{ポイント}高い。</p> <p>○介護離職者で不安に思う介護等は「夜間の排泄」が市平均値より23.1^{ポイント}高い。</p> <p>○介護離職者で不安に思う介護等は「食事の介助」が市平均値より5.1^{ポイント}高い。</p> <p>○介護離職者で不安に思う介護等は「入浴・洗身」が市平均値より10.2^{ポイント}高い。</p>
	施設入所に 関するニーズ	○特に課題等は見当たりません。

(3)「恵那南部圏域」の課題

調査結果分析		主な課題
高齢者像から みた地域分析	元気高齢者の 状況	○特に課題等は見当たりません。
	旧一次予防事業 対象者の状況	○特に課題等は見当たりません。
	介護予防事業 対象者の状況	<p>○要支援者の出現率が市平均値より2.8^{ポイント}高い。</p> <p>○「運動器の機能低下」の出現率が市平均値より一般高齢者が0.6^{ポイント}、要支援者が5.0^{ポイント}高い。</p> <p>○一般高齢者で「低栄養の傾向リスク」の出現率が市平均値より0.3^{ポイント}高い。</p> <p>○一般高齢者で「認知機能の低下」の出現率が市平均値より2.4^{ポイント}高い。</p> <p>○要支援者で「うつ傾向」の出現率が市平均値より3.9^{ポイント}高い。</p>
	生活支援事業 対象者の状況	○一般高齢者の出現率が市平均値より0.9 ^{ポイント} 高い。
	認知機能レベル I・IIの状況	○出現率が市平均値より一般高齢者で0.6 ^{ポイント} 、要支援者で9.4 ^{ポイント} 高い。
地域での活動	社会参加と たすけあいの状況	<p>○一般高齢者で「スポーツ関係のグループやクラブ」への参加意向割合が市平均値より3.3^{ポイント}低い。</p> <p>○一般高齢者で「趣味関係のグループ」への参加意向割合が市平均値より1.1^{ポイント}低い。</p> <p>○一般高齢者と要支援者ともに「学習・教養サークル」への参加意向割合が市平均値より0.9^{ポイント}・1.2^{ポイント}低い。</p> <p>○一般高齢者で「介護予防のための通いの場」への参加意向割合が市平均値より1.1^{ポイント}低い。</p> <p>○一般高齢者と要支援者ともに「町内会・自治会」への参加意向割合が市平均値より1.4^{ポイント}・2.6^{ポイント}低い。</p> <p>○要支援者で「老人クラブ」への参加意向割合が市平均値より0.8^{ポイント}低い。</p> <p>○一般高齢者と要支援者ともに「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない」方が市平均値より0.6^{ポイント}・3.8^{ポイント}高い。</p> <p>○要支援者で「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」方が市平均値より3.8^{ポイント}高い。</p> <p>○要支援者で「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」方が市平均値より12.8^{ポイント}高い。</p>

健康感や 幸福感	主観的 健康感・幸福感	○一般高齢者の主観的健康感で「あまりよくない」+「よくない」の割合の計は市平均値より1.0 ^{ポイント} 高い。
	会食の頻度	○一般高齢者で「だれかと一緒に食事することがほとんどない方」の割合は市平均値より0.2 ^{ポイント} 高い。
公共交通の利用状況		○一般高齢者と要支援者ともに公共交通利用率が市平均値より0.6 ^{ポイント} ・0.4 ^{ポイント} 低い。
在宅介護の 実態と家族 介護者の状況	家族介護者の 介護離職状況	○継続就労者の出現率は市平均値より0.4 ^{ポイント} 高い。
	家族介護者の 介護状況	○継続就労者と介護離職者ともに不安に思う介護等は「日中の排泄」が市平均値より5.4 ^{ポイント} ・14.1 ^{ポイント} 高い。 ○継続就労者と介護離職者ともに不安に思う介護等は「夜間の排泄」が市平均値より0.7 ^{ポイント} ・6.4 ^{ポイント} 高い。 ○継続就労者と介護離職者ともに不安に思う介護等は「食事の介助」が市平均値より3.1 ^{ポイント} ・21.8 ^{ポイント} 高い。 ○継続就労者と介護離職者ともに不安に思う介護等は「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」が市平均値より0.8 ^{ポイント} ・18.3 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「入浴・洗身」が市平均値より12.6 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「衣服の着脱」が市平均値より13.2 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「屋内での移乗・移動」が市平均値より11.1 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「外出の付き添い、送迎等」が市平均値より9.6 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「服薬」が市平均値より24.4 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「認知症状への対応」が市平均値より7.0 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が市平均値より6.6 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「食事の準備（調理等）」が市平均値より15.6 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が市平均値より18.6 ^{ポイント} 高い。 ○介護離職者で不安に思う介護等は「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が市平均値より19.2 ^{ポイント} 高い。
	施設入所に 関するニーズ	○施設等への入所・入居を検討及び予定をしている割合は市平均値より「要介護3」では0.2 ^{ポイント} 高い。

第2章

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(一般高齢者・要支援者)

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1 調査対象者のご家族や生活状況について

(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

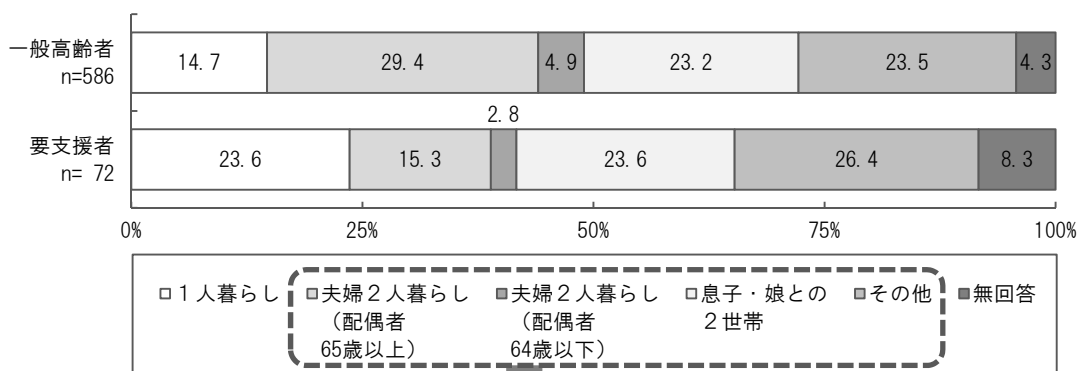
○家族構成をみると、一般高齢者は「その他」(23.5%)を除くと、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(29.4%)が最も高く、次いで、「息子・娘との2世帯」(23.2%)、「1人暮らし」(14.7%)となっています。

○要支援者は「その他」(26.4%)を除くと、「1人暮らし」(23.6%)が最も高く、次いで、「息子・娘との2世帯」(23.6%)となっています。

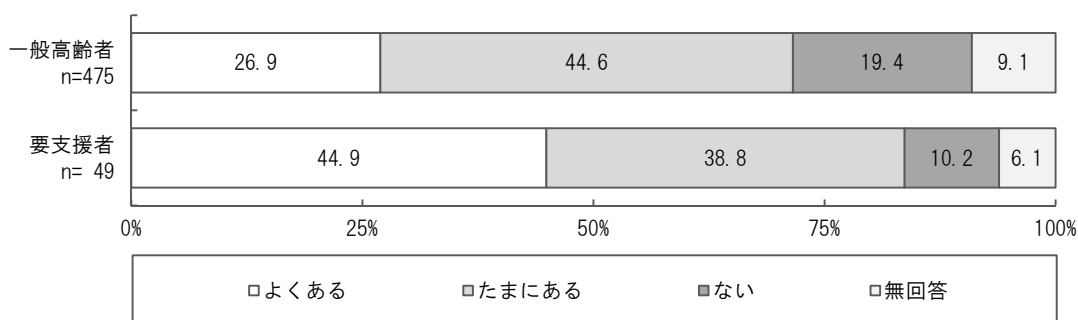
○日中に1人になることがあるかをみると、一般高齢者は「よくある」(26.9%)「たまにある」(44.6%)を合わせた7割以上が、日中1人になることがあると回答しています。

○要支援者は「よくある」(44.9%)「たまにある」(38.8%)を合わせた8割以上が日中1人になることがあると回答しています。

問4 家族構成



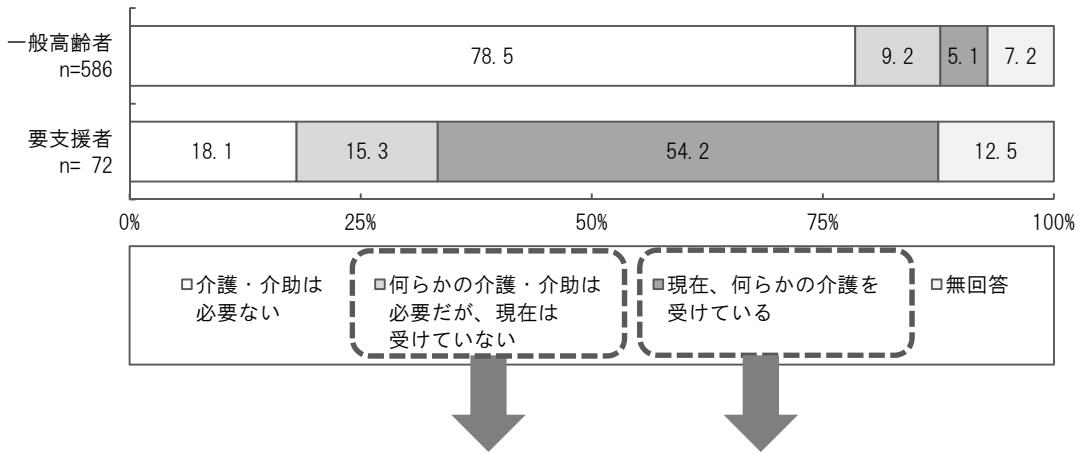
問4-1 日中、1人になることがあるか



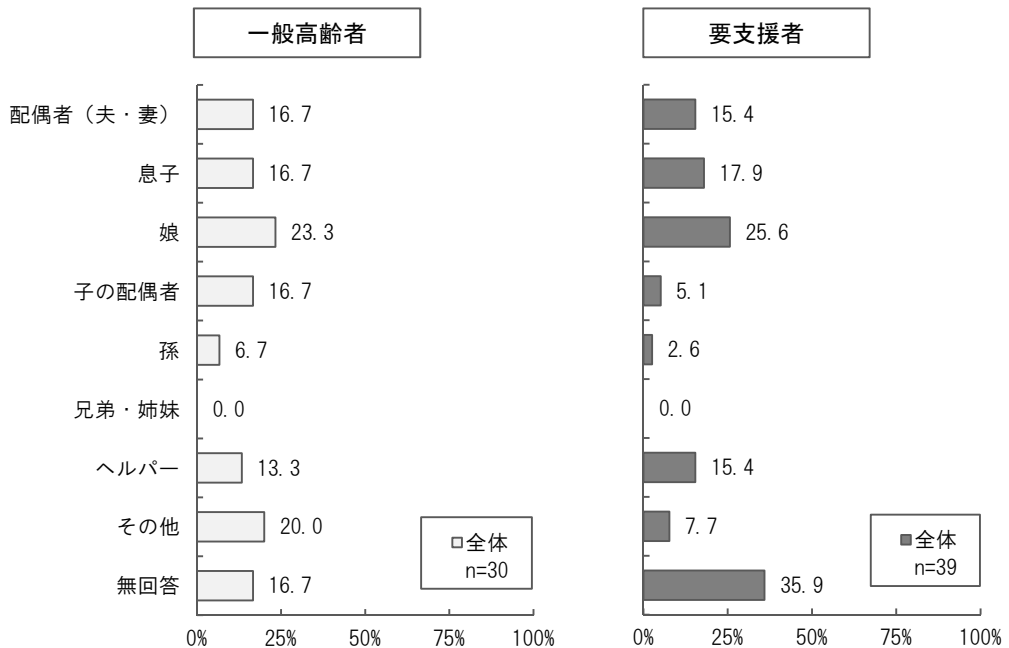
(2) 日常生活における介護（介助）の有無

- 普段の生活における介護・介助の状況をみると、一般高齢者は「介護・介助は必要ない」（78.5%）が最も高くなっています。
- 要支援者は「現在、何らかの介護を受けている」（54.2%）が最も高く、「介護・介助は必要ない」は18.1%となっています。
- 一般高齢者の介護・介助をしてくれる人をみると、「その他」（20.0%）を除いて「娘」（23.3%）が最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」「息子」「子の配偶者」（各16.7%）となっています。
- 要支援者は「娘」（25.6%）が最も高く、次いで「息子」（17.9%）、「配偶者（夫・妻）」「ヘルパー」（各15.4%）となっています。

問5 普段の生活で介護・介助が必要か



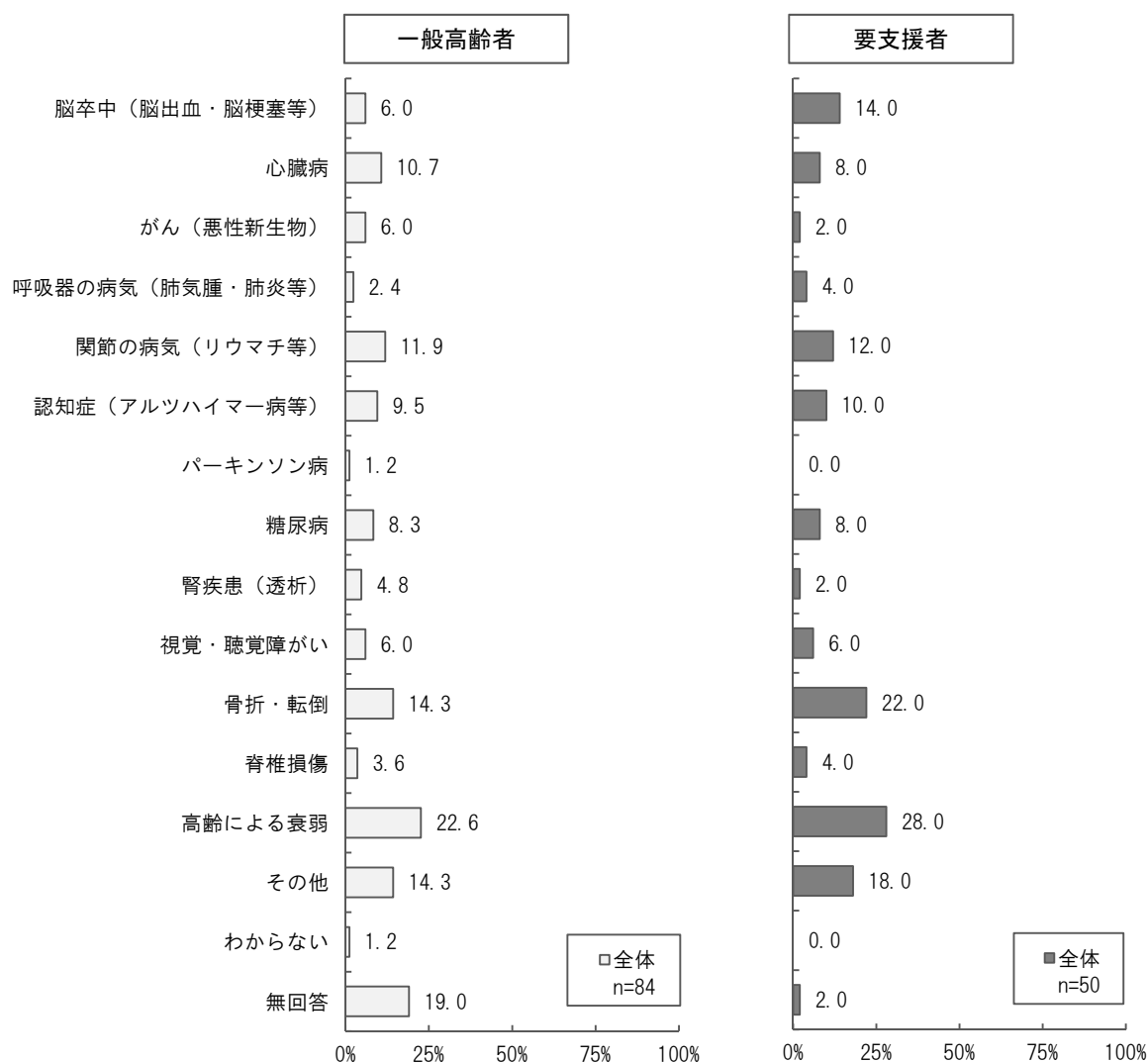
問5-2 介護・介助をしてくれる人



○介護・介助が必要になった主な原因をみると、一般高齢者は「高齢による衰弱」(22.6%)が最も高く、次いで「骨折・転倒」(14.3%)、「関節の病気(リウマチ等)」(11.9%)、「心臓病」(10.7%)となっています。

○要支援者は「高齢による衰弱」(28.0%)が一般高齢者と同様に最も高く、次いで「骨折・転倒」(22.0%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(14.0%)、「関節の病気(リウマチ等)」(12.0%)「認知症(アルツハイマー病等)」(10.0%)となっています。

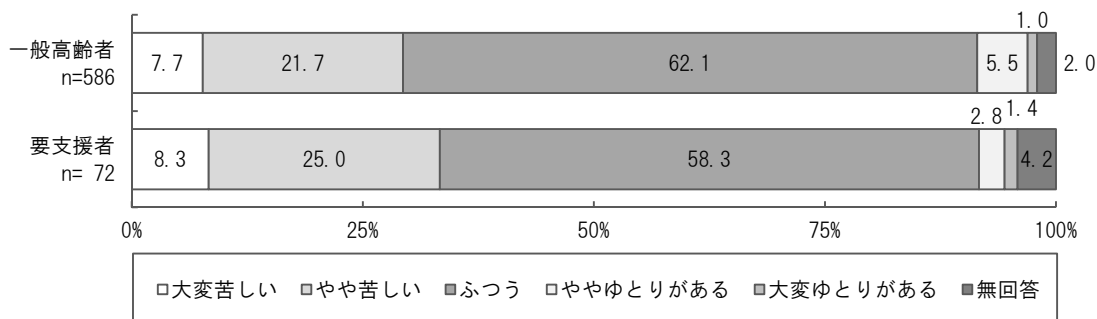
問5-1 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済的状況をみると、一般高齢者・要支援者ともに「ふつう」(62.1%・58.3%)が最も高く、次いで「やや苦しい」(21.7%・25.0%)となっています。

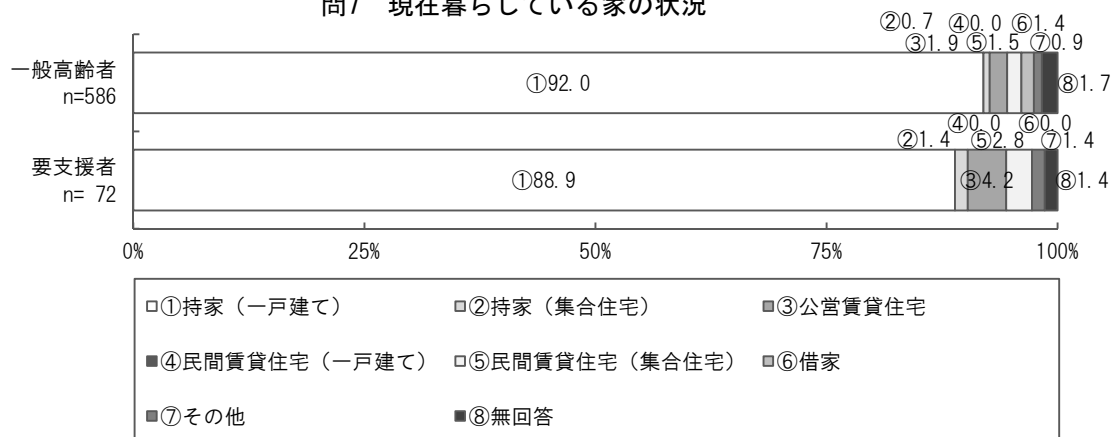
問6 経済的にみた現在の暮らしの状況



(4) 現在の住居環境

○現在暮らしている家の状況では、一般高齢者・要支援者ともに「持家（一戸建て）」が約9割前後と最も高くなっています。

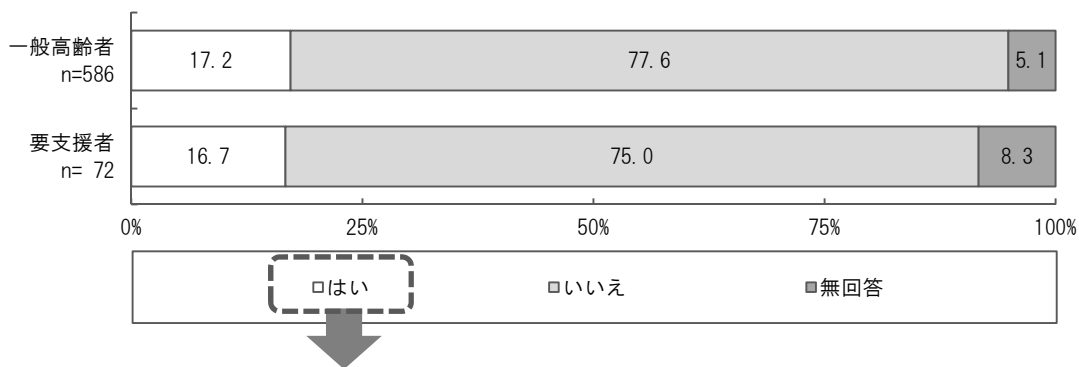
問7 現在暮らしている家の状況



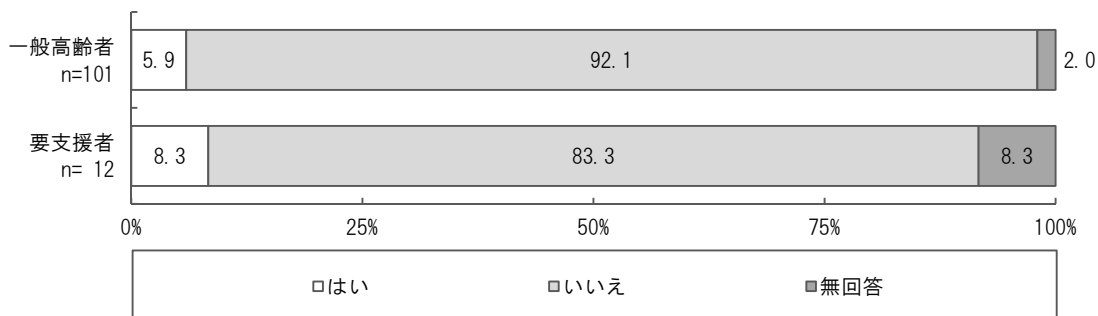
○2階以上に主な居住環境がある方は、一般高齢者で17.2%、要支援者で16.7%となっています。

○2階以上に主な居住環境がある方のエレベーター設置状況は、一般高齢者で5.9%、要支援者で8.3%となっています。

問8 2階以上に生活する部屋があるか



問8-1 エレベーターは設置されているか

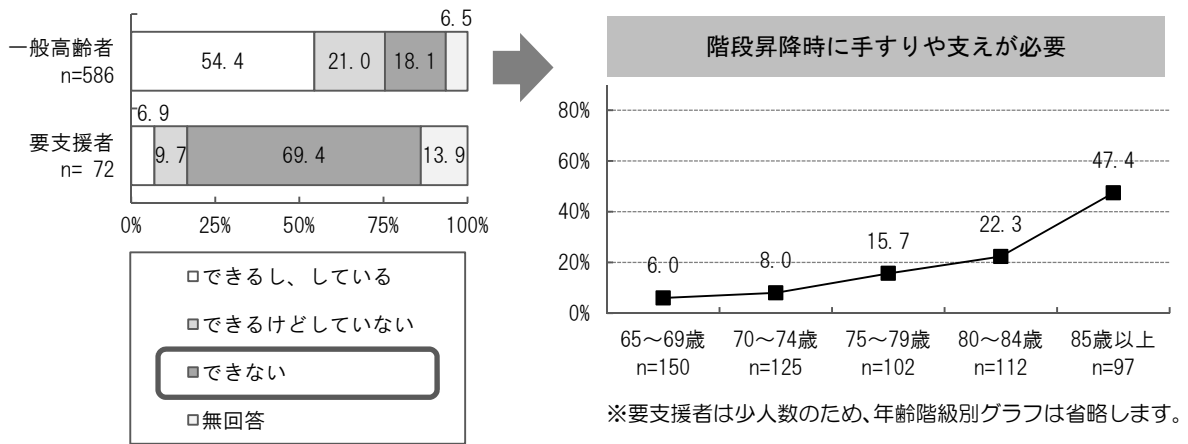


2 からだを動かすことについて

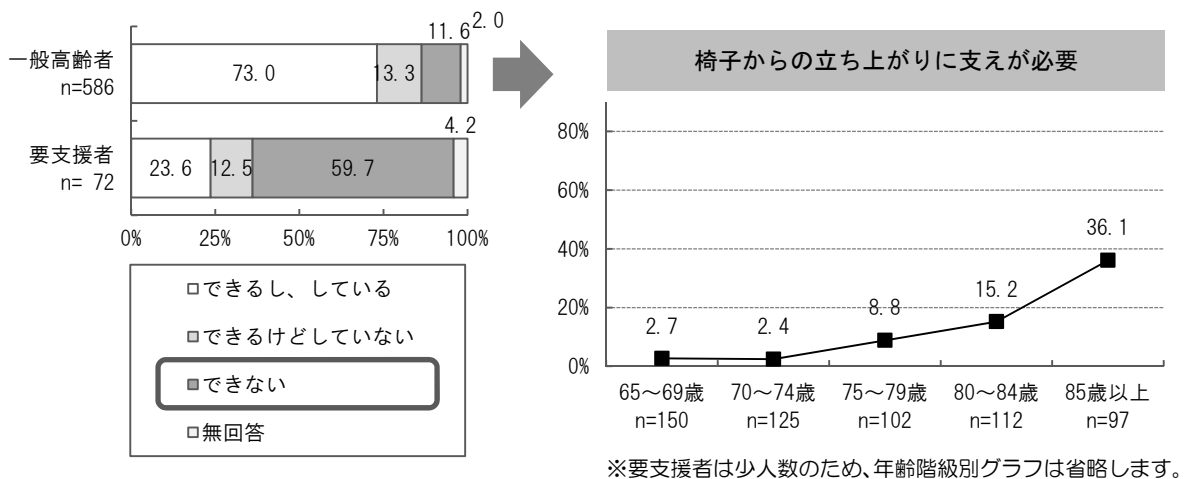
(1) 運動機能の状況

- 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない方は、一般高齢者は18.1%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 要支援者では、できない方が69.4%となっています。
- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない方は、一般高齢者は11.6%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 要支援者では、できない方が59.7%となっています。

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



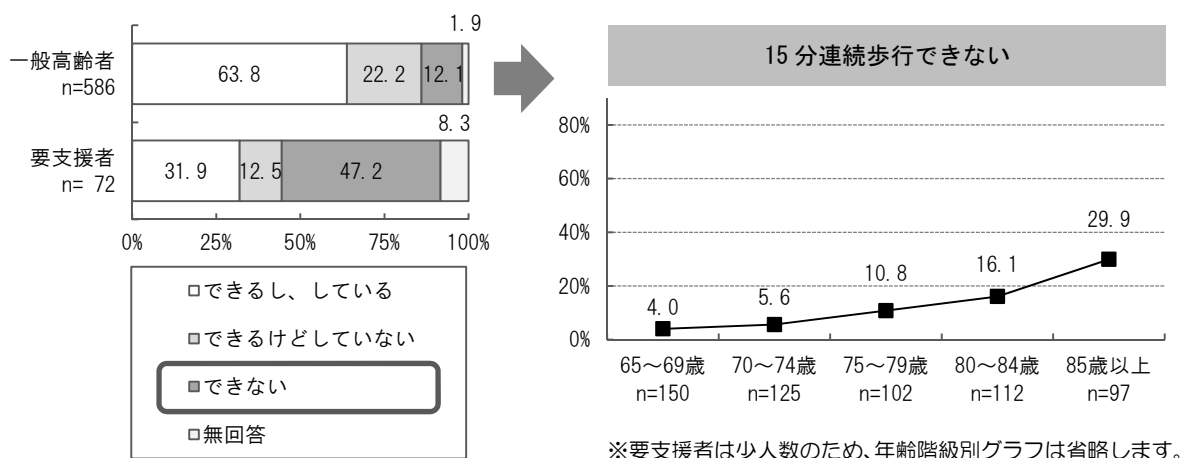
○15分位続けて歩くことができない方は、一般高齢者は12.1%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者では、15分位続けて歩くことができない方が47.2%となっています。

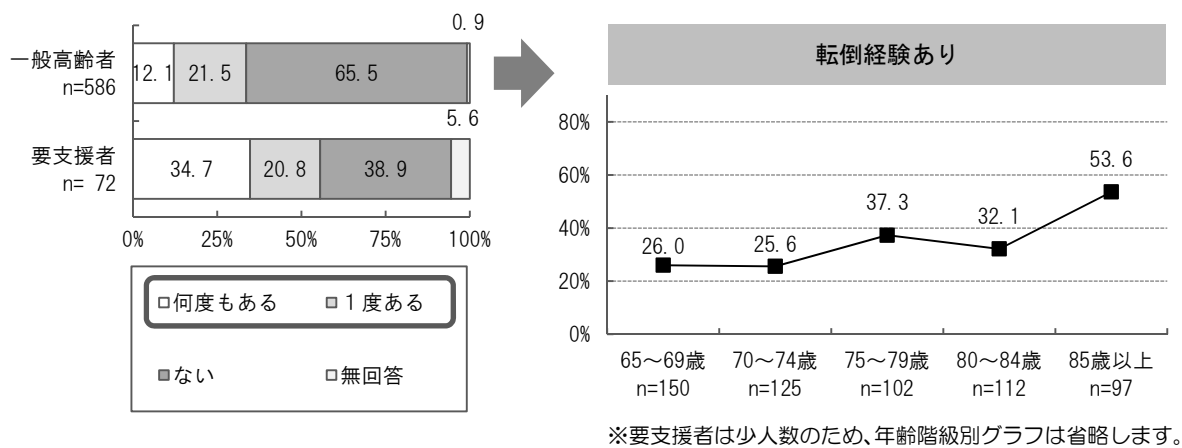
○過去1年間に転んだ経験の有無をみると、一般高齢者は「何度もある」(12.1%)と「1度ある」(21.5%)を合わせた33.6%が経験ありと回答しており、年齢階級別にみると75～79歳、85歳以上で高くなっています。

○要支援者では、「何度もある」(34.7%)と「1度ある」(20.8%)を合わせた55.5%が経験ありと回答しています。

問11 15分位続けて歩くことができるか



問12 過去1年間に転んだ経験の有無



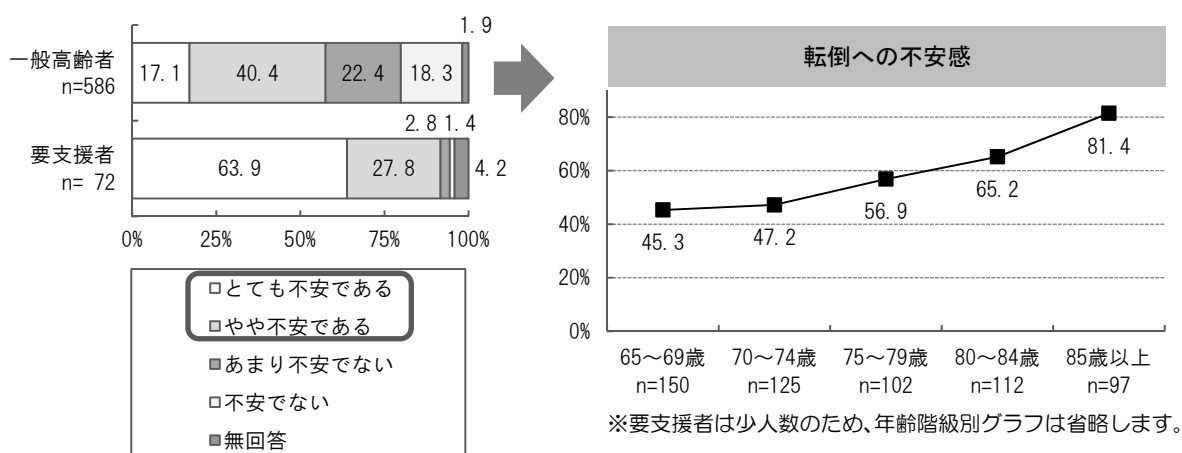
○転倒に対して不安の有無をみると、一般高齢者は「とても不安である」(17.1%)と「やや不安である」(40.4%)を合わせた57.5%が不安であると回答しており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者では、「とても不安である」(63.9%)と「やや不安である」(27.8%)を合わせた91.7%が不安であると回答しています。

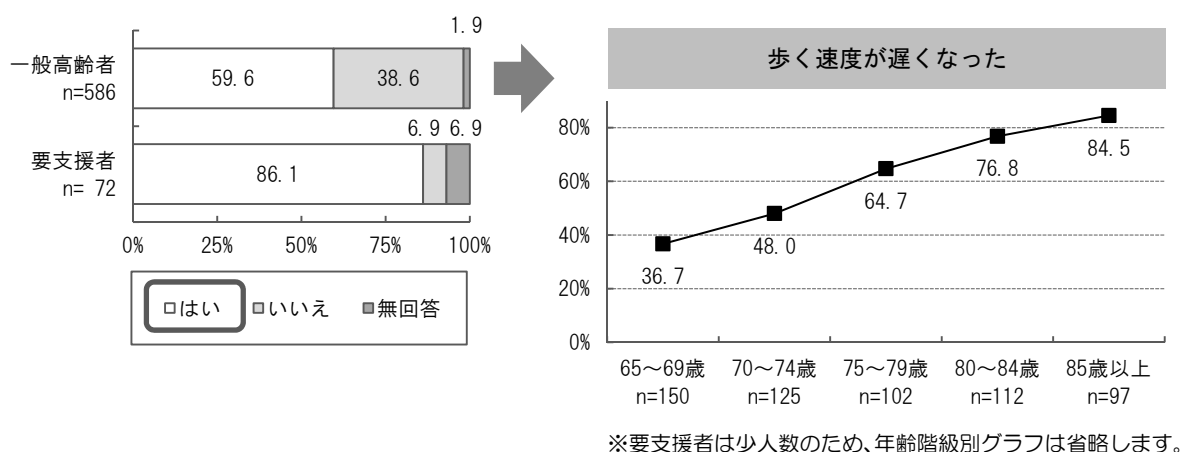
○以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思う方は、一般高齢者では59.6%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者では、以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思う方が86.1%となっています。

問13 転倒に対して不安であるか



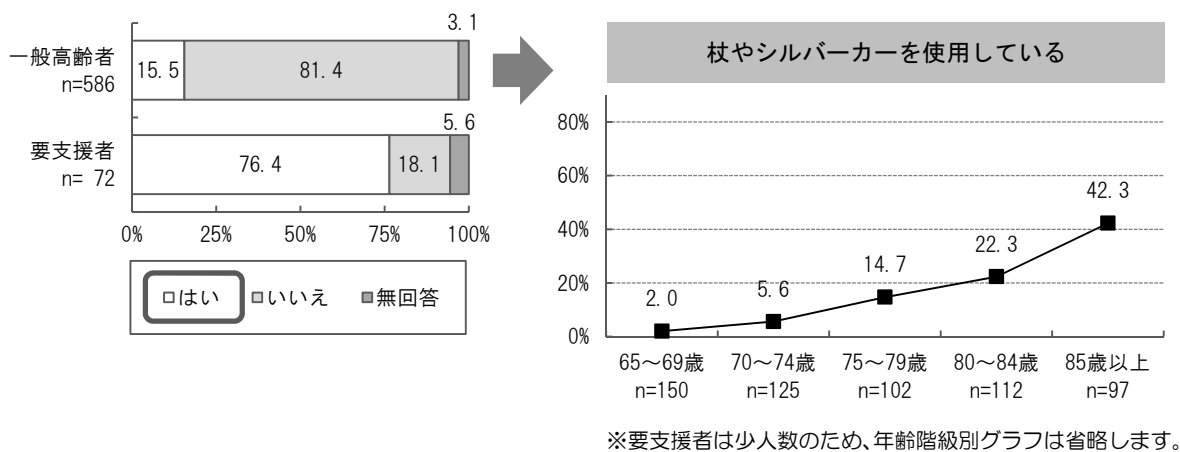
問21 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか



○杖やシルバーカーを使用している方は、一般高齢者は15.5%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者では、杖やシルバーカーを使用している方が76.4%となっています。

問22 杖やシルバーカーを使用しているか

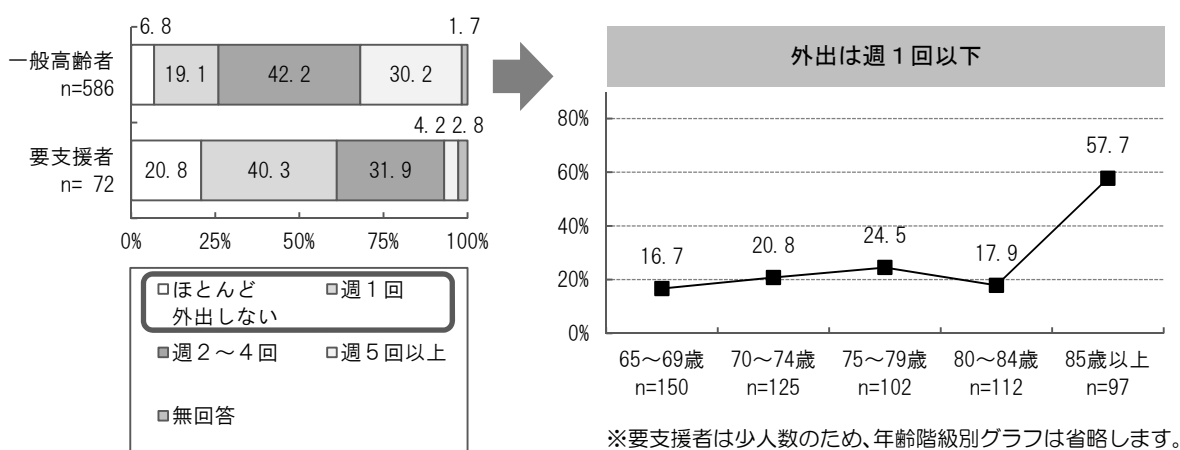


(2) 外出の状況

○週に1回以上の外出の有無をみると、一般高齢者は「ほとんど外出しない」(6.8%)と「週1回」(19.1%)を合わせた25.9%が外出は週1回以下と回答しており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなる傾向にあり、85歳以上で特に割合が高くなっています。

○要支援者では、「ほとんど外出しない」(20.8%)と「週1回」(40.3%)を合わせた61.1%となっています。

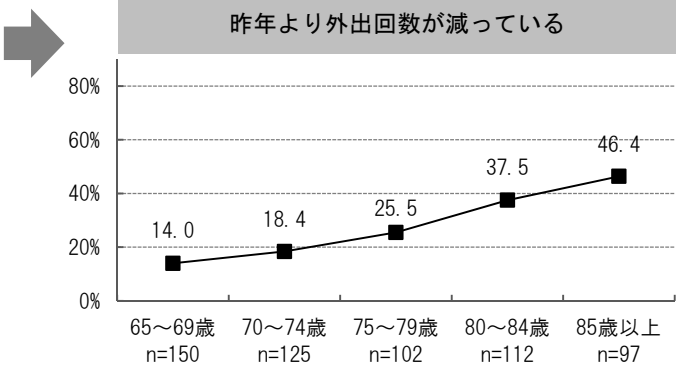
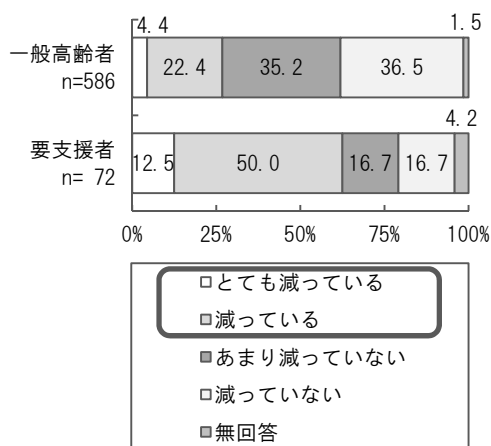
問14 週に1回以上の外出頻度



○昨年と比べた外出の頻度をみると、一般高齢者は「とても減っている」(4.4%)と「減っている」(22.4%)を合わせた26.8%が外出が減っていると回答しており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者では、「とても減っている」(12.5%)と「減っている」(50.0%)を合わせた62.5%となっています。

問15 昨年と比べた外出の頻度



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

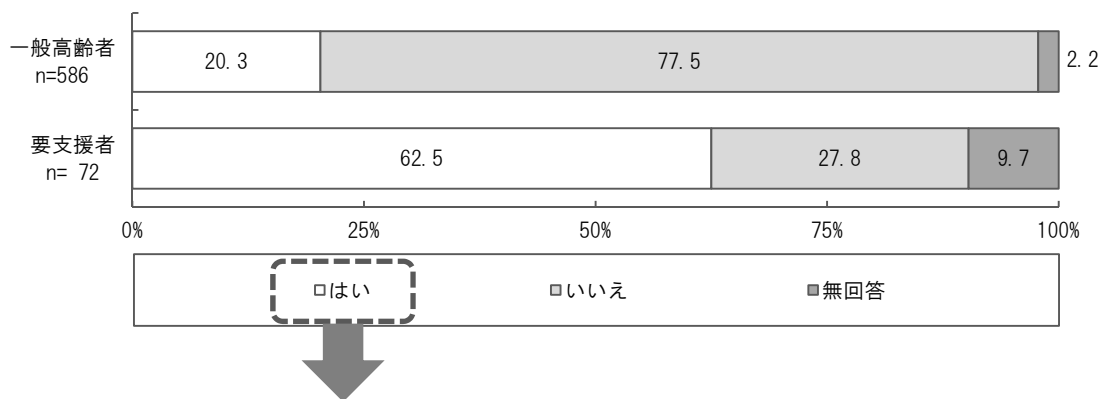
○外出を控えている方は、一般高齢者は20.3%となっています。

○要支援者では、外出を控えている方が62.5%となっています。

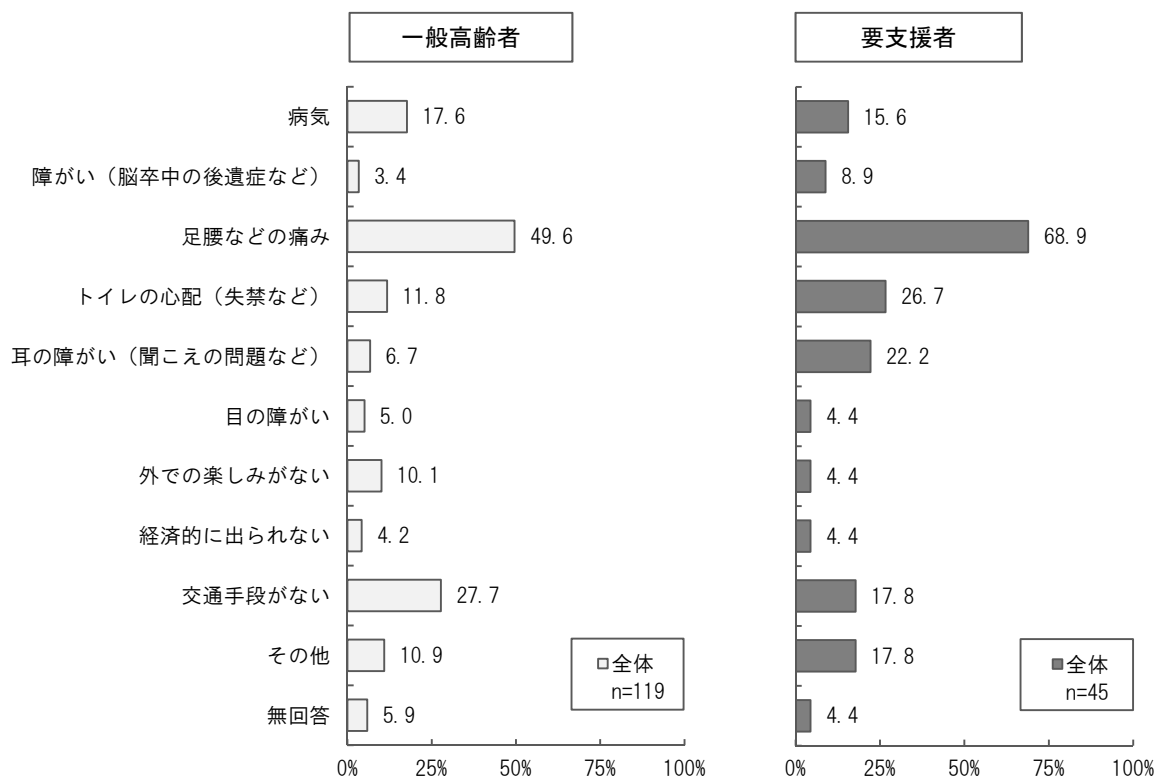
○外出を控えている理由では、一般高齢者は「足腰などの痛み」(49.6%)が最も高く、次いで「交通手段がない」(27.7%)、「病気」(17.6%)となっています。

○要支援者では、「足腰などの痛み」(68.9%)が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(26.7%)、「耳の障がい(聞こえの問題など)」(22.2%)となっています

問16 外出を控えているか



問16-1 外出を控えている理由

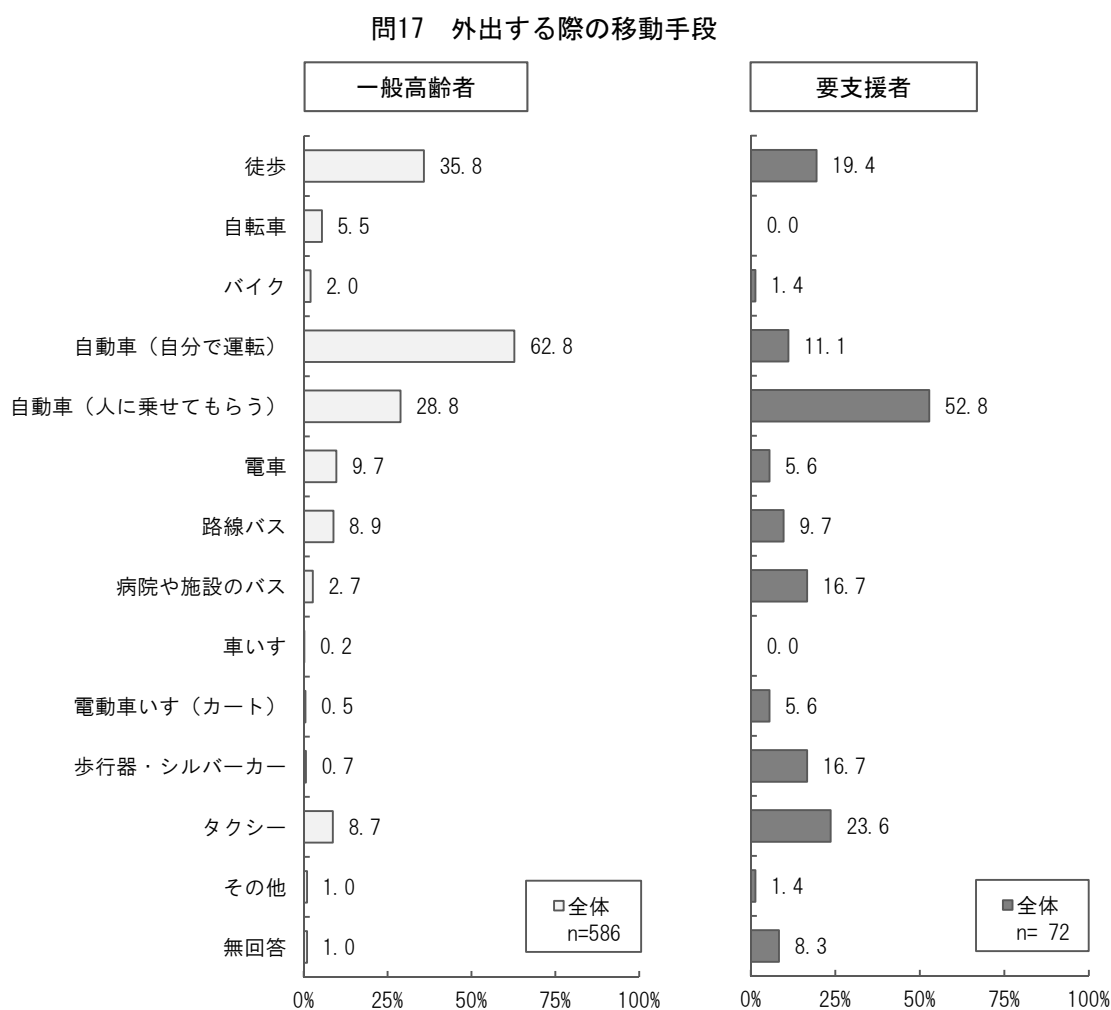


○外出する際の移動手段では、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」（62.8%）が最も高く、次いで「徒歩」（35.8%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（28.8%）、となっています。

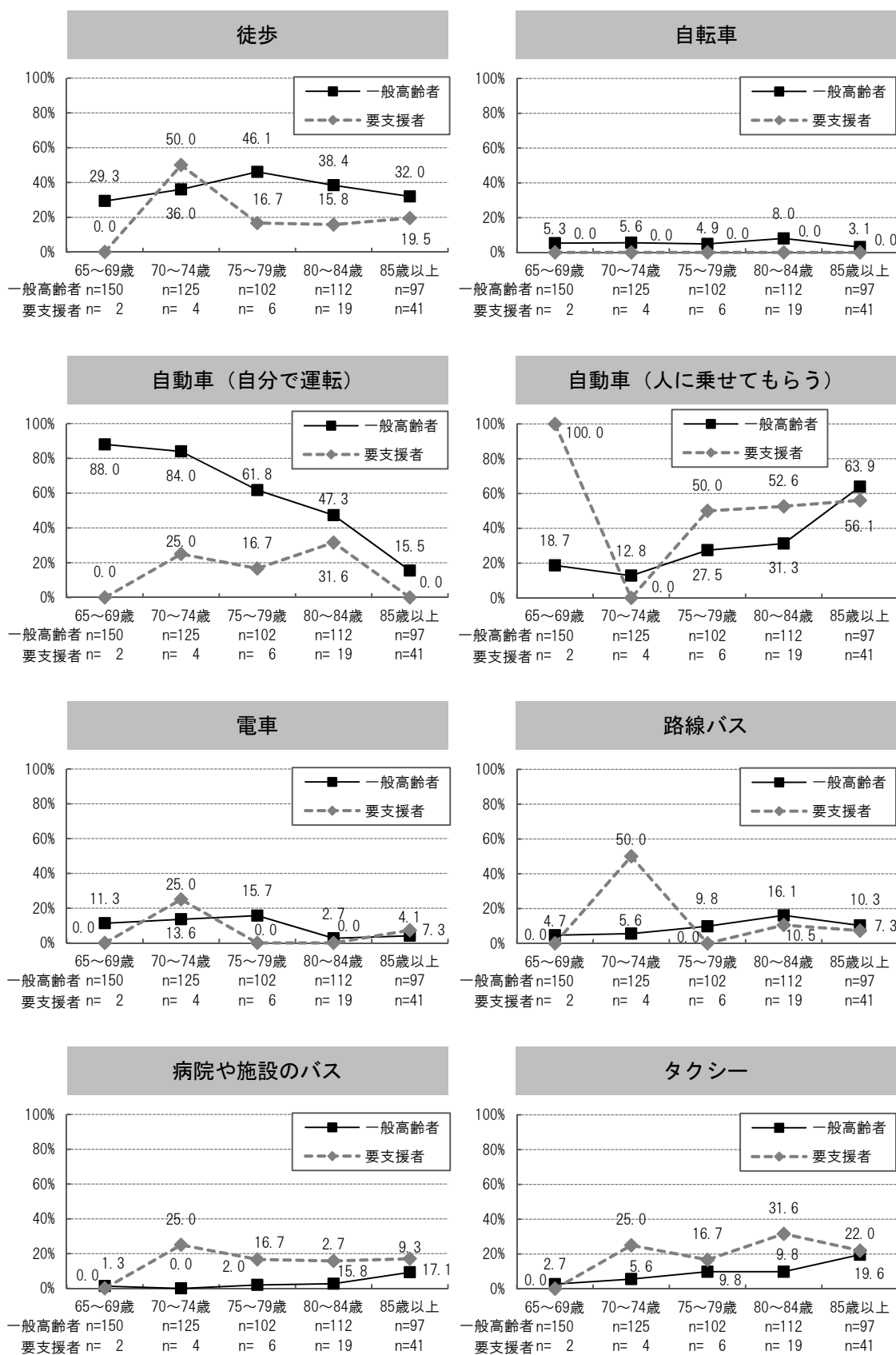
○要支援者では、「自動車（人に乗せてもらう）」（52.8%）が最も高く、次いで「タクシー」（23.6%）、「徒歩」（19.4%）、「病院や施設のバス」「歩行器・シルバーカー」（各16.7%）、となっています。

○外出する際の移動手段を割合の高いものを中心に年齢階級別にみると、「自動車（自分で運転）」の一般高齢者では加齢とともに割合が低くなっています。一方で「自動車（人に乗せてもらう）」では、加齢とともに割合が高くなる傾向です。

（要支援者は回答数が少ないためコメントを省略）



問17 年齢階級別移動手段



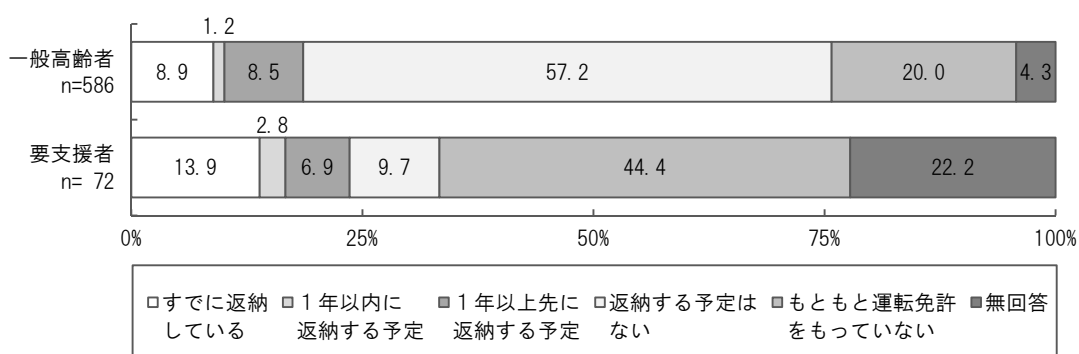
○運転免許返納の予定についてみると、一般高齢者は「返納する予定はない」(57.2%)が最も高く、次いで「すでに返納している」(8.9%)、「1年以上先に返納する予定」(8.5%)となっています。

○要支援者は「もともと運転免許をもっていない」(44.4%)が最も高く、次いで「すでに返納している」(13.9%)、「返納する予定はない」(9.7%)となっています

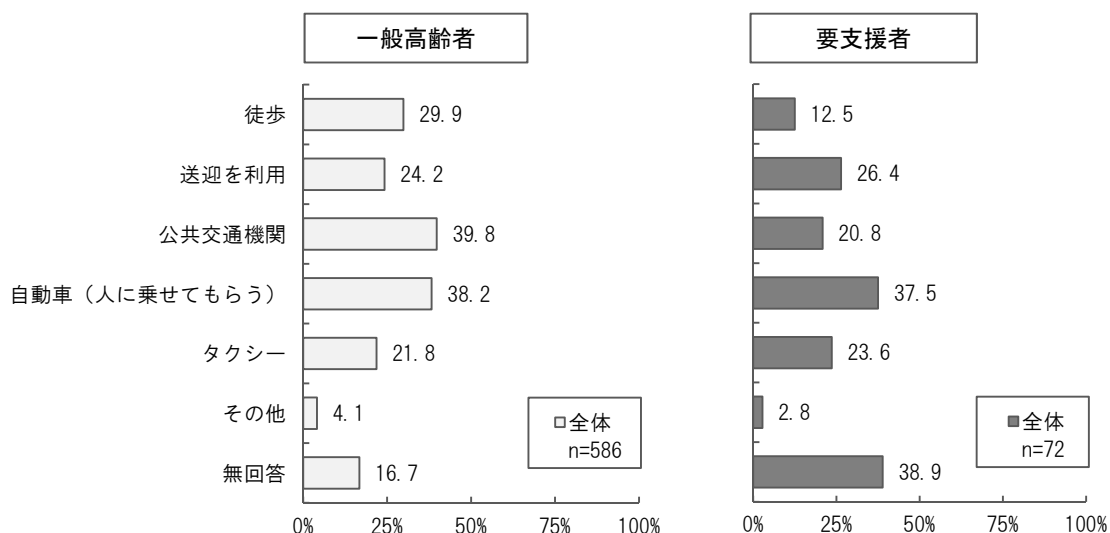
○運転免許返納後に利用したい移動手段をみると、一般高齢者は「公共交通機関」(39.8%)が最も高く、次いで「自動車(人に乗せてもらう)」(38.2%)、「徒歩」(29.9%)となっています。

○要支援者は「自動車(人に乗せてもらう)」(37.5%)が最も高く、次いで「送迎を利用」(26.4%)、「タクシー」(23.6%)となっています。

問18 運転免許の返納の予定はあるか



問19 運転免許の返納後に利用したい移動手段

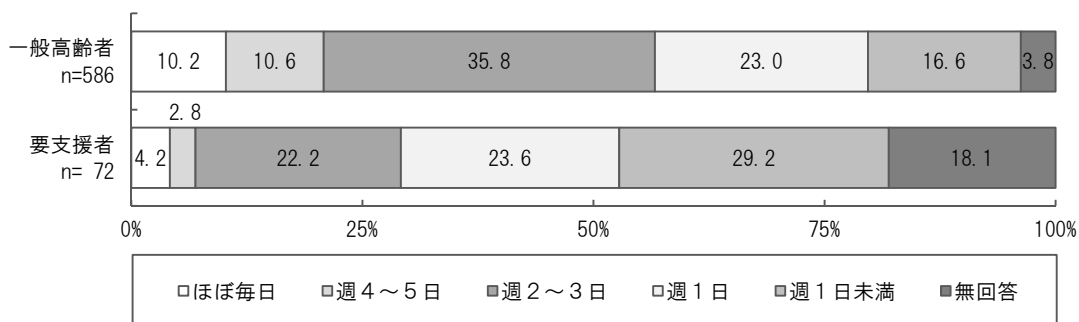


○買物で外出する頻度をみると、一般高齢者は「週2～3日」(35.8%)が最も高く、次いで「週1日」(23.0%)、「週1日未満」(16.6%)となっています。

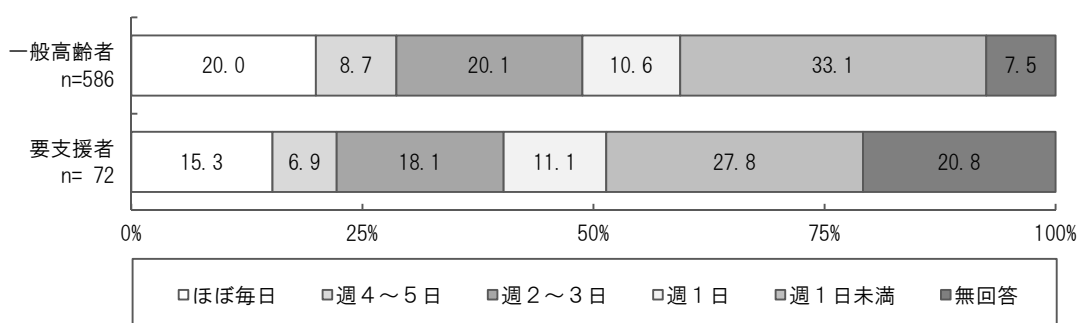
○要支援者は「週1日未満」(29.2%)が最も高く、次いで「週1日」(23.6%)、「週2～3日」(22.2%)となっています。

○散歩で外出する頻度では、一般高齢者・要支援者ともに「週1日未満」(33.1%・27.8%)が最も高く、次いで「週2～3日」(20.1%・18.1%)、「ほぼ毎日」(20.0%・15.3%)、となっています。

問20. ① 買物で外出する頻度



問20. ② 散歩で外出する頻度

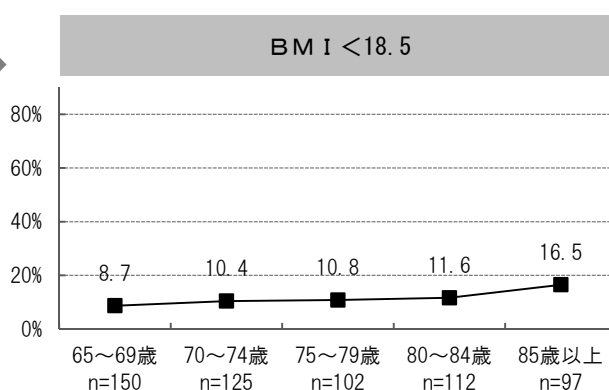
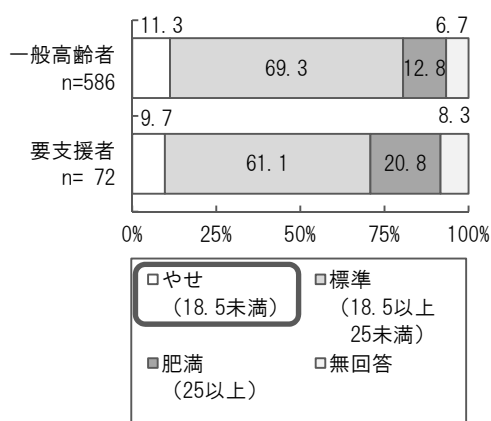


3 食べることについて

(1) 現在の肥満状況

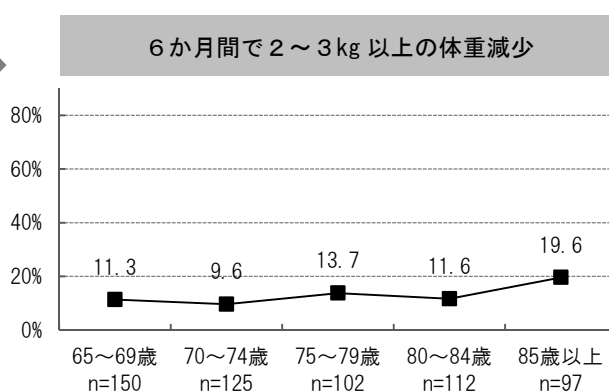
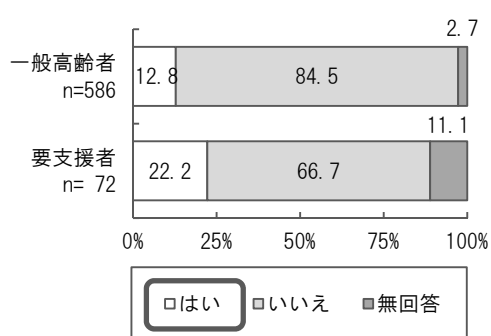
- 高齢者の肥満状況をBMI指数で見ると、一般高齢者は「やせ(18.5未満)」の方が11.3%となり、年齢階級別では加齢とともに割合がやや高くなっています。
- 要支援者は「やせ(18.5未満)」が9.7%となっています。
- 6か月間で2～3kg以上の体重減少がある方は、一般高齢者は12.8%となっており、年齢階級別にみると85歳以上で約2割と最も高くなっています。
- 要支援者では、体重減少がある方が22.2%となっています。

問23 BMI



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問29 6か月間で2～3kg以上の体重減少がある



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

(2) 歯・口腔の状況

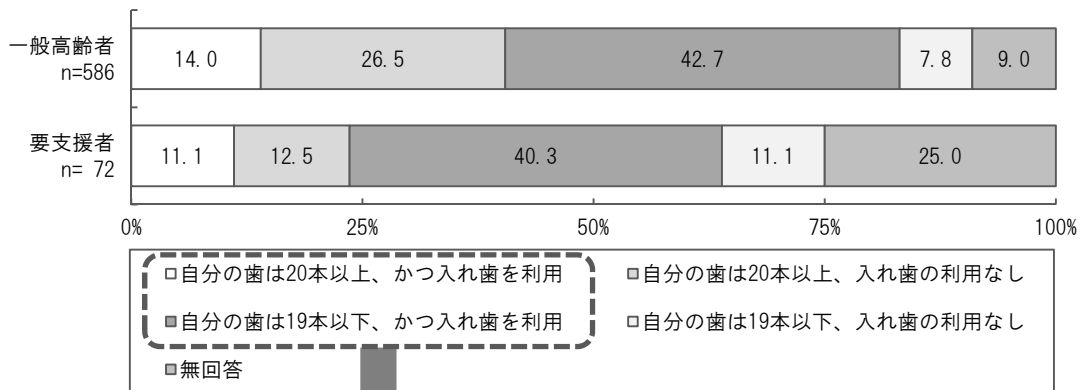
○歯の数と入れ歯の利用状況をみると、一般高齢者は「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(14.0%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(42.7%)を合わせた56.7%が入れ歯を利用していると回答しています。

○要支援者では、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(11.1%)と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(40.3%)を合わせた51.4%が入れ歯を利用していると回答しています。

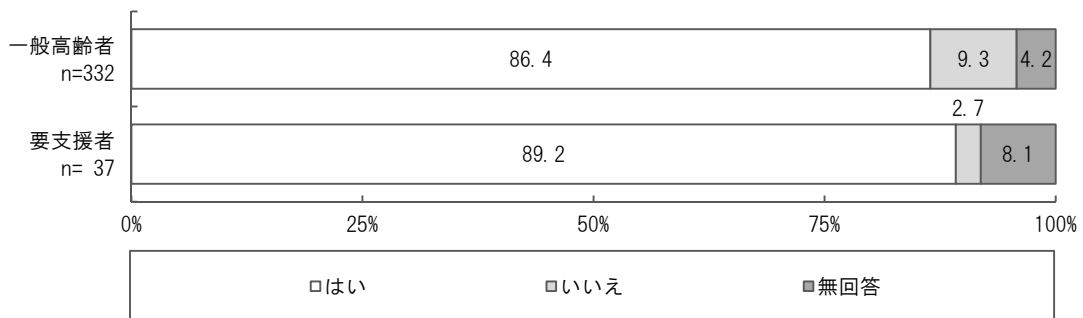
○毎日入れ歯の手入れをしているかでは、一般高齢者は86.4%、要支援者は89.2%が「はい」と回答しています。

○噛み合わせが良いかでは、一般高齢者は77.0%、要支援者は66.7%が「はい」と回答しています。

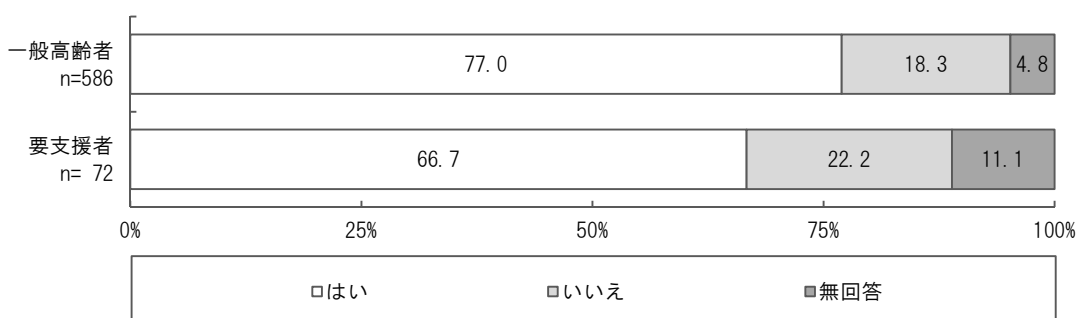
問28 歯の数と入れ歯の利用状況



問28-1 毎日入れ歯の手入れをしているか

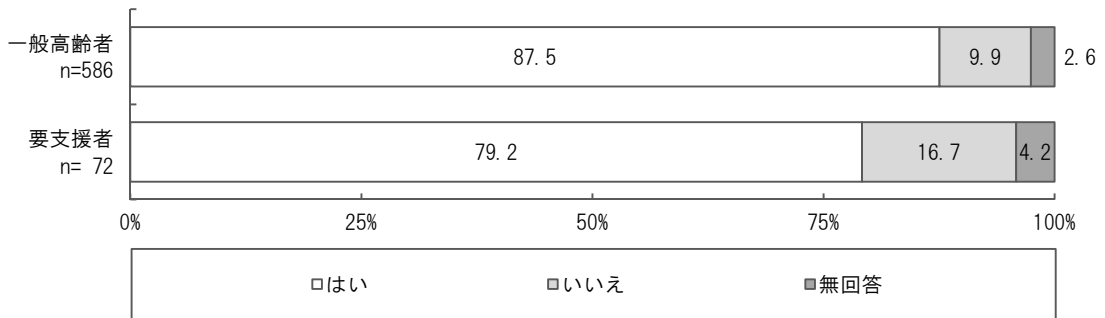


問28-2 噛み合わせは良いか

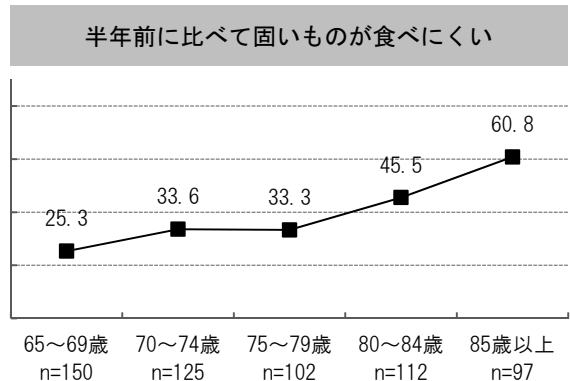
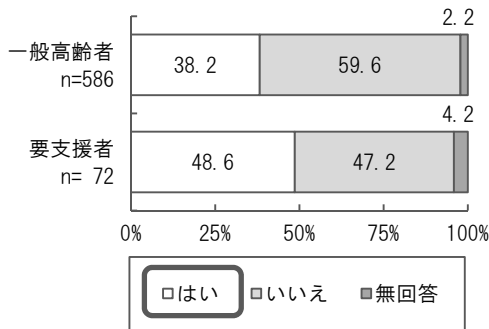


- 歯磨きを毎日している方は、一般高齢者は87.5%、要支援者は79.2%となっています。
- 半年前に比べて固いものが食べにくくなった方は、一般高齢者は38.2%となっており、年齢階級別では85歳以上で約6割となっています。
- 要支援者では、半年前に比べて固いものが食べにくくなった方が48.6%となっています。
- お茶や汁物等でむせることがある方は、一般高齢者は22.4%となっており、年齢階級別では80~84歳で最も高い割合となっています。
- 要支援者では、お茶や汁物等でむせることがある方が47.2%となっています。

問27 歯磨きを毎日しているか

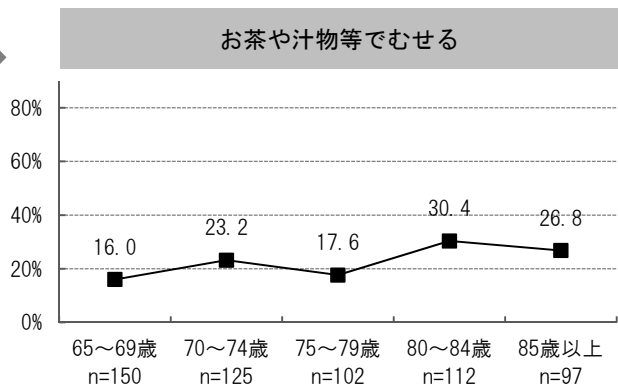
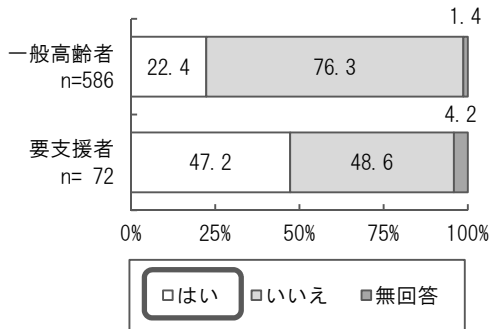


問24 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

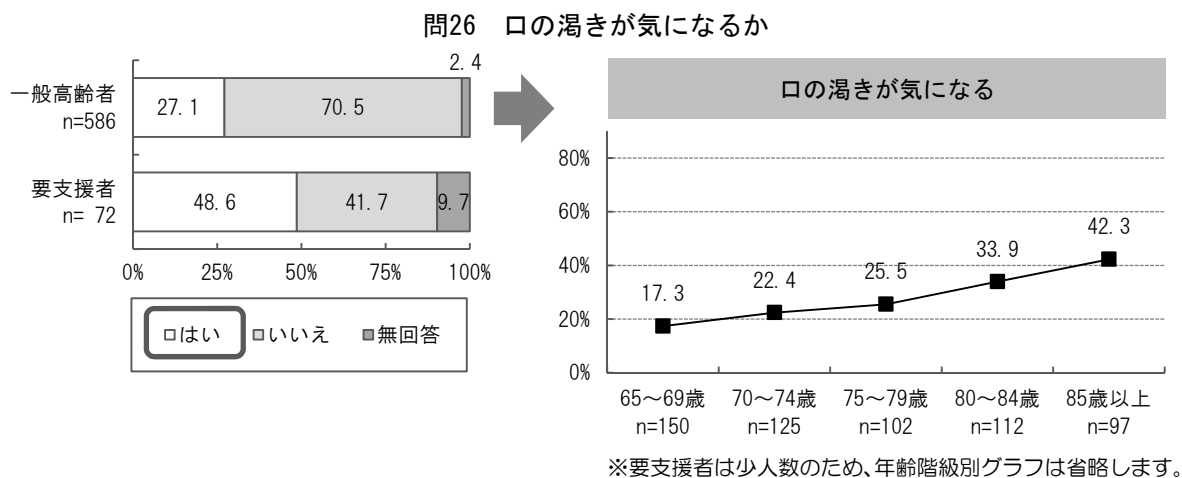
問25 お茶や汁物等でむせることがあるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

〇口の渇きが気になる方は、一般高齢者は27.1%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに増加しています。

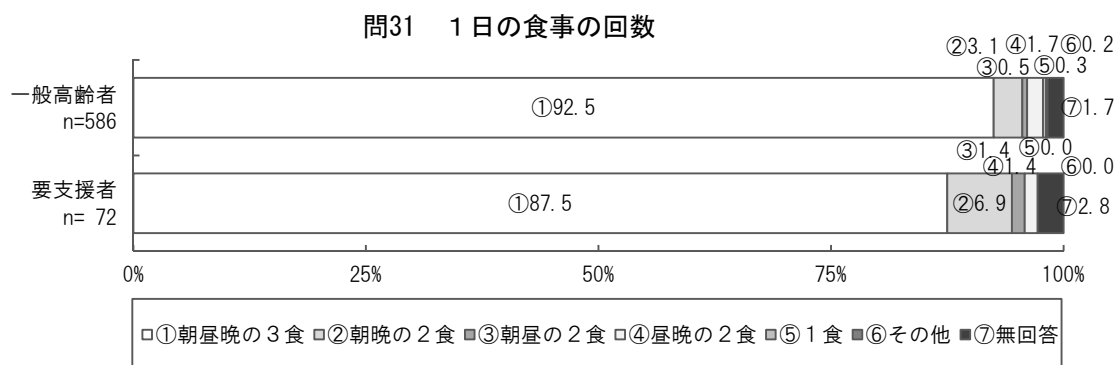
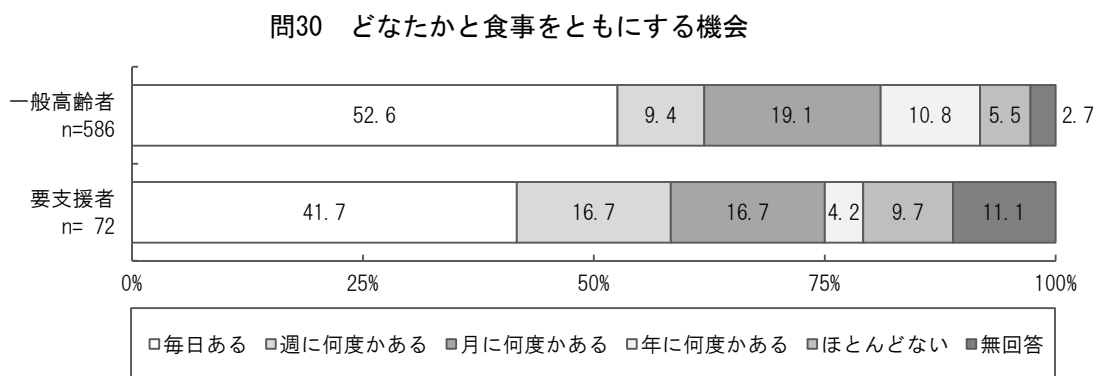
〇要支援者では、口の渇きが気になる方が48.6%となっています。



(3) 食事の状況

〇どなたかと食事をともしる機会の有無をみると、一般高齢者・要支援者ともに「毎日ある」(52.6%・41.7%)が最も高く、「ほとんどない」と回答した方はいずれも1割未満となっています。

〇1日の食事の回数では、一般高齢者・要支援者ともに「朝昼晩の3食」が約9割前後となっています。

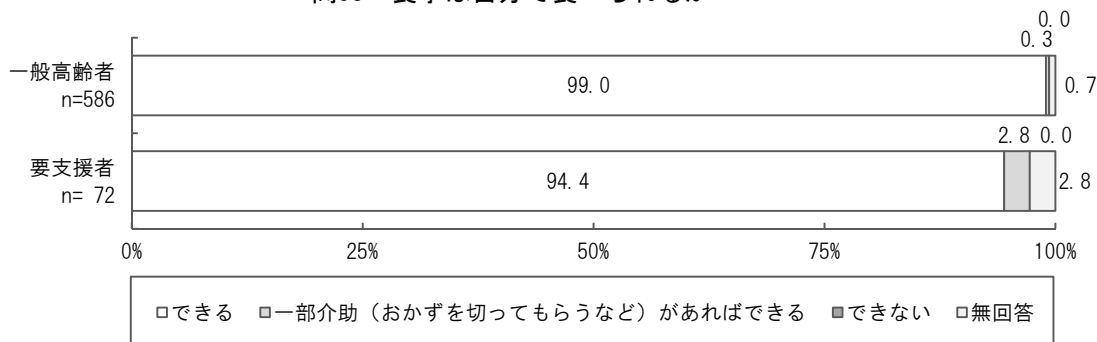


○食事は自分で食べられるかでは、一般高齢者・要支援者ともに「できる」が9割以上を占めています。

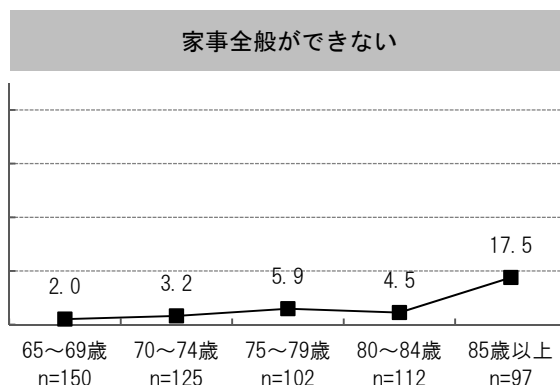
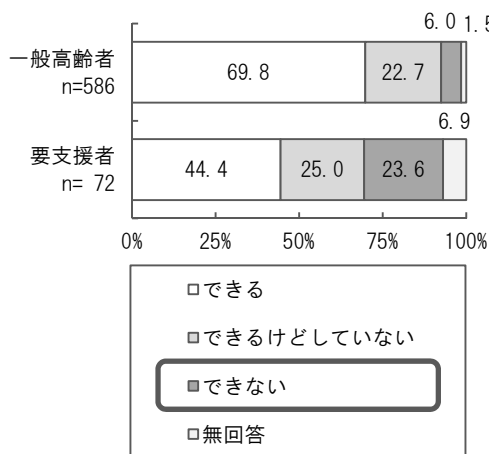
○家事全般ができない方は、一般高齢者は6.0%となっており、年齢階級別にみると85歳以上の割合が特に高くなっています。

○要支援者では、家事全般ができない方が23.6%となっています。

問53 食事は自分で食べられるか



問54 家事全般ができていないか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

4 毎日の生活について

(1) IADL（手段的自立度）の状況

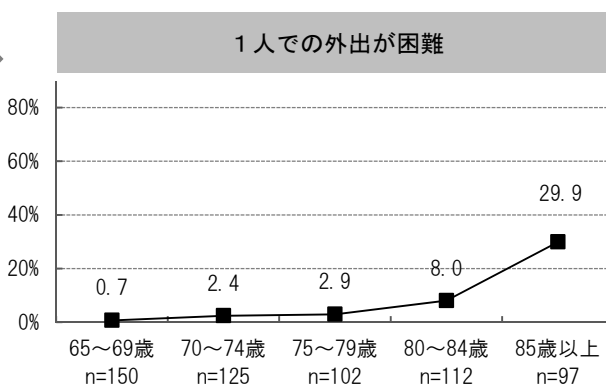
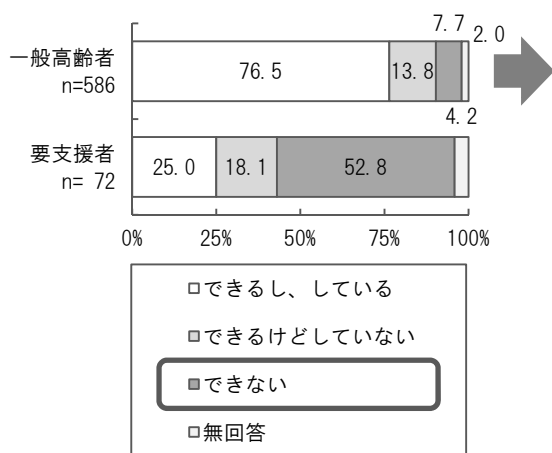
○バスや電車を使って1人で外出できない方は、一般高齢者は7.7%となっており、年齢階級別にみると85歳以上の割合が特に高くなっています。

○要支援者では、できない方が52.8%となっています。

○自分で食品・日用品の買物ができない方は、一般高齢者は4.9%となっており、年齢階級別にみると85歳以上の割合が高くなっています。

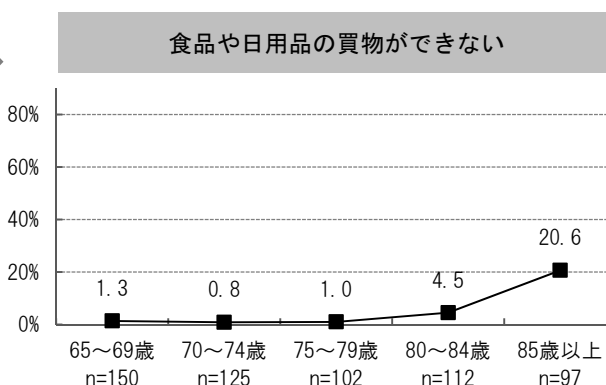
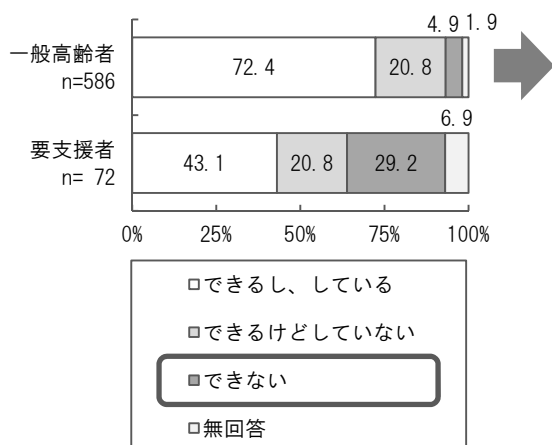
○要支援者では、自分で食品・日用品の買物ができない方が29.2%となっています。

問35 バスや電車を使って1人で外出しているか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問36 自分で食品・日用品の買物をしているか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

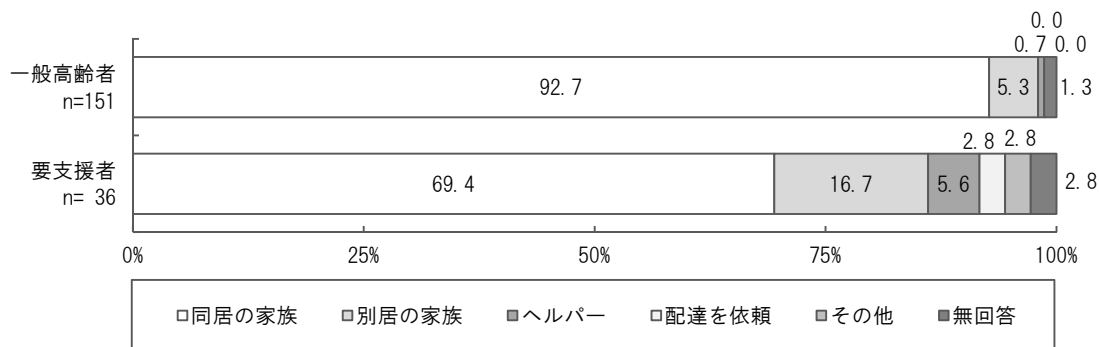
○食品・日用品の買物をする人についてみると、一般高齢者・要支援者ともに「同居の家族」(92.7%・69.4%)が最も高くなっており、次いで、「別居の家族」(5.3%・16.7%)となっています。

○自分で食事の用意ができない方は、一般高齢者は8.9%となっており、年齢階級別にみると85歳以上の割合が高くなっています。

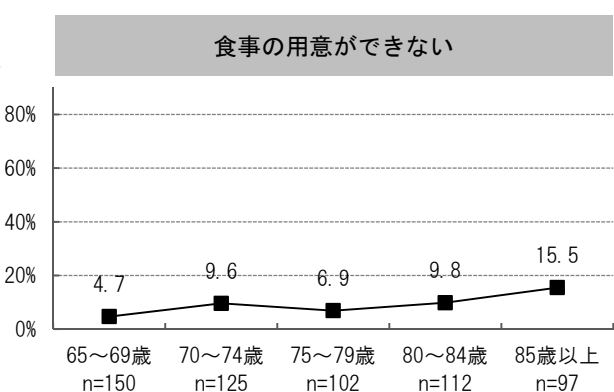
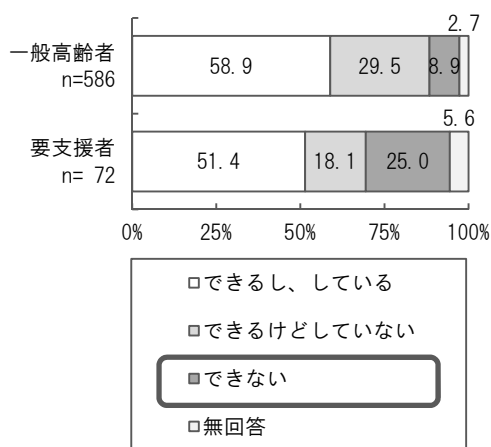
○要支援者では、自分で食事の用意ができない方が25.0%となっています。

問36-1 食品・日用品の買物をする人

【問36において「2. できるけどしていない」「3. できない」に回答の方】



問37 自分で食事の用意をしているか

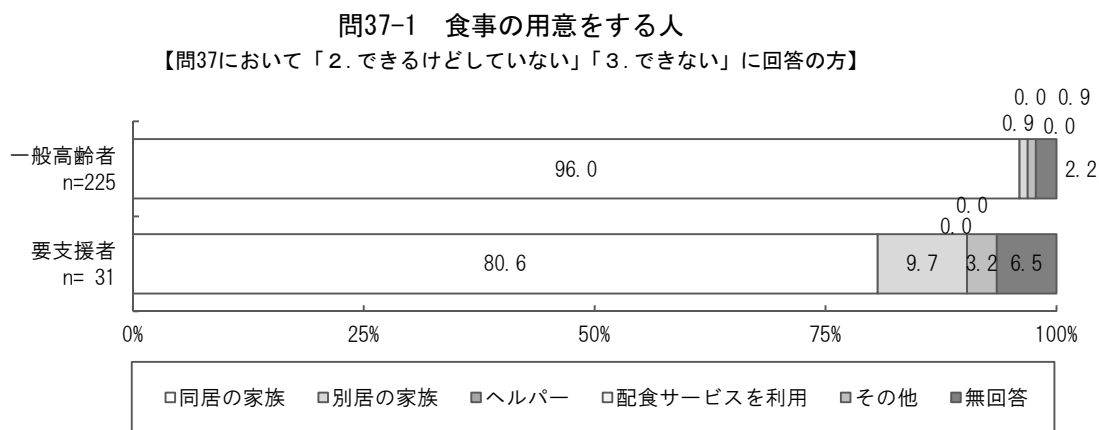


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

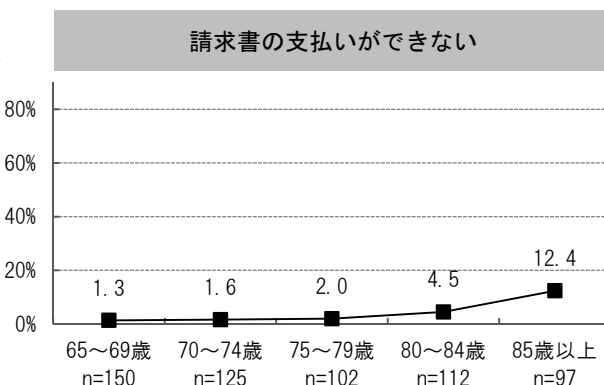
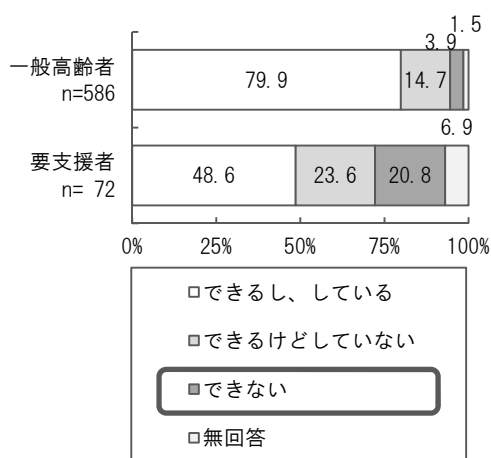
○食事の用意をする人についてみると、一般高齢者・要支援者ともに「同居の家族」(96.0%・80.6%)が最も高くなっています。

○自分で請求書の支払いができない方は、3.9%となっており、一般高齢者は年齢階級別に見ると85歳以上の割合が高くなっています。

○要支援者では、自分で請求書の支払いができない方が20.8%となっています。



問38 自分で請求書の支払いをしているか

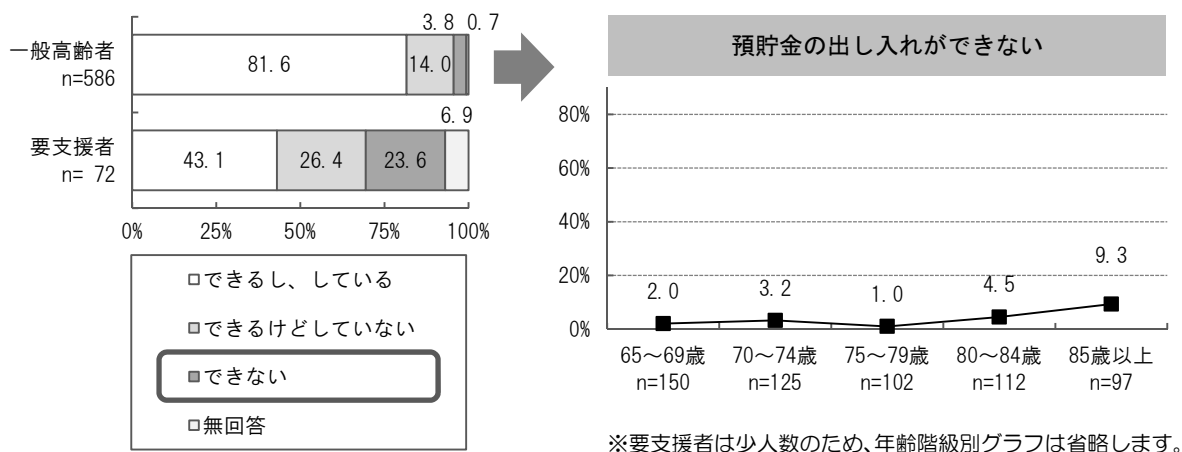


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○自分で預貯金の出し入れができない方は、一般高齢者は3.8%となっており、年齢階級別にみると85歳以上の割合が高くなっています。

○要支援者では、自分で預貯金の出し入れができない方が23.6%となっています。

問39 自分で預貯金の出し入れをしているか

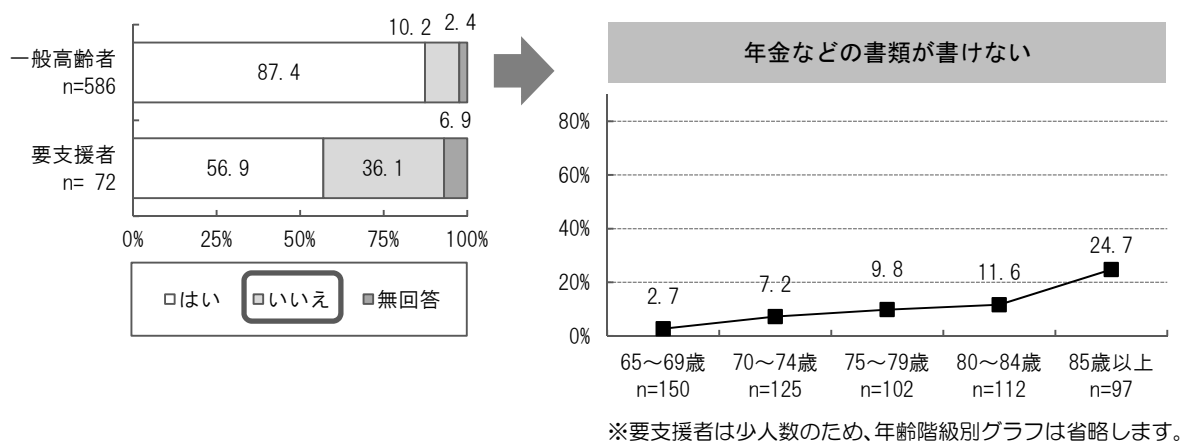


(2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けない方は、一般高齢者は10.2%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっており、85歳以上で特に高くなっています。

○要支援者では、年金などの書類が書けない方が36.1%となっています。

問40 年金などの書類が書けるか



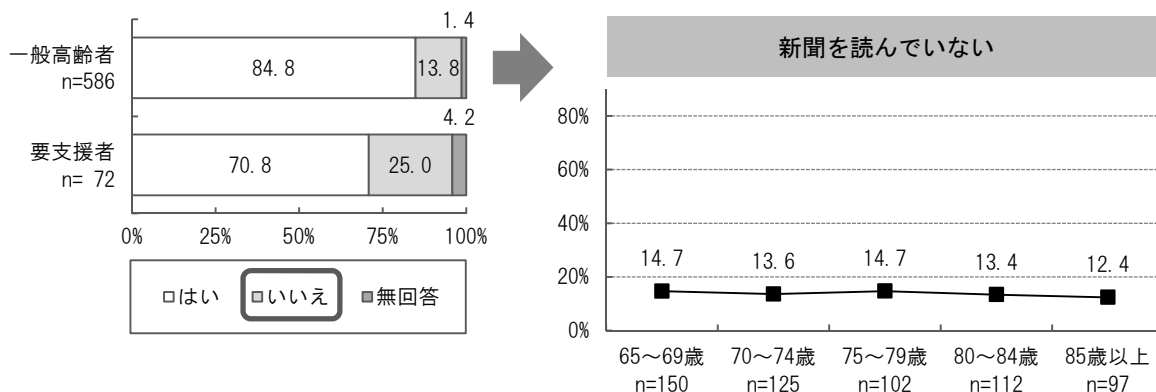
○新聞を読んでいない方は、一般高齢者は13.8%となっており、年齢階級別による大きな変化はみられません。

○要支援者では、新聞を読んでいない方が25.0%となっています。

○本や雑誌を読んでいない方は、一般高齢者は27.5%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに増加しています。

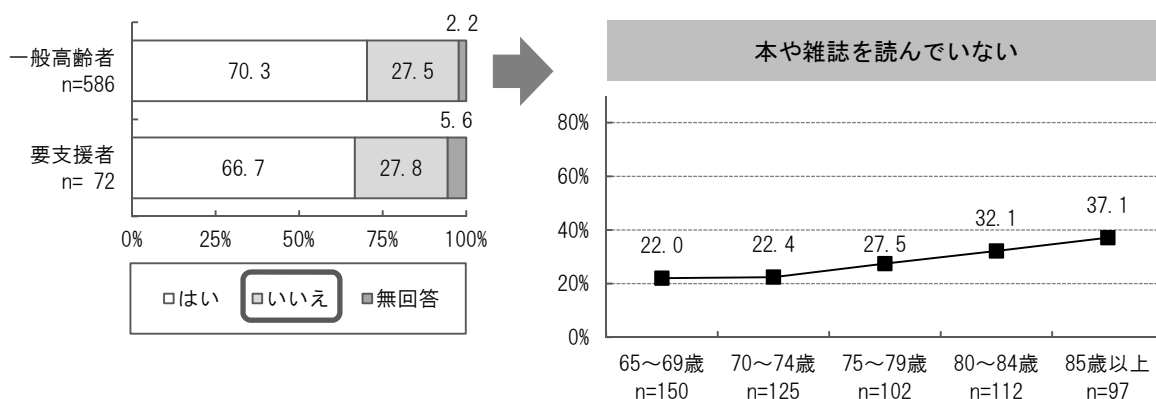
○要支援者では、本や雑誌を読んでいない方が27.8%となっています。

問41 新聞を読んでいるか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問42 本や雑誌を読んでいるか

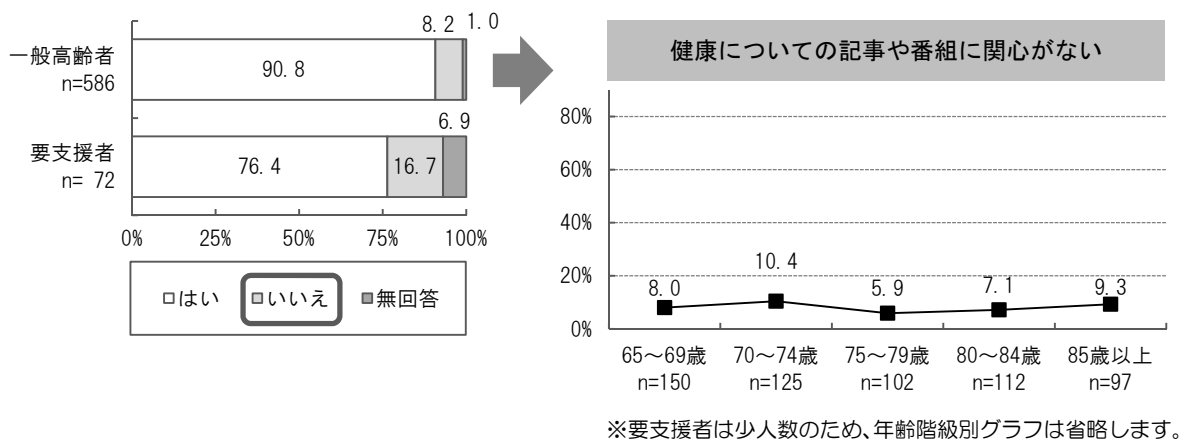


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○健康についての記事や番組に関心がない方は、一般高齢者は8.2%となっており、年齢階級別による大きな変化はみられません。

○要支援者では、健康についての記事や番組に関心がない方が16.7%となっています。

問43 健康についての記事や番組に関心があるか

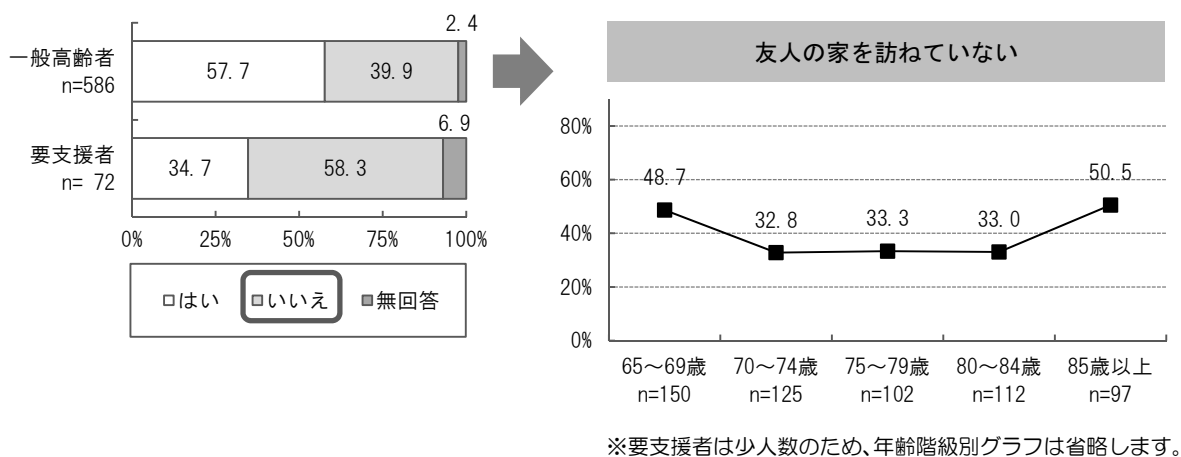


(3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねていない方は、一般高齢者は39.9%となっており、年齢階級別にみると65~69歳、85歳以上で割合が高くなっています。

○要支援者では、友人の家を訪ねていない方が58.3%となっています。

問44 友人の家を訪ねているか



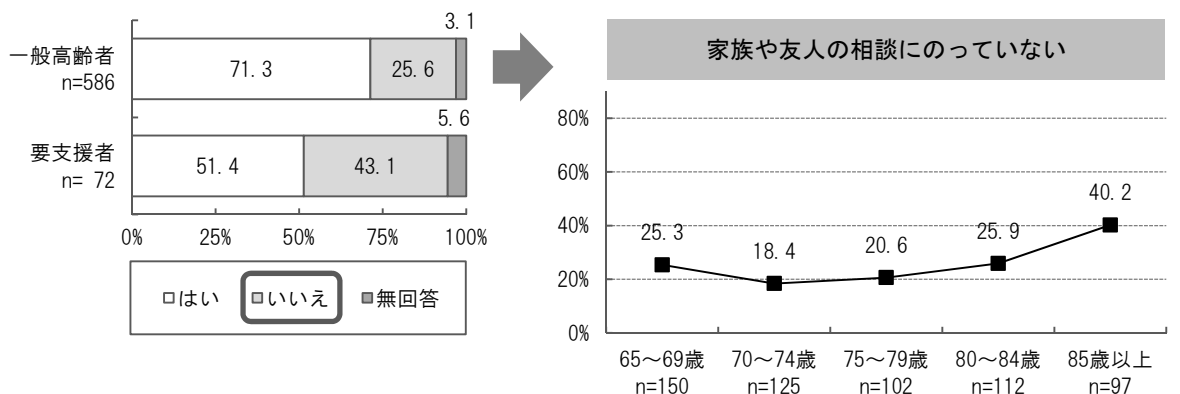
○家族や友人の相談にのっていない方は、一般高齢者は25.6%となっており、年齢階級別にみると85歳以上で特に割合が高くなっています。

○要支援者では、家族や友人の相談にのっていない方が43.1%となっています。

○病人を見舞うことができない方をみると、一般高齢者は9.0%となっており、年齢階級別にみると85歳以上で特に割合が高くなっています。

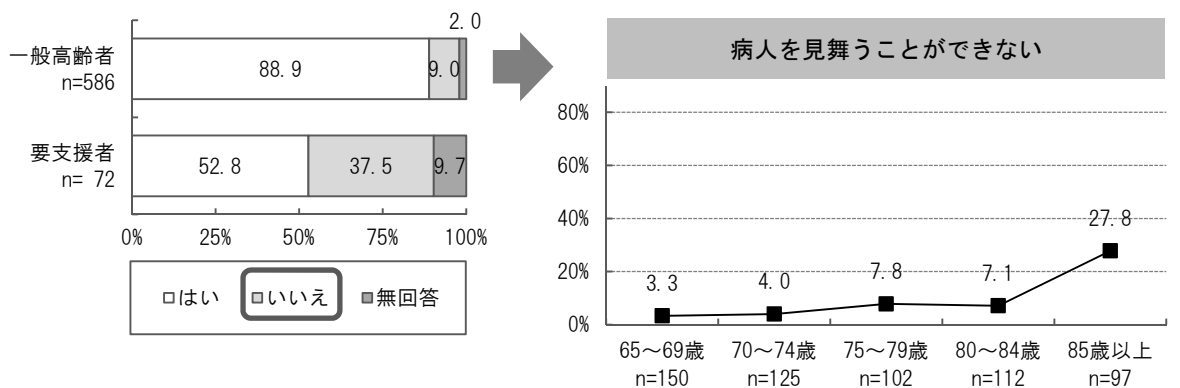
○要支援者では、病人を見舞うことができない方が37.5%となっています。

問45 家族や友人の相談にのっているか



※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問46 病人を見舞うことができるか

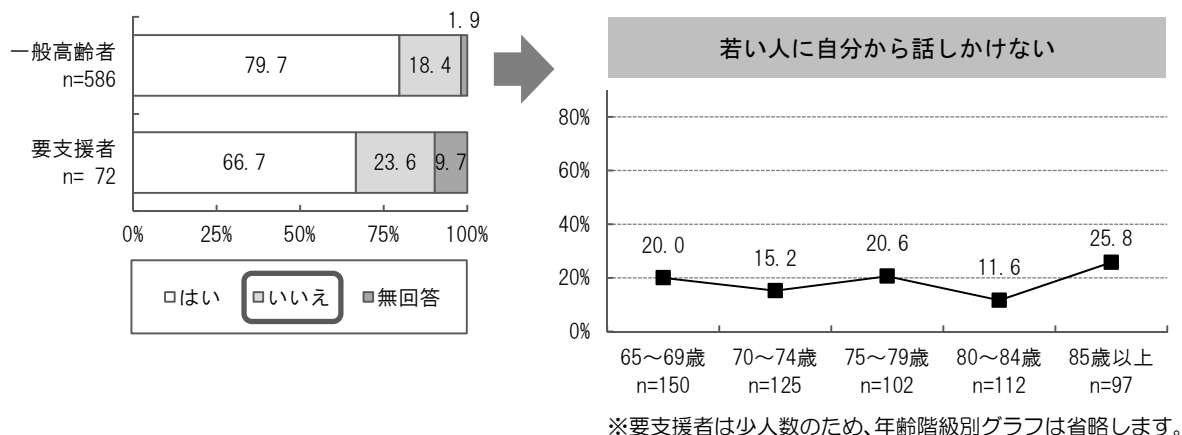


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○若い人に自分から話しかけることはない方は、一般高齢者は18.4%となっており、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

○要支援者では、若い人に自分から話しかけることはない方が23.6%となっています。

問47 若い人に自分から話しかけることはあるか

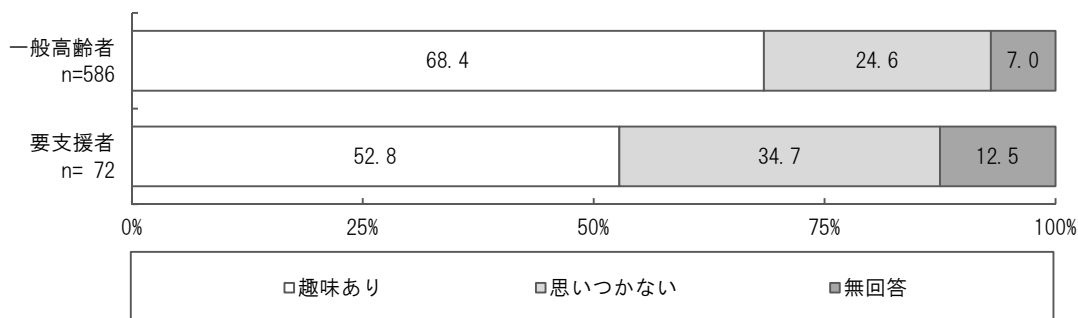


(4) こころの健康状態

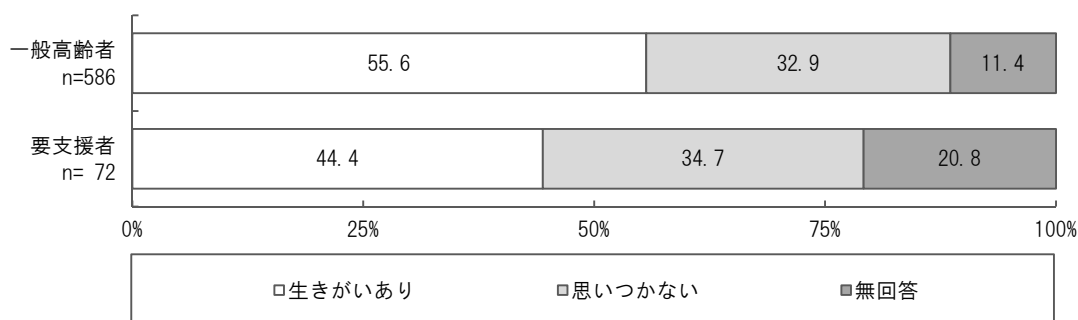
○趣味はあるかでは、一般高齢者は68.4%、要支援者は52.8%が「趣味あり」と回答しています。

○生きがいはあるかでは、一般高齢者は55.6%、要支援者は44.4%が「生きがいあり」と回答しています。

問48 趣味はあるか



問49 生きがいはあるか

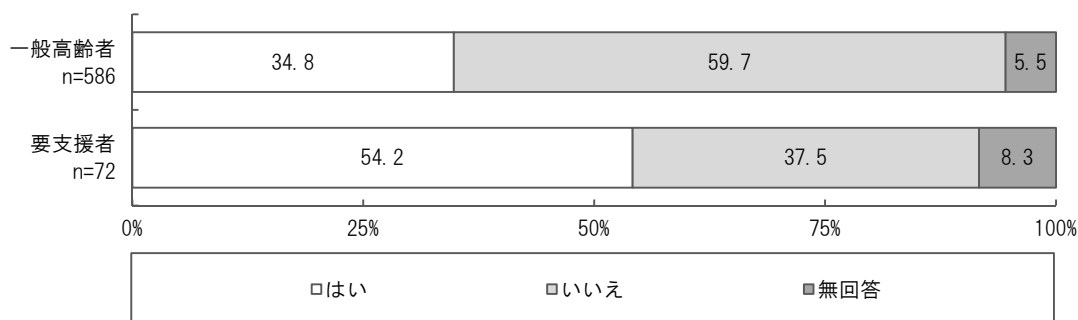


○この1か月間、気分が沈んだりするかでは、一般高齢者は34.8%、要支援者は54.2%が「はい」と回答しています。

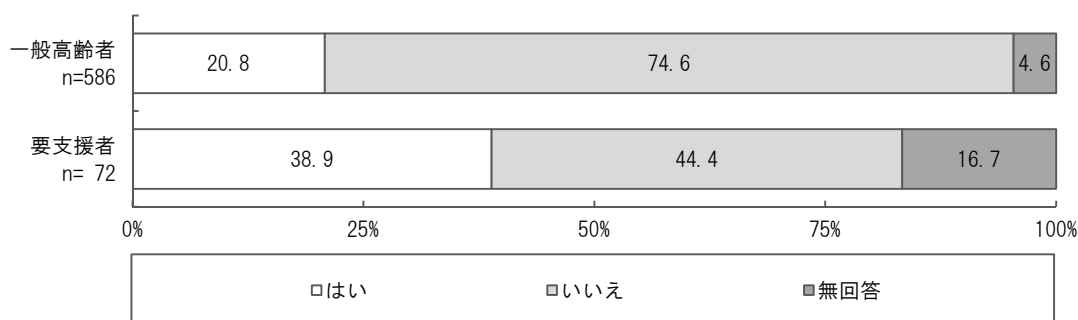
○この1か月間、物事に対して心から楽しめないかでは、一般高齢者は20.8%、要支援者は38.9%が「はい」と回答しています。

○ここ2週間毎日の生活に充実感がないかでは、一般高齢者は17.4%、要支援者は34.7%が「はい」と回答しています。

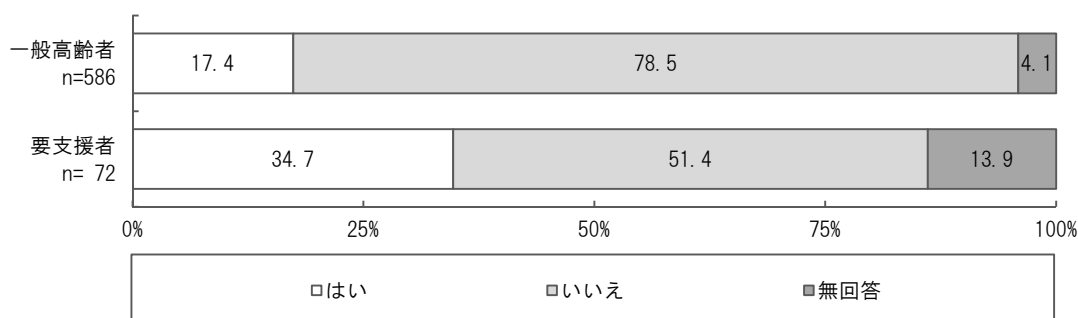
問68 この1か月間、気分が沈んだりするか



問69 この1か月間、物事に対して心から楽しめないか



問70 毎日の生活に充実感がないか

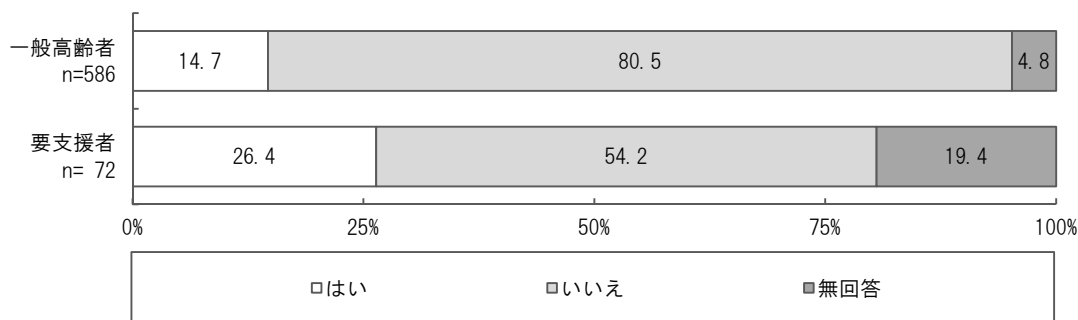


○これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったかでは、一般高齢者は14.7%、要支援者は26.4%が「はい」と回答しています。

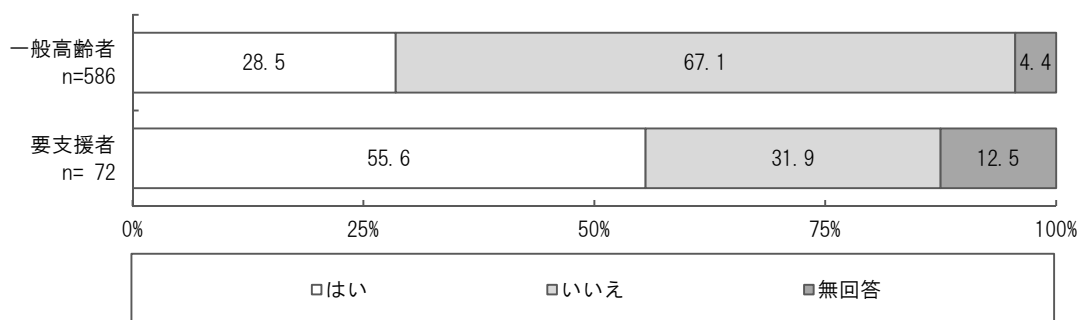
○以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じるかでは、一般高齢者は28.5%、要支援者は55.6%が「はい」と回答しています。

○自分が役に立つ人間だと思えないかでは、一般高齢者は27.1%、要支援者は50.0%が「はい」と回答しています。

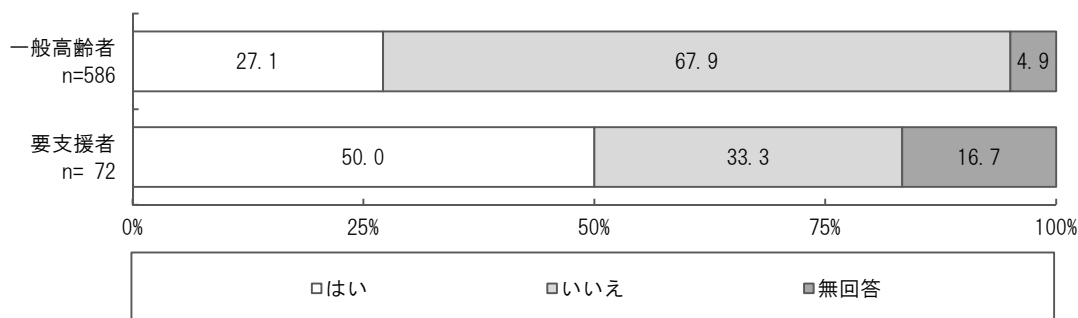
問71 これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったか



問72 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じるか

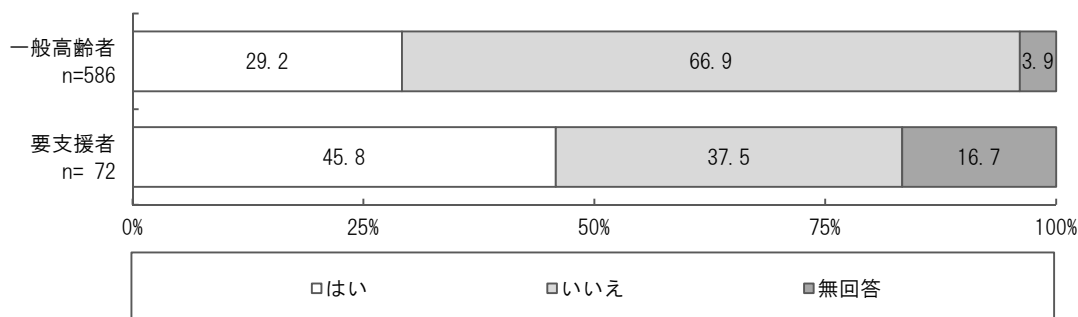


問73 自分が役に立つ人間だと思えないか



〇わけもなく疲れたような感じがするかでは、一般高齢者は29.2%、要支援者は45.8%が「はい」と回答しています。

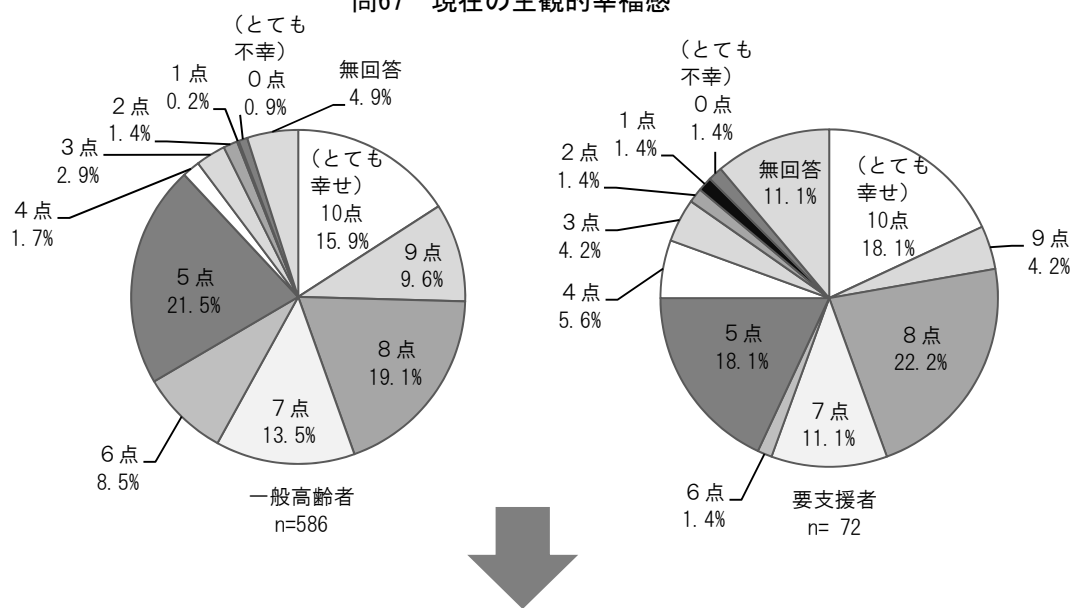
問74 わけもなく疲れたような感じがするか



〇現在の主観的幸福感では、一般高齢者は「5点」(21.5%)と回答した方が最も多く、次いで「8点」(19.1%)、「(とても幸せ) 10点」(15.9%)となっています。平均点数は7.0点です。

〇要支援者は、「8点」(22.2%)と回答した方が最も多く、次いで「(とても幸せ) 10点」「5点」(各18.1%)となっています。平均点数は6.9点です。

問67 現在の主観的幸福感

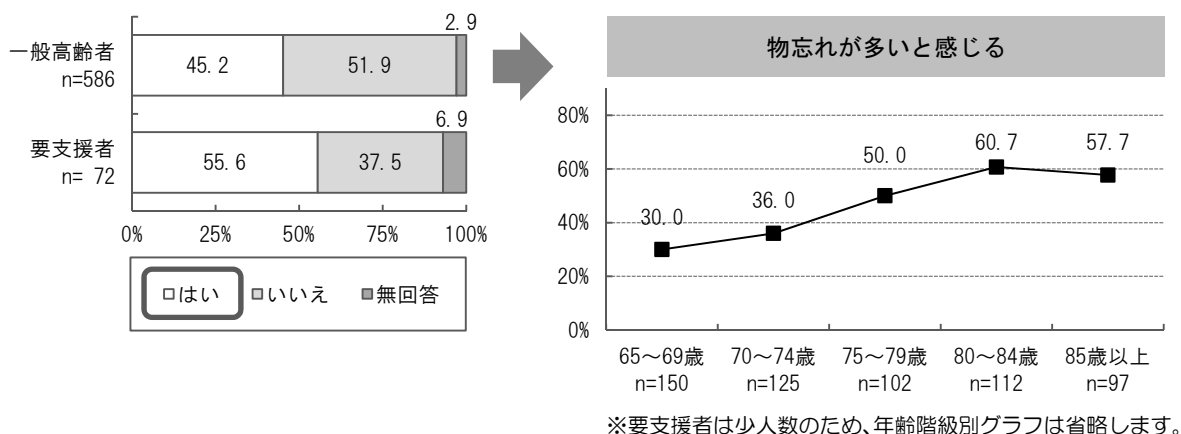


	一般高齢者	要支援者
平均点数	7.0	6.9

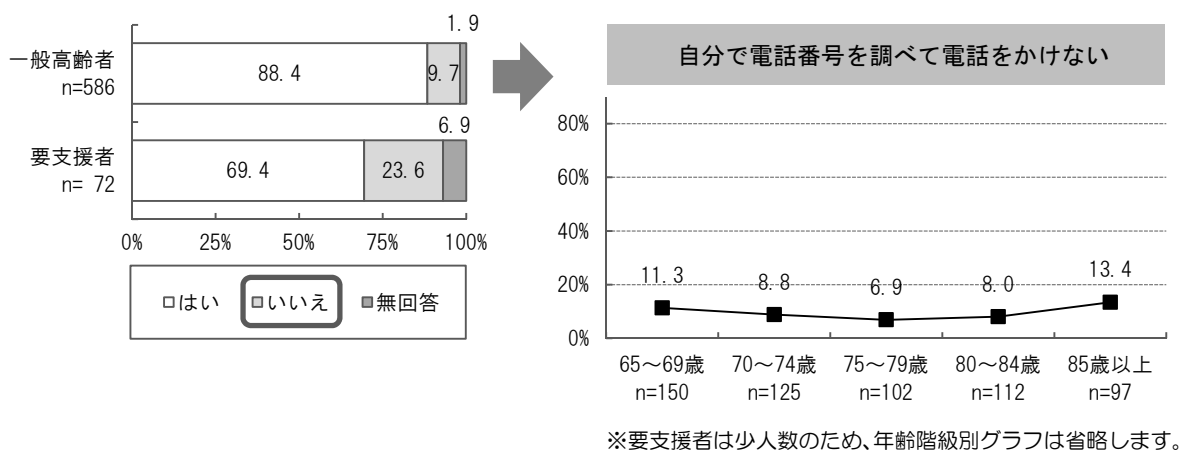
(5) 物忘れの状況

- 物忘れが多いと感じる方は、一般高齢者は45.2%となっており、年齢階級別にみると75歳以上でそれぞれ5割を超えています。
- 要支援者では、物忘れが多いと感じる方が55.6%となっています。
- 自分で電話番号を調べて電話をかけていない方は、一般高齢者は9.7%となっており、年齢階級別での大きな変化はありません。
- 要支援者では、自分で電話番号を調べて電話をかけていない方が23.6%となっています。

問32 物忘れが多いと感じるか



問33 自分で電話番号を調べて電話をかけるか



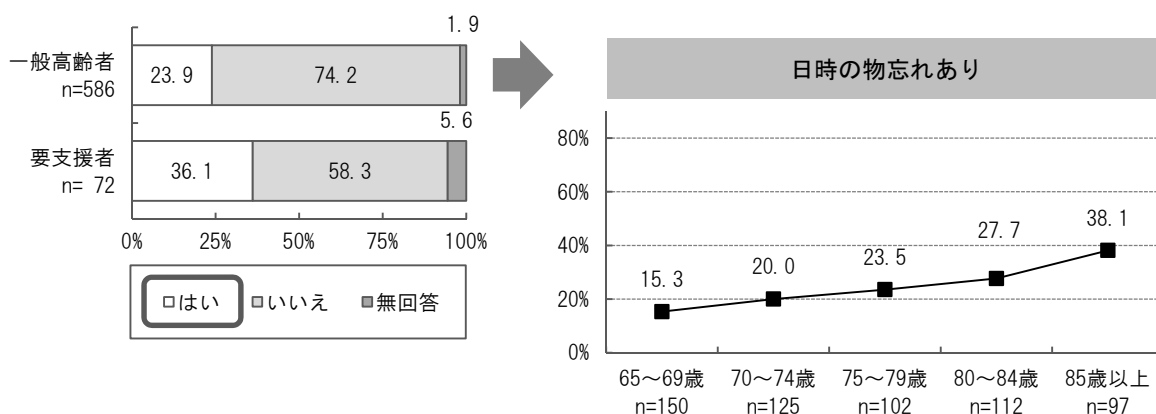
○今日が何月何日か分からない時がある方は、一般高齢者は23.9%となっており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者では、今日が何月何日か分からない時がある方が36.1%となっています。

○5分前に自分が何をしていたか思い出せるかでは、一般高齢者は94.2%、要支援者は77.8%が「はい」と回答しています。

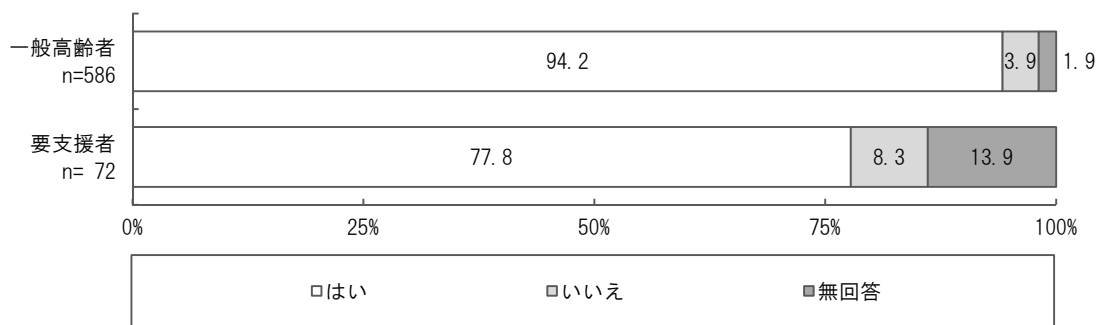
○その日の活動を自分で判断できるかでは、一般高齢者は87.9%、要支援者は63.9%が「困難なくできる」と回答しています。

問34 今日が何月何日か分からない時があるか

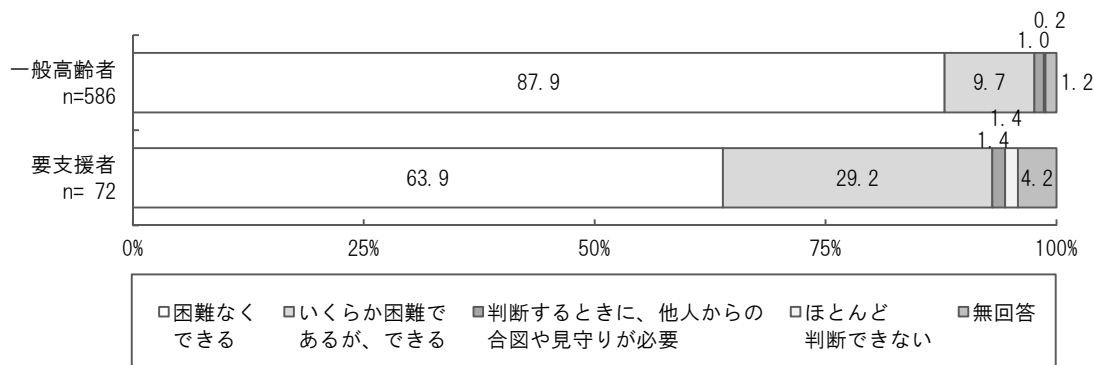


※要支援者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

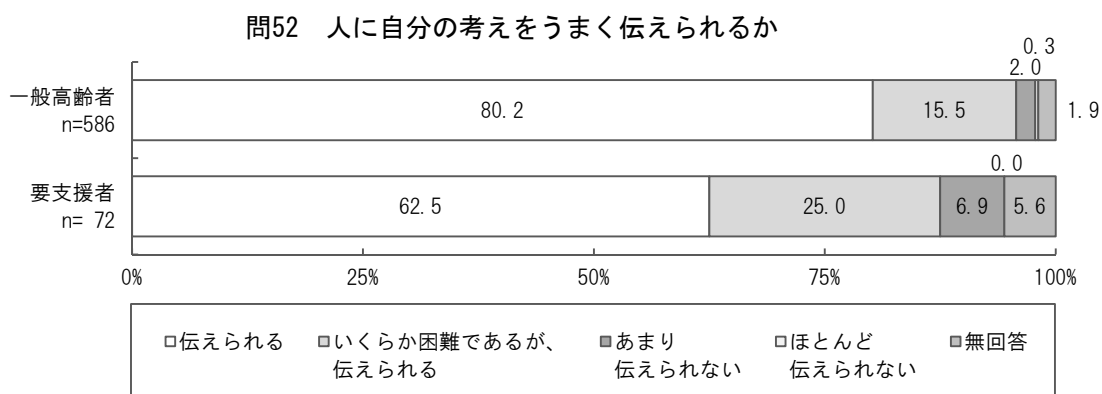
問50 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか



問51 その日の活動を自分で判断できるか



○人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、一般高齢者は80.2%、要支援者は62.5%が「伝えられる」と回答しています。



5 地域での活動について

(1) グループ活動等の状況

○一般高齢者のグループ活動等への参加頻度をみると、週1回以上の就労または参加している方は「⑧収入のある仕事」(18.5%)が最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」(7.8%)、「③趣味関係のグループ」(7.0%)となっており、「⑦町内会・自治会」を除いて約3～4割が「参加していない」と回答しています。

○要支援者は、「⑤ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場」(13.9%)が最も高く、次いで「①ボランティアのグループ」、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「④学習・教養サークル」(各2.8%)となっており、約3～4割が「参加していない」と回答しています。また、「⑧収入のある仕事」と回答した方はいませんでした。

問55 通いの場等への参加頻度

単位：%

一般高齢者 n=586	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.7	0.7	1.4	5.8	8.4	38.6	44.5
②スポーツ関係のグループやクラブ	2.0	2.9	2.9	6.0	4.1	38.9	43.2
③趣味関係のグループ	1.5	1.9	3.6	11.6	6.8	34.6	39.9
④学習・教養サークル	0.3	0.9	1.0	3.9	3.8	41.6	48.5
⑤ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場	0.5	1.7	1.7	7.7	2.4	42.5	43.5
⑥老人クラブ	0.3	0.7	0.5	5.1	14.2	38.4	40.8
⑦町内会・自治会	0.7	0.2	0.7	10.4	26.5	22.0	39.6
⑧収入のある仕事	11.6	4.9	2.0	1.9	3.4	33.4	42.7

要支援者 n=72	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.0	0.0	2.8	0.0	1.4	40.3	55.6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1.4	0.0	1.4	2.8	0.0	38.9	55.6
③趣味関係のグループ	0.0	1.4	0.0	11.1	1.4	33.3	52.8
④学習・教養サークル	1.4	1.4	0.0	1.4	0.0	38.9	56.9
⑤ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場	2.8	4.2	6.9	2.8	2.8	33.3	47.2
⑥老人クラブ	1.4	0.0	0.0	5.6	8.3	31.9	52.8
⑦町内会・自治会	1.4	0.0	0.0	4.2	4.2	34.7	55.6
⑧収入のある仕事	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.1	56.9

(2) 地域づくりに対する参加意向

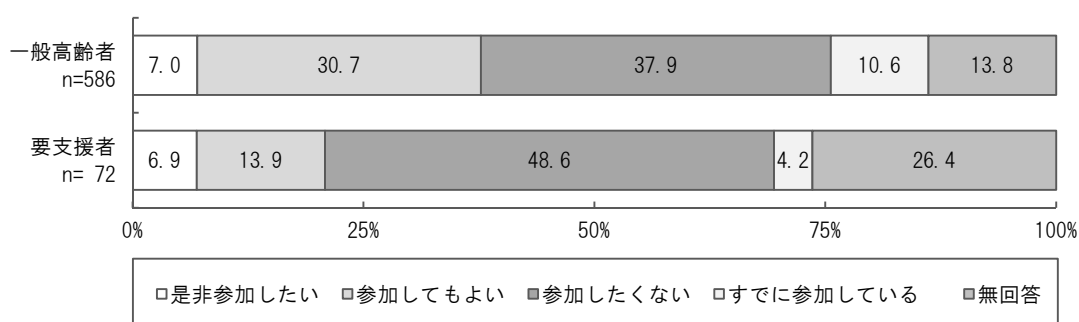
○参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、一般高齢者は「是非参加したい」(7.0%)と「参加してもよい」(30.7%)を合わせた37.7%が参加の意向です。

○要支援者では、「是非参加したい」(6.9%)と「参加してもよい」(13.9%)を合わせた20.8%となっています。

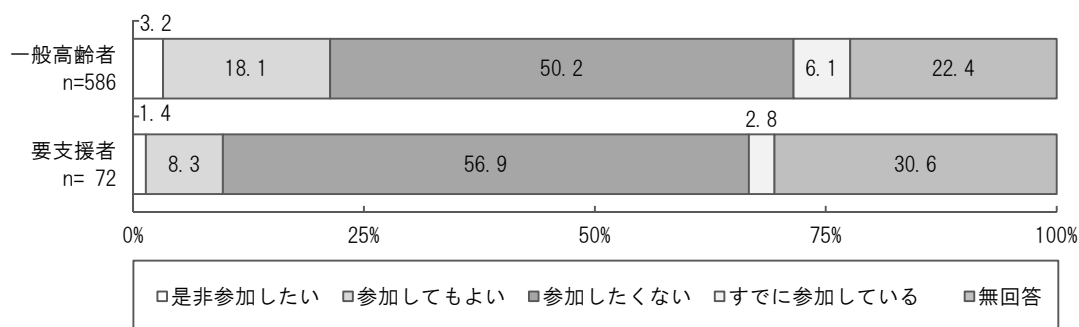
○企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいかでは、一般高齢者は「是非参加したい」(3.2%)と「参加してもよい」(18.1%)を合わせた21.3%が参加の意向です。

○要支援者では、「是非参加したい」(1.4%)と「参加してもよい」(8.3%)を合わせた9.7%となっています。

問56 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



問57 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



6 たすけあいについて

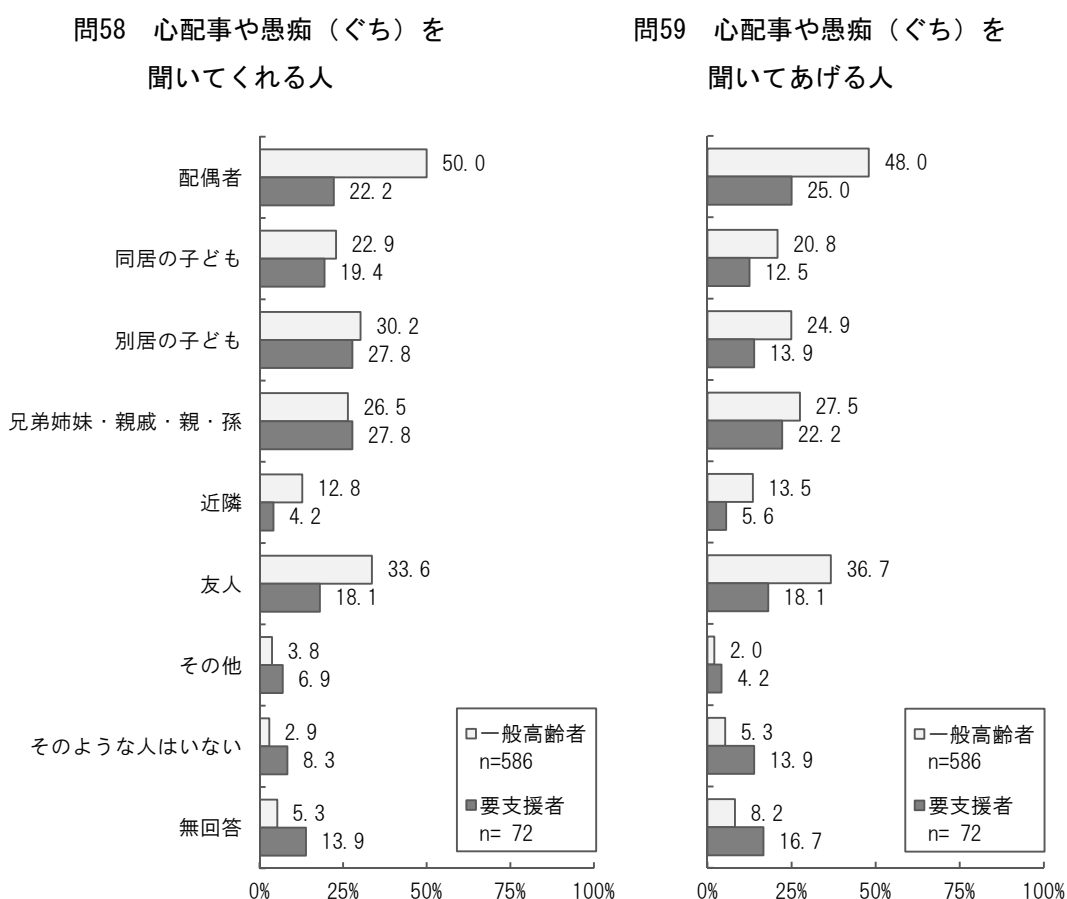
(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をみると、一般高齢者は「配偶者」（50.0%）が最も高く、次いで「友人」（33.6%）、「別居の子ども」（30.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（26.5%）となっています。

○要支援者では、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「別居の子ども」（各27.8%）が最も高く、次いで「配偶者」（22.2%）、「同居の子ども」（19.4%）となっています。

○反対に心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人では、一般高齢者は「配偶者」（48.0%）が最も高く、次いで「友人」（36.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（27.5%）、「別居の子ども」（24.9%）、「同居の子ども」（20.8%）となっています。

○要支援者では、「配偶者」（25.0%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（22.2%）、「友人」（18.1%）、「別居の子ども」（13.9%）、「同居の子ども」（12.5%）となっています。



○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人では、一般高齢者は「配偶者」(56.8%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(34.8%)、「別居の子ども」(30.2%)となっています。

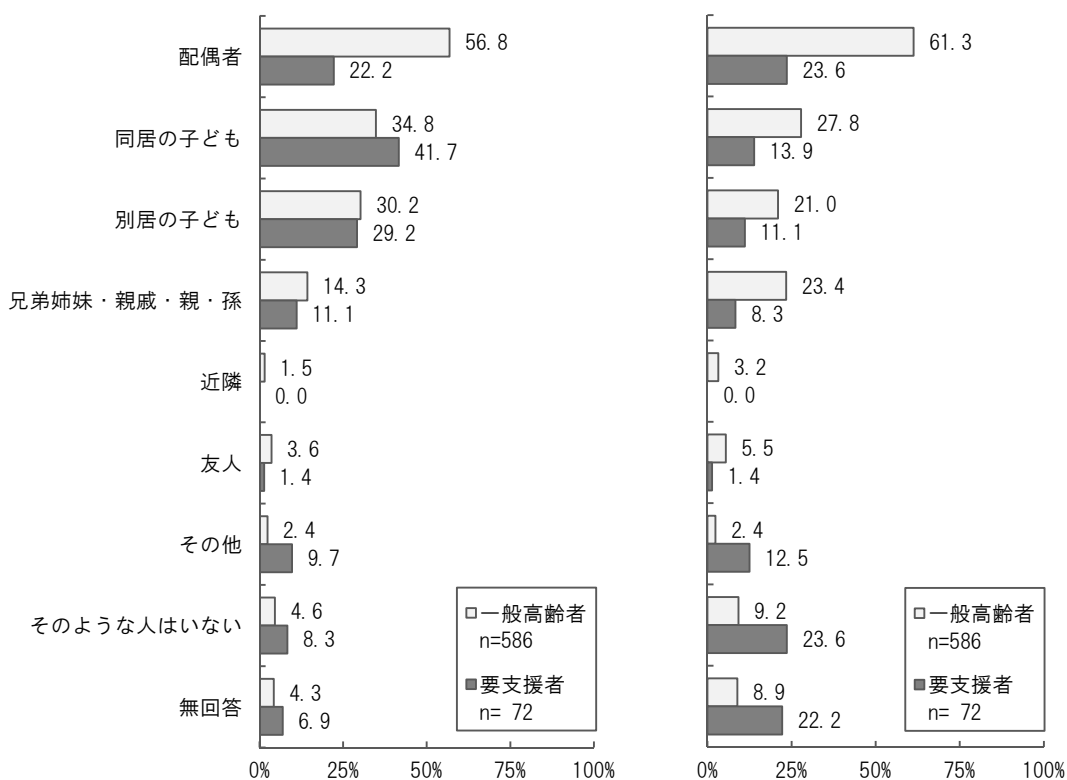
○要支援者では、「同居の子ども」(41.7%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(29.2%)、「配偶者」(22.2%)となっています。

○反対に一般高齢者の看病や世話をしてあげる人は、一般高齢者は「配偶者」(61.3%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(27.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.4%)、「別居の子ども」(21.0%)となっています。

○要支援者では、「配偶者」「そのような人はいない」(各23.6%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(13.9%)、「別居の子ども」(11.1%)、となっています。

問60 病気で数日間寝込んだときに、
看病や世話をしてくれる人

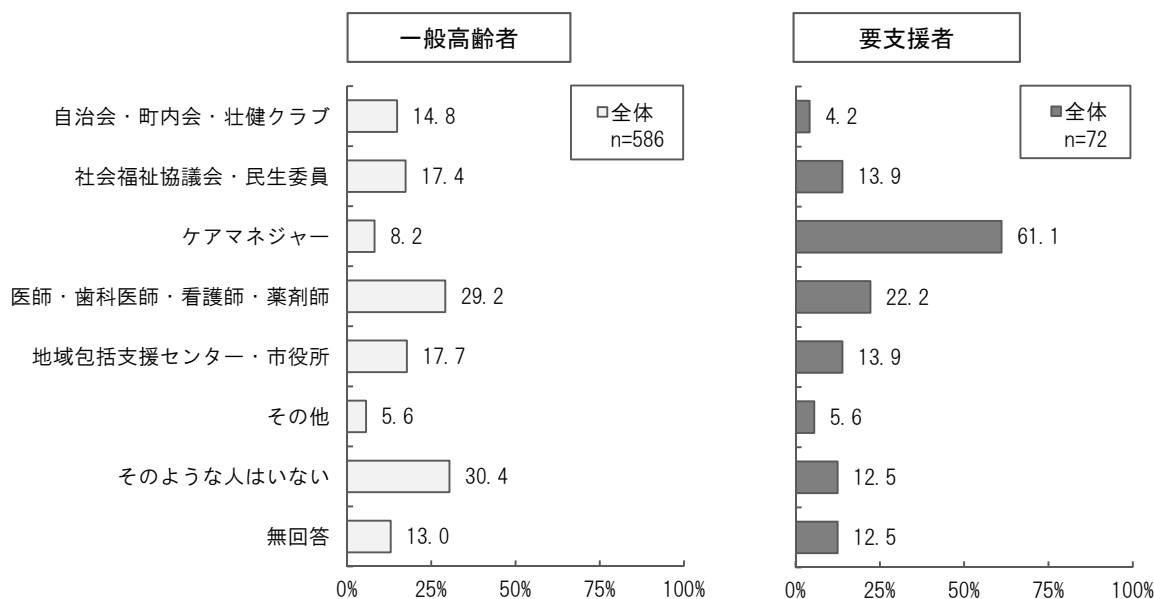
問61 看病や世話をしてあげる人



○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手では、一般高齢者は「そのような人はいない」(30.4%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師・薬剤師」(29.2%)、「地域包括支援センター・市役所」(17.7%)、「社会福祉協議会・民生委員」(17.4%)となっています。

○要支援者では、「ケアマネジャー」(61.1%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師・薬剤師」(22.2%)、「社会福祉協議会・民生委員」「地域包括支援センター・市役所」(各13.9%)となっています。

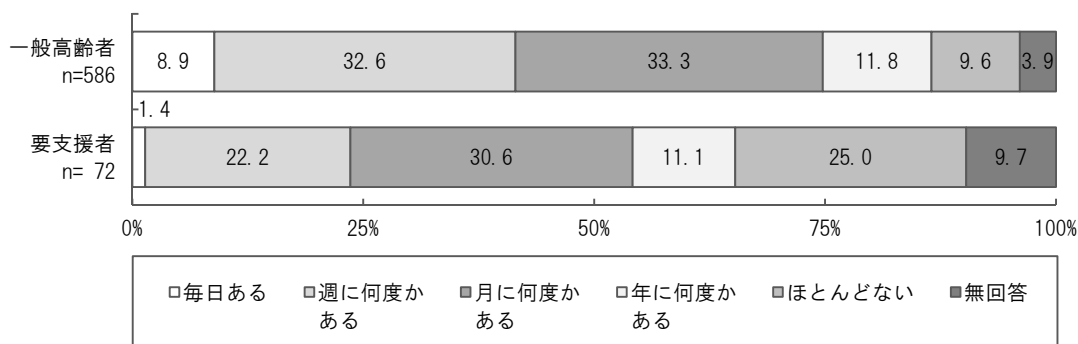
問62 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



(2) 友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度では、一般高齢者・要支援者ともに「月に何度かある」(33.3%・30.6%)が最も高くなっています。一方、「ほとんどない」は一般高齢者が9.6%、要支援者が25.0%となっており、要支援者の方が15.4ポイント高くなっています。

問63 友人・知人と会う頻度

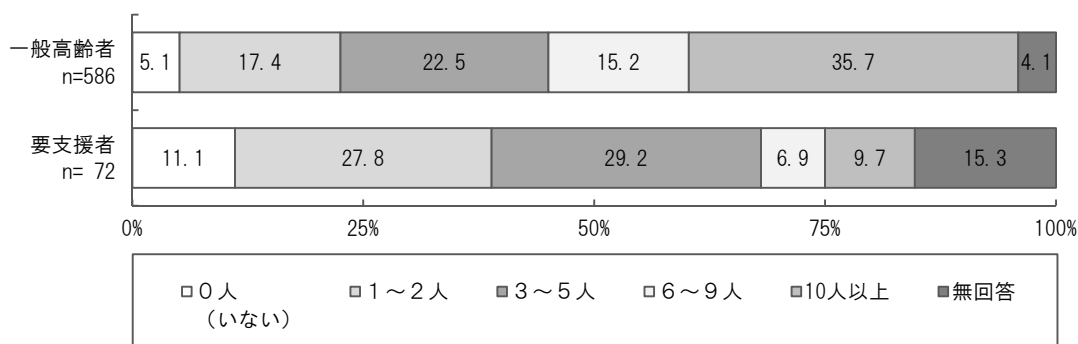


○1か月間に何人の友人・知人と会ったかでは、一般高齢者は「10人以上」(35.7%)が最も高く、次いで「3~5人」(22.5%)、「1~2人」(17.4%)となっています。

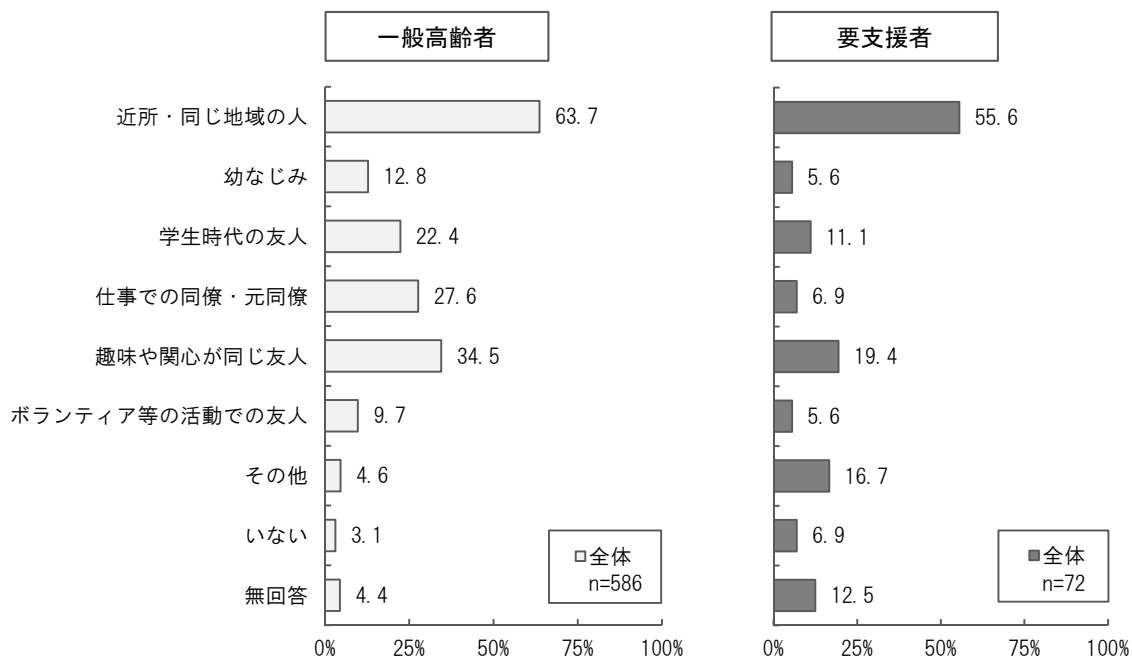
○要支援者は「3~5人」(29.2%)が最も高く、次いで「1~2人」(27.8%)、「0人(いない)」(11.1%)となっています。また、「0人(いない)」と回答した方は、一般高齢者で5.1%、要支援者で11.1%となっています。

○よく会う友人・知人との関係は、一般高齢者・要支援者ともに「近所・同じ地域の人」(63.7%・55.6%)が最も高く、「趣味や関心が同じ友人」(34.5%・19.4%)、「仕事での同僚・元同僚」(27.6%・6.9%)、「学生時代の友人」(22.4%・11.1%)で割合が高くなっています。

問64 何人の友人・知人と会ったか(最近1か月間)



問65 よく会う友人・知人との関係

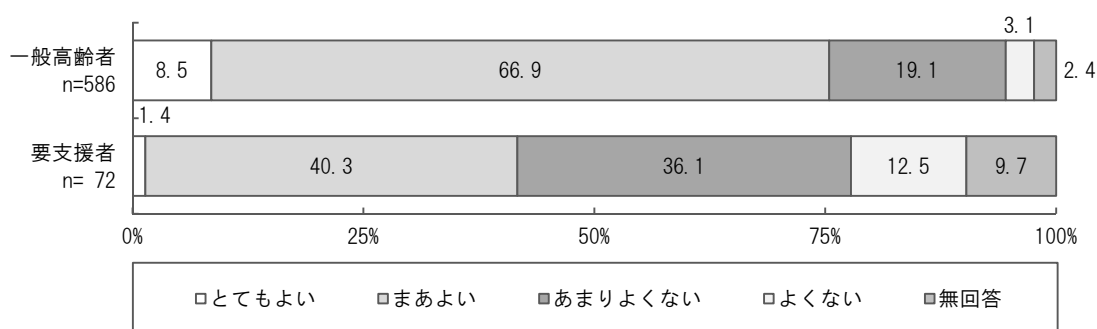


7 健康について

(1) 健康状態

- 調査対象者の現在の主観的健康感をみると、一般高齢者は「とてもよい」(8.5%)と「まあよい」(66.9%)を合わせた75.4%が健康状態がよいと感じています。
- 要支援者は、「とてもよい」(1.4%)と「まあよい」(40.3%)を合わせた41.7%が健康状態がよいと感じています。
- 要支援者では「あまりよくない」(36.1%)と「よくない」(12.5%)を合わせた約5割が健康状態がよくないと回答している状況です。

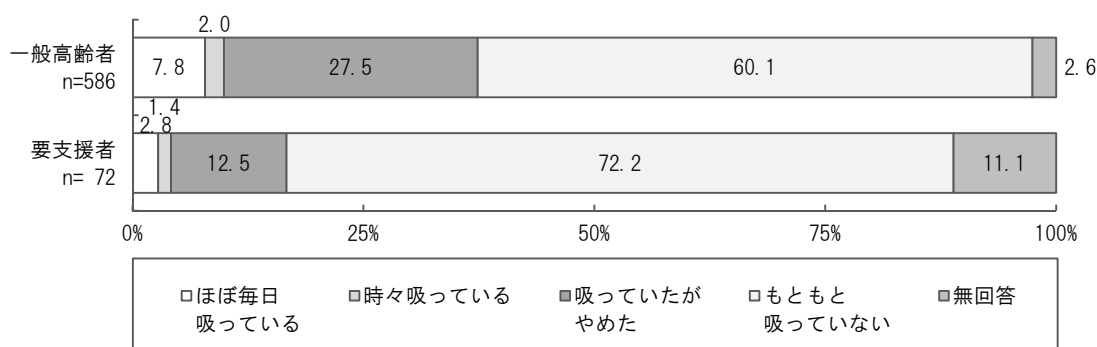
問66 現在の主観的健康感



(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

- 喫煙の状況をみると、一般高齢者は「ほぼ毎日吸っている」(7.8%)と「時々吸っている」(2.0%)を合わせた9.8%が喫煙者となっています。
- 要支援者は「ほぼ毎日吸っている」(2.8%)と「時々吸っている」(1.4%)を合わせた4.2%が喫煙者となっています。

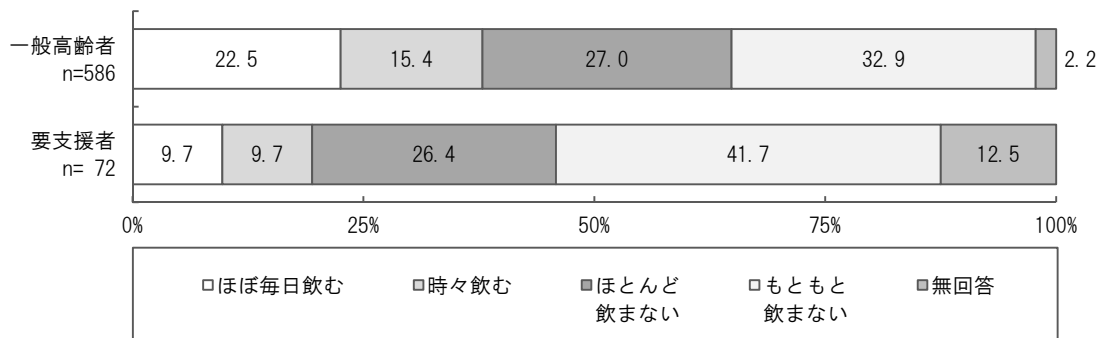
問76 喫煙の状況



○飲酒の有無では、一般高齢者は「ほぼ毎日飲む」(22.5%)と「時々飲む」(15.4%)を合わせた37.9%が飲酒者となっています。

○要支援者では、「ほぼ毎日飲む」(9.7%)と「時々飲む」(9.7%)を合わせた19.4%が飲酒者となっています。

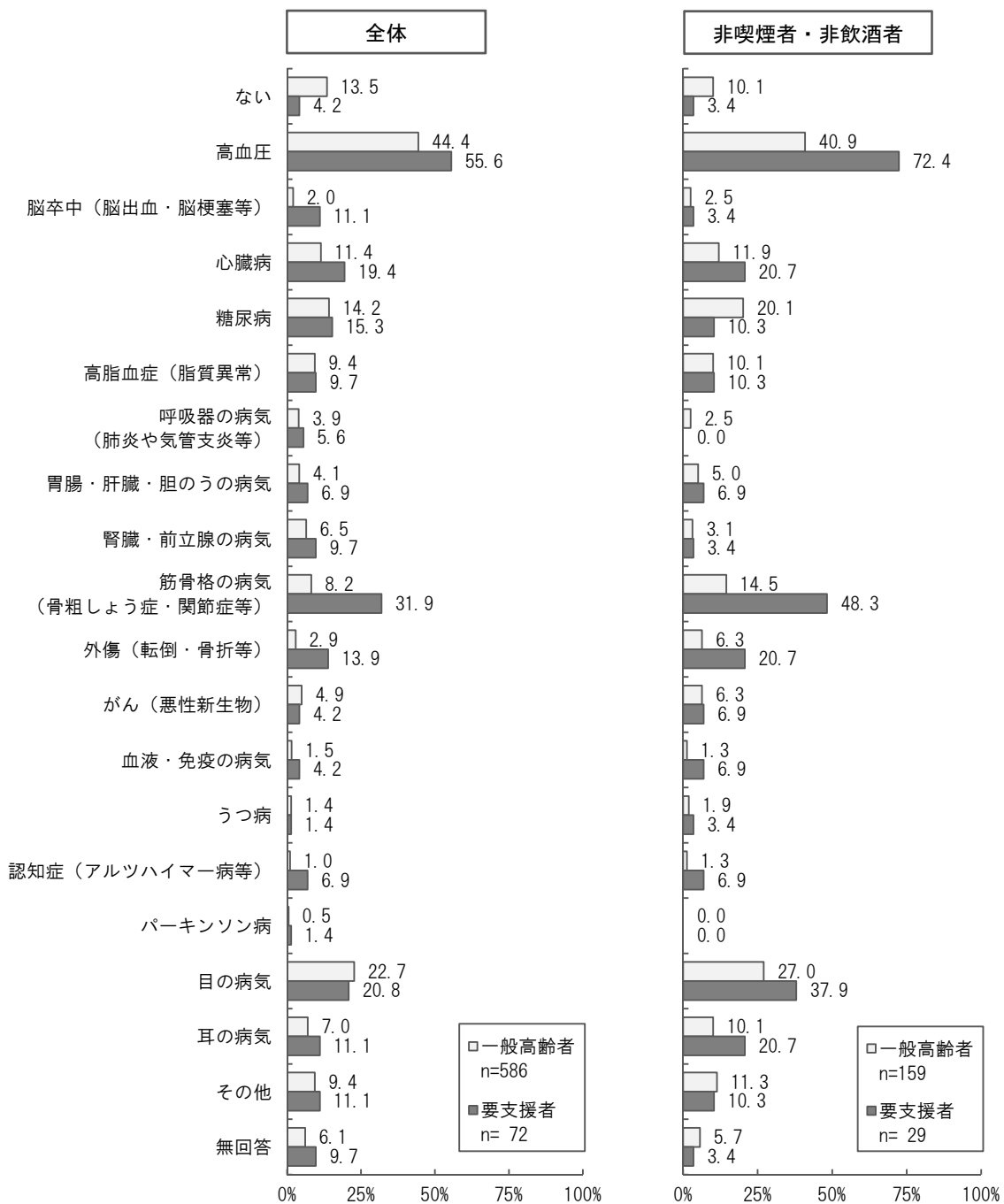
問75 飲酒について



○現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、全体では一般高齢者・要支援者ともに「高血圧」(44.4%・55.6%)が最も高くなっています。また、一般高齢者では「目の病気」(22.7%)、「糖尿病」(14.2%)で高くなっており、要支援者では「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(31.9%)、「目の病気」(20.8%)で高くなっています。

○非喫煙者・非飲酒者では全体同様に「高血圧」(40.9%・72.4%)が最も高くなっています。また、一般高齢者では「目の病気」(27.0%)、「糖尿病」(20.1%)で高くなっており、要支援者では「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(48.3%)、「目の病気」(37.9%)で高くなっています。

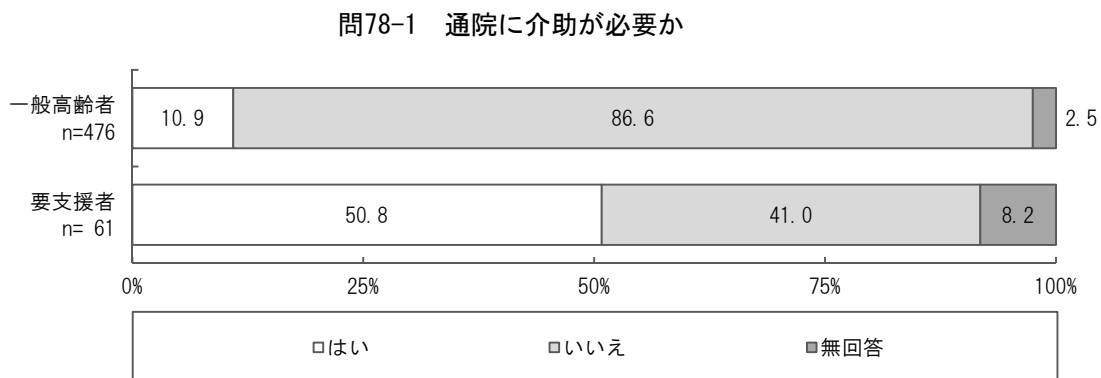
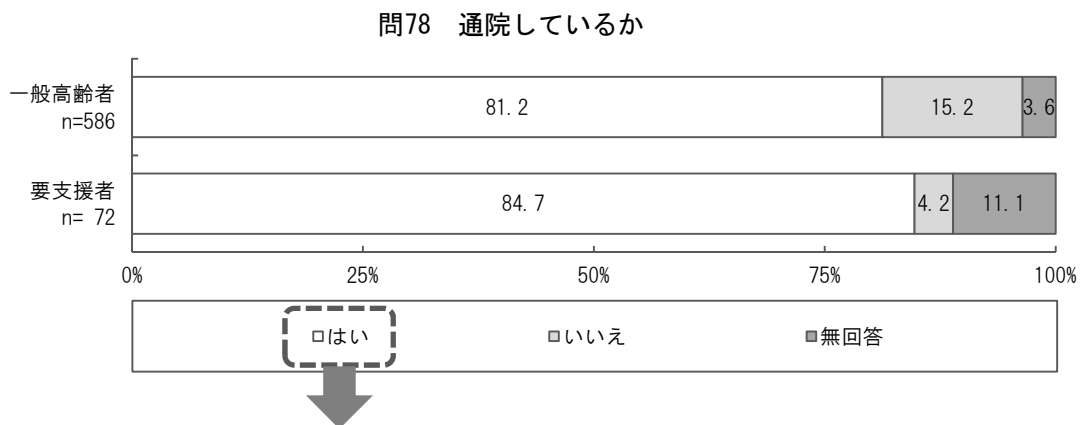
問77 現在治療中、または後遺症のある病気



(3) 通院の状況

○通院の状況を見ると、一般高齢者は81.2%、要支援者は84.7%が「はい」と回答しています。

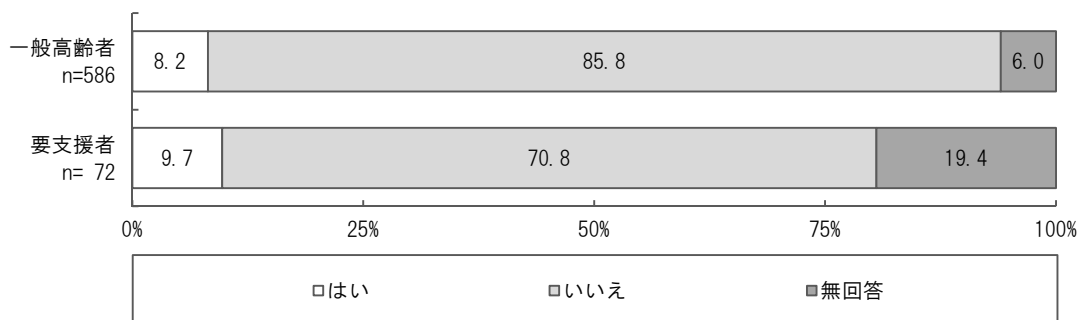
○通院している人に通院時の介助が必要かをみると、一般高齢者は10.9%、要支援者は50.8%が「はい」と回答しています。



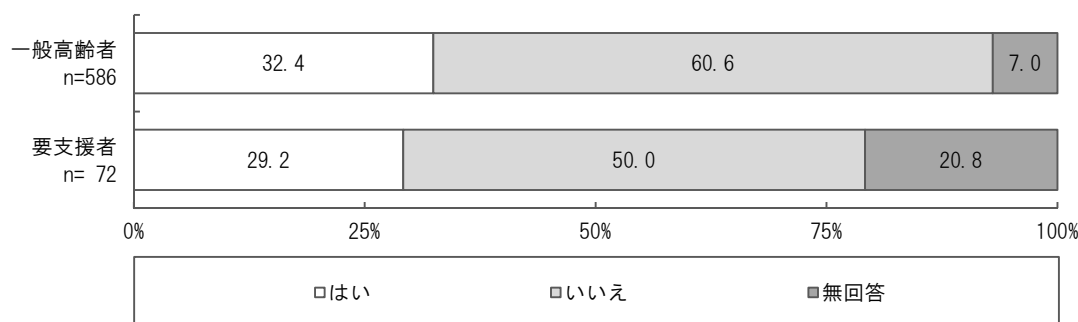
○認知症の症状がある、または家族が認知症の症状がある方は、一般高齢者は8.2%、要支援者は9.7%となっており、要支援者がわずかに高くなっています。

○認知症に関する相談窓口を知っている方は、一般高齢者は32.4%、要支援者は29.2%となっています。また、一般高齢者・要支援者ともに5割以上が「いいえ」と回答しています。

問79 認知症の症状がある、または家族が認知症の症状があるか



問80 認知症に関する相談窓口を知っているか

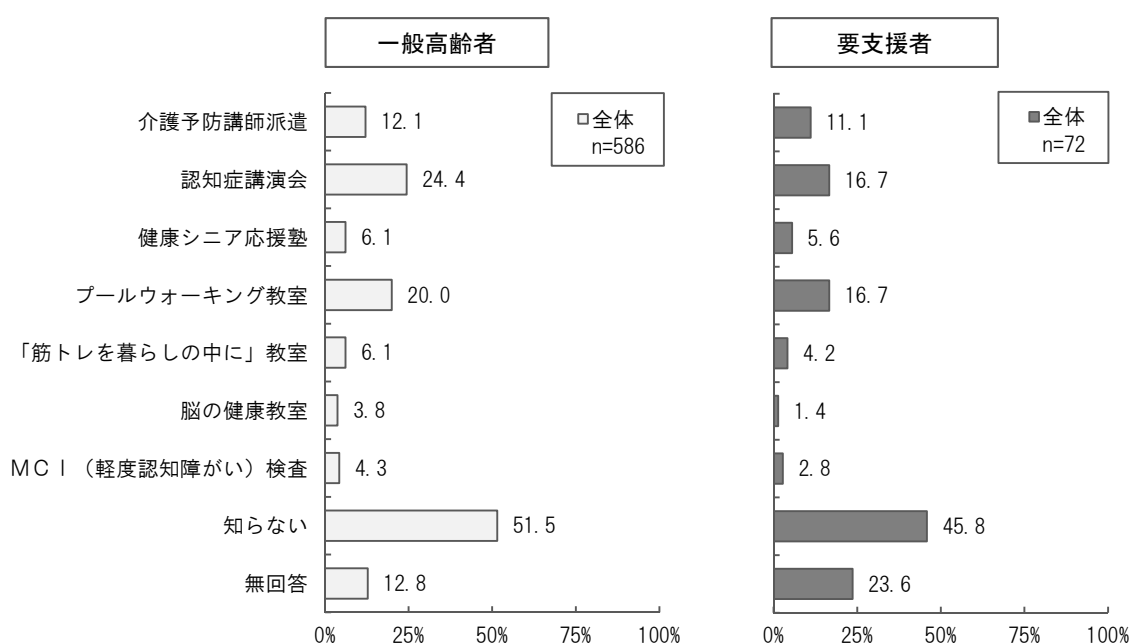


8 介護予防について

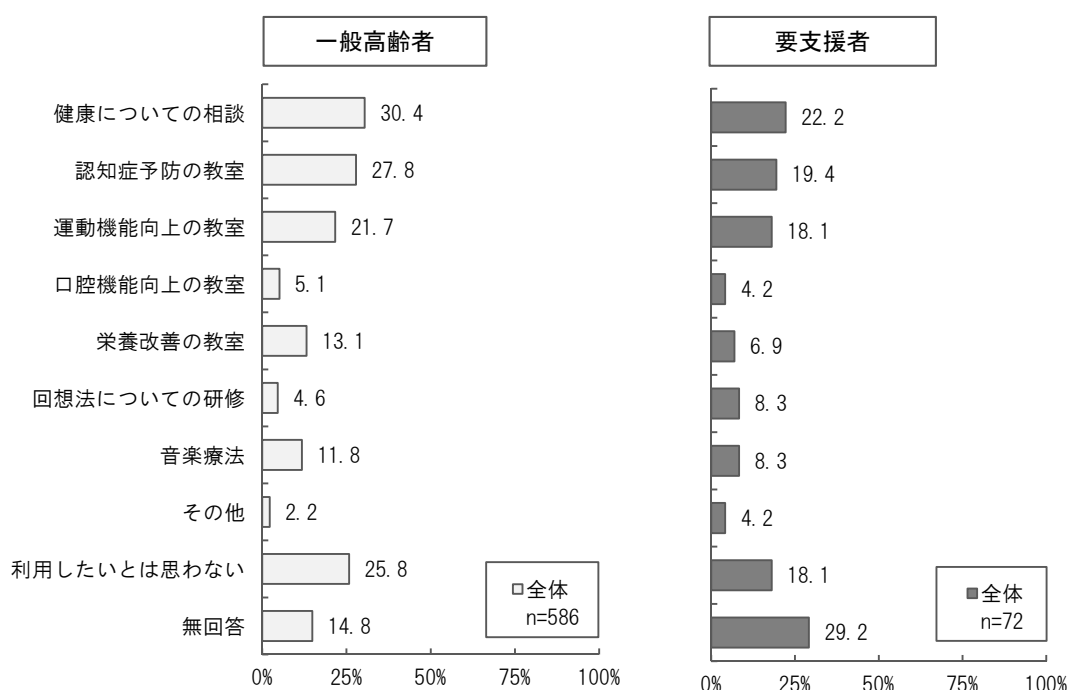
○恵那市で実施されている介護予防事業について知っているものをみると、一般高齢者・要支援者ともに「知らない」(51.5%・45.8%)が最も高く、次いで「認知症講演会」(24.4%・16.7%)、「プールウォーキング教室」(20.0%・16.7%)、「介護予防講師派遣」(12.1%・11.1%)で高くなっています。

○利用したい介護予防事業では、一般高齢者・要支援者ともに「健康についての相談」(30.4%・22.2%)が最も高く、次いで「認知症予防の教室」(27.8%・19.4%)、「運動機能向上の教室」(21.7%・18.1%)で高くなっています。また、「利用したいとは思わない」は一般高齢者が25.8%、要支援者が18.1%となっています。

問81 恵那市で実施されている介護予防事業について知っているもの



問82 利用したい介護予防事業

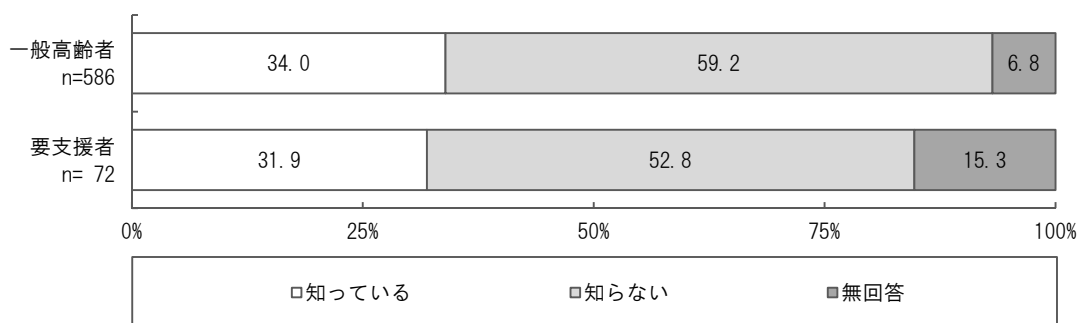


9 さまざまな制度について

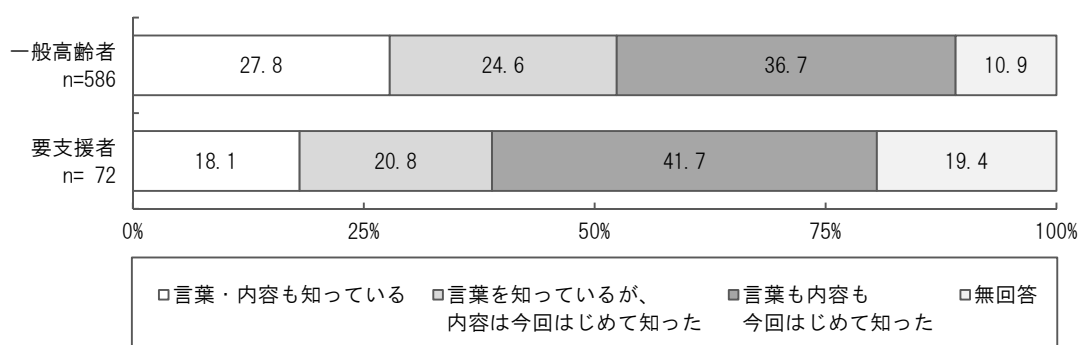
○高齢者や家族のための相談窓口が設置されていることを知っているかでは、一般高齢者は34.0%、要支援者は31.9%が「知っている」と回答しています。

○成年後見制度を知っているかでは、一般高齢者は27.8%、要支援者は18.1%が「言葉・内容も知っている」と回答しています。

問83 高齢者や家族のための相談窓口が設置されていることを知っているか



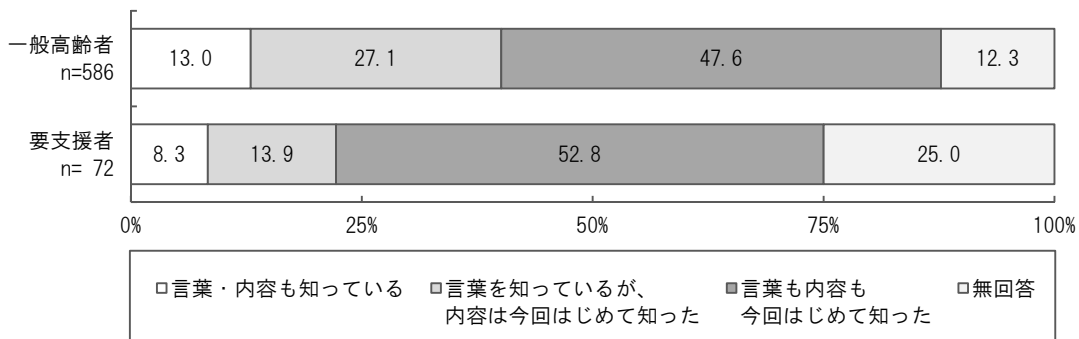
問84 成年後見制度*を知っているか



※成年後見制度…認知症、知的障がい、精神障がいなどで判断能力の不十分な方が、自立して生活できるように、援助してくれる人(後見人等)を家庭裁判所に選んでもらう制度です。これにより、自分一人では困難な不動産や預貯金等の財産の管理や各種契約が安全に行えるようになります。

○日常生活自立支援事業を知っているかでは、一般高齢者は13.0%、要支援者は8.3%が「言葉・内容も知っている」と回答しています。一方で、「言葉も内容も今回はじめて知った」と回答した方は一般高齢者・要支援者ともに約5割前後となっています。

問85 日常生活自立支援事業※を知っているか



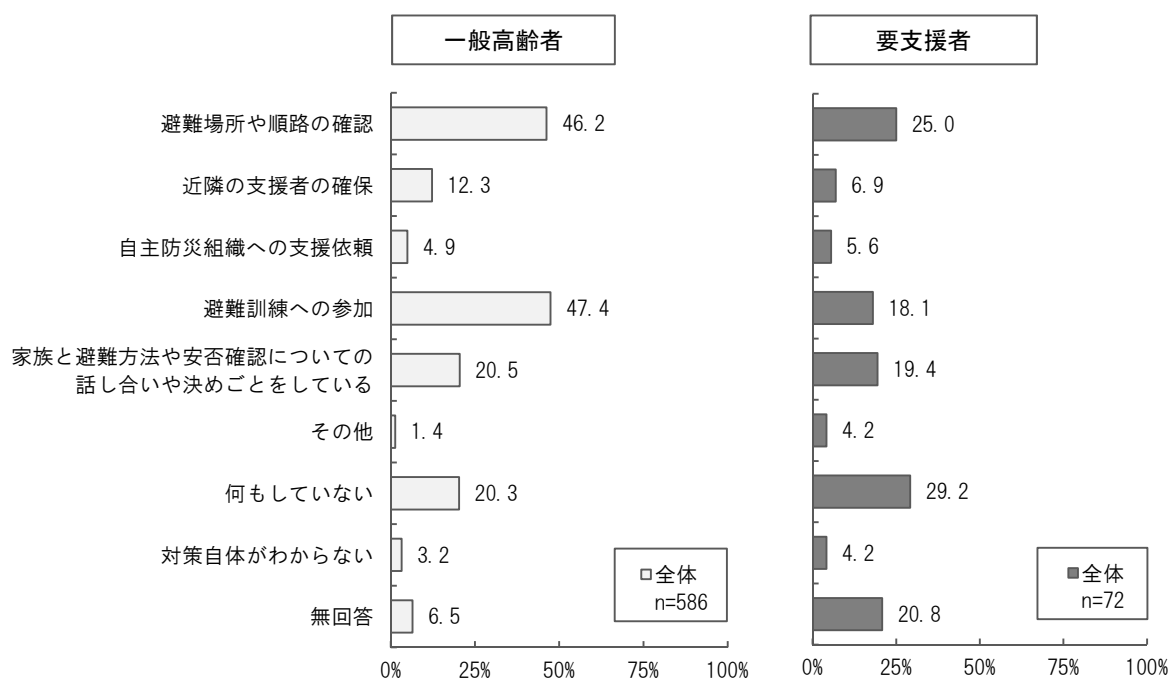
※日常生活自立支援事業…軽度の認知症のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者のために、福祉サービスの利用支援と日常的な金銭管理・書類等の預かりサービスを行うために、全国の社会福祉協議会が実施している事業です。

10 防災について

○災害時の避難においてどのような対策をとっているかをみると、一般高齢者は「避難訓練への参加」(47.4%)が最も高く、次いで「避難場所や順路の確認」(46.2%)、「家族と避難方法や安否確認についての話し合いや決めごとをしている」(20.5%)となっています。また、「何もしていない」は20.3%となっています。

○要支援者は「何もしていない」(29.2%)が最も高く、次いで「避難場所や順路の確認」(25.0%)、「家族と避難方法や安否確認についての話し合いや決めごとをしている」(19.4%)、「避難訓練への参加」(18.1%)となっています。

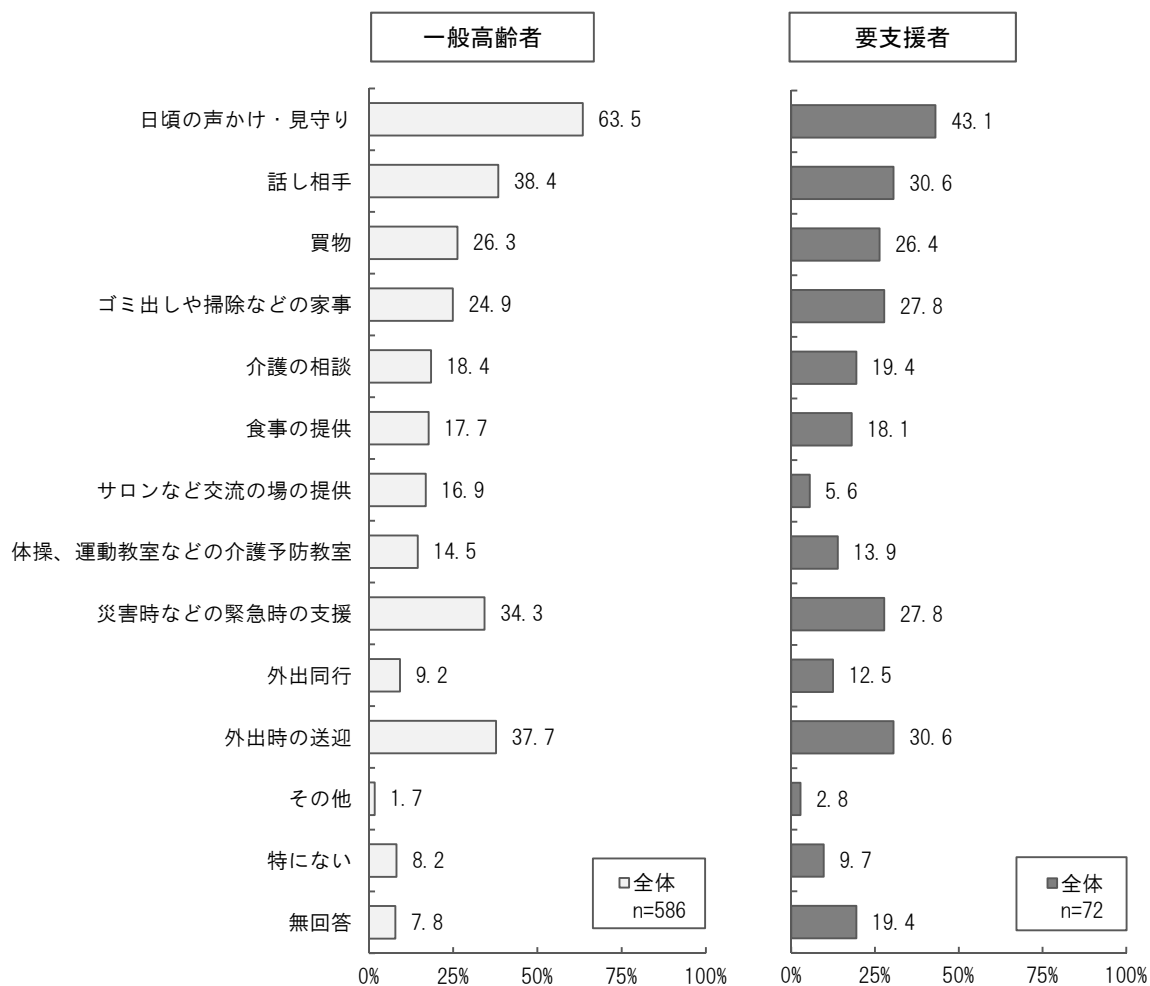
問86 災害時の避難においてどのような対策をとっているか



11 高齢社会について

○地域住民を活かした高齢者支援が必要だと思うものでは、一般高齢者・要支援者ともに「日頃の声かけ・見守り」(63.5%・43.1%)が最も高く、次いで一般高齢者では「話し相手」(38.4%)、「外出時の送迎」(37.7%)、「災害時などの緊急時の支援」(34.3%)、要支援者では、「話し相手」「外出時の送迎」(各30.6%)、「ゴミ出しや掃除などの家事」「災害時などの緊急時の支援」(各27.8%)となっています。

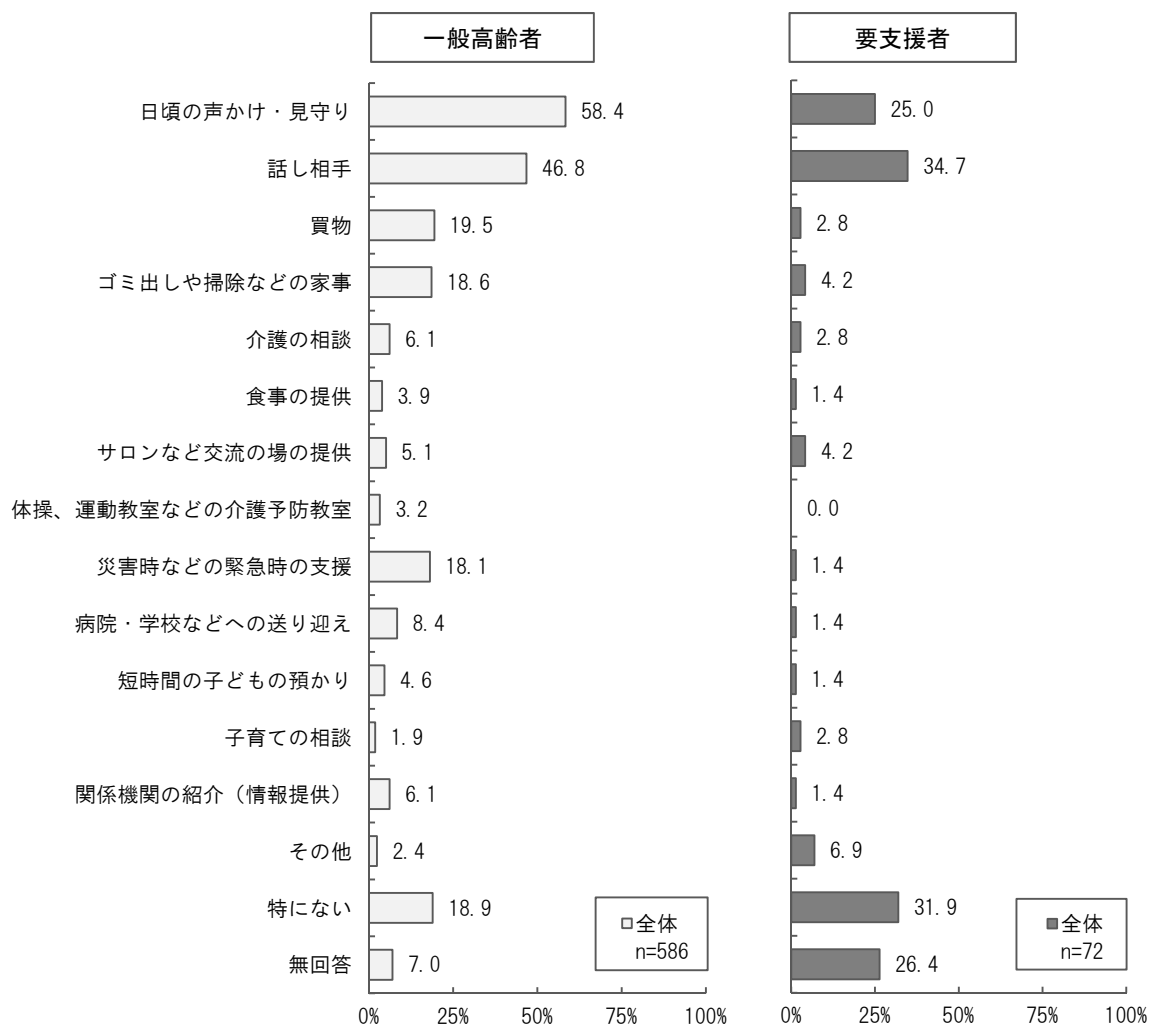
問87 地域住民を活かした高齢者支援が必要だと思うもの



○地域で困っている人に対してできることは、一般高齢者は「日頃の声かけ・見守り」(58.4%)が最も高く、次いで「話し相手」(46.8%)、「買物」(19.5%)となっています。また、「特にない」は18.9%となっています。

○要支援者では、「話し相手」(34.7%)が最も高く、次いで「特にない」(31.9%)、「日頃の声かけ・見守り」(25.0%)となっています。

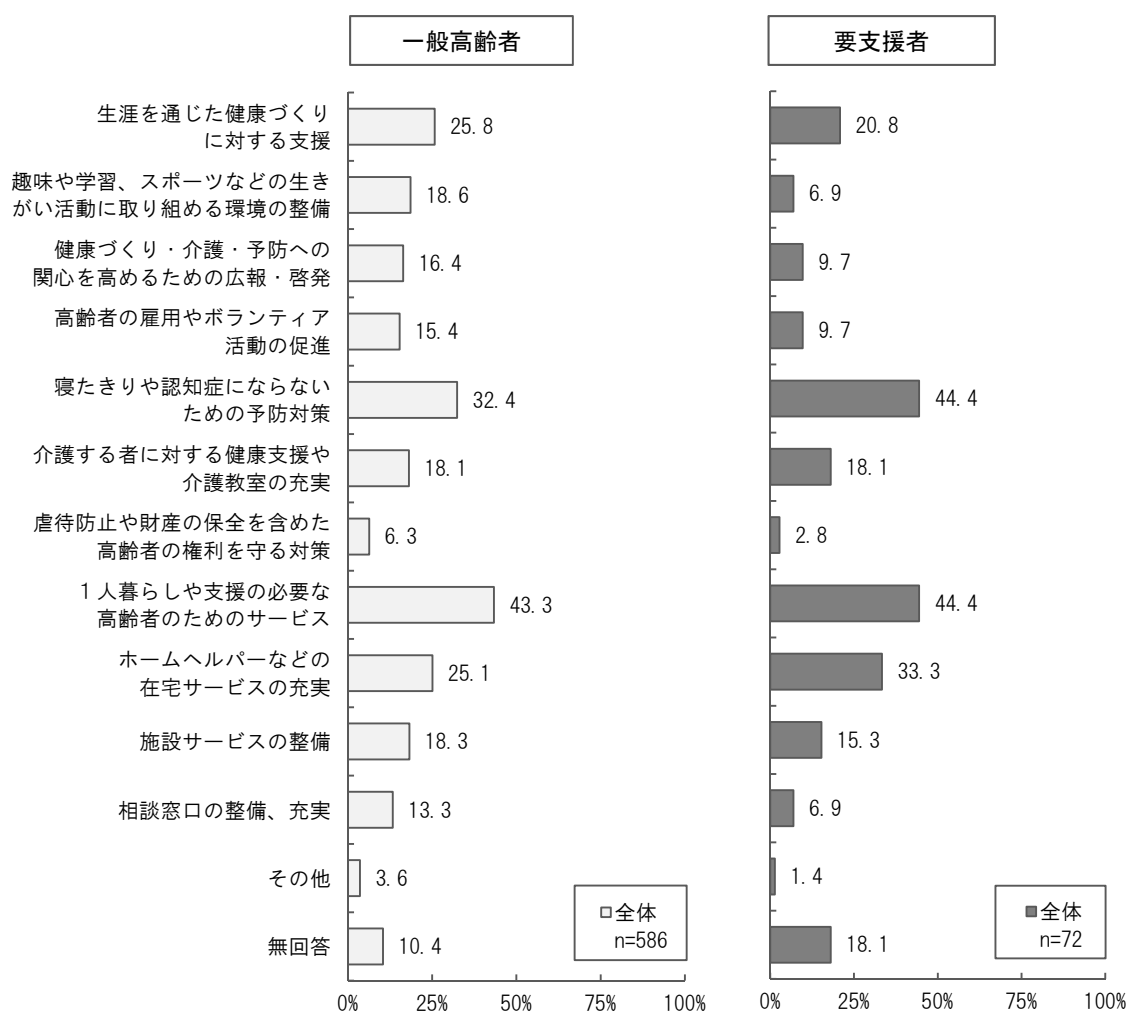
問88 地域で困っている人に対してできること



○高齢社会に向けて、何に重点をおくべきだと思うかでは、一般高齢者は「1人暮らしや支援の必要な高齢者のためのサービス」(43.3%)が最も高く、次いで「寝たきりや認知症にならないための予防対策」(32.4%)、「生涯を通じた健康づくりに対する支援」(25.8%)、「ホームヘルパーなどの在宅サービスの充実」(25.1%)となっています。

○要支援者では、「寝たきりや認知症にならないための予防対策」「1人暮らしや支援の必要な高齢者のためのサービス」(各44.4%)が最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの在宅サービスの充実」(33.3%)、「生涯を通じた健康づくりに対する支援」(20.8%)となっています。

問89 高齢社会に向けて、何に重点をおくべきだと思うか



第3章

在宅介護実態調査結果

(要介護認定者)

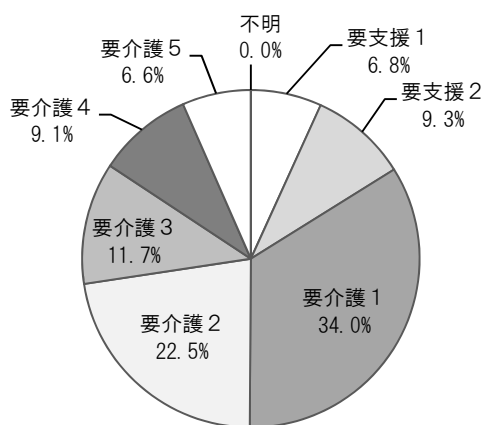
第3章 在宅介護実態調査結果

1 ご本人（要介護者）の状況について

(1) 要介護者の要介護度

○要介護者の介護度をみると、「要介護1」（34.0％）が最も高く、次いで「要介護2」（22.5％）、「要介護3」（11.7％）、「要支援2」（9.3％）、「要介護4」（9.1％）、「要支援1」（6.8％）、「要介護5」（6.6％）となっています。

問6 現在認定されている要介護度

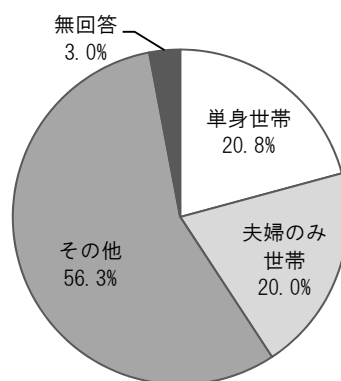


全体 n=471

(2) 要介護者の世帯状況

○世帯類型をみると、「単身世帯」は20.8％、「夫婦のみ世帯」は20.0％となっており、「その他」の世帯は56.3％と最も高くなっています。

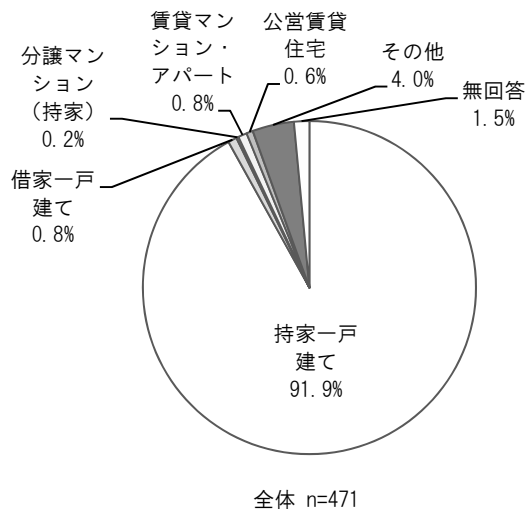
問4 世帯類型



全体 n=471

○現在暮らしている家の状況は、「持家一戸建て」が9割以上となっています。

問5 現在暮らしている家の状況

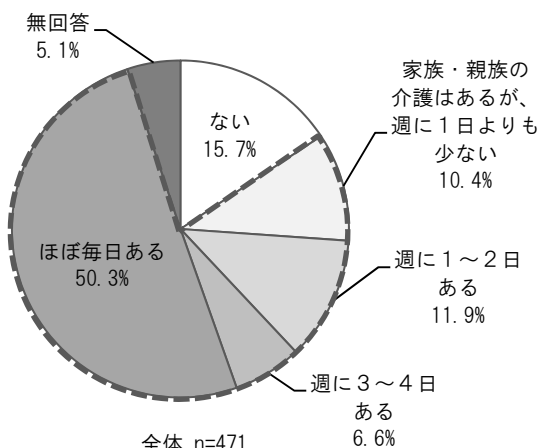


(3) 家族・親族から介護してもらう頻度

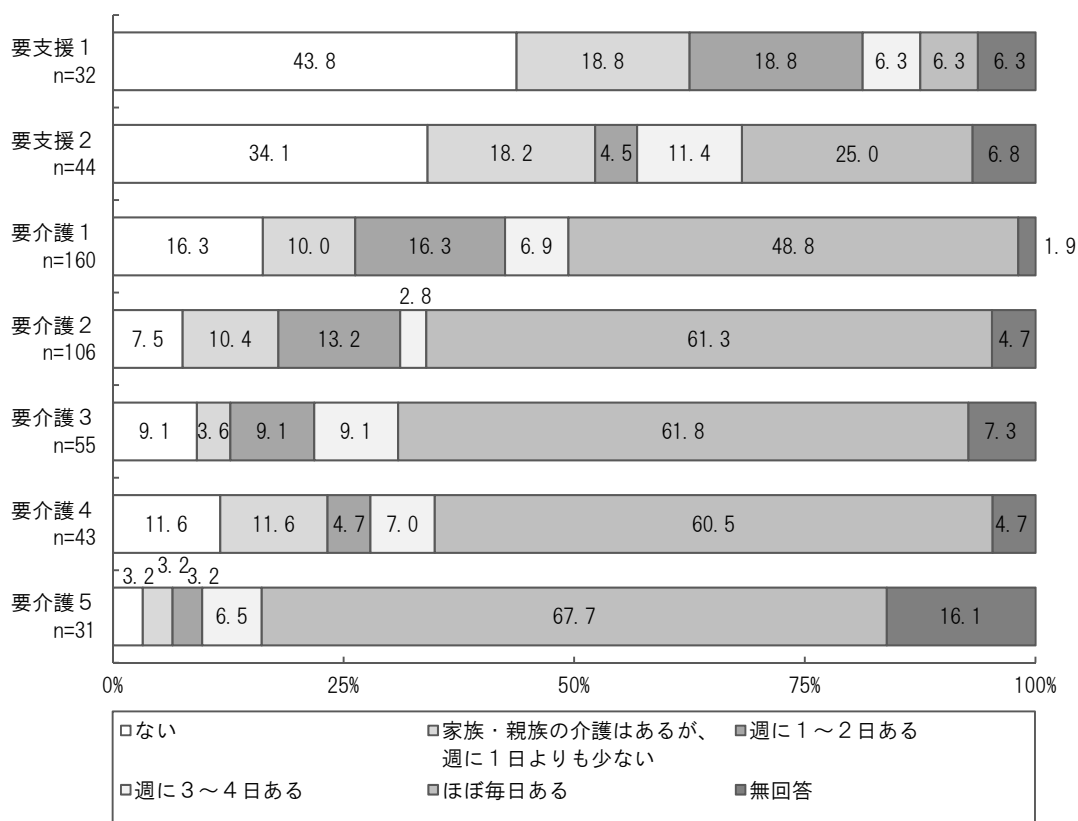
○家族・親族による介護の頻度をみると、「ほぼ毎日ある」(50.3%)が最も高く、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」「週に1～2日ある」「週に3～4日ある」と合わせた約8割が家族・親族による介護を受けている状況です。一方で「ない」と回答した方は15.7%となっています。

○また、介護度別にみると、要支援1・2では「ない」(43.8%・34.1%)が最も高く、要介護1～5では「ほぼ毎日ある」が最も高くなっています。

問7 家族・親族から介護してもらう頻度

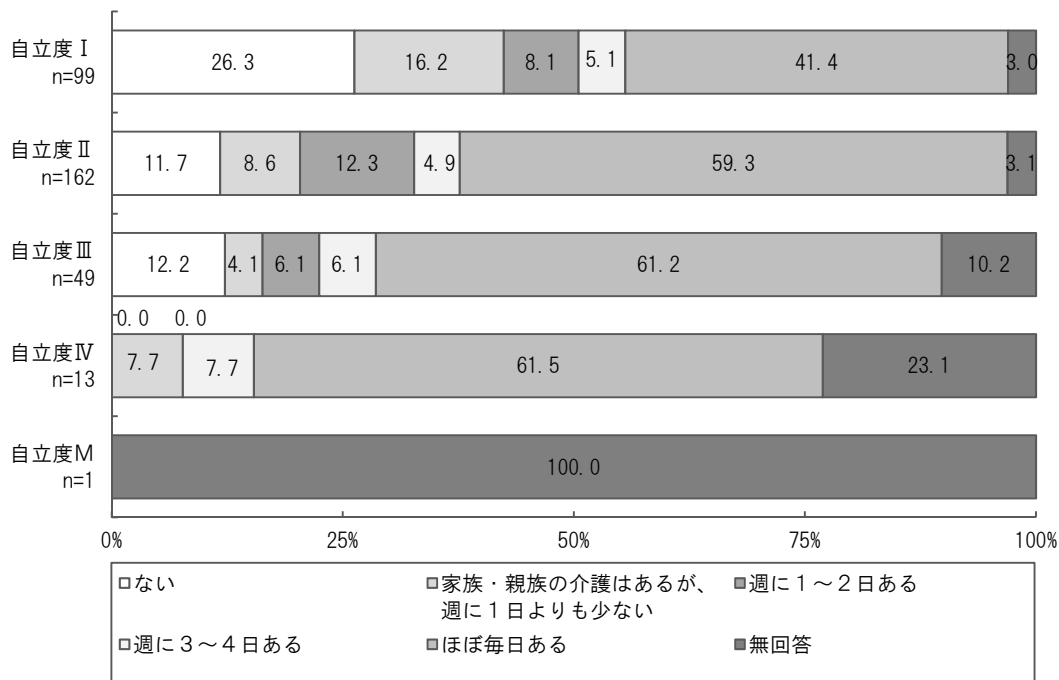


「介護度」×「問7 家族・親族から介護してもらう頻度」



○家族・親族から介護してもらう頻度を認知症高齢者日常生活自立度別にみると、自立度Ⅰ～Ⅳで「ほぼ毎日ある」が最も高くなっています。

「認知症高齢者日常生活自立度」×「問7 家族・親族から介護してもらう頻度」



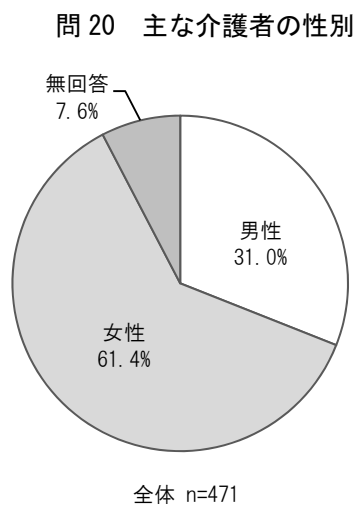
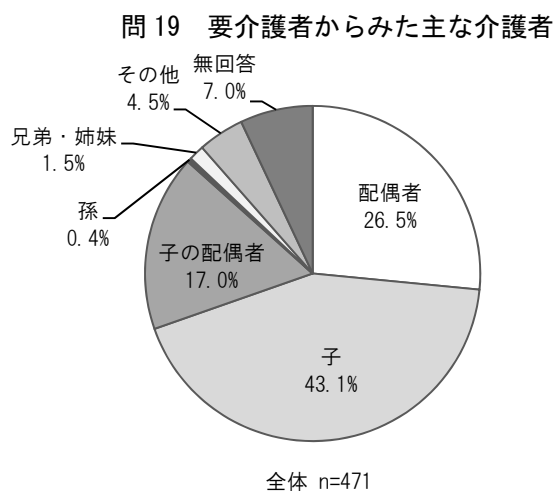
- ※自立度Ⅰ：何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
- 自立度Ⅱ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
- 自立度Ⅲ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
- 自立度Ⅳ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
- 自立度Ⅴ：著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

2 主な介護者等の状況（属性等）について

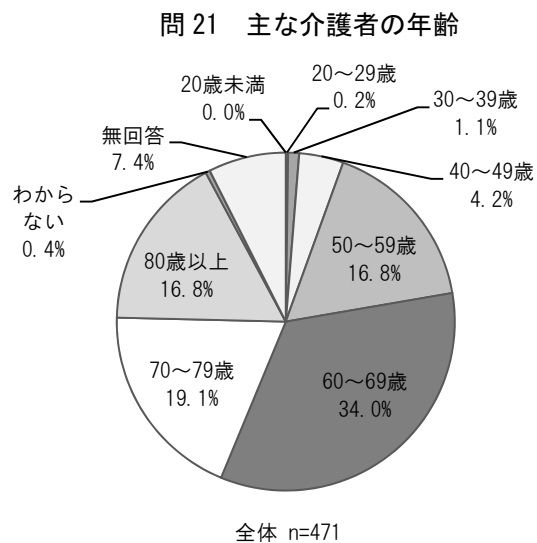
（1）主な介護者の状況

○要介護者からみた主な介護者は、「子」(43.1%)が最も高く、次いで「配偶者」(26.5%)、「子の配偶者」(17.0%)となっています。

○主な介護者の性別は、「女性」(61.4%)と「男性」(31.0%)が約2：1の割合となっています。



○主な介護者の年齢は、「60～69歳」(34.0%)が最も高く、次いで「70～79歳」(19.1%)、「50～59歳」「80歳以上」(各16.8%)となっています。

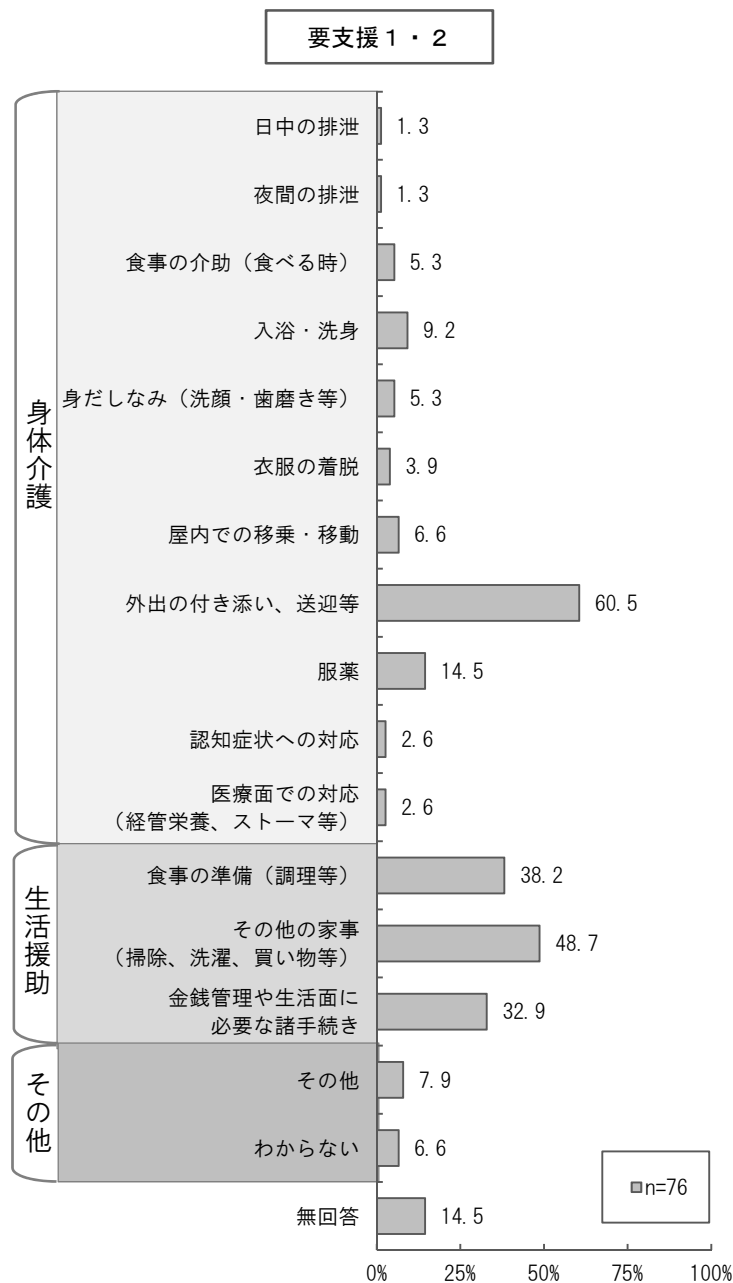


(2) 主な介護者の介護実態

○主な介護者が行っている介護等をみると、要支援1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(60.5%)が高くなっています。

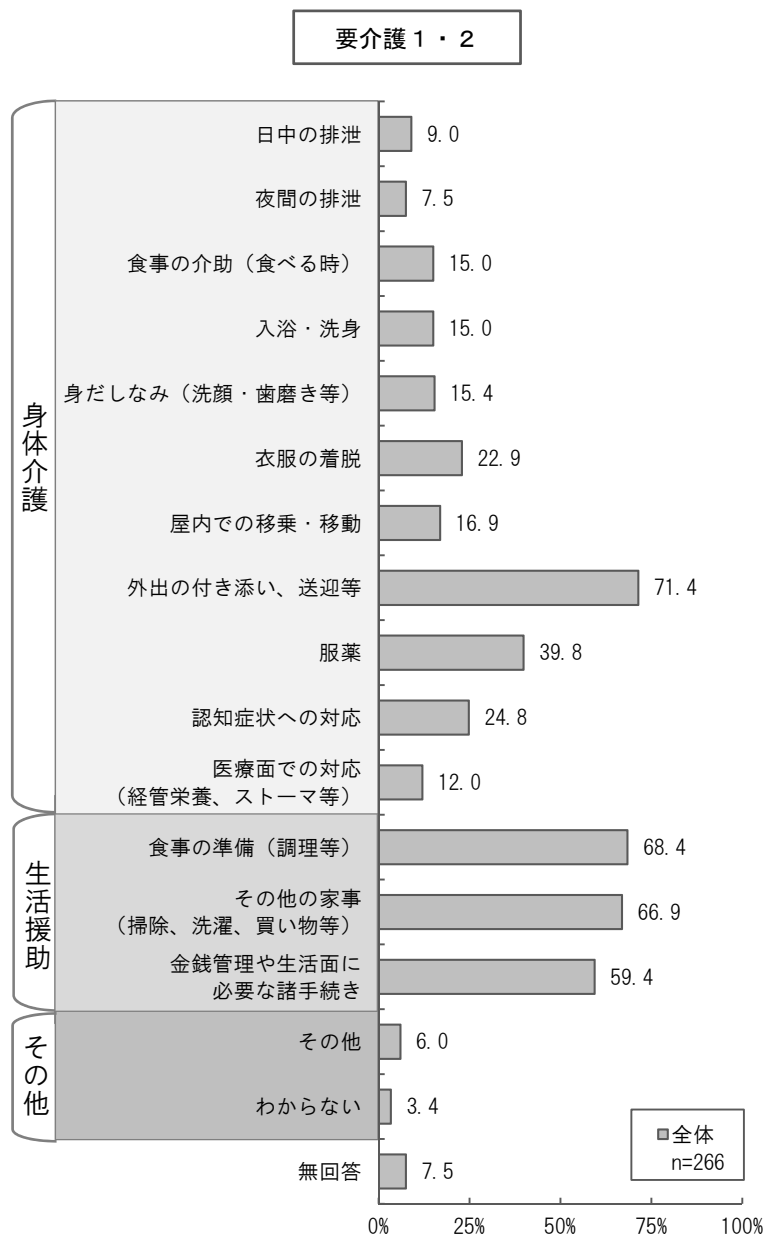
○生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(48.7%)、「食事の準備(調理等)」(38.2%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(32.9%)となっています。

問 22 主な介護者が行っている介護等



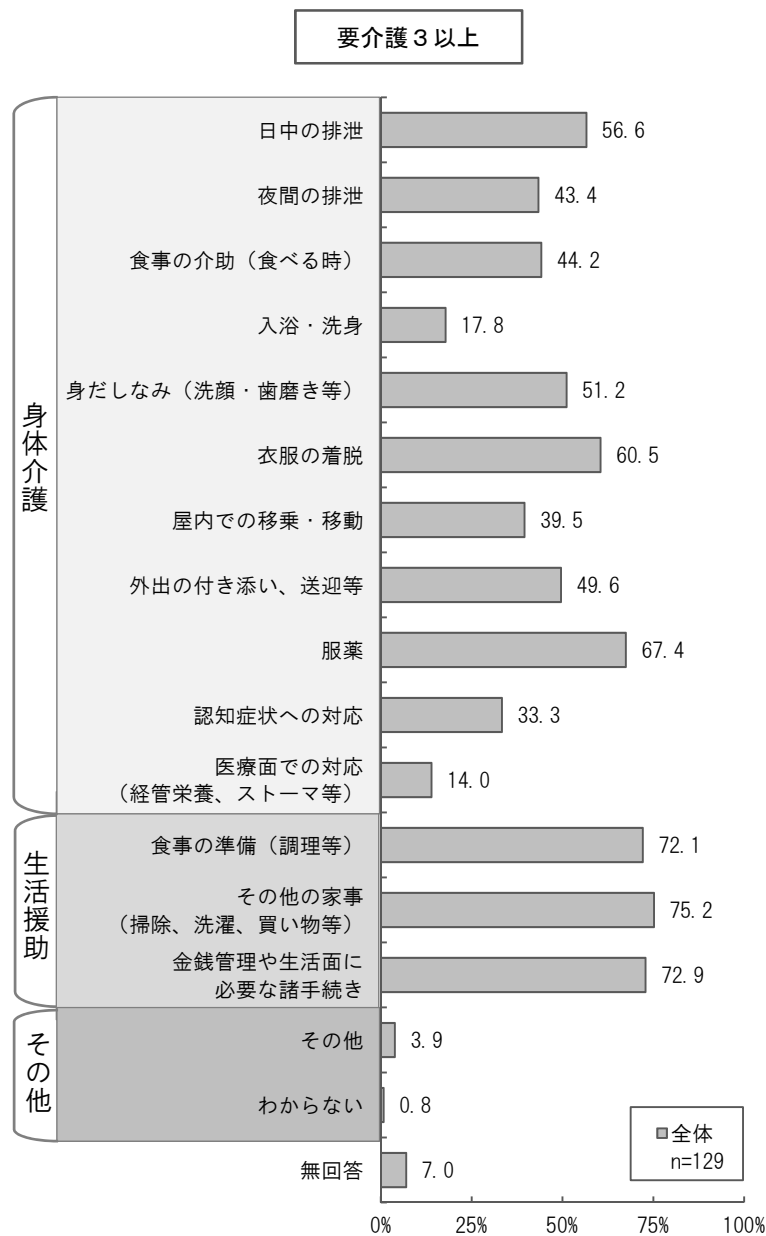
○要介護1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(71.4%)が最も高く、次いで「服薬」(39.8%)、「認知症状への対応」(24.8%)、「衣服の着脱」(22.9%)となっています。

○生活援助では「食事の準備(調理等)」(68.4%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(66.9%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(59.4%)となっています。



○要介護3以上の方の身体介護をみると、「服薬」(67.4%)が最も高く、次いで「衣服の着脱」(60.5%)、「日中の排泄」(56.6%)、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」(51.2%)となっています。

○生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(75.2%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(72.9%)、「食事の準備(調理等)」(72.1%)となっています。

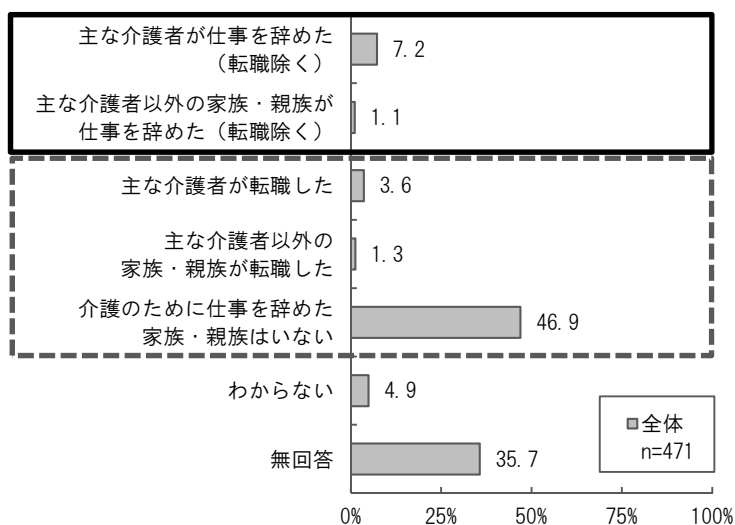


(3) 家族・親族が介護のために離職・転職した状況

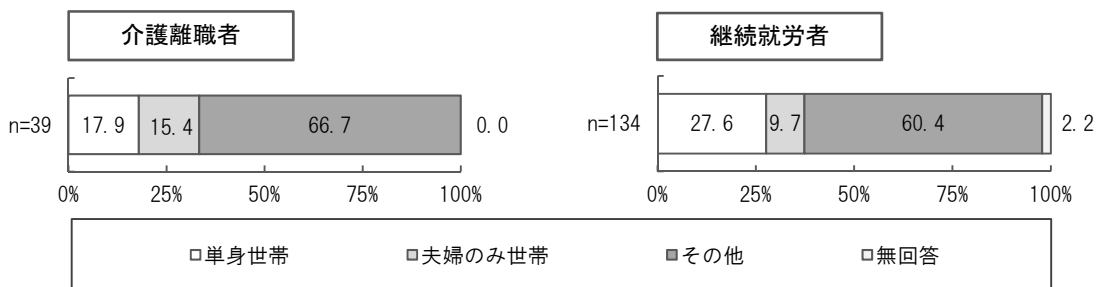
○家族・親族が介護を理由に退職・転職した状況をみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（7.2%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.1%）が離職している状況です。また、「主な介護者が転職した」（3.6%）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（1.3%）が転職している状況です。

○世帯類型でみると、介護離職者・継続就労者ともに「単身世帯」（17.9%・27.6%）で割合が高くなっています。

問 23 家族・親族の介護による退職・転職状況



「介護離職者・継続就労者別」 × 「問 4 世帯類型」

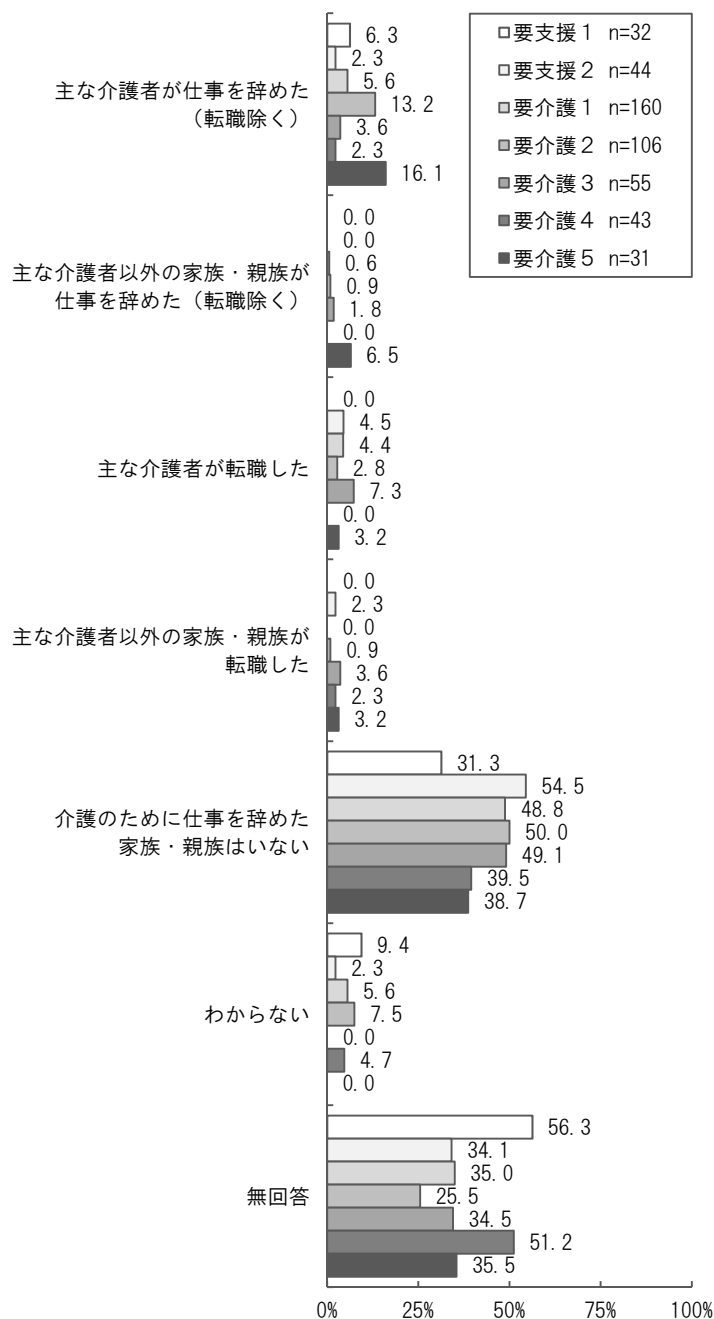


※介護離職者：問23で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

※継続就労者：①問23で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②問23で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問24で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

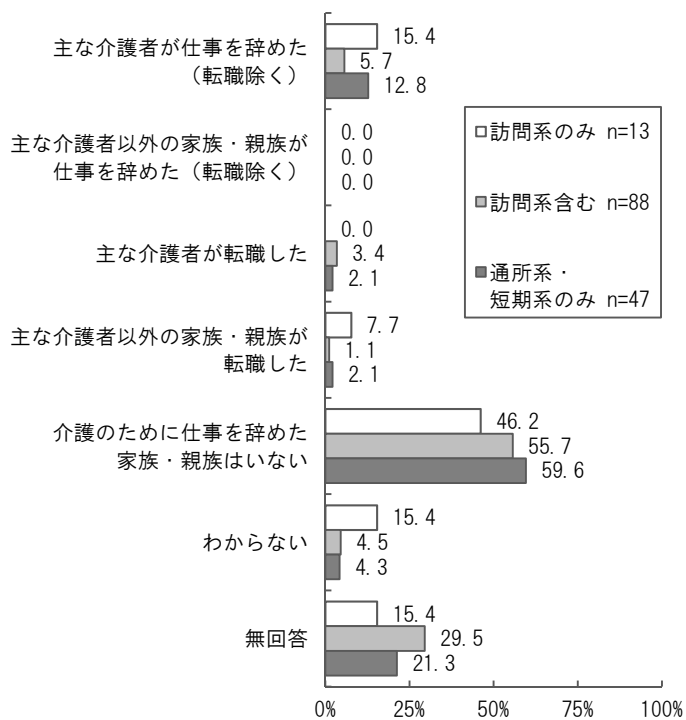
○家族・親族が介護を理由に退職・転職した状況を介護度別にみると、全ての要支援、要介護度で「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も高くなっています。

「介護度」×「問23 家族・親族の介護による退職・転職状況」



○家族・親族が介護を理由に退職・転職した状況をサービス利用状況別にみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の訪問系だけのサービス利用状況が46.2%、訪問系を含むサービス利用状況が55.7%、通所系・短期系だけのサービス利用状況は59.6%で最も高くなっています。

「サービス利用状況」×「問 23 家族・親族の介護による退職・転職状況」

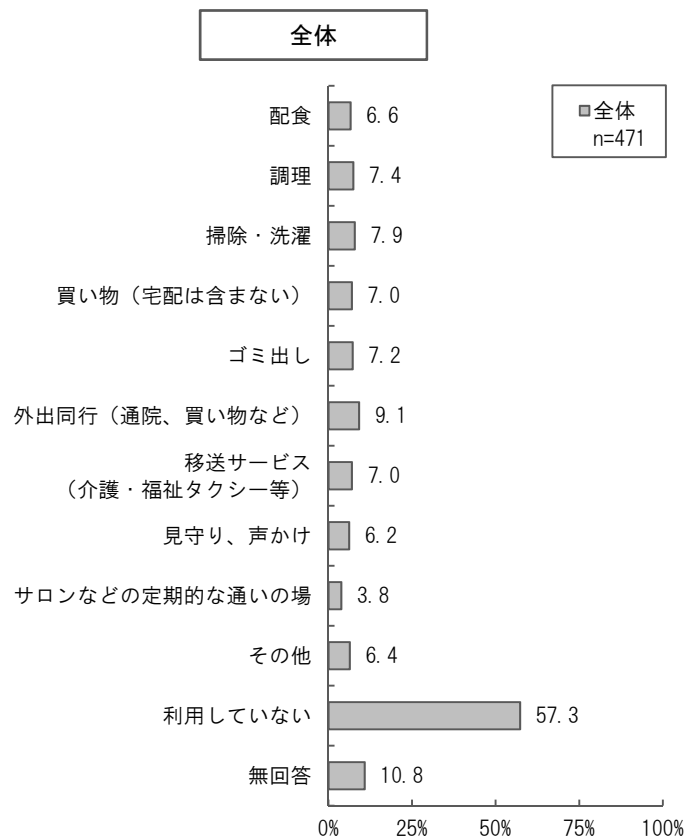


3 支援・サービス・訪問診療の利用状況・ニーズについて

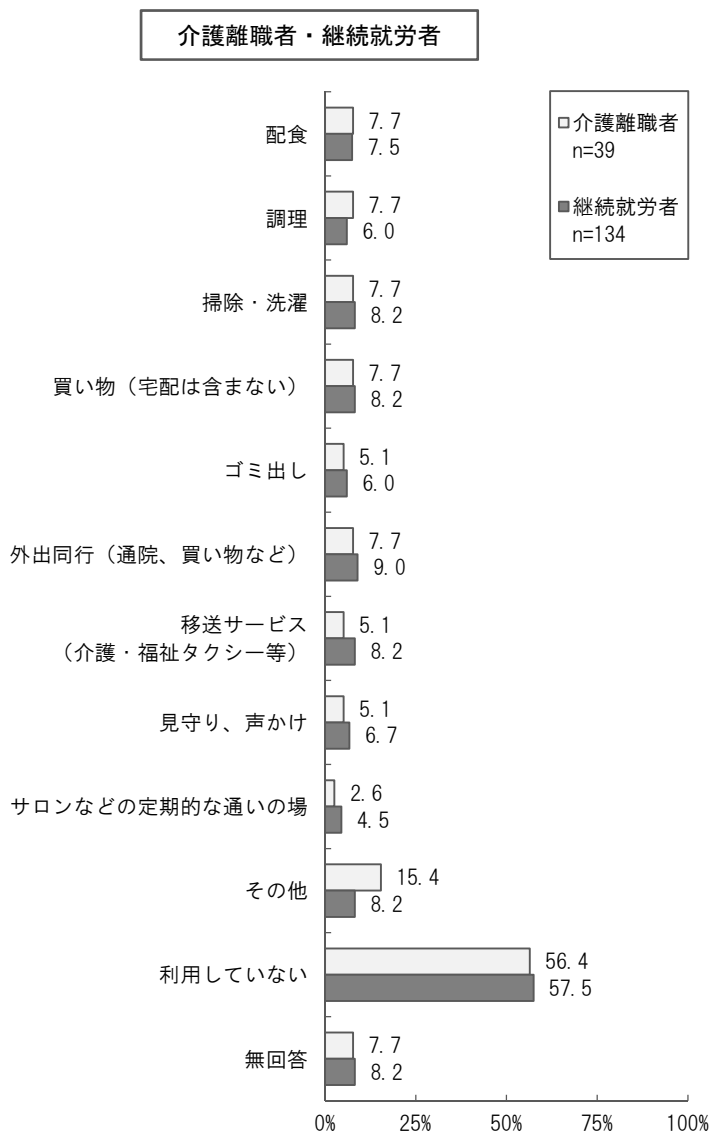
(1) 在宅生活を続けていくために必要な支援・サービス

○介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況をみると、全体では「利用していない」(57.3%)が最も高く、利用されている各種サービスはいずれも1割未満となっています。

問8 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況



○介護離職者・継続就労者では、「利用していない」(56.4%・57.5%) が最も高く、利用されている各種サービスはいずれも同程度の割合となっています。

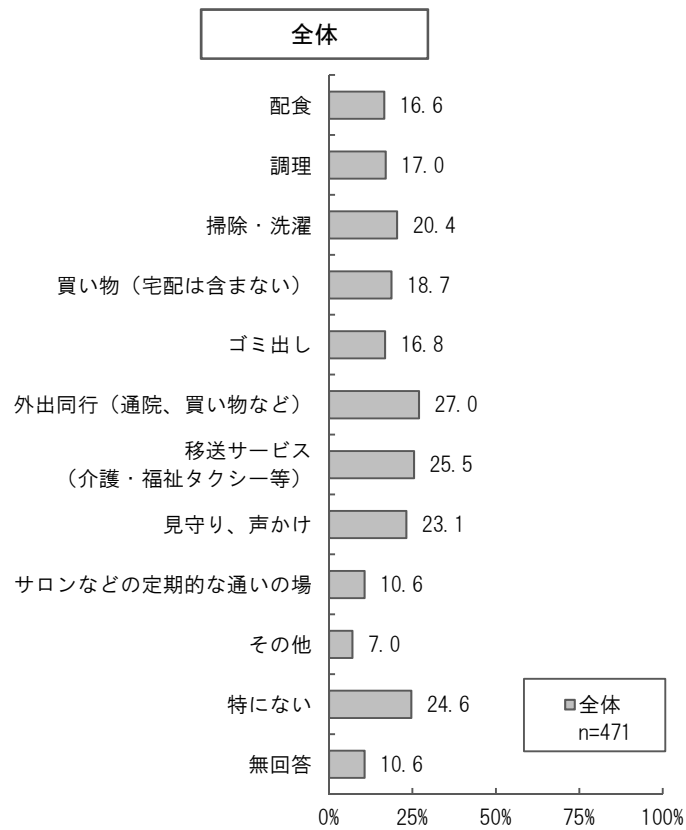


※介護離職者：問 23 で「仕事を辞めた (転職除く)」と回答 (「1」「2」を選択) した方です。

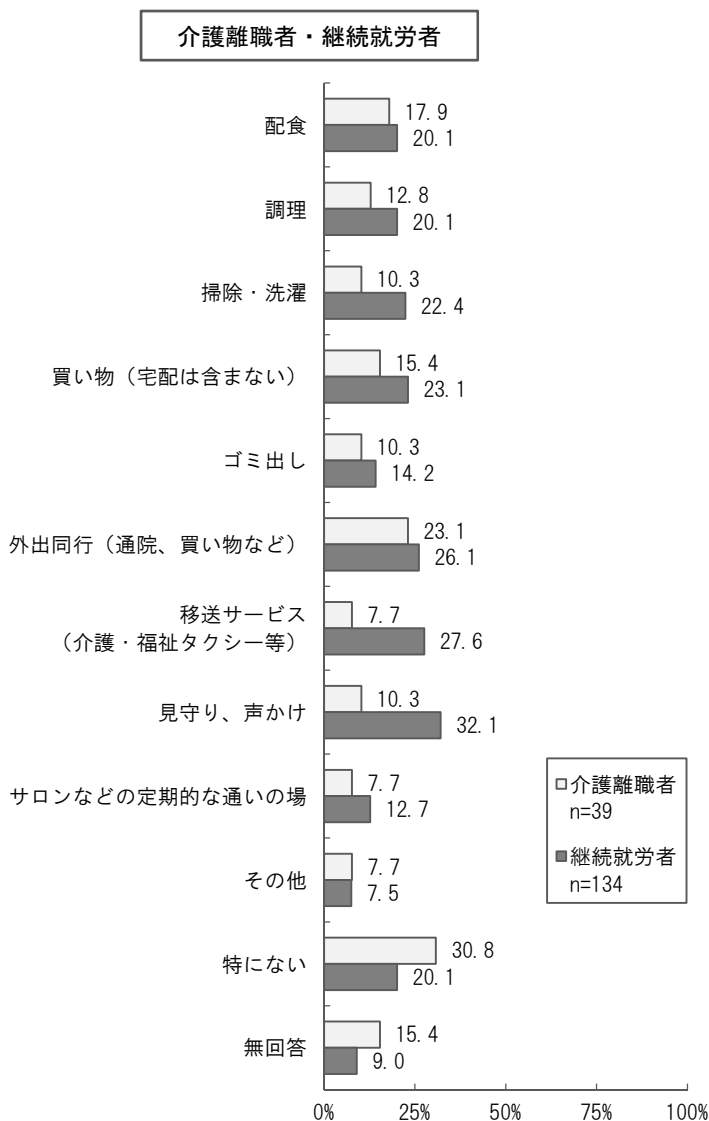
※継続就労者：①問 23 で「転職した」と回答 (「3」「4」を選択) した方と、②問 23 で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答 (「1」「2」を選択) した方の計です。

○在宅生活を続けていくために必要な支援・サービスをみると、全体では「特にない」(24.6%)を除いて「外出同行(通院、買い物など)」(27.0%)が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(25.5%)、「見守り、声かけ」(23.1%)、「掃除・洗濯」(20.4%)となっています。

問9 在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービス



○介護離職者では、「特にない」(30.8%)が最も高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」(23.1%)、「配食」(17.9%)となっています。継続就労者では「見守り・声かけ」(32.1%)が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(27.6%)、「外出同行(通院、買い物など)」(26.1%)となっています。



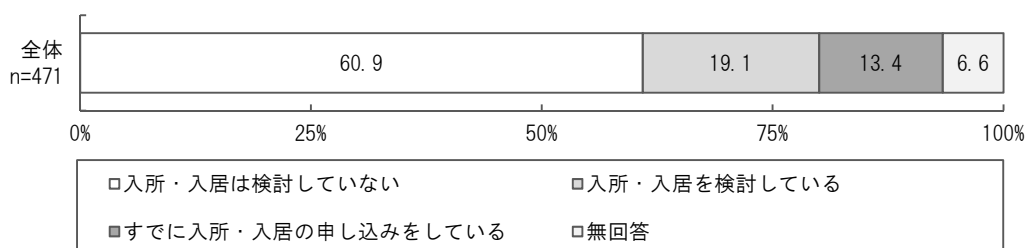
※介護離職者：問23で「仕事を辞めた(転職除く)」と回答(「1」「2」を選択)した方です。

※継続就労者：①問23で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方と、②問23で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し問24で「働いている」と回答(「1」「2」を選択)した方の計です。

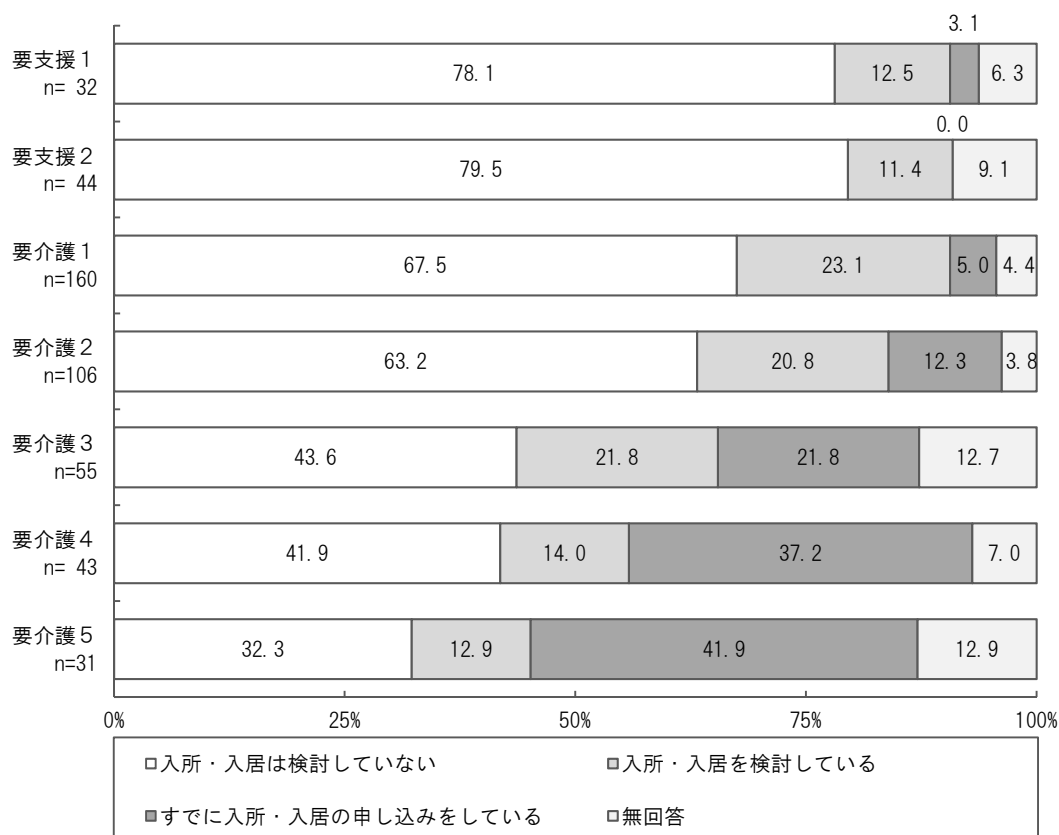
○施設等への入所・入居に関する検討状況をみると、全体では「入所・入居を検討している」(19.1%)と「すでに入所・入居の申し込みをしている」(13.4%)を合わせた32.5%が、入所・入居予定または検討中となっています。また、「入所・入居は検討していない」は60.9%となっています。

○検討状況を介護度別にみると、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居の申し込みをしている」を合わせた入所・入居予定または検討中の方は、要支援1・2では2割以下となっていますが、要介護1では28.1%、要介護2では33.1%、要介護3では43.6%、要介護4では51.2%、要介護5では54.8%となっており、要介護1から要介護5まで介護度が上がるにつれて割合が高くなっています。

問 10 施設等への入所・入居に関する検討状況

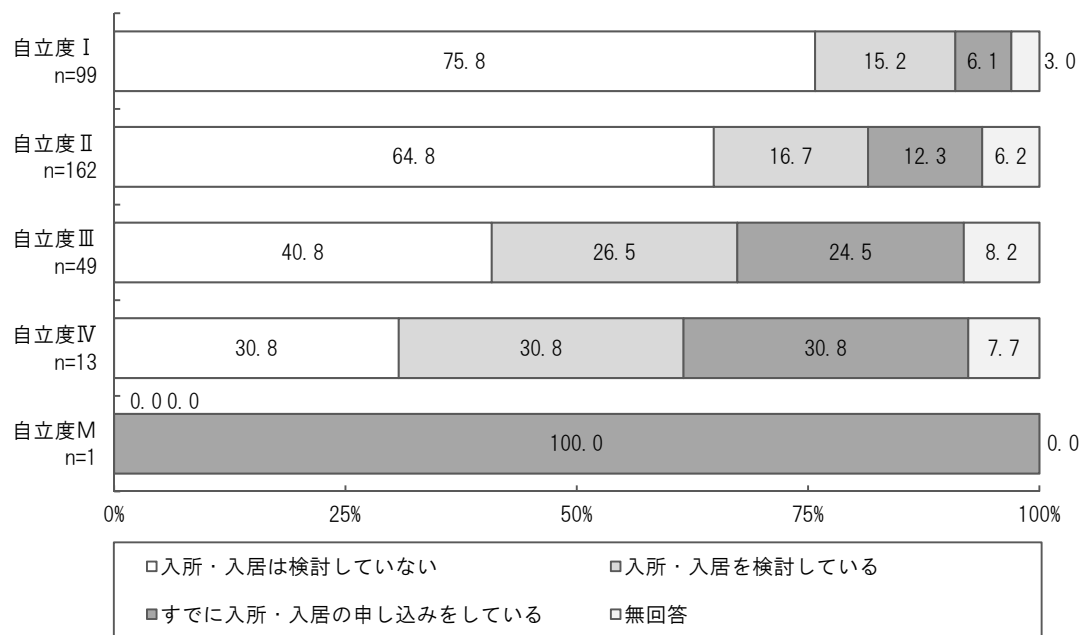


「要介護度」 × 「問 10 施設等への入所・入居に関する検討状況」



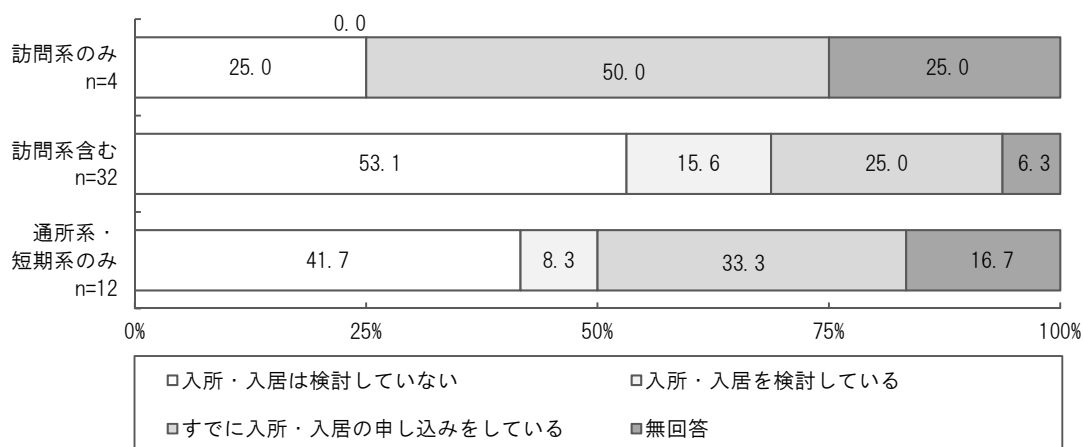
○施設等への入所・入居に関する検討状況を認知症高齢者日常生活自立度別にみると、自立度Ⅰ・Ⅱでは「入所・入居は検討していない」が6～7割以上を占めており、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居の申し込みをしている」を合わせた入所・入居予定または検討中の方は、自立度Ⅰでは21.3%、自立度Ⅱでは29.0%、自立度Ⅲでは51.0%、自立度Ⅳでは61.6%となっています。

「認知症高齢者日常生活自立度」×「問10 施設等への入所・入居に関する検討状況」



○施設等への入所・入居の検討状況をサービス利用別にみると、訪問系のみサービス利用では「入所・入居を検討している」(50.0%)、訪問系含むサービス利用、通所系・短期系のみサービス利用では「入所・入居は検討していない」(53.1%・41.7%)が最も高くなっています。

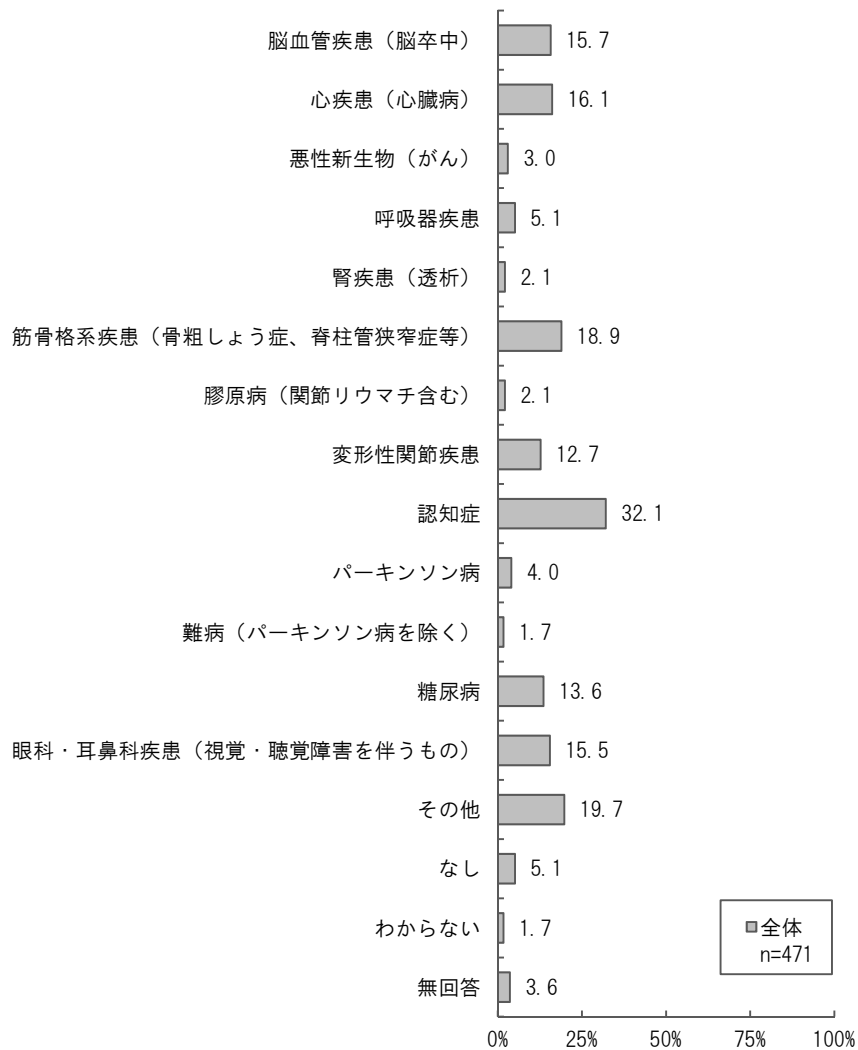
「サービス利用状況」×「問10 施設等への入所・入居に関する検討状況」(要介護度3以上)



(2) 訪問診療の利用状況

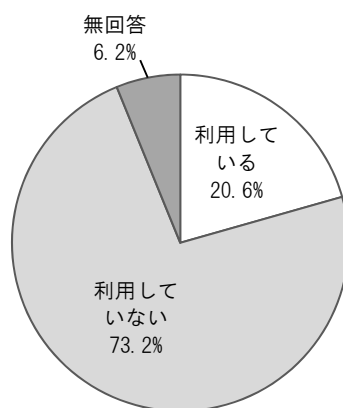
○要介護者が現在抱えている傷病名をみると、「認知症」(32.1%)が最も高く、次いで「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(18.9%)、「心疾患(心臓病)」(16.1%)、「脳血管疾患(脳卒中)」(15.7%)、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(15.5%)となっています。

問11 要介護者が現在抱えている傷病名



○訪問診療の利用状況を見ると、「利用している」(20.6%)、「利用していない」(73.2%)
となっています。

問 12 訪問診療の利用の有無



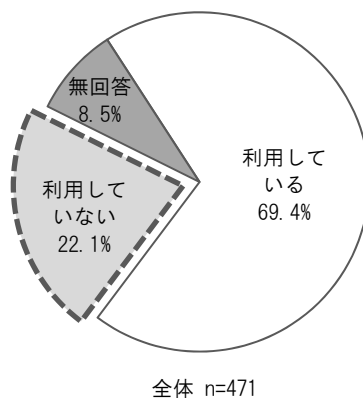
全体 n=471

(3) 介護保険サービスの利用状況

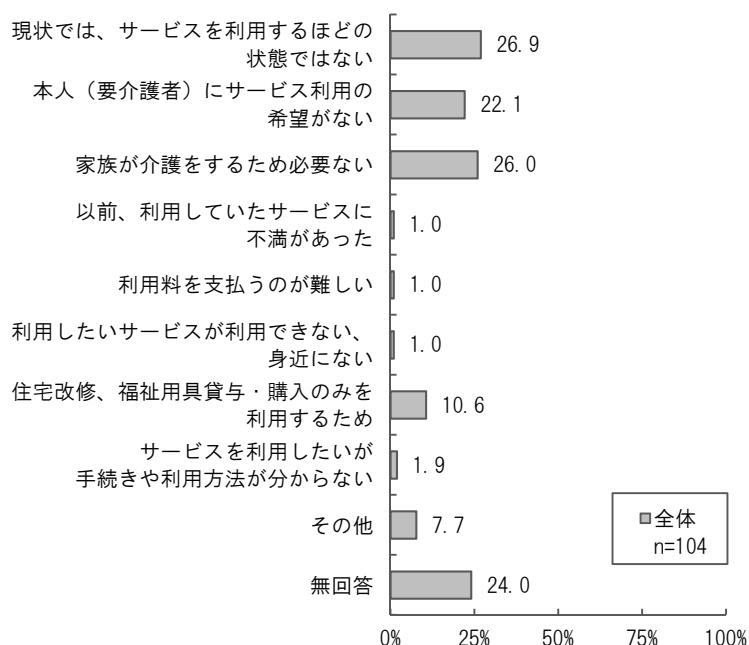
○介護保険サービスの利用状況をみると、「利用している」(69.4%)、「利用していない」(22.1%)となっています。

○介護保険サービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(26.9%)が最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」(26.0%)、「本人(要介護者)にサービス利用の希望がない(22.1%)」となっています。

問 13 介護保険サービスの利用状況(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)



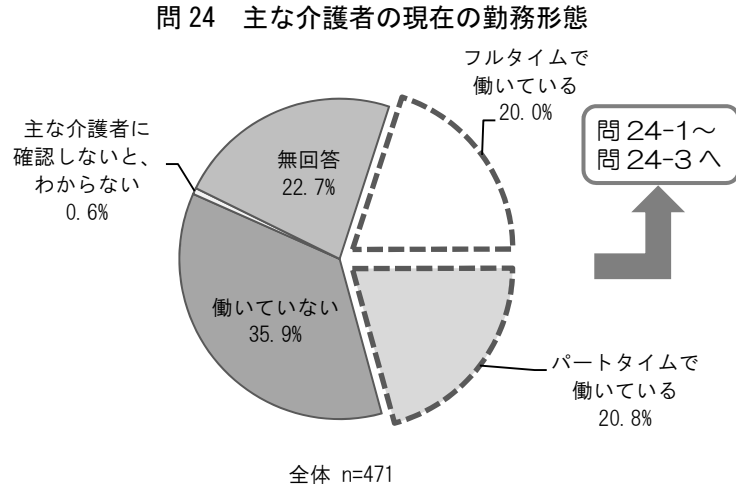
問 13-1 介護保険サービスを利用していない理由



4 主な介護者の就労状況について

(1) 主な介護者の勤務形態

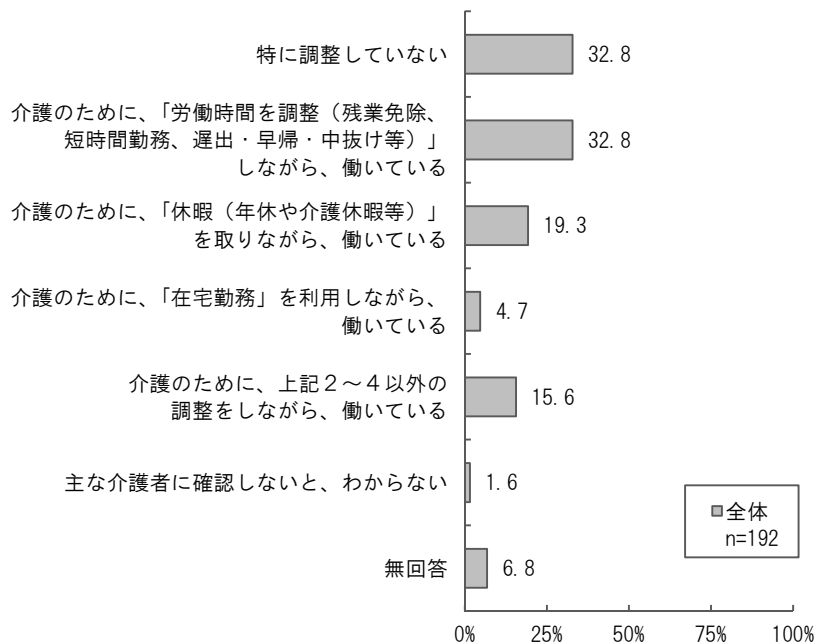
○主な介護者の現在の勤務形態は「フルタイムで働いている」(20.0%)と「パートタイムで働いている」(20.8%)を合わせた40.8%の方が就労している状況です。



(2) 継続就労者（フルタイム・パートタイム）の就労実態と意向

○介護による働き方の調整をみると、「特に調整していない」「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)』しながら、働いている」(各32.8%)が最も高く、次いで「介護のために、『休暇(年休や介護休暇等)』を取りながら、働いている」(19.3%)、「介護のために、上記2～4以外の調整をしながら、働いている」(15.6%)となっています。

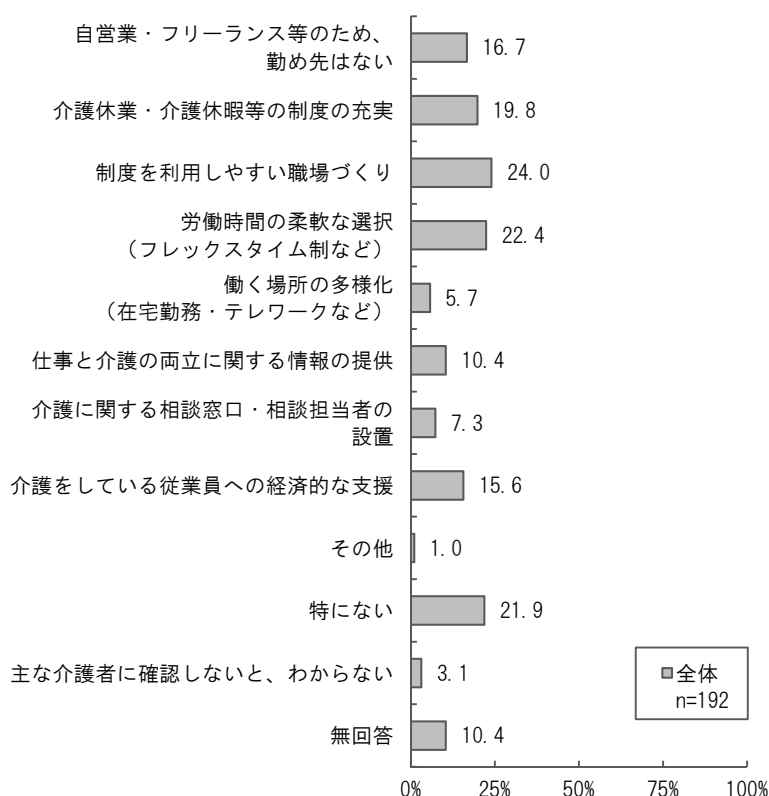
問 24-1 働き方を調整しているか



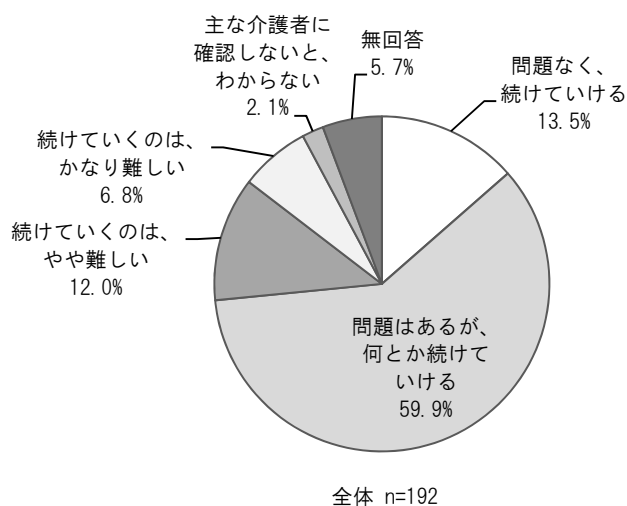
○仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援をみると、「制度を利用しやすい職場づくり」(24.0%)が最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(22.4%)、「特にない」(21.9%)、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(19.8%)となっています。

○今後の介護と仕事の両立について、「問題なく、続けていける」(13.5%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(59.9%)を合わせた今後も継続できる方は73.4%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」(12.0%)と「続けていくのは、かなり難しい」(6.8%)を合わせた継続が困難な方は18.8%となっています。

問 24-2 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援



問 24-3 今後も働きながら介護を続けられるか



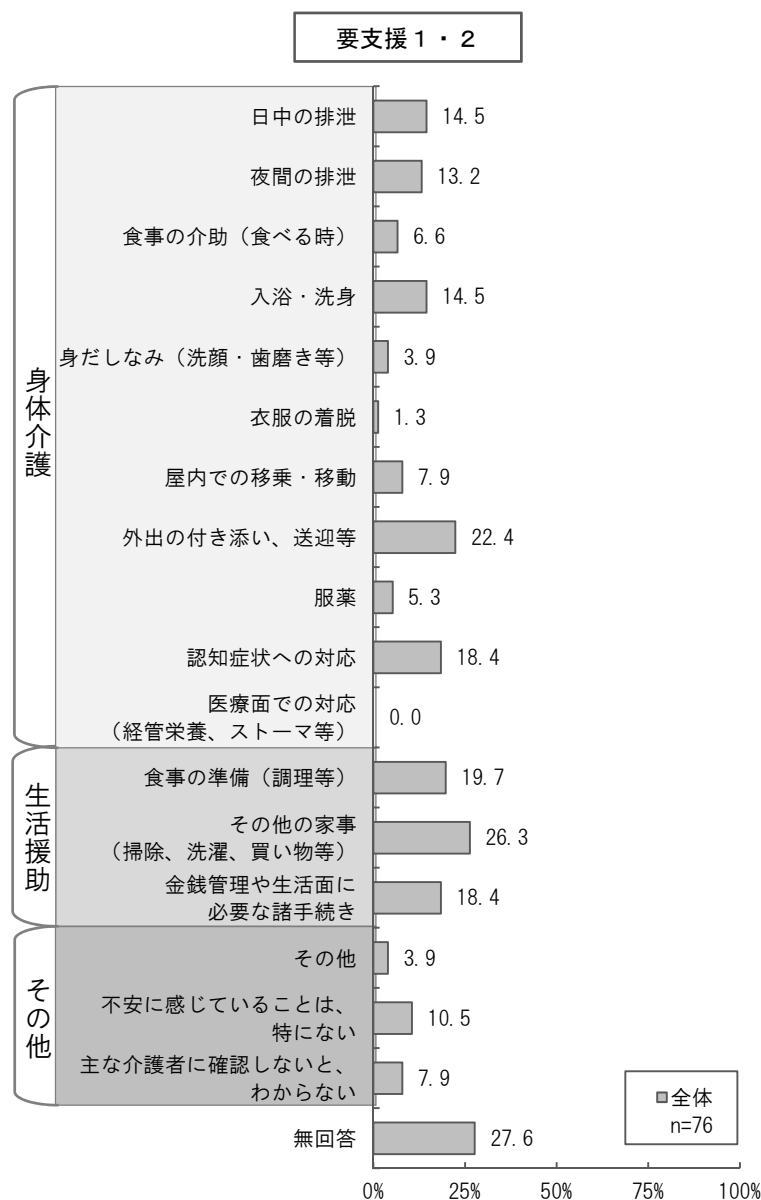
5 介護生活を続ける際の不安や困りごと

(1) 主な介護者が不安に感じる介護等の内容

○主な介護者が不安に感じる介護内容をみると、要支援1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(22.4%)が最も高く、次いで「認知症状への対応」(18.4%)、「日中の排泄」「入浴・洗身」(各14.5%)、
「夜間の排泄」(13.2%)となっています。

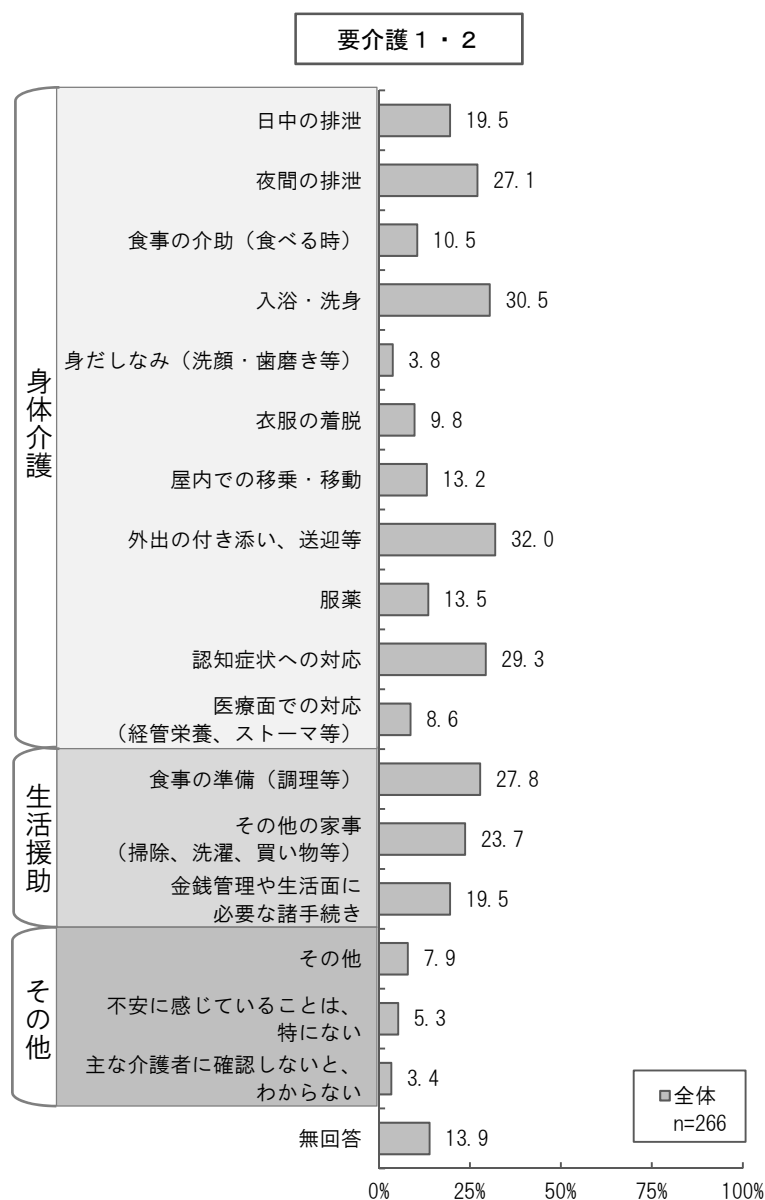
○生活援助では、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(26.3%)、「食事の準備(調理等)」(19.7%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(18.4%)となっています。

問 25 主な介護者が不安に感じる介護等



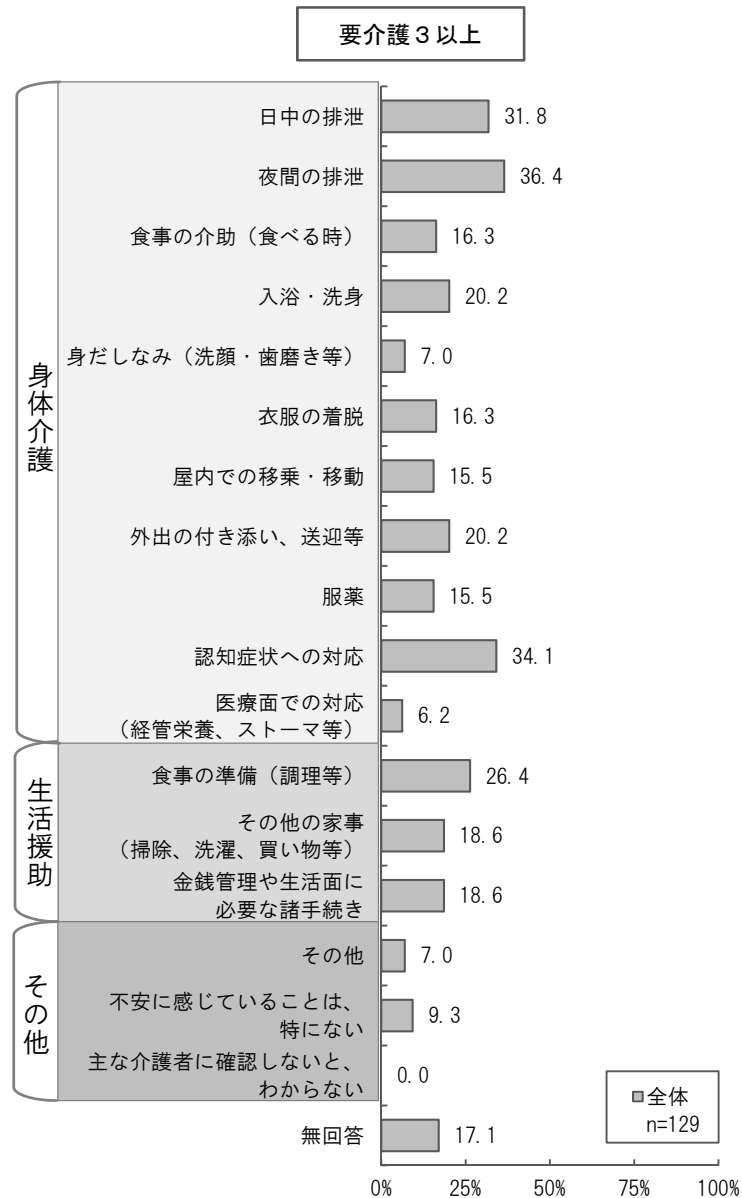
○要介護1・2の方の身体介護では、「外出の付き添い、送迎等」(32.0%)が最も高く、次いで「入浴・洗身」(30.5%)、「認知症状への対応」(29.3%)、「夜間の排泄」(27.1%)となっています。

○生活援助では「食事の準備(調理等)」(27.8%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(23.7%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(19.5%)となっています。



○要介護3以上の方の身体介護では、「夜間の排泄」(36.4%)が最も高く、次いで「認知症状への対応」(34.1%)、「日中の排泄」(31.8%)となっています。

○生活援助では「食事の準備(調理等)」(26.4%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(18.6%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(各18.6%)となっています。



6 介護離職の要因について

主な介護者の介護離職に関する要因を調べるために、(1) 主な介護者の介護環境、(2) 主な介護者の就労環境、(3) 要介護者の様態と介護実態、(4) 介護給付サービス等の利用状況等について介護離職者と継続就労者との差を比較しました。

(1) 主な介護者を取り巻く介護環境等

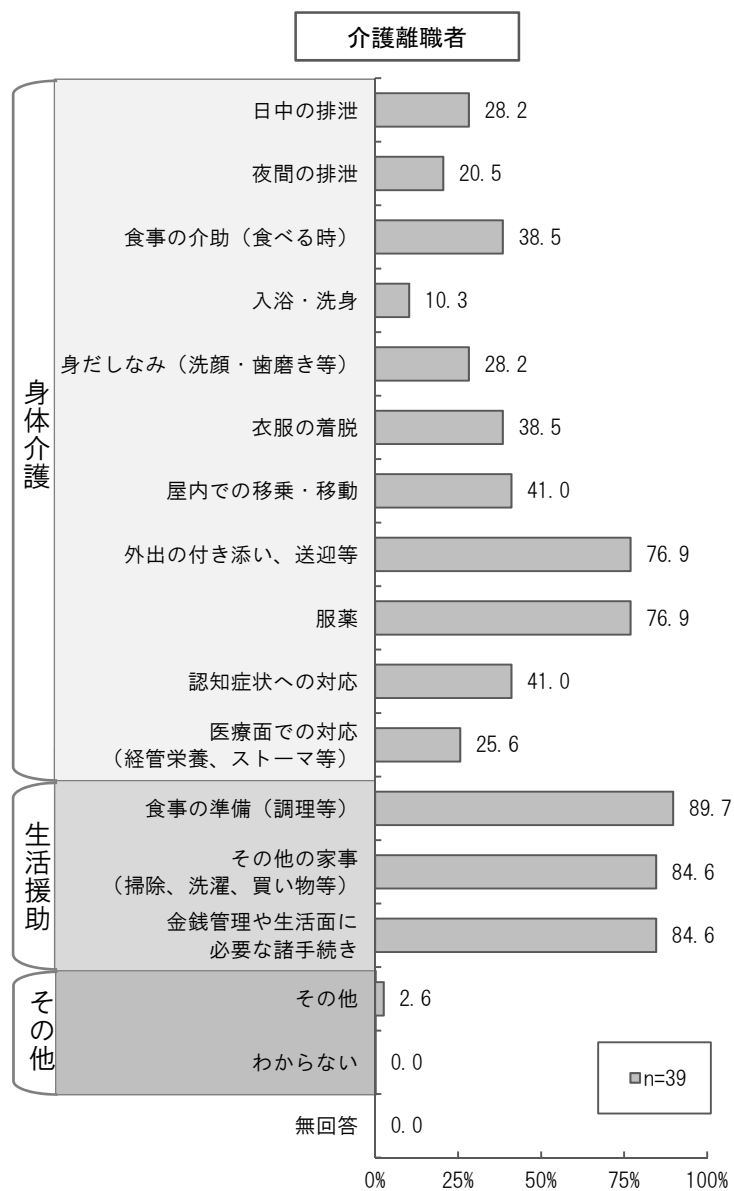
① 介護者が行っている介護内容

○介護離職者が行っている身体介護では「外出の付き添い、送迎等」「服薬」(各76.9%)が最も高く、次いで「屋内での移乗・移動」「認知症状への対応」(各41.0%)、「食事の介助(食べる時)」「衣服の着脱」(各38.5%)となっています。また、生活援助では「食事の準備(調理等)」(89.7%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(各84.6%)となっています。

○一方、継続就労者では「外出の付き添い、送迎等」(68.7%)が最も高く、次いで「服薬」(38.8%)、「衣服の着脱」(28.4%)となっています。また、生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(69.4%)、「食事の準備(調理等)」(67.9%)となっています。

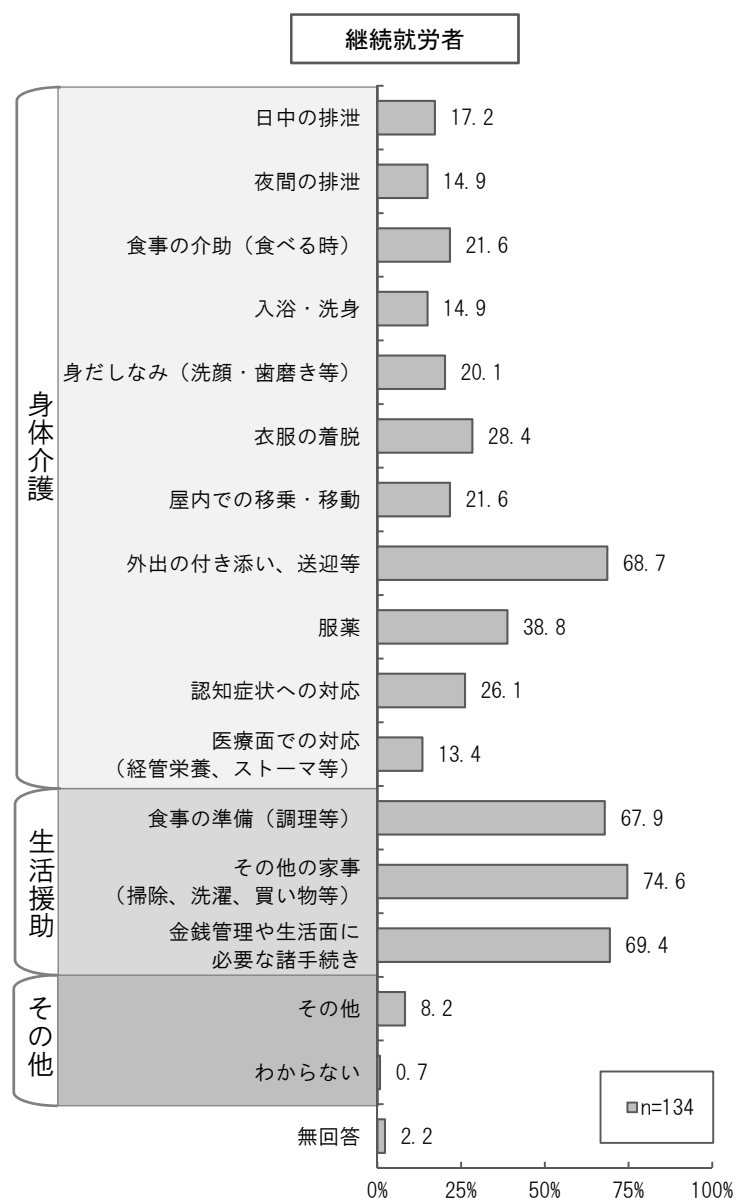
○介護離職者・継続就労者ともに「外出の付き添い、送迎等」が最も高くなっています。

「介護離職者・継続就労者別」 × 「問 22 主な介護者が行っている介護等」



※介護離職者：問23で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

「介護離職者・継続就労者別」×「問22 主な介護者が行っている介護等」

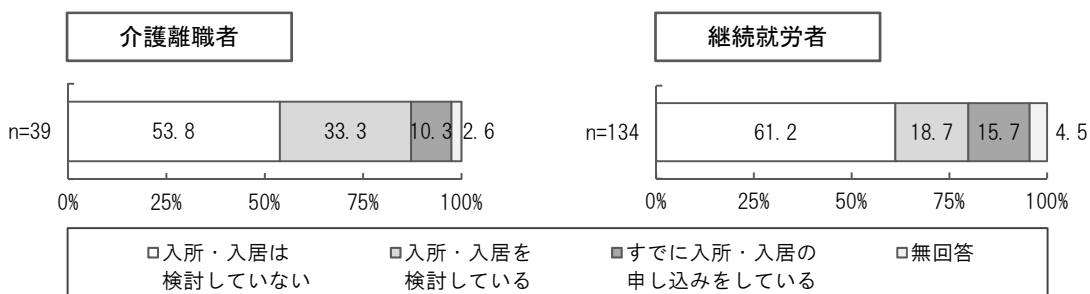


※継続就労者：①問23で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②問23で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問24で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

② 施設等への入所・入居の検討

○施設等への入所・入居に関する検討状況をみると、介護離職者・継続就労者ともに「入所・入居は検討していない」(53.8%・61.2%) が最も高く、次いで「入所・入居を検討している」(33.3%・18.7%) となっています。

「介護離職者・継続就労者別」×「問 10 施設等への入所・入居に関する検討状況」



※介護離職者：問 23 で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。
 ※継続就労者：①問 23 で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②問 23 で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

(2) 就業中の主な介護者に関する就労環境

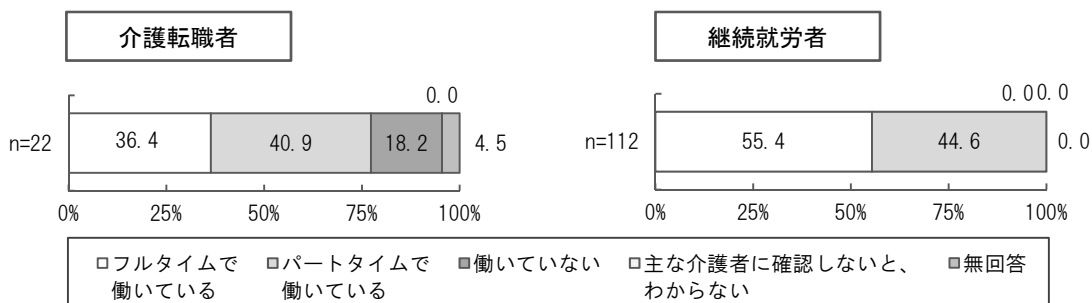
ここでは、就労している主な介護者を介護のために転職をした介護転職者と継続就労者に分け、比較しています。

① 現在の勤務形態

○介護転職者の現在の勤務形態は、「パートタイムで働いている」(40.9%) が最も高く、次いで「フルタイムで働いている」(36.4%) となっています。

○一方、継続就労者では、「フルタイムで働いている」(55.4%) が最も高く、次いで「パートタイムで働いている」(44.6%) となっています。介護転職者に比べ継続就労者の方が「フルタイムで働いている」の割合が高くなっています。

「介護転職者・継続就労者別」×「問 24 主な介護者の現在の勤務形態」

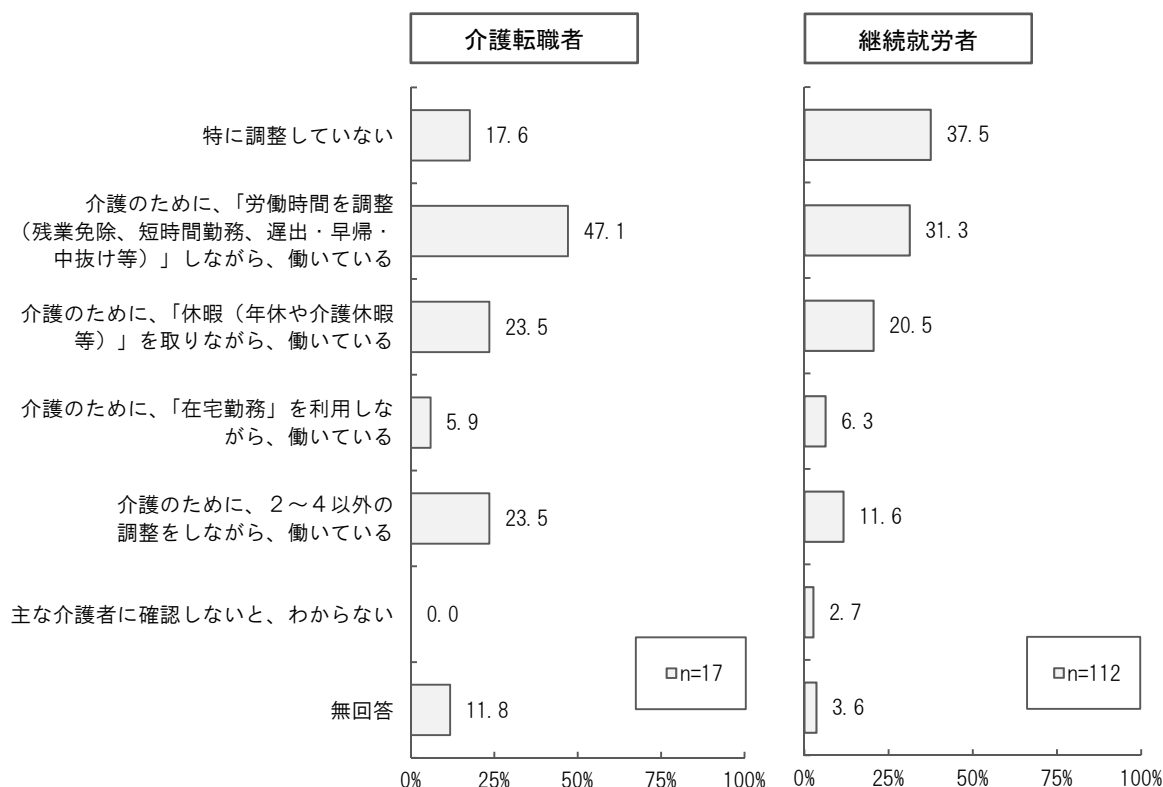


※介護転職者：問 23 で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方です。
 ※継続就労者：問 23 で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

② 介護のために働き方の調整等

○働き方の調整状況をみると、継続就労者は「特に調整していない」(37.5%)が最も高くなっている一方で、介護転職者では「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)』しながら、働いている」(47.1%)が最も高くなっています。

「介護転職者・継続就労者別」×「問 24-1 働き方を調整しているか」

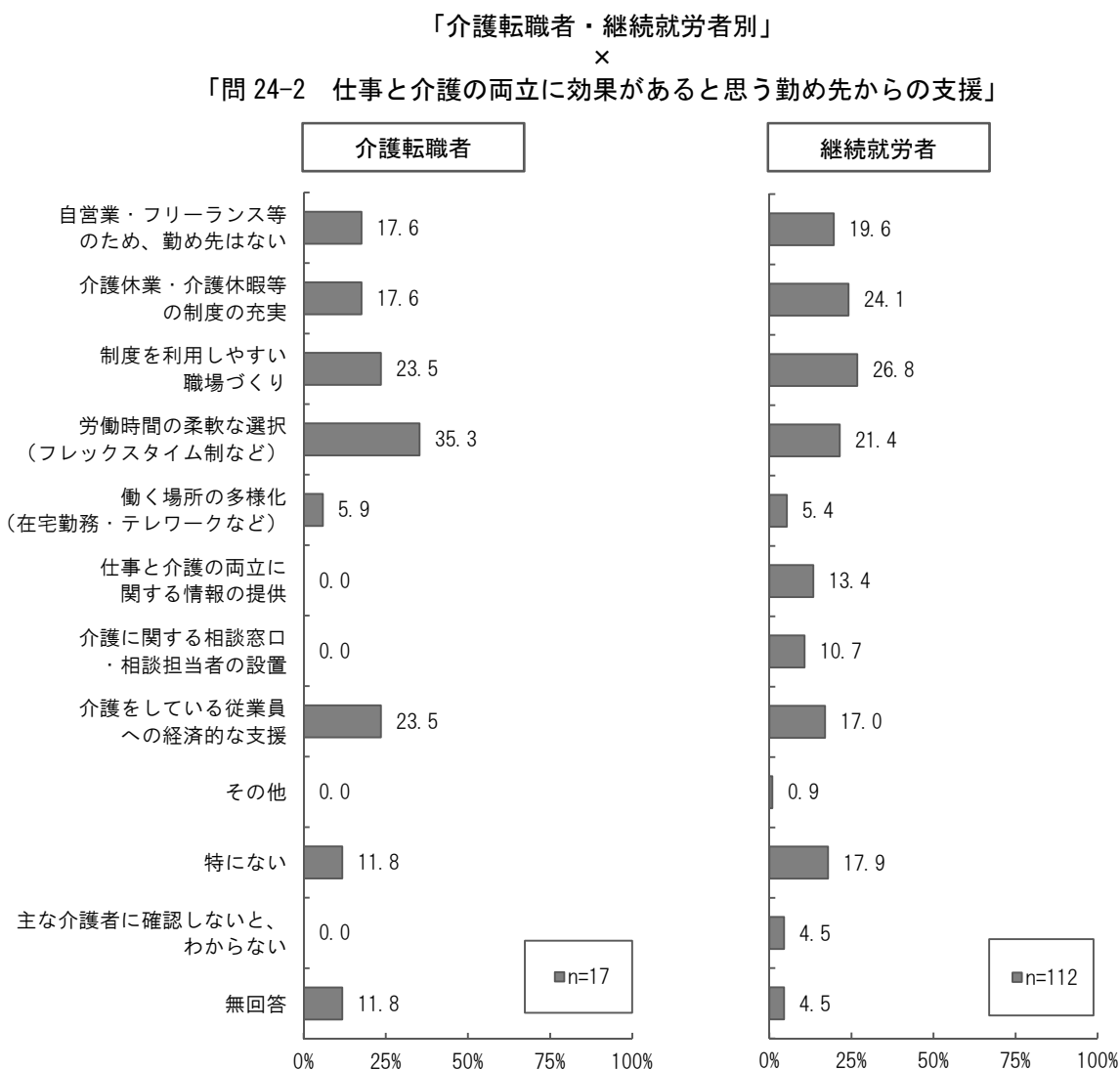


※介護転職者：問 23 で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方です。

※継続就労者：問 23 で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答(「1」「2」を選択)した方の計です。

③ 仕事と介護の両立に効果的な職場の支援内容

○仕事と介護の両立に効果があると思う職場の支援をみると、介護転職者では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（35.3%）が最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」（各23.5%）となっています。継続就労者では「制度を利用しやすい職場づくり」（26.8%）が最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（24.1%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（21.4%）となっています。



※介護転職者：問 23 で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方です。

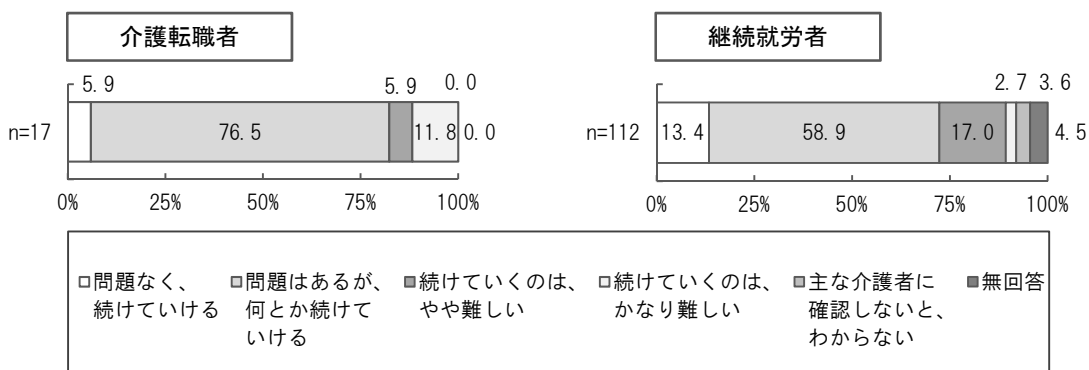
※継続就労者：問 23 で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

④ 仕事と介護の両立に関して継続する意向

○今後の就労継続に関する意向をみると、介護転職者では「問題なく、続けていける」(5.9%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(76.5%)を合わせた82.4%が今後も継続できると回答しています。「続けていくのは、やや難しい」(5.9%)と「続けていくのは、かなり難しい」(11.8%)を合わせた17.7%が継続が困難と回答しています。

○継続就労者では、「問題なく、続けていける」(13.4%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(58.9%)を合わせた72.3%が今後も継続できると回答しています。「続けていくのは、やや難しい」(17.0%)と「続けていくのは、かなり難しい」(2.7%)を合わせた19.7%が継続が困難と回答しています。

「介護転職者・継続就労者別」×「問 24-3 今後も働きながら介護を続けていけそうか」



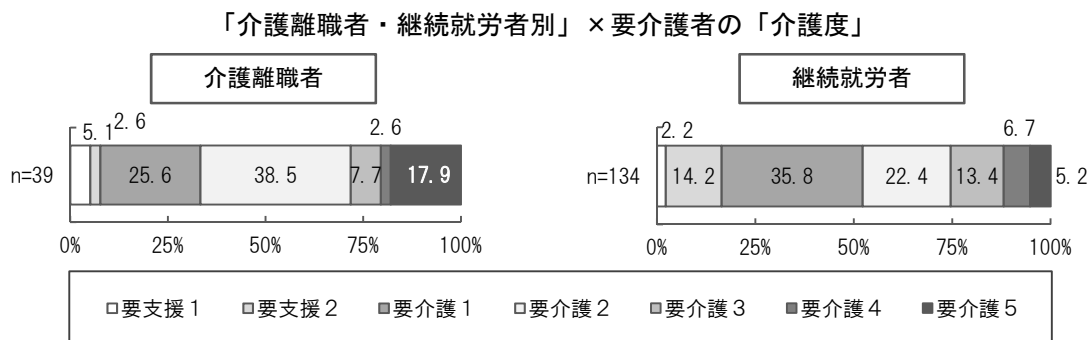
※介護転職者：問 23 で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方です。

※継続就労者：問 23 で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

(3) 要介護者の様態と介護実態

○要介護者の介護度をみると、介護離職者は、「要介護2」(38.5%)が最も高く、次いで「要介護1」(25.6%)、「要介護5」(17.9%)となっています。

○一方、継続就労者では、「要介護1」(35.8%)が最も高く、次いで「要介護2」(22.4%)、「要支援2」(14.2%)となっています。



※介護離職者：問23で「仕事を辞めた(転職除く)」と回答(「1」「2」を選択)した方です。

※継続就労者：①問23で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方と、②問23で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問24で「働いている」と回答(「1」「2」を選択)した方の計です。

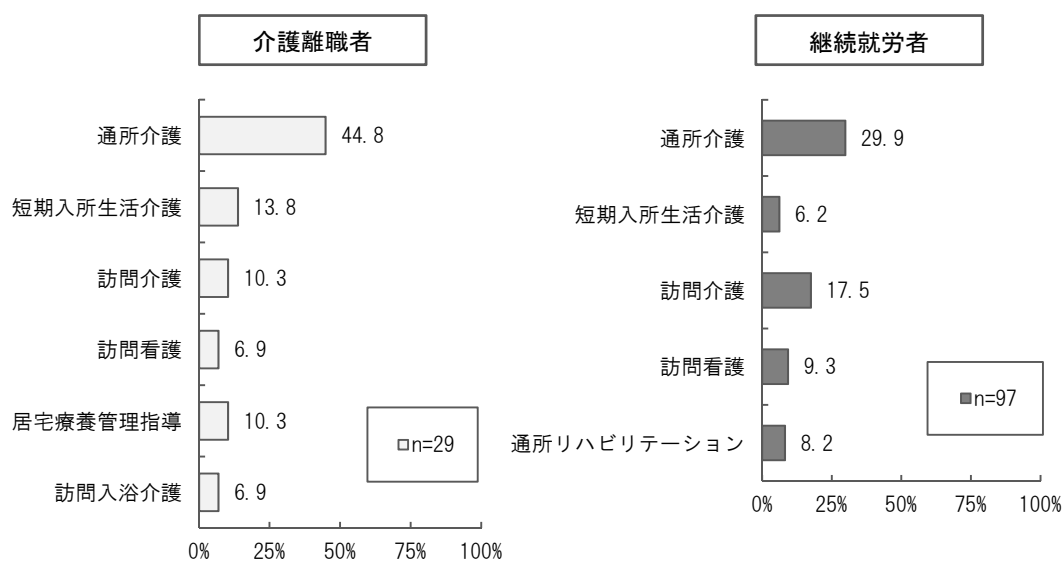
(4) 介護給付サービス等の利用状況

① 介護給付サービスの利用状況

○介護保険サービスの利用状況(上位5位)をみると、介護離職者は「通所介護」(44.8%)が最も高く、次いで「短期入所生活介護」(13.8%)、「訪問介護」「居宅療養管理指導」(各10.3%)となっています。

○継続就労者では、「通所介護」(29.9%)が最も高く、次いで「訪問介護」(17.5%)、「訪問看護」(9.3%)となっています。

「介護離職者・継続就労者別」×「サービス利用状況」(上位5位)



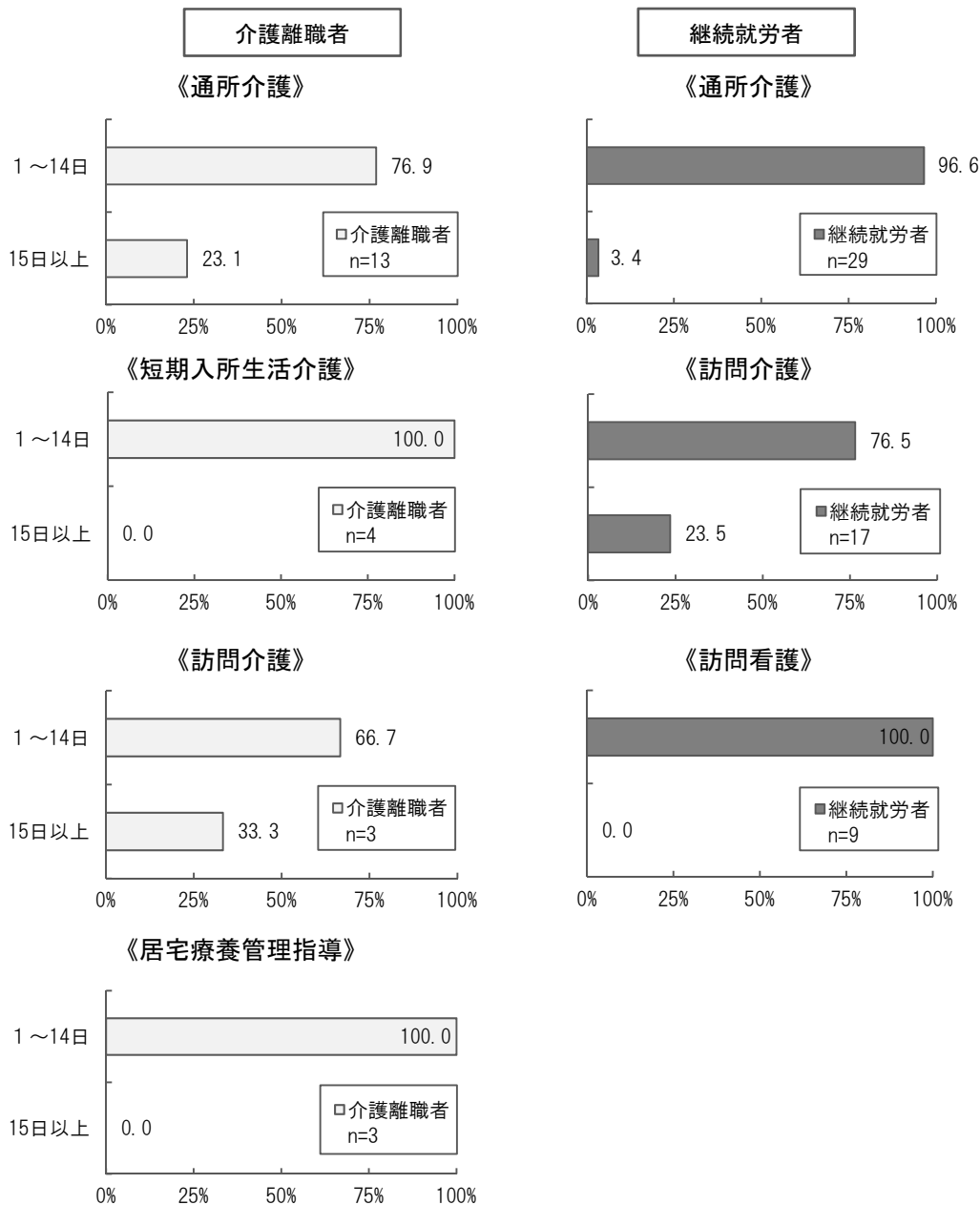
※介護離職者：問23で「仕事を辞めた(転職除く)」と回答(「1」「2」を選択)した方です。

※継続就労者：①問23で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方と、②問23で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問24で「働いている」と回答(「1」「2」を選択)した方の計です。

② 介護給付サービス別の実日数（利用割合の高いサービスのみ）

○利用割合の高い上位3位のサービスの利用実日数をみると、介護離職者・継続就労者ともにいずれのサービスも「1～14日」の利用が割合が高くなっています。

「介護離職者・継続就労者別」×要介護者の「サービス利用日数」（利用割合上位3位）



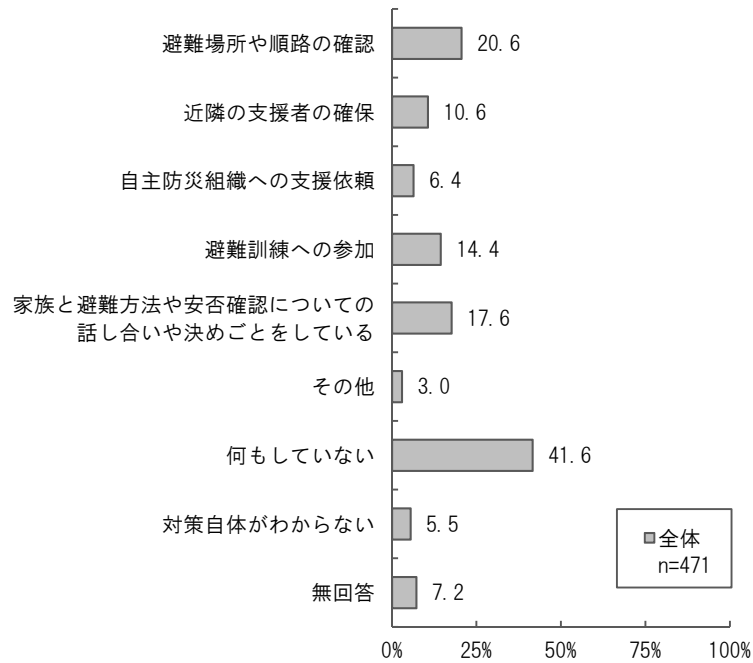
※介護離職者：問23で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

※継続就労者：①問23で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②問23で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問24で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

7 防災について

○災害時の避難においてどのような対策をとっているかをみると、「何もしていない」(41.6%)が最も高く、次いで「避難場所や順路の確認」(20.6%)、「家族と避難方法や安否確認についての話し合いや決めごとをしている」(17.6%)となっています。

問 14 災害時の避難においてどのような対策をとっているか

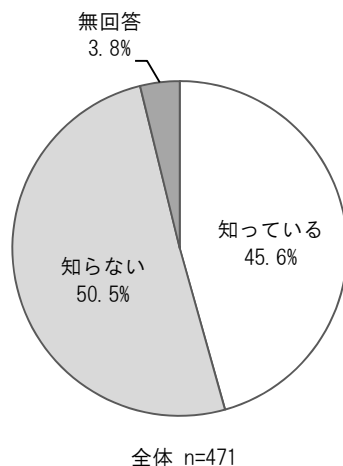


8 さまざまな制度について

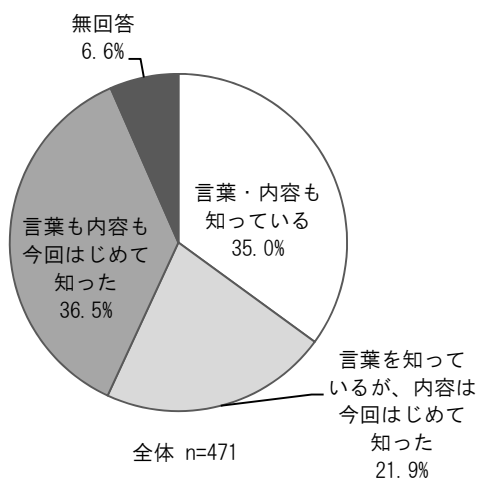
○高齢者や家族のための相談窓口が設置されていることを知っているかをみると、「知っている」(45.6%)、「知らない」(50.5%)となっています。

○成年後見制度を知っているかでは、「言葉・内容も知っている」(35.0%)、「言葉を知っているが、内容は今回初めて知った」(21.9%)、「言葉も内容も今回初めて知った」(36.5%)となっています。

問 15 高齢者や家族のための相談窓口が設置されていることを知っているか



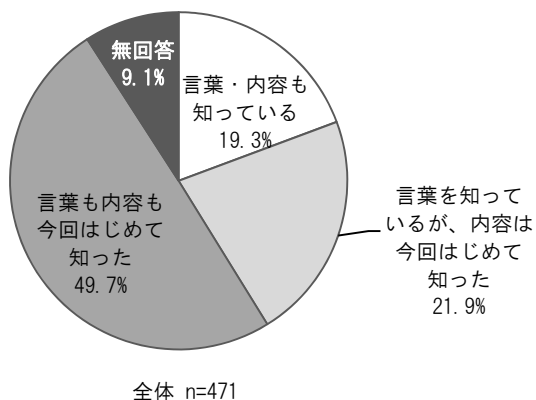
問 16 成年後見制度※を知っているか



※成年後見制度…認知症、知的障がい、精神障がいなどで判断能力の不十分な方が、自立して生活できるように、援助してくれる人（後見人等）を家庭裁判所に選んでもらう制度です。これにより、自分一人では困難な不動産や預貯金等の財産の管理や各種契約が安全に行えるようになります。

○日常生活自立支援事業を知っているかでは、「言葉・内容も知っている」(19.3%)、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」(21.9%)、「言葉も内容も今回はじめて知った」(49.7%)となっています。

問17 日常生活自立支援事業*を知っているか

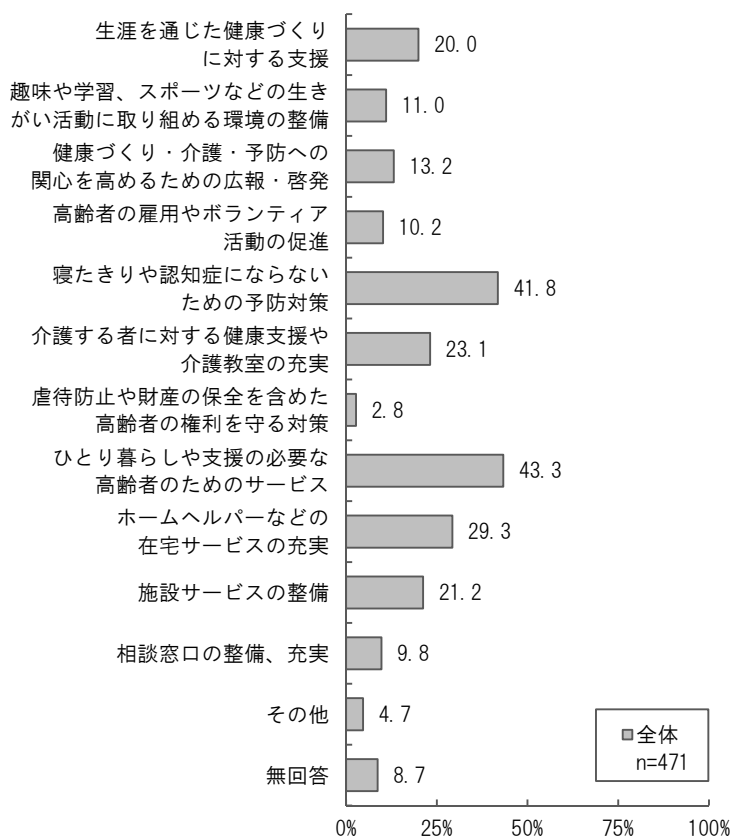


※日常生活自立支援事業…軽度の認知症のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者のために、福祉サービスの利用支援と日常的な金銭管理・書類等の預かりサービスを行うために、全国の社会福祉協議会が実施している事業です。

9 高齢社会について

○高齢社会に向けて、本市は何に重点をおくべきだと思うかでは、「ひとり暮らしや支援の必要な高齢者のためのサービス」(43.3%)が最も高く、次いで「寝たきりや認知症にならないための予防対策」(41.8%)、「ホームヘルパーなどの在宅サービスの充実」(29.3%)、「施設サービスの整備」(21.2%)、「生涯を通じた健康づくりに対する支援」(20.0%)となっています。

問 18 高齢社会に向けて、本市は何に重点をおくべきだと思うか



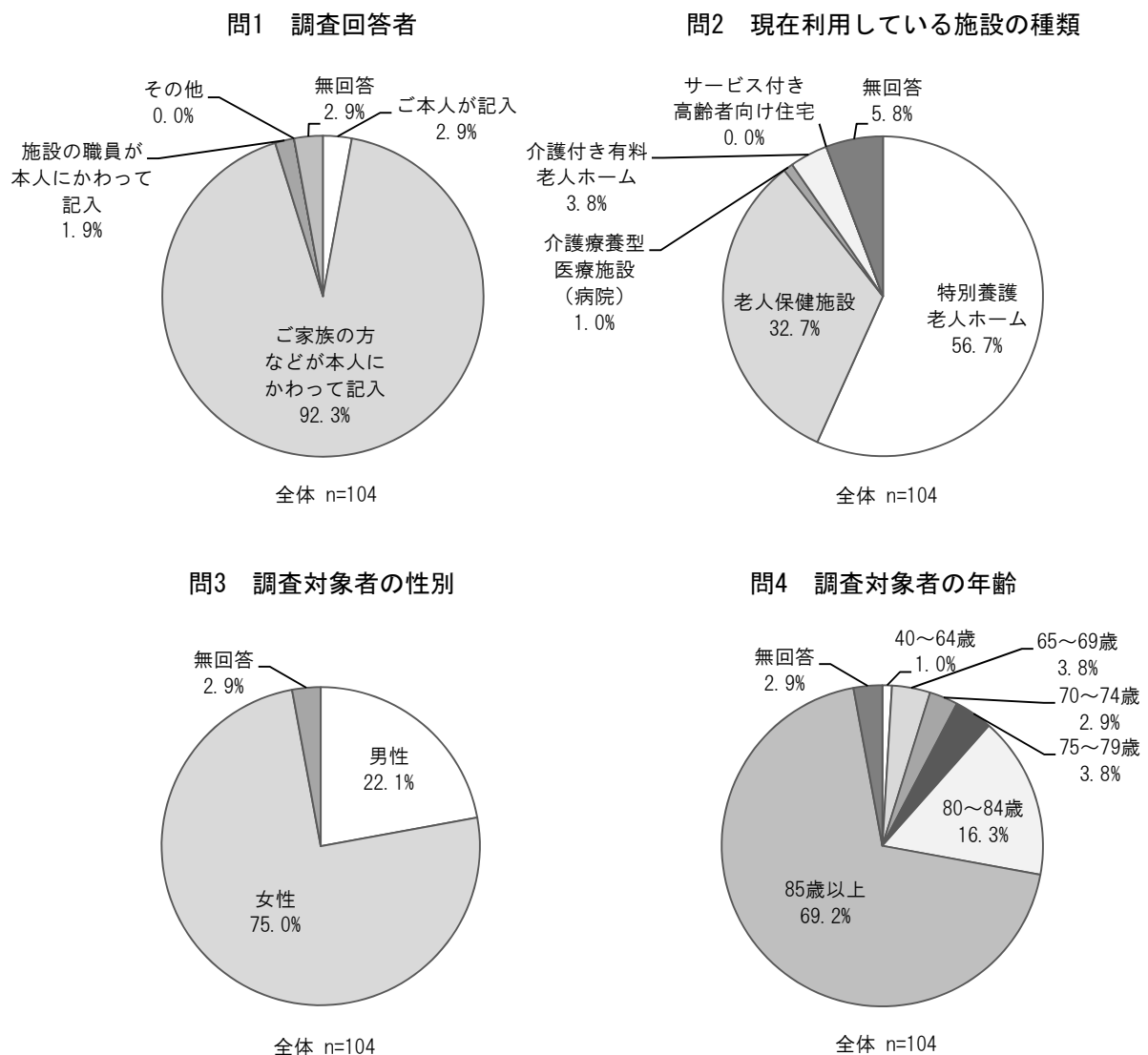
第4章

施設サービス利用者実態調査結果

第4章 施設サービス利用者実態調査結果

1 ご本人（要介護者）について

- 調査回答者は、「ご家族の方などが本人にかわって記入」が約9割以上を占めています。
- 現在利用している施設の種類をみると、「特別養護老人ホーム」(56.7%)、「老人保健施設」(32.7%)、「介護付き有料老人ホーム」(3.8%)となっています。
- 調査対象者の性別は、「男性」(22.1%)、「女性」(75.0%)となっています。
- 調査対象者の年齢は、「85歳以上」が約7割を占めています。



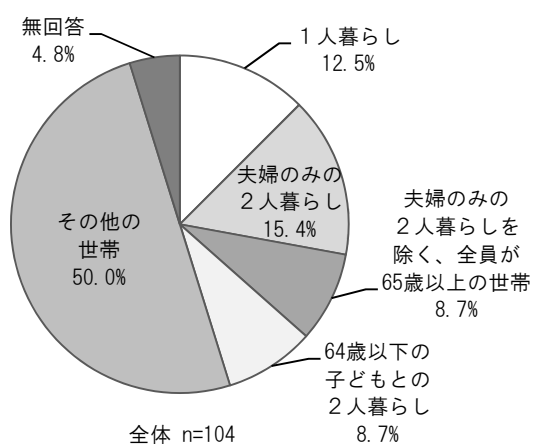
2 ご本人（要介護者）の生活について

○家族構成は、「その他の世帯」（50.0%）が最も高く、次いで「夫婦のみの2人暮らし」（15.4%）、「1人暮らし」（12.5%）となっています。

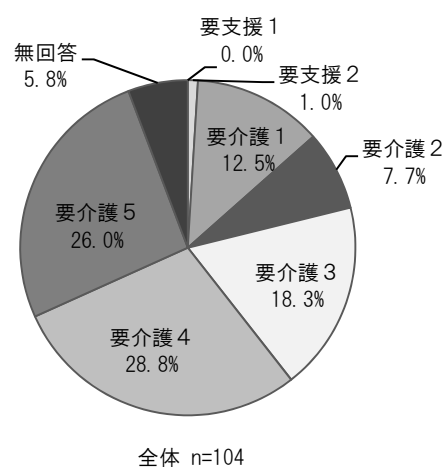
○現在認定されている要介護度は、「要介護3」「要介護4」「要介護5」が約7割以上を占めています。

○介護が必要になった主な原因をみると、「認知症（アルツハイマー病等）」（31.7%）が最も高く、次いで「骨折・転倒」（18.3%）、「高齢による衰弱」（15.4%）、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（14.4%）となっています。

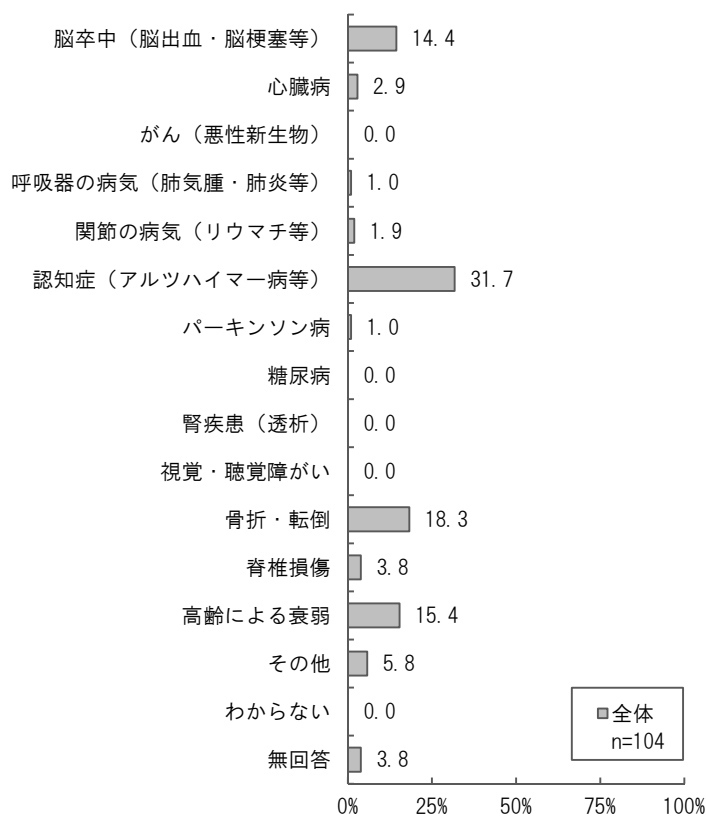
問5 家族構成



問6 現在認定されている要介護度

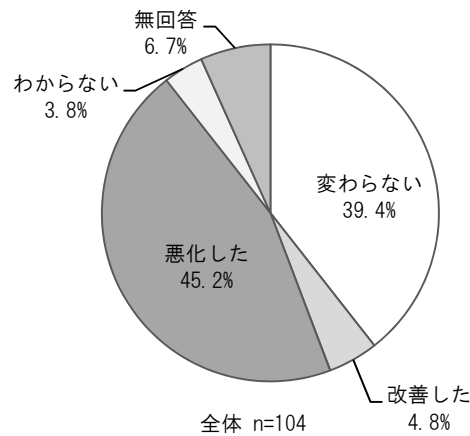


問7 介護が必要になった主な原因



○1年前の身体状況からの変化をみると、「悪化した」(45.2%)が5割弱となっており、「変わらない」(39.4%)、「改善した」(4.8%)となっています。

問8 1年前の身体状況からの変化

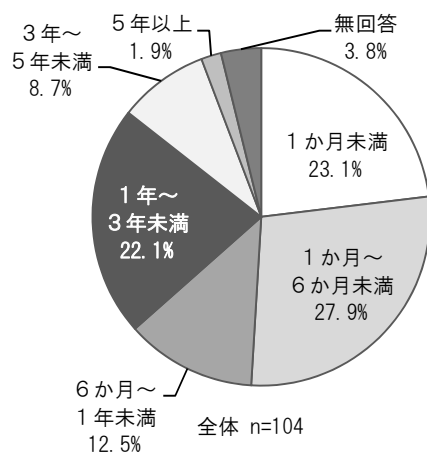


3 ご本人（要介護者）が入所している施設について

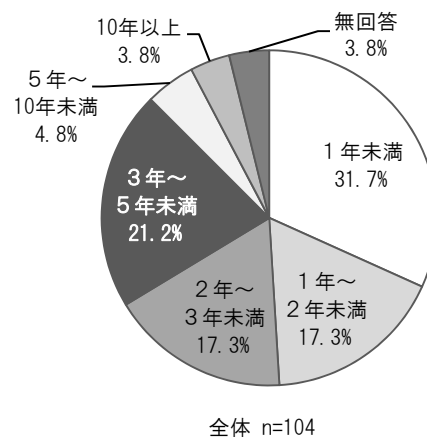
○施設入所を申し込んでから入所までにかかった期間をみると、「1か月から6か月未満」(27.9%)が最も高く、次いで「1か月未満」(23.1%)、「1年～3年未満」(22.1%)となっています。

○施設の利用期間をみると、「1年未満」(31.7%)が最も高く、次いで「3年～5年未満」(21.2%)、「1年～2年未満」「2年～3年未満」(各 17.3%)となっています。

問9 施設入所を申し込んでから入所までにかかった期間



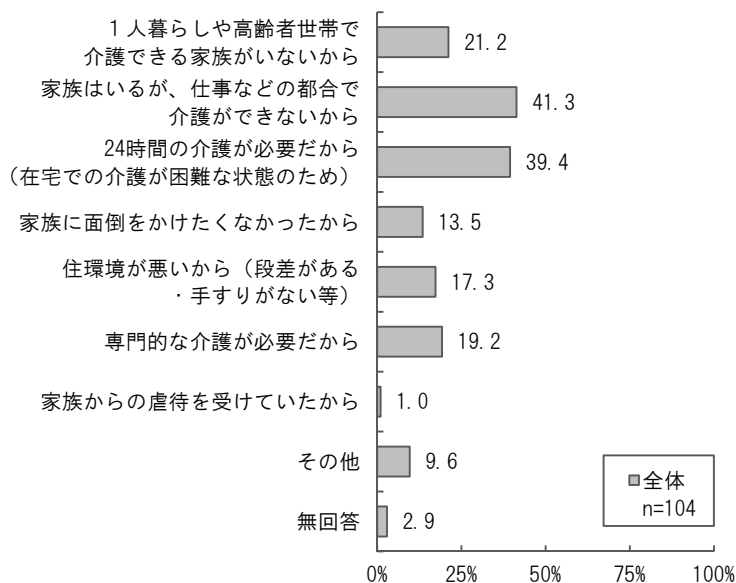
問10 施設の利用期間



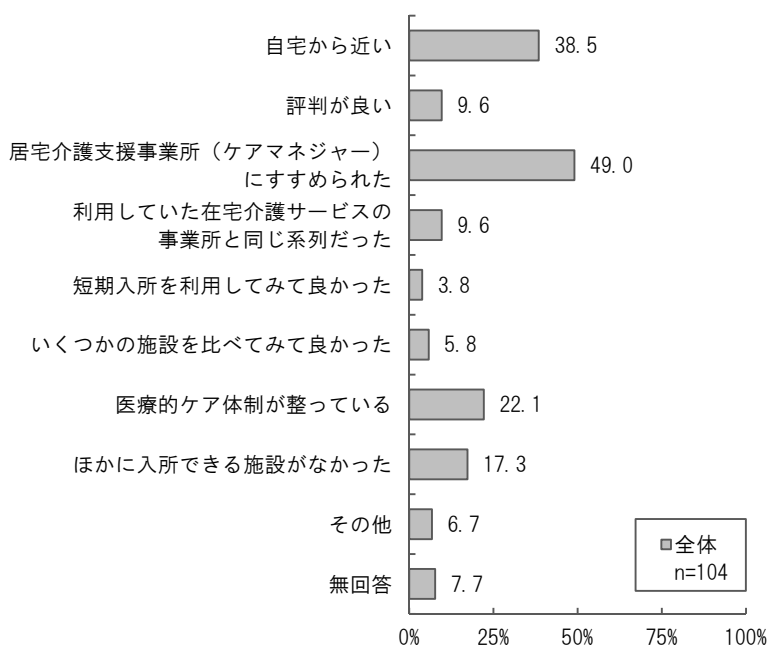
○施設への入所を希望した理由をみると、「家族はいるが、仕事などの都合で介護ができないから」(41.3%)が最も高く、次いで「24時間の介護が必要だから(在宅での介護が困難な状態のため)」(39.4%)、「1人暮らしや高齢者世帯で介護できる家族がないから」(21.2%)となっています。

○現在の施設を選んだ基準をみると、「居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)にすすめられた」(49.0%)が最も高く、次いで「自宅から近い」(38.5%)、「医療的ケア体制が整っている」(22.1%)となっています。

問11 施設への入所を希望した理由



問12 現在の施設を選んだ基準

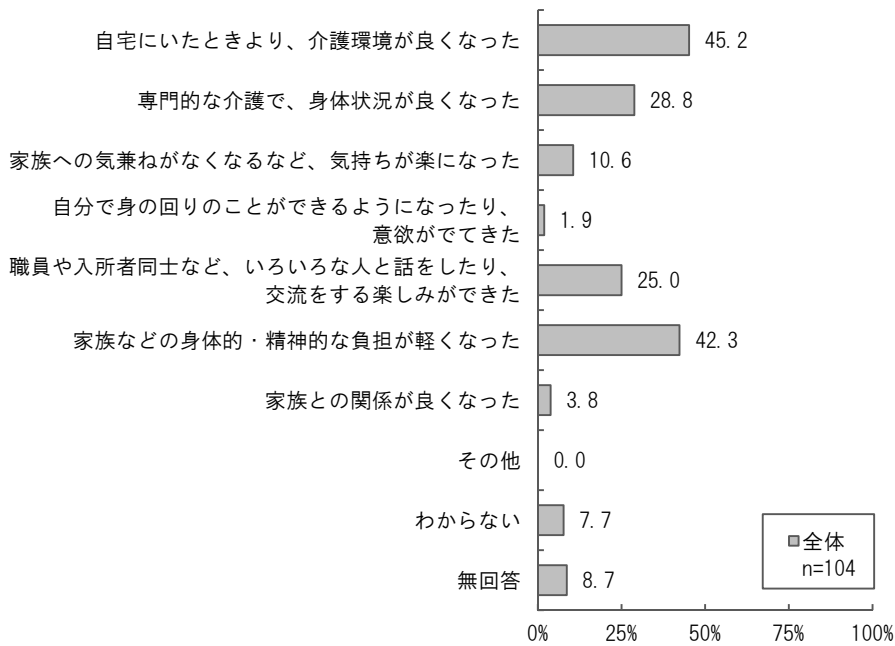


○施設サービスを利用してよかったと思うことをみると、「自宅にいたときより、介護環境が良くなった」(45.2%)が最も高く、次いで「家族などの身体的・精神的な負担が軽くなった」(42.3%)、「専門的な介護で、身体状況が良くなった」(28.8%)となっています。

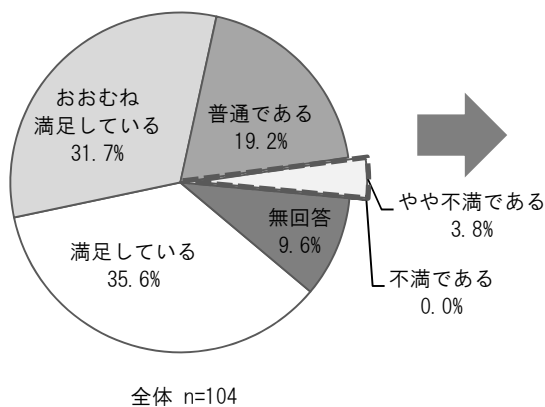
○現在利用している施設への満足度をみると、「満足している」(35.6%)と「おおむね満足している」(31.7%)を合わせた約7割が満足している状況です。一方で、「やや不満である」と回答した方は3.8%いる状況です。(「不満である」は0%)

○施設や職員に不満や要望があるときに、直接不満を言えるかでは、「やや不満である」と回答した全員が「言えない」と回答しています。

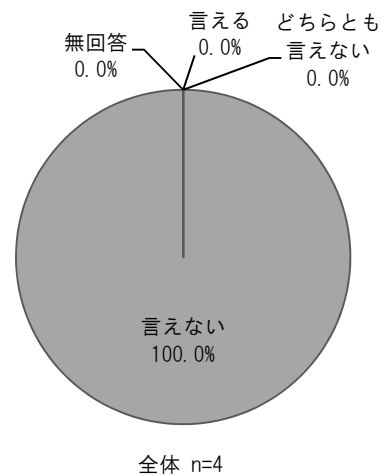
問13 施設サービスを利用してよかったと思うこと



問14 現在利用している施設への満足度



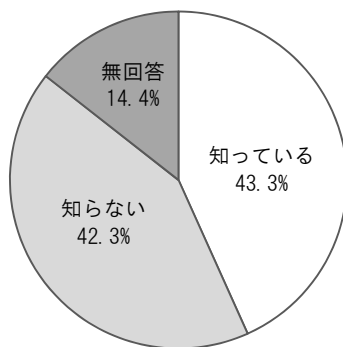
問14-1 施設や職員に不満や要望がある時に、直接不満を言えるか



○介護相談員を知っているかでは、「知っている」(43.3%)、「知らない」(42.3%)となっています。

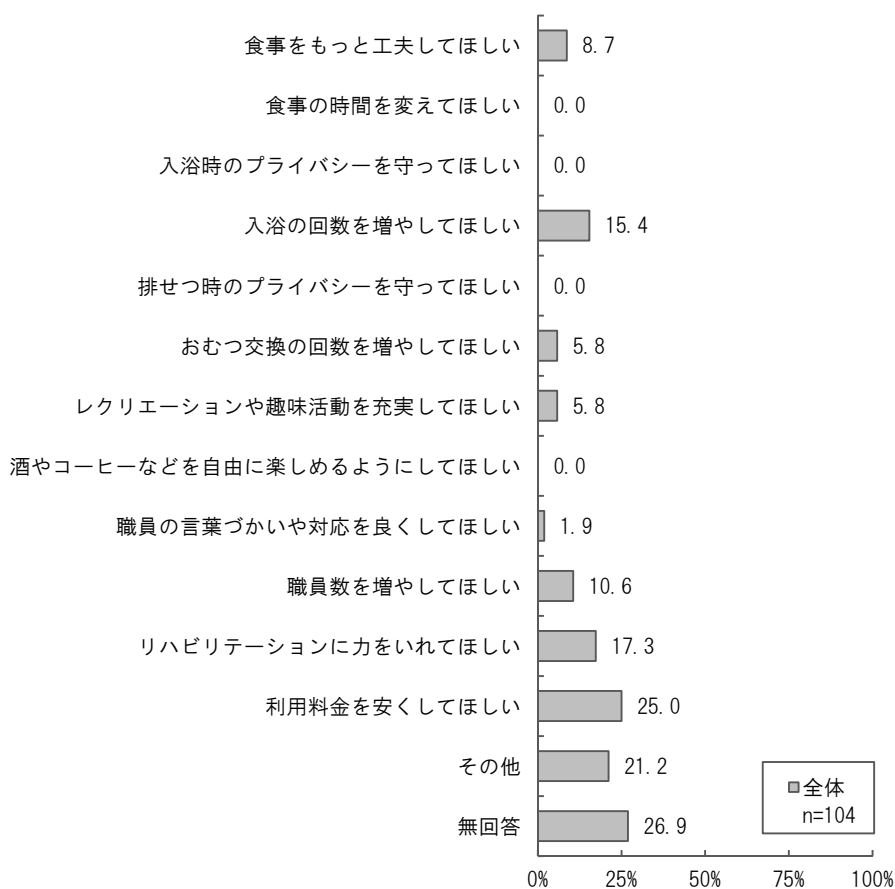
○現在の施設で改善してほしいことをみると、「利用料金を安くしてほしい」(25.0%)が最も高く、「リハビリテーションに力をいれてほしい」(17.3%)、「入浴の回数を増やしてほしい」(15.4%)、「職員数を増やしてほしい」(10.6%)で割合が高くなっています。

問15 介護相談員を知っているか



全体 n=104

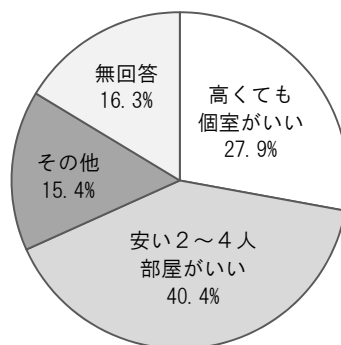
問16 現在の施設で改善してほしいこと



○個室の利用についての考えをみると、「高くても個室がいい」(27.9%)、「安い2～4人部屋がいい」(40.4%)となっています。

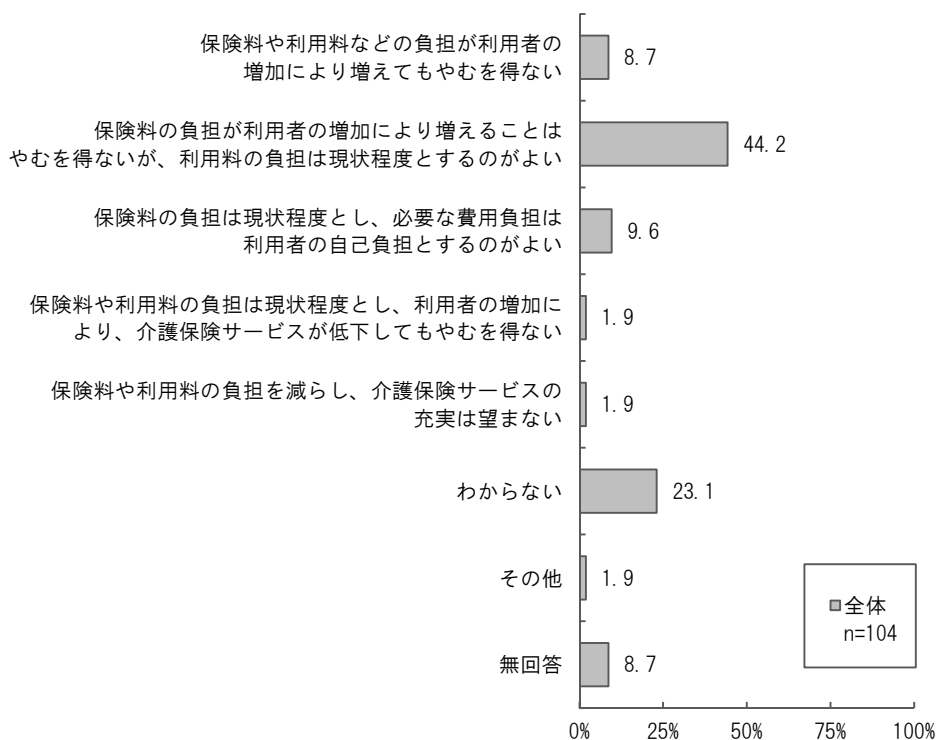
○介護サービスの水準と保険料についてみると、「保険料の負担が利用者の増加により増えることはやむを得ないが、利用料の負担は現状程度とするのがよい」(44.2%)が最も高くなっています。また、「わからない」と回答した方も23.1%いる状況です。

問17 個室の利用についての考え



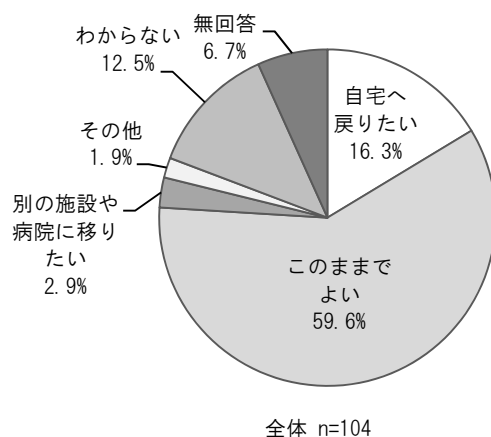
全体 n=104

問18 介護サービスの水準と保険料について



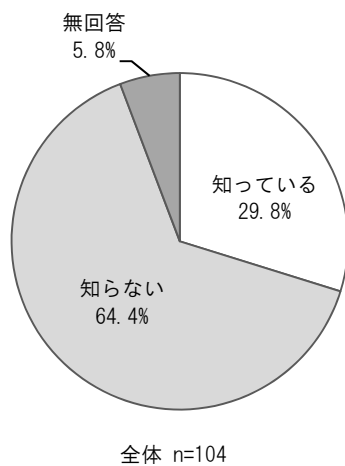
○今後、どこで介護を受けたいかをみると、「このままでよい」(59.6%)が最も高く、「自宅へ戻りたい」(16.3%)、「別の施設や病院に移りたい」(2.9%)となっています。

問19 今後、どこで介護を受けたいか



○高齢者や家族のための相談窓口が設置されていることを知っているかでは、「知っている」(29.8%)、「知らない」(64.4%)となっています。

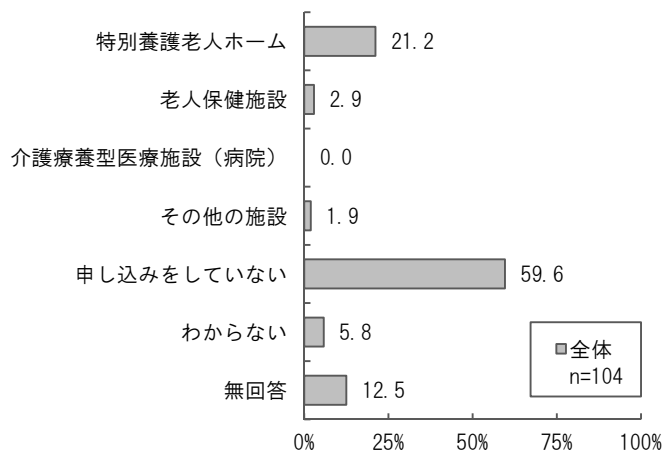
問21 高齢者や家族のための相談窓口が設置されていることを知っているか



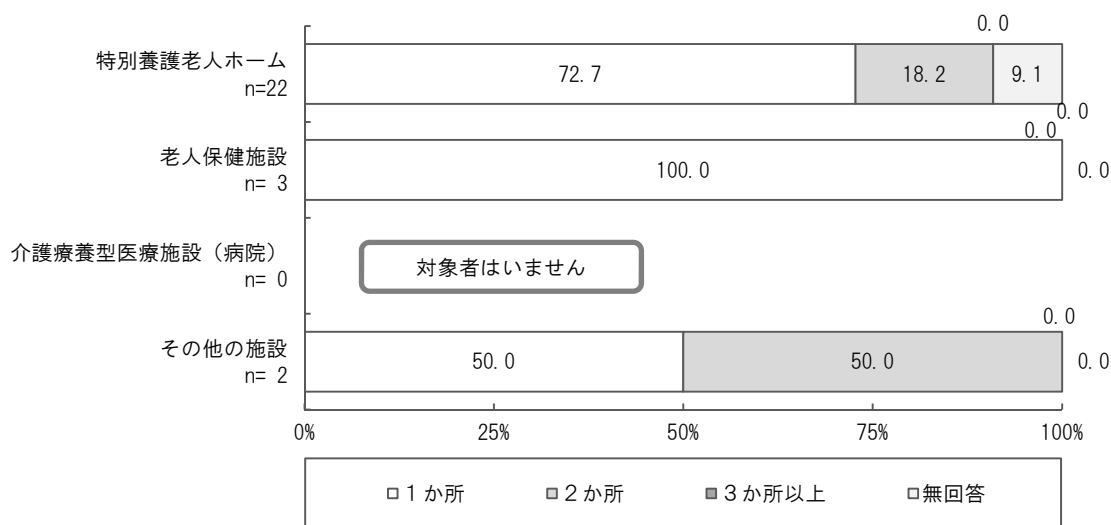
○別の施設へ移るために、入所の申し込みをしているかをみると、「申し込みをしていない」(59.6%)が最も高く、「特別養護老人ホーム」(21.2%)、「老人保健施設」(2.9%)となっています。

○申し込みをしている施設数をみると、いずれの施設も「1か所」が最も高くなっています。

問20 別の施設へ移るために、入所の申し込みをしているか



問20.1 申し込みをしている場合、何か所申し込んでいるか



第5章

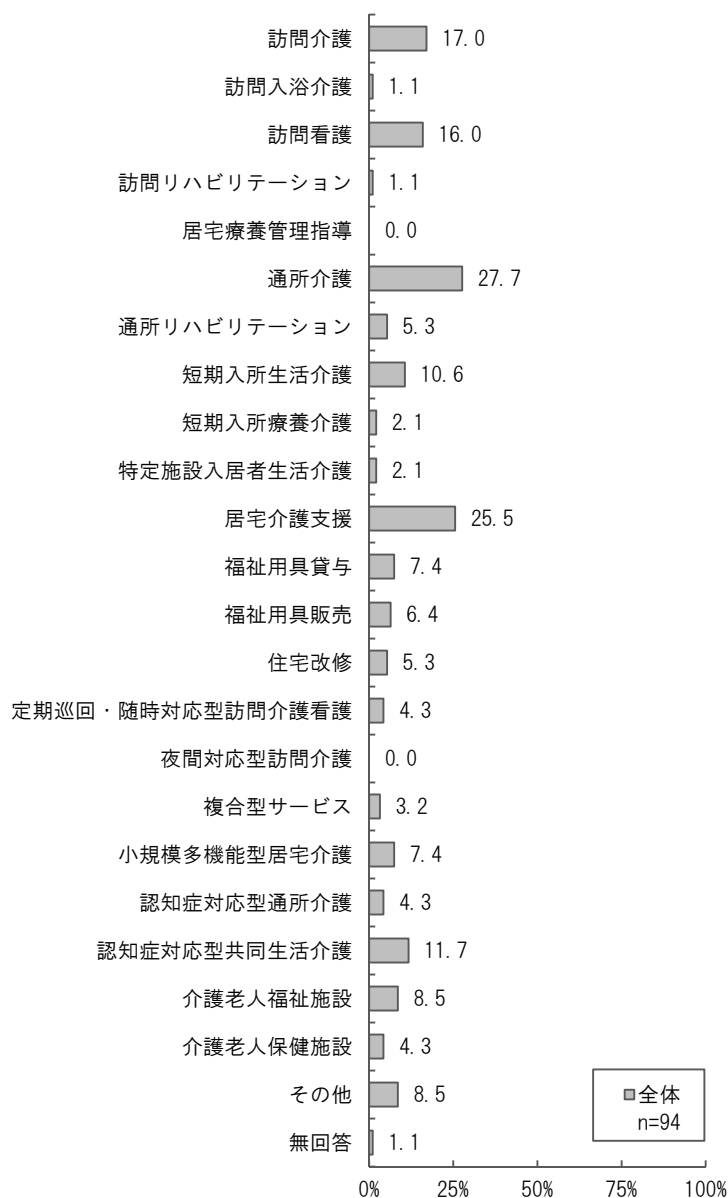
介護サービス提供事業者実態調査結果

第5章 介護サービス提供事業者実態調査結果

1 貴事業所について

○提供しているサービスの種類をみると、「通所介護」(27.7%)が最も高く、次いで「居宅介護支援」(25.5%)、「訪問介護」(17.0%)、「訪問看護」(16.0%)となっています。

問1 提供しているサービスの種類

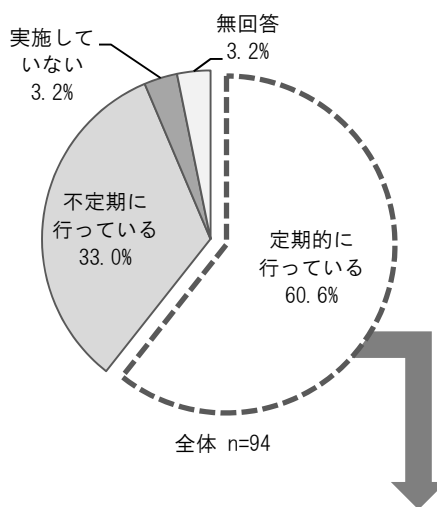


2 人材教育・質の向上について

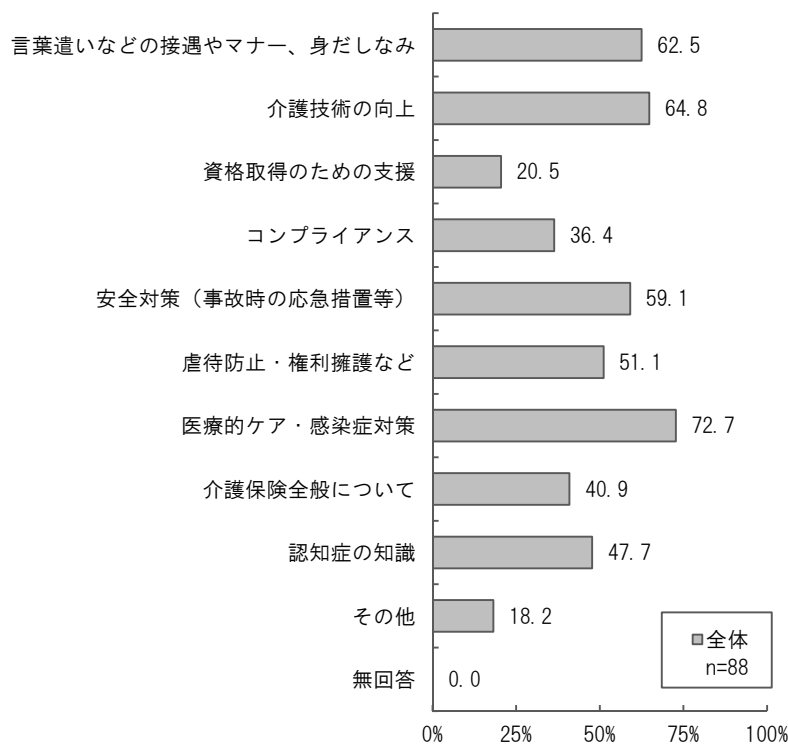
○職員の内部研修は実施されているかをみると、「定期的に行っている」(60.6%)、「不定期に行っている」(33.0%)、「実施していない」(3.2%)となっています。

○実施または参加した研修の内容をみると、「医療的ケア・感染症対策」(72.7%)が最も高く、「介護技術の向上」(64.8%)、「言葉遣いなどの接遇やマナー、身だしなみ」(62.5%)、「安全対策(事故時の応急措置等)」(59.1%)、「虐待防止・権利擁護など」(51.1%)となっています。

問2 職員の内部研修は実施されているか



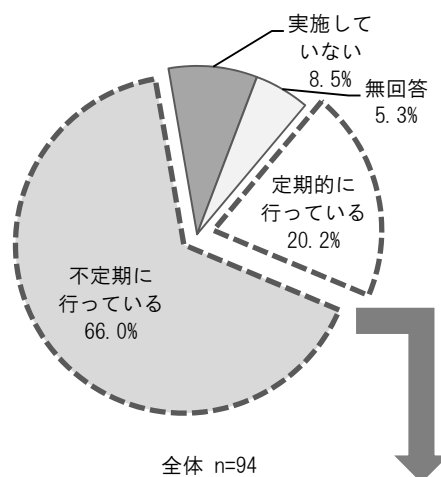
問2-1 実施または参加した研修の内容



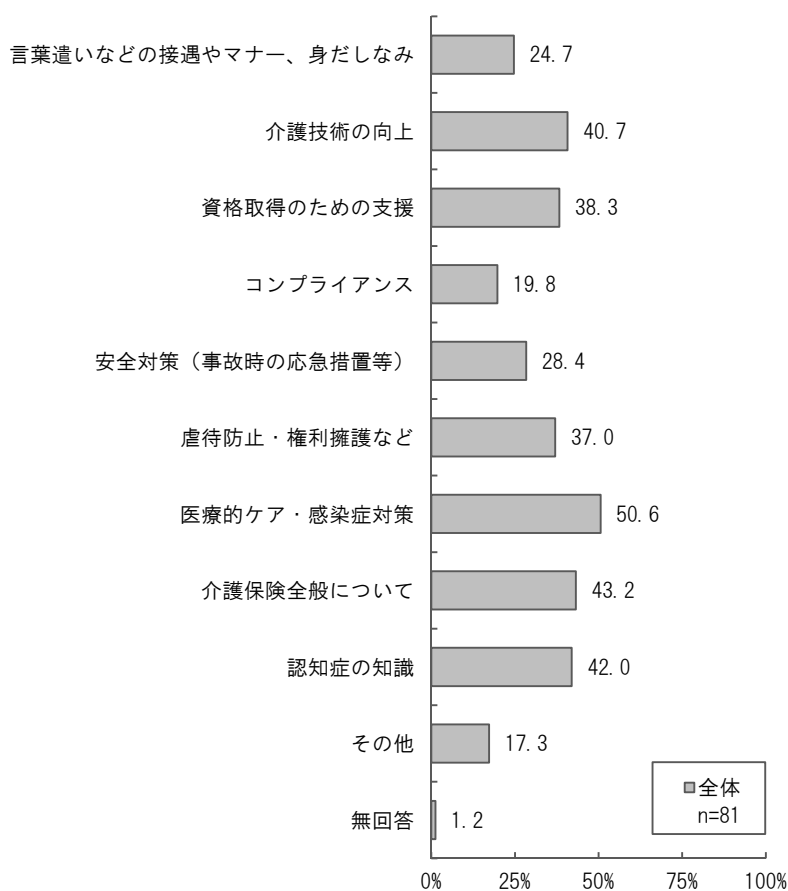
○職員の外部研修は実施されているかをみると、「定期的に行っている」(20.2%)、「不定期に行っている」(66.0%)、「実施していない」(8.5%)となっています。

○実施または参加した研修の内容をみると、「医療的ケア・感染症対策」(50.6%)が最も高く、「介護保険全般について」(43.2%)、「認知症の知識」(42.0%)、「介護技術の向上」(40.7%)、「資格取得のための支援」(38.3%)となっています。

問3 職員の外部研修は実施されているか



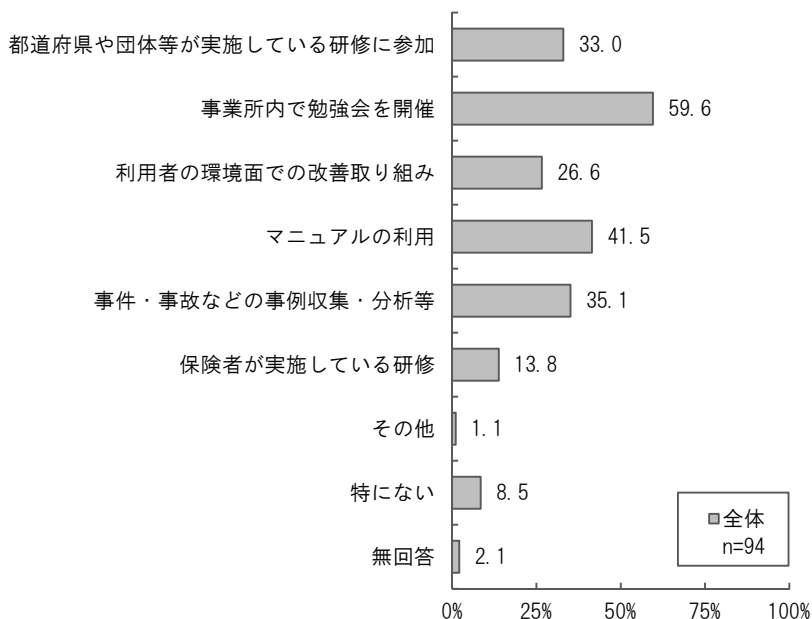
問3-1 実施または参加した研修の内容



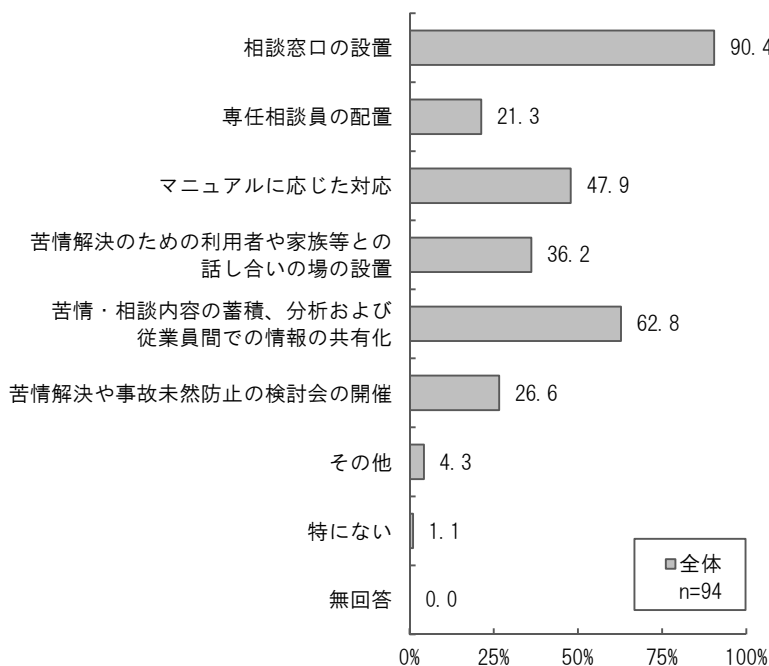
○高齢者虐待防止・身体拘束禁止への取り組みをみると、「事業所内で勉強会を開催」(59.6%)が最も高く、次いで「マニュアルの利用」(41.5%)、「事件・事故などの事例収集・分析等」(35.1%)となっています。

○苦情解決や事故防止のために行っている取り組みをみると、「相談窓口の設置」(90.4%)が最も高く、次いで「苦情・相談内容の蓄積、分析および従業員間での情報の共有化」(62.8%)、「マニュアルに応じた対応」(47.9%)となっています。

問4 高齢者虐待防止・身体拘束禁止への取り組み



問5 苦情解決や事故防止のために行っている取り組み

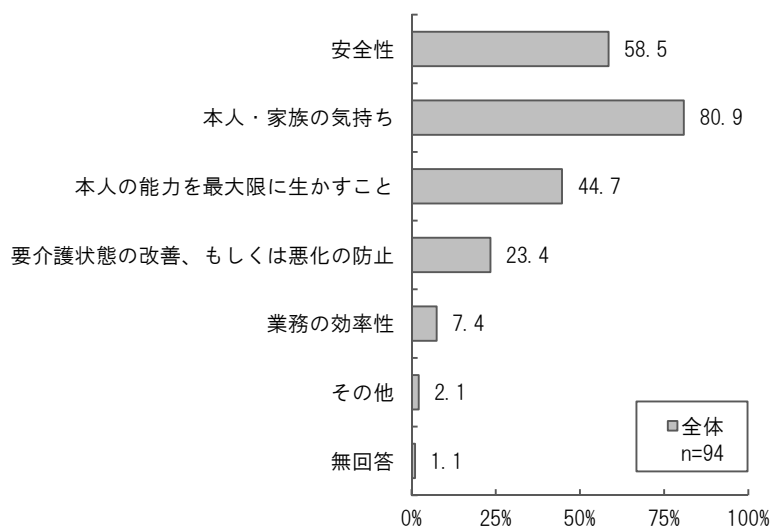


3 業務について

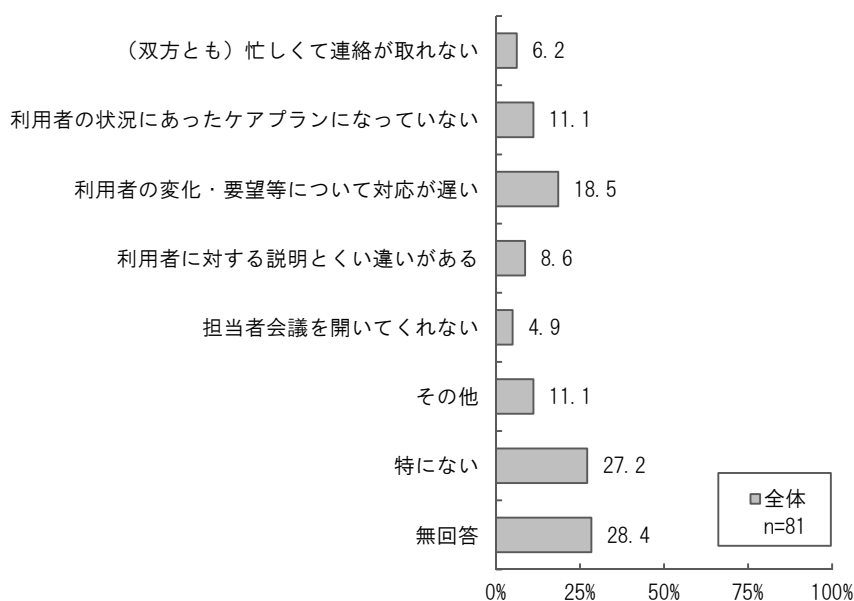
○業務において、どのような視点に重きを置いているかをみると、「本人・家族の気持ち」（80.9%）が最も高く、次いで「安全性」（58.5%）、「本人の能力を最大限に生かすこと」（44.7%）となっています。

○居宅介護支援事業所との関係において、問題点と感ずることをみると、「特にない」（27.2%）が最も高く、次いで「利用者の変化・要望等について対応が遅い」（18.5%）、「利用者の状況にあったケアプランになっていない」（11.1%）となっています。

問6 業務において、どのような視点に重きを置いているか



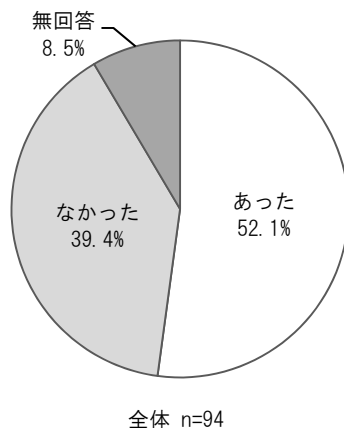
問7 居宅介護支援事業所との関係において、問題点と感ずること
【特養、老健、グループホーム、小規模多機能型居宅介護以外の事業者の方】



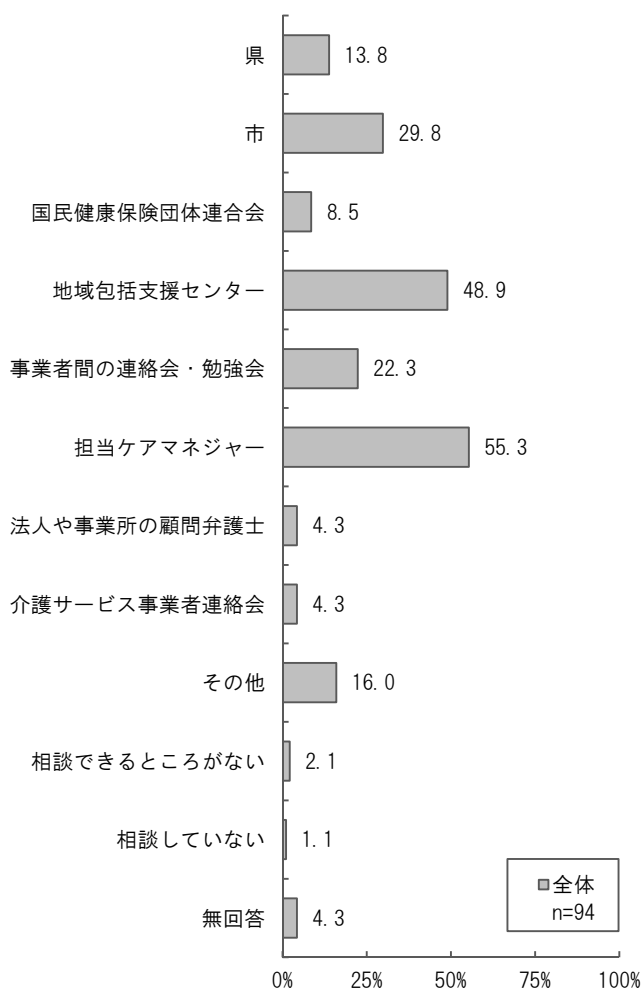
○介護の困難な事例だと思うケースはあったかでは、「あった」(52.1%)、「なかった」(39.4%)となっています。

○業務を進めるうえで困った時の相談場所をみると、「担当ケアマネジャー」(55.3%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(48.9%)、「市」(29.8%)となっています。

問8 介護の困難な事例だと思うケースはあったか



問9 業務を進めるうえで困った時の相談場所

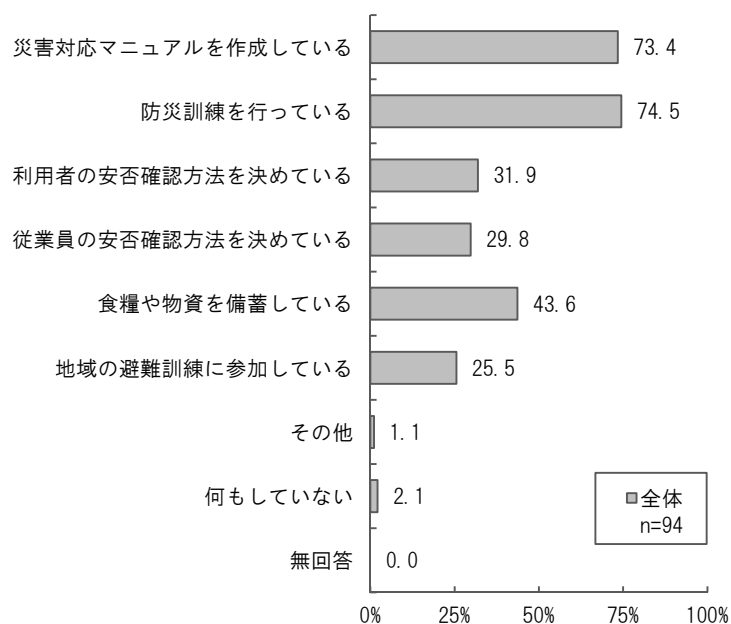


4 災害対策について

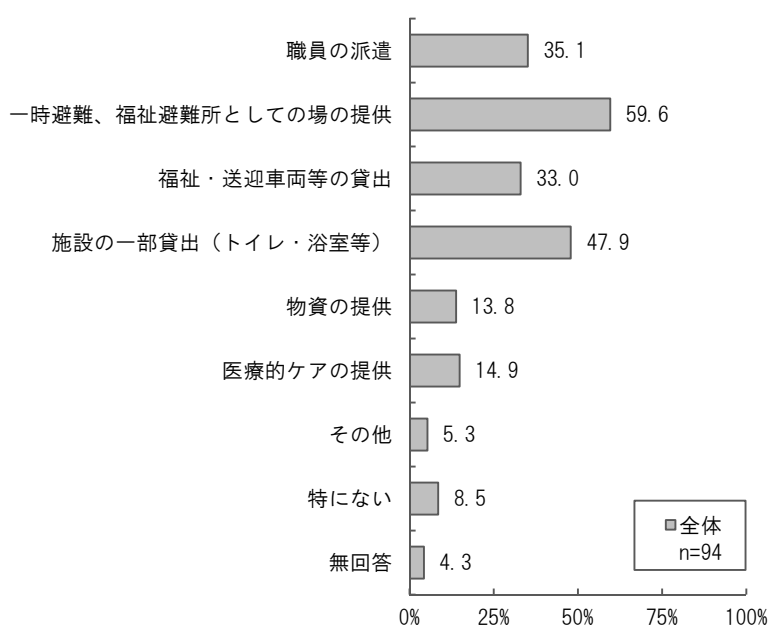
○災害が発生した時のための対策をみると、「防災訓練を行っている」(74.5%)、「災害対応マニュアルを作成している」(73.4%)で高くなっています。

○災害が発生した時、事業所として地域のために提供できる支援をみると、「一時避難、福祉避難所としての場の提供」(59.6%)が最も高く、次いで「施設の一部貸出(トイレ・浴室等)」(47.9%)、「職員の派遣」(35.1%)となっています。

問10 災害が発生した時のための対策



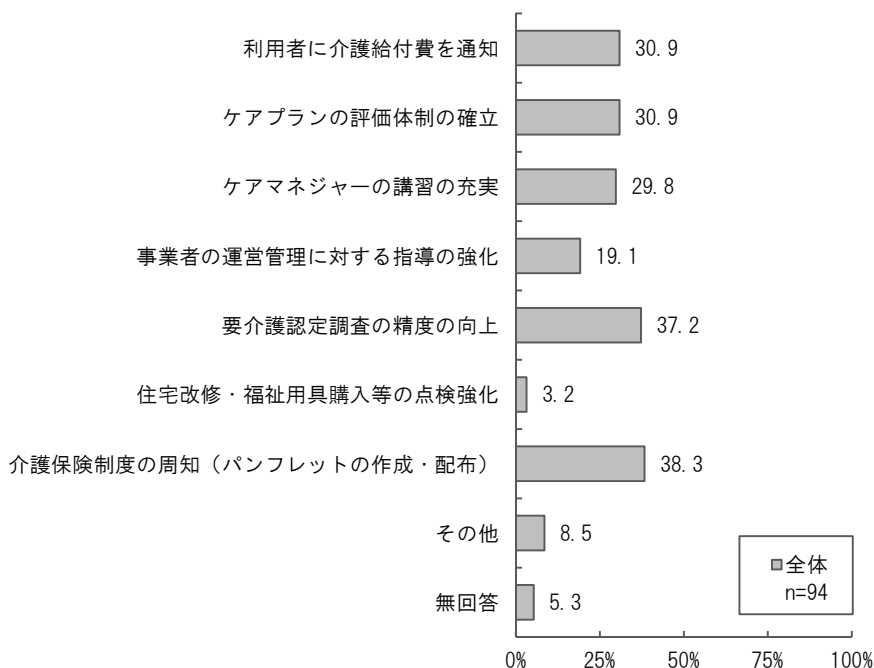
問11 災害が発生した時、事業所として地域のために提供できる支援



5 給付の適正化について

○介護給付や予防給付の適正化に向けて、大切だと思うことをみると、「介護保険制度の周知（パンフレットの作成・配布）」（38.3%）、「要介護認定調査の精度の向上」（37.2%）、「利用者介護給付費を通知」「ケアプランの評価体制の確立」（各 30.9%）、「ケアマネジャーの講習の充実」（29.8%）で高くなっています。

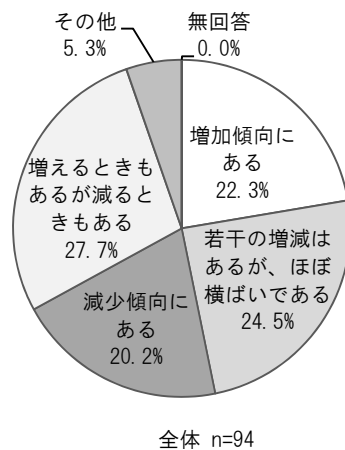
問12 介護給付や予防給付の適正化に向けて、大切だと思うこと



6 事業運営について

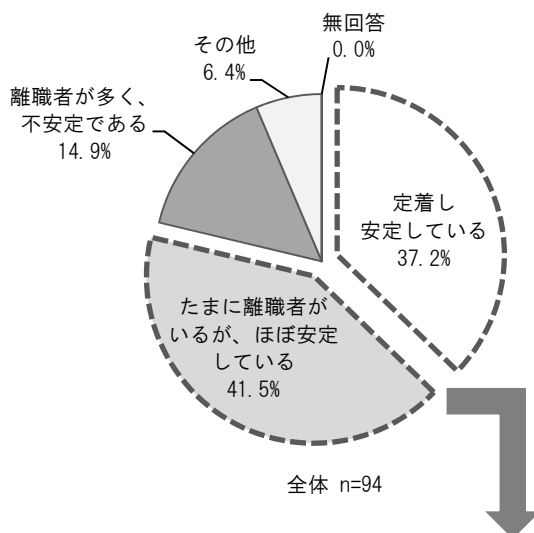
○事業所の利用者数の状況をみると、「増えるときもあるが減るときもある」（27.7%）が最も高く、次いで「若干の増減はあるが、ほぼ横ばいである」（24.5%）、「増加傾向にある」（22.3%）、「減少傾向にある」（20.2%）となっています。

問13 事業所の利用者数の状況

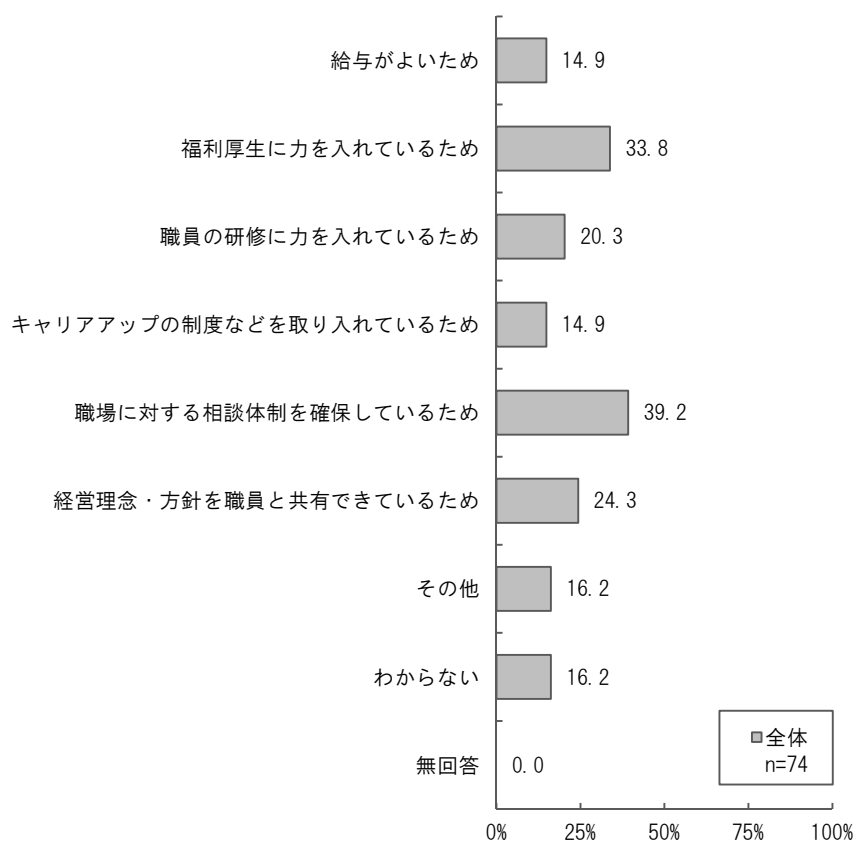


○職員の定着についての状況をみると、「定着し安定している」(37.2%)と「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」(41.5%)を合わせた約8割が安定していると回答しています。

問14 職員の定着についての状況



問14-1 職員の定着率が良い主な理由

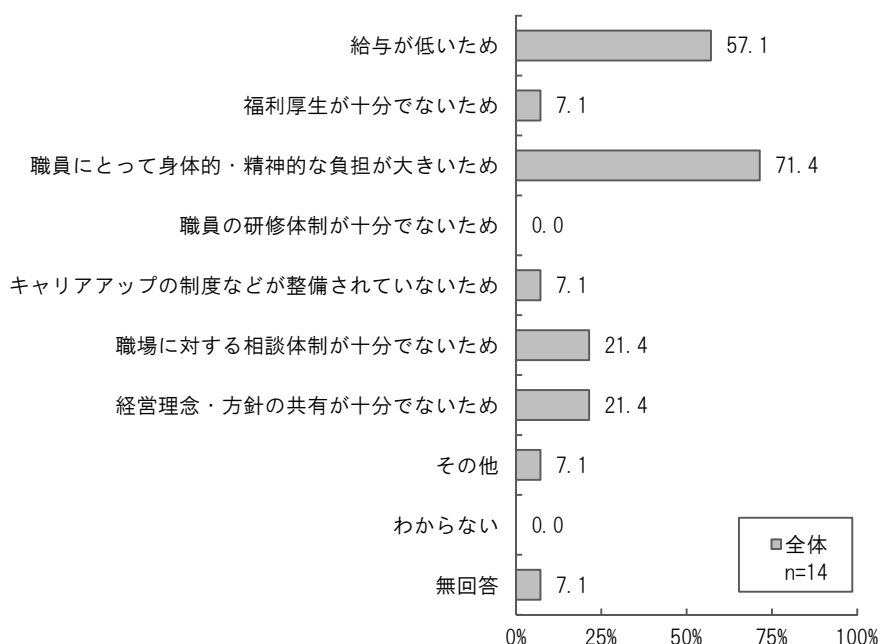


○職員の定着率が悪い主な理由をみると、「職員にとって身体的・精神的な負担が大きいため」(71.4%)が最も高く、次いで「給与が低いため」(57.1%)、「職場に対する相談体制が十分でないため」「経営理念・方針の共有が十分でないため」(各21.4%)となっています。

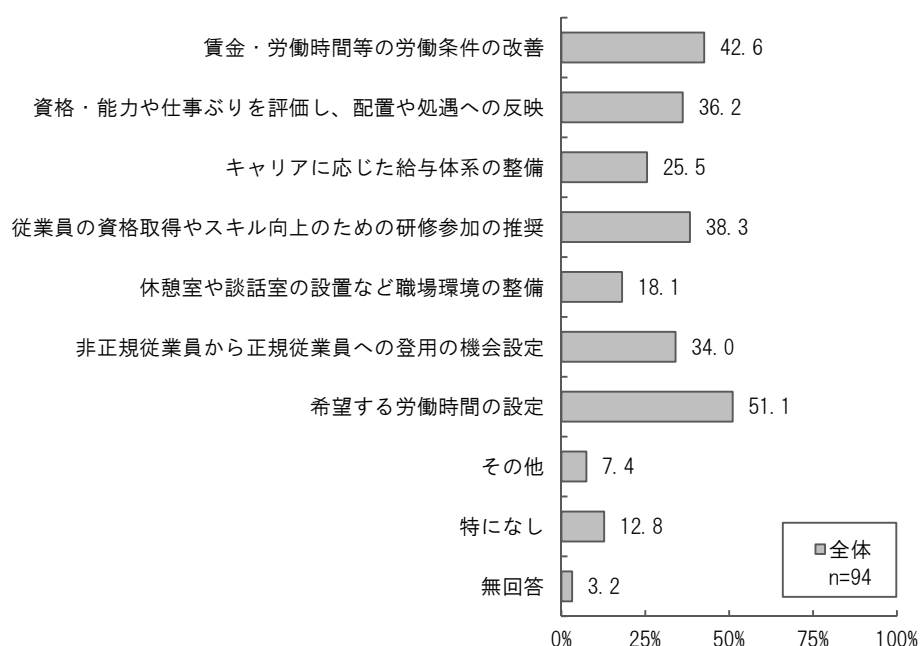
○人材を定着させるために取り組んでいることをみると、「希望する労働時間の設定」(51.1%)が最も高く、次いで「賃金・労働時間等の労働条件の改善」(42.6%)、「従業員の資格取得やスキル向上のための研修参加の推奨」(38.3%)となっています。

問14-2 職員の定着率が悪い主な理由

【問14において「3. 離職者が多く、不安定である」に回答の方】

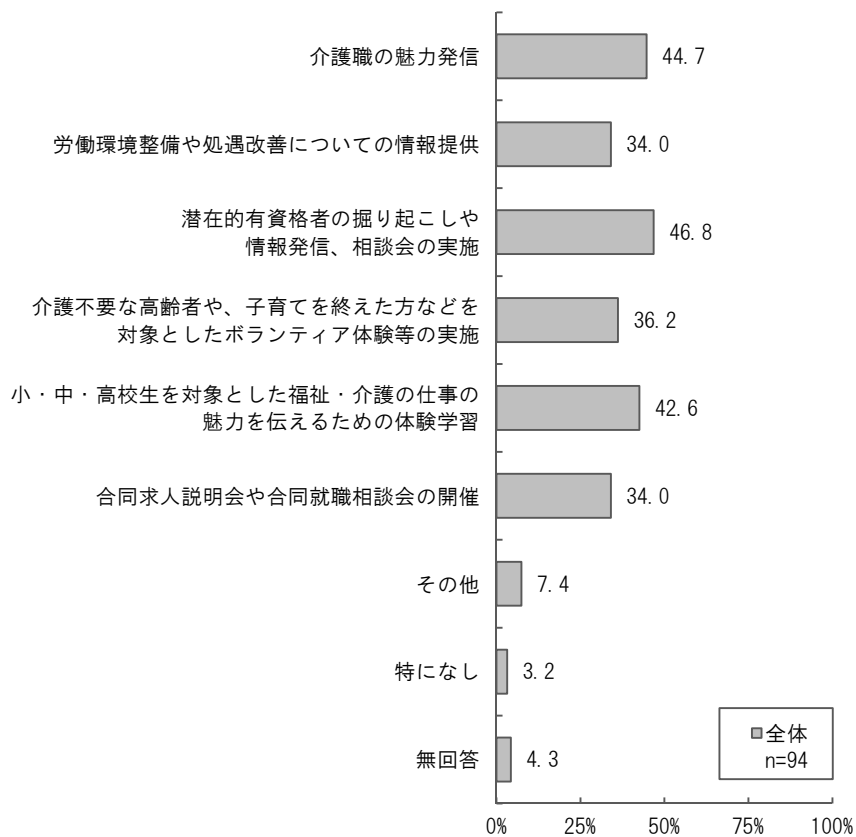


問15 人材を定着させるために取り組んでいること



○介護人材確保のために、行政に支援してほしいことをみると、「潜在的有資格者の掘り起こしや情報発信、相談会の実施」(46.8%)が最も高く、次いで「介護職の魅力発信」(44.7%)、「小・中・高校生を対象とした福祉・介護の仕事の魅力を伝えるための体験学習」(42.6%)となっています。

問16 介護人材確保のために、行政に支援してほしいこと



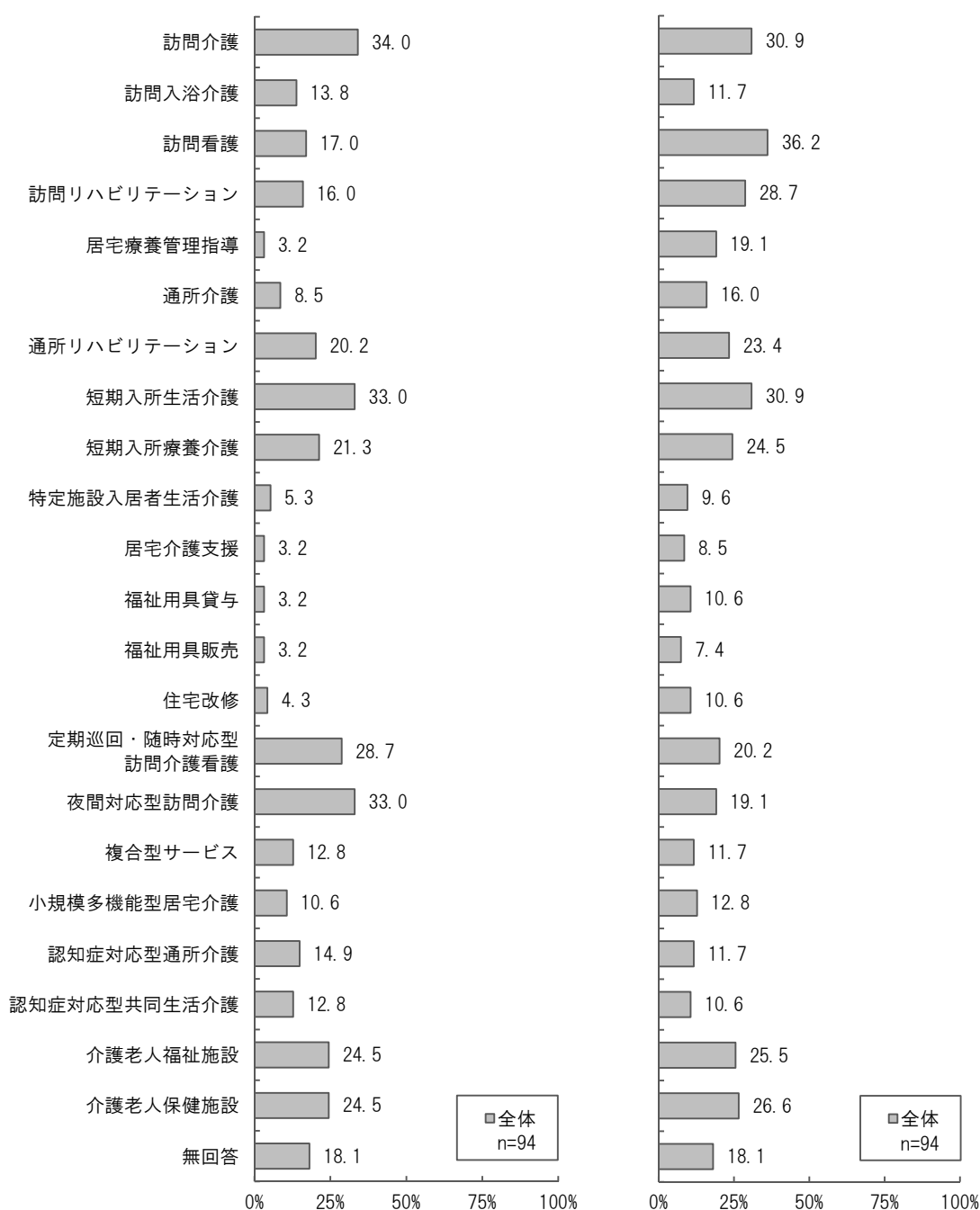
7 サービスについて

○市内で供給が不足していると感じるサービスをみると、「訪問介護」(34.0%)が最も高く、次いで「短期入所生活介護」「夜間対応型訪問介護」(各 33.0%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(28.7%)となっています。

○今後需要が増えると見込まれる介護サービスをみると、「訪問看護」(36.2%)が最も高く、次いで「訪問介護」「短期入所生活介護」(各 30.9%)、「訪問リハビリテーション」(28.7%)となっています。

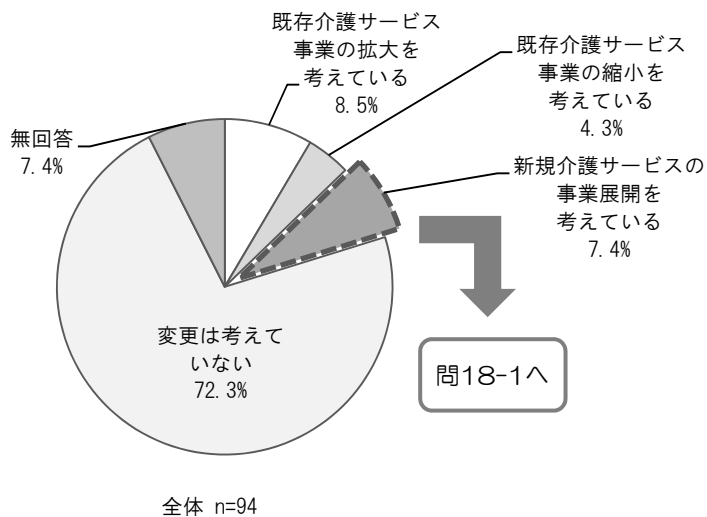
問17(1) 市内で供給が不足していると感じる介護サービス

問17(2) 今後需要が増えると見込まれる介護サービス



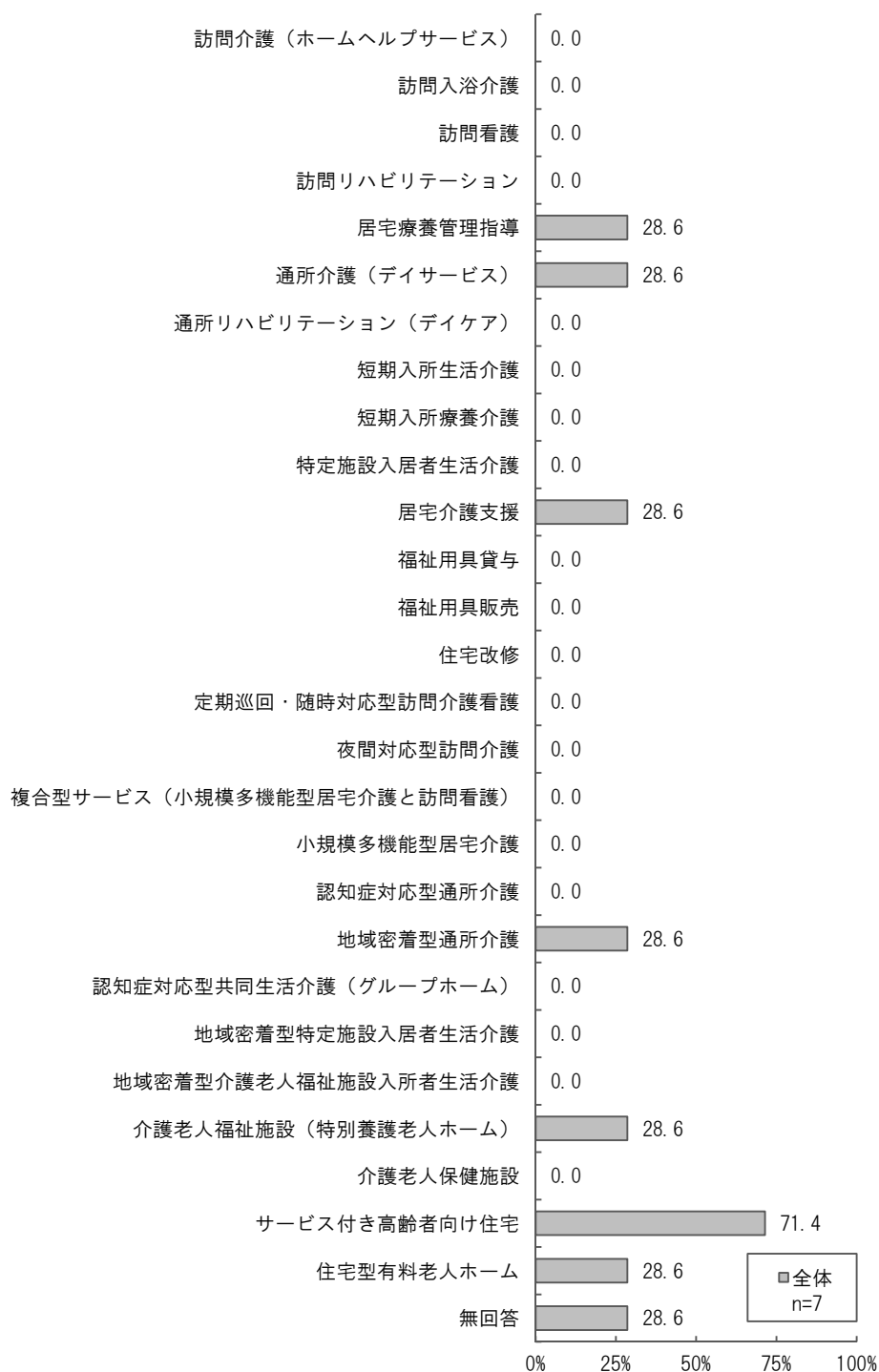
○既存介護サービスの拡大・縮小や新規介護サービス事業展開の考えをみると、「変更は考えていない」が約7割以上を占めています。

問18 既存介護サービスの拡大・縮小や新規介護サービス事業展開の考え



○新規介護サービスの事業展開の事業をみると、「サービス付き高齢者向け住宅」(71.4%)が最も高く、次いで「居宅療養管理指導」「通所介護(デイサービス)」「居宅介護支援」「地域密着型通所介護」「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」「住宅型有料老人ホーム」(各28.6%)となっています。

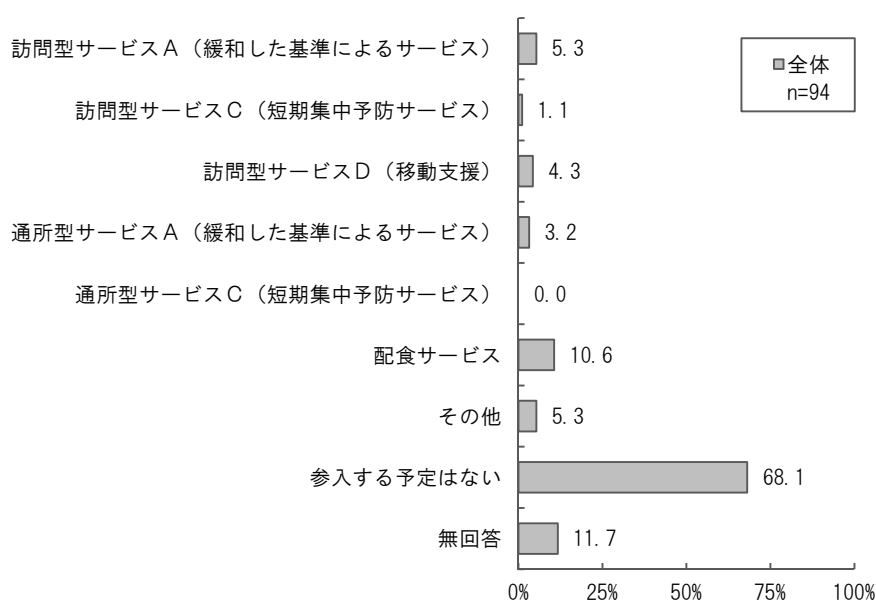
問18-1 新規介護サービスの事業展開の事業



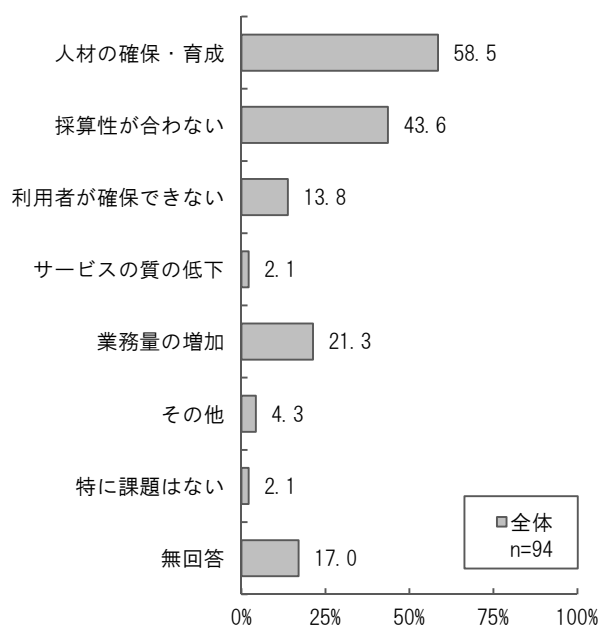
○事業の緩和サービス、短期集中予防サービスに参入する意向があるものをみると、「参入する予定はない」(68.1%)が最も高く、次いで、「配食サービス」(10.6%)、「訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)」(5.3%)、「訪問型サービスD(移動支援)」(4.3%)となっています。

○事業の緩和サービス、短期集中予防サービスへの参入にあたっての課題をみると、「人材の確保・育成」(58.5%)が最も高く、次いで「採算性が合わない」(43.6%)、「業務量の増加」(21.3%)となっています。

問19 事業の緩和サービス、短期集中予防サービスに参入する意向があるもの



問20 事業の緩和サービス、短期集中予防サービスへの参入にあたっての課題

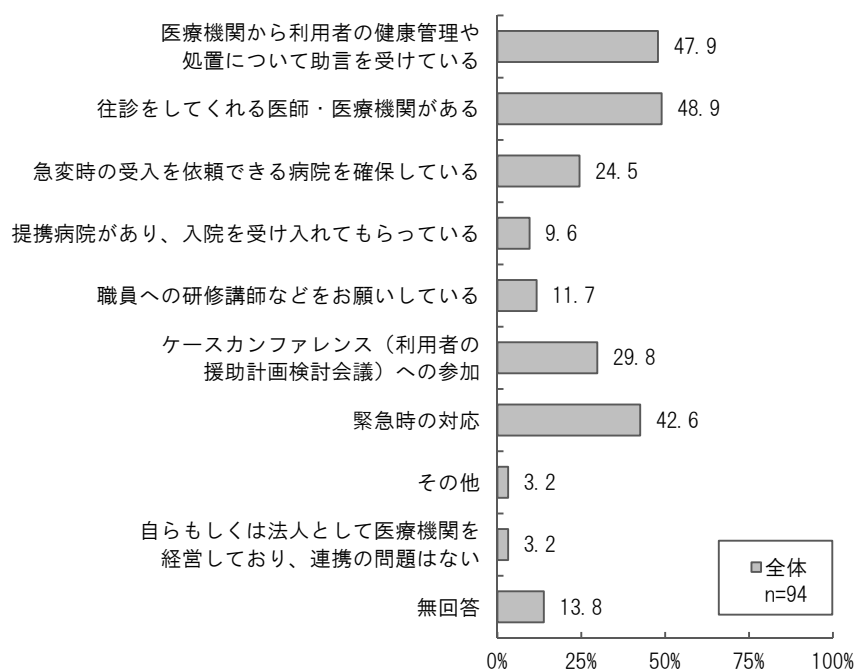


8 関係機関との連携について

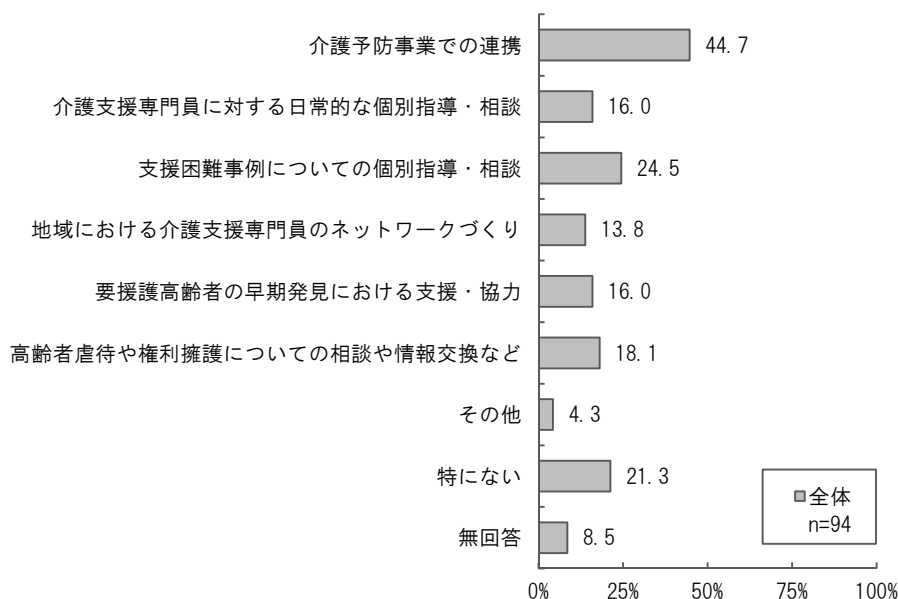
○医療機関との連携について取り組んでいることをみると、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」(48.9%)が最も高く、次いで「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」(47.9%)、「緊急時の対応」(42.6%)となっています。

○地域包括支援センターとの連携について取り組んでいることをみると、「介護予防事業での連携」(44.7%)が最も高く、次いで「支援困難事例についての個別指導・相談」(24.5%)、「特にない」(21.3%)となっています。

問21 医療機関との連携について取り組んでいること



問22 地域包括支援センターとの連携について取り組んでいること

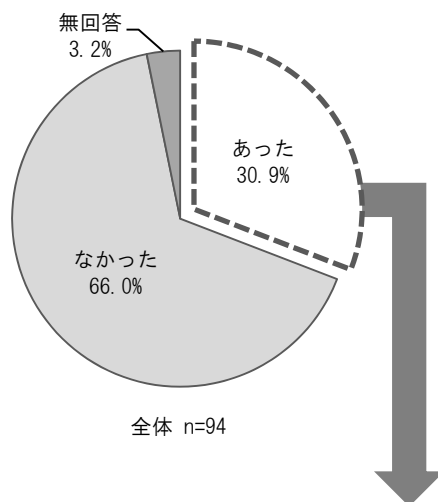


9 高齢者虐待について

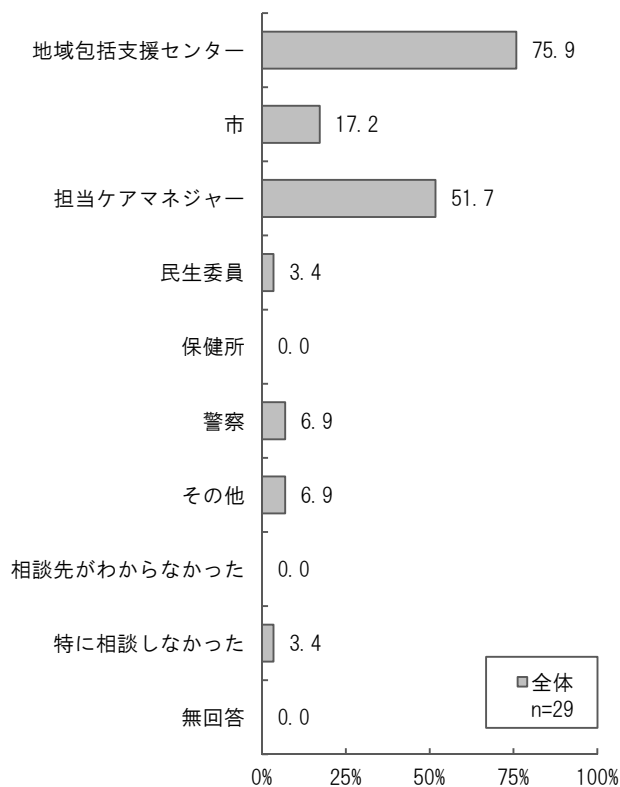
○家庭内における高齢者虐待の事例を経験（担当）したことがあるかをみると、「あった」（30.9%）、「なかった」（66.0%）となっています。

○高齢者虐待をどこに相談したかをみると、「地域包括支援センター」（75.9%）が最も高く、次いで「担当ケアマネジャー」（51.7%）、「市」（17.2%）となっています。

問23 家庭内における高齢者虐待の事例を経験（担当）したことがあるか

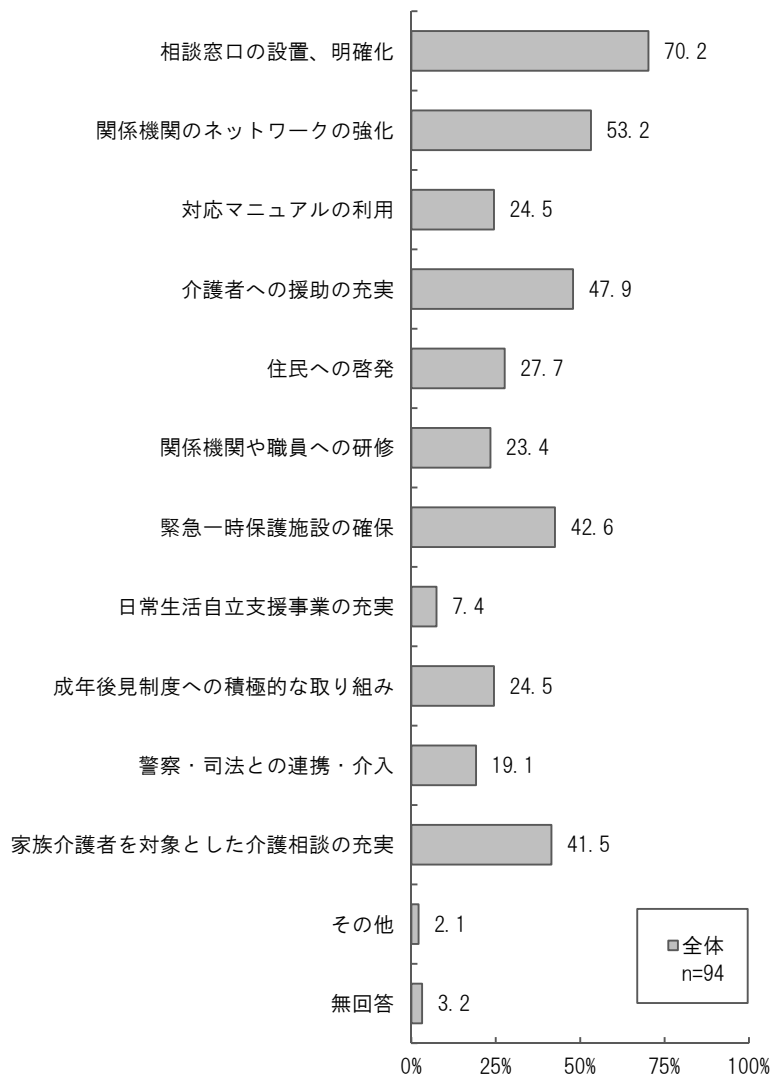


問23-1 高齢者虐待をどこに相談したか



○高齢者虐待への対応として必要だと思う制度や仕組みをみると、「相談窓口の設置、明確化」(70.2%)が最も高く、次いで「関係機関のネットワークの強化」(53.2%)、「介護者への援助の充実」(47.9%)となっています。

問24 高齢者虐待への対応として必要だと思う制度や仕組み

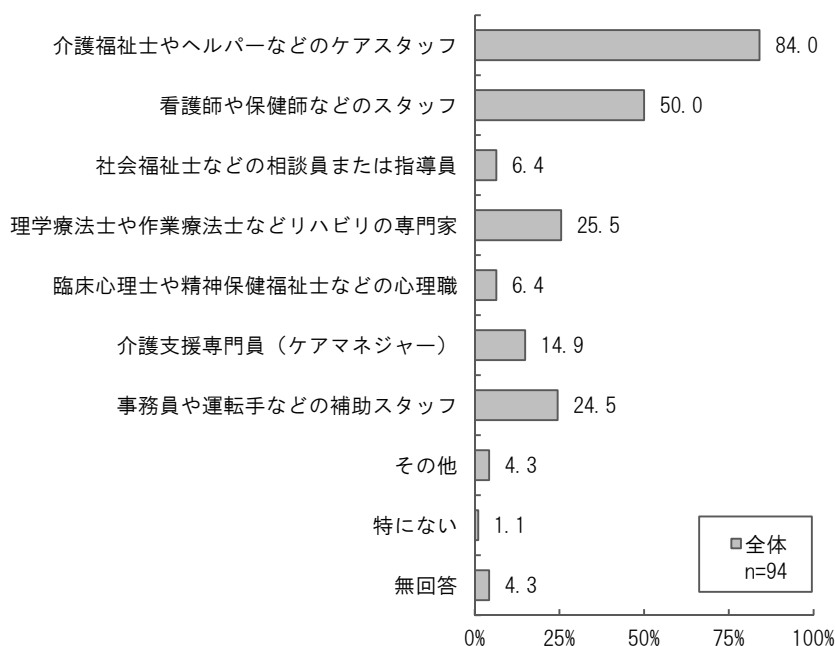


10 今後の介護サービスについて

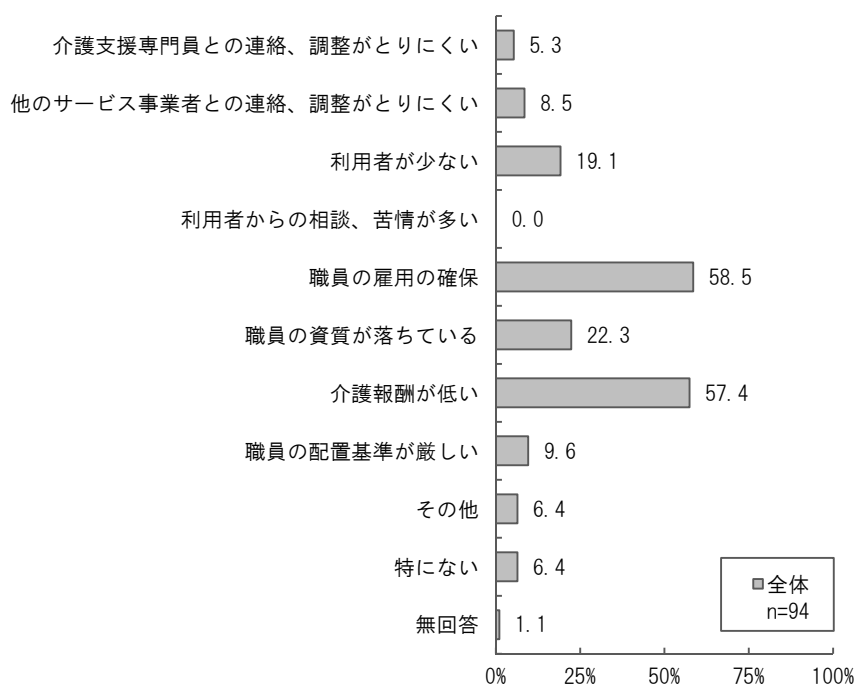
○現在不足していると思われる職種をみると、「介護福祉士やヘルパーなどのケアスタッフ」(84.0%)が最も高く、次いで「看護師や保健師などのスタッフ」(50.0%)、「理学療法士や作業療法士などリハビリの専門家」(25.5%)、「事務員や運転手などの補助スタッフ」(24.5%)となっています。

○介護保険事業に関わる事業者として、問題点と感じていることをみると、「職員の雇用の確保」(58.5%)が最も高く、次いで「介護報酬が低い」(57.4%)、「職員の資質が落ちている」(22.3%)となっています。

問25 現在不足していると思われる職種

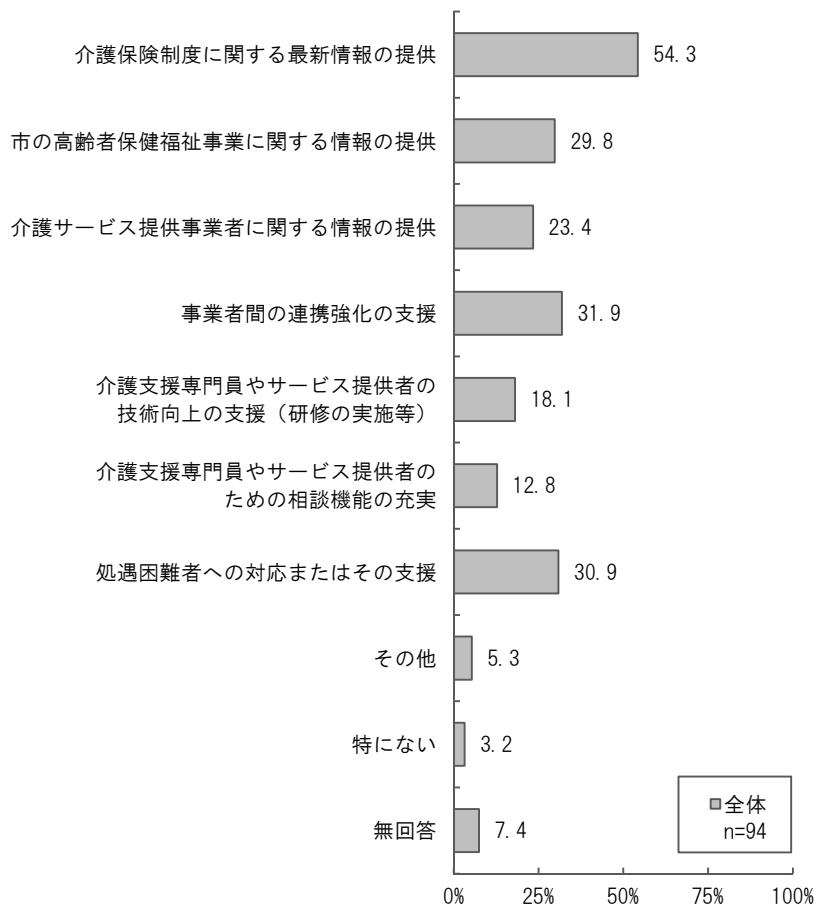


問26 介護保険事業に関わる事業者として、問題点と感じていること



○介護保険サービス事業を行ううえで、行政の支援等が必要だと思われることをみると、「介護保険制度に関する最新情報の提供」(54.3%)が最も高く、次いで「事業者間の連携強化の支援」(31.9%)、「処遇困難者への対応またはその支援」(30.9%)となっています。

問27 介護保険サービス事業を行ううえで、行政の支援等が必要だと思われること



第6章

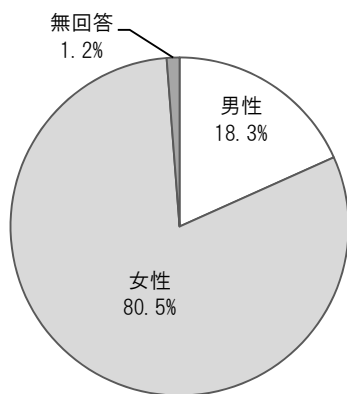
ケアマネジャー実態調査結果

第6章 ケアマネジャー実態調査結果

1 ご本人について

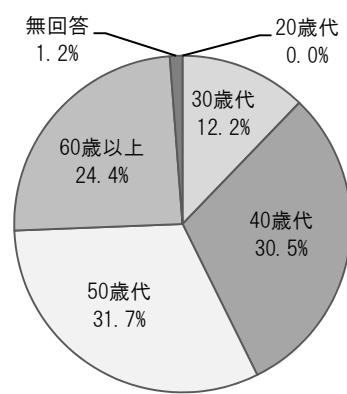
- 調査対象者の性別は、「男性」(18.3%)、「女性」(80.5%)となっています。
- 調査対象者の年齢は、「50歳代」(31.7%)が最も高く、次いで「40歳代」(30.5%)、「60歳以上」(24.4%)、「30歳代」(12.2%)となっています。
- ケアマネジャーとして働く勤務形態をみると、「常勤・専従」(65.9%)が最も高く、次いで「常勤・兼務」(17.1%)、「非常勤・専従」(13.4%)、「非常勤・兼務」(1.2%)となっています。
- ケアマネジャーとして従事している年数をみると、「15年以上」(25.6%)が最も高く、次いで「3～6年未満」(22.0%)、「6～10年未満」(20.7%)、「10～15年未満」(18.3%)となっています。

問1 調査対象者の性別



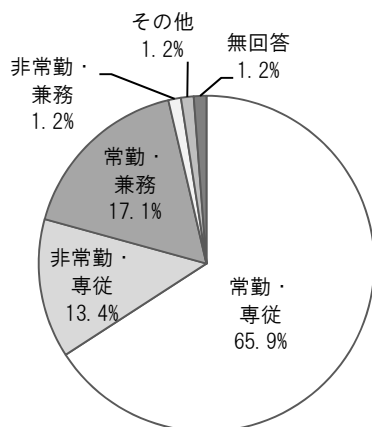
全体 n=82

問2 調査対象者の年齢



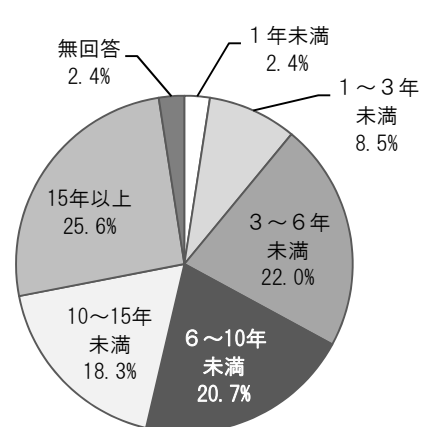
全体 n=82

問3 ケアマネジャーとして働く勤務形態



全体 n=82

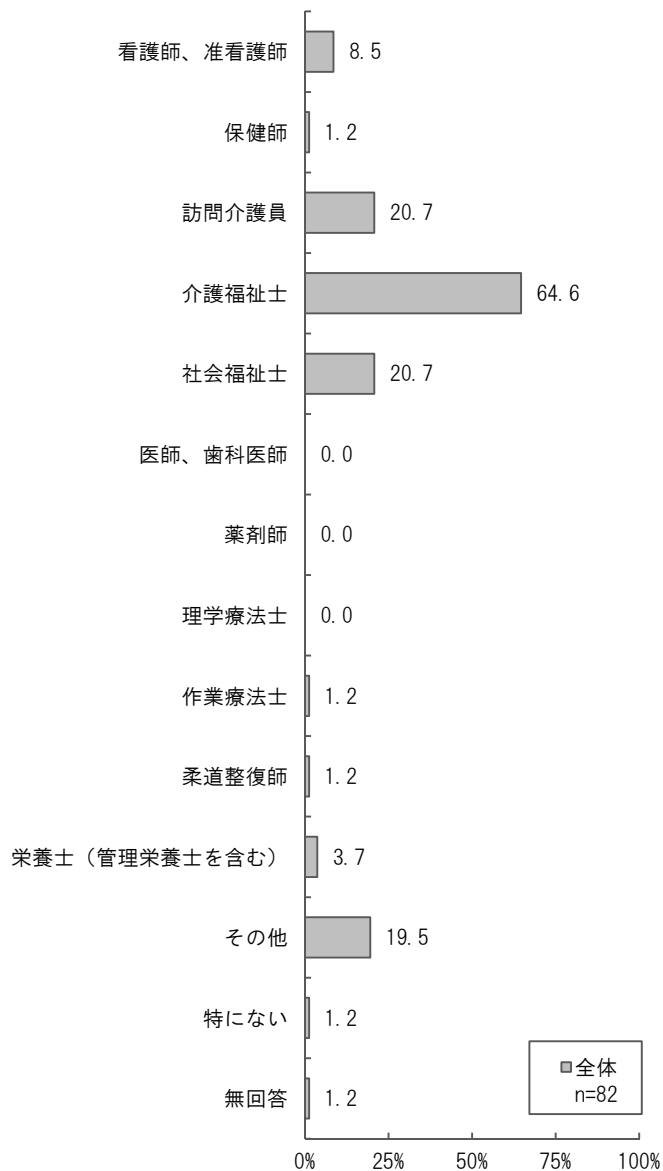
問4 ケアマネジャーとして従事している年数



全体 n=82

○ケアマネジャー以外に持っている保健医療福祉関係の資格をみると、「介護福祉士」(64.6%)が最も高く、次いで「訪問介護員」「社会福祉士」(各20.7%)となっています。

問5 ケアマネジャー以外に持っている保健医療福祉関係の資格

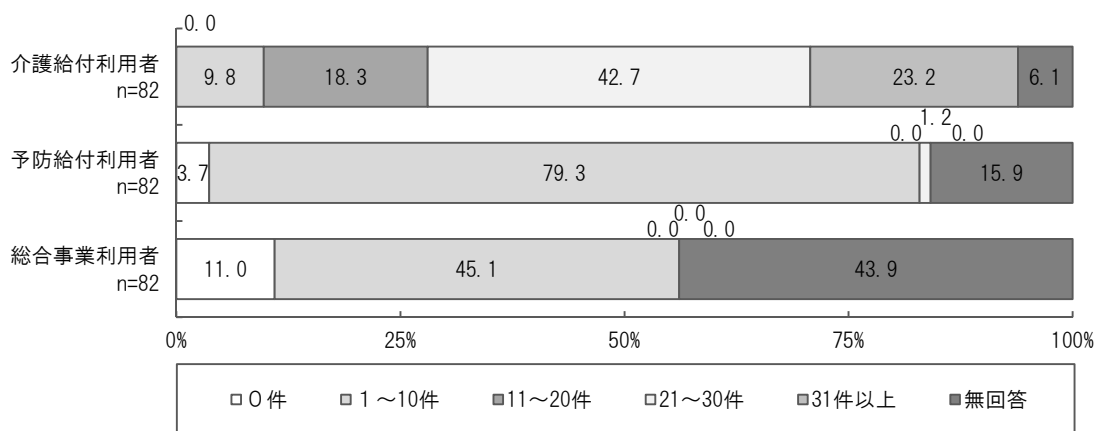


2 ケアプランの作成について

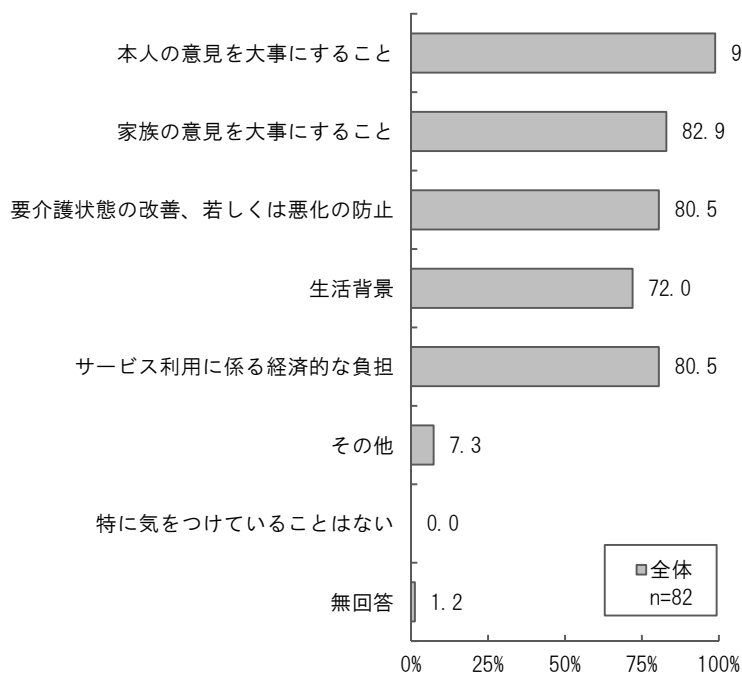
○担当しているケアプランの件数をみると、『介護給付利用者』では「21～30件」(42.7%)が最も高く、次いで「31件以上」(23.2%)となっています。『予防給付利用者』では「1～10件」(79.3%)が最も高くなっています。『総合事業利用者』では「1～10件」(45.1%)が最も高くなっています。

○ケアプランを立てる際、生活機能の状態のほかに気をつけていることをみると、「本人の意見を大事にすること」(98.8%)が最も高く、「家族の意見を大事にすること」(82.9%)、「要介護状態の改善、若しくは悪化の防止」(80.5%)、「サービス利用に係る経済的な負担」(各80.5%)、「生活背景」(72.0%)となっています。

問6 担当しているケアプランの件数

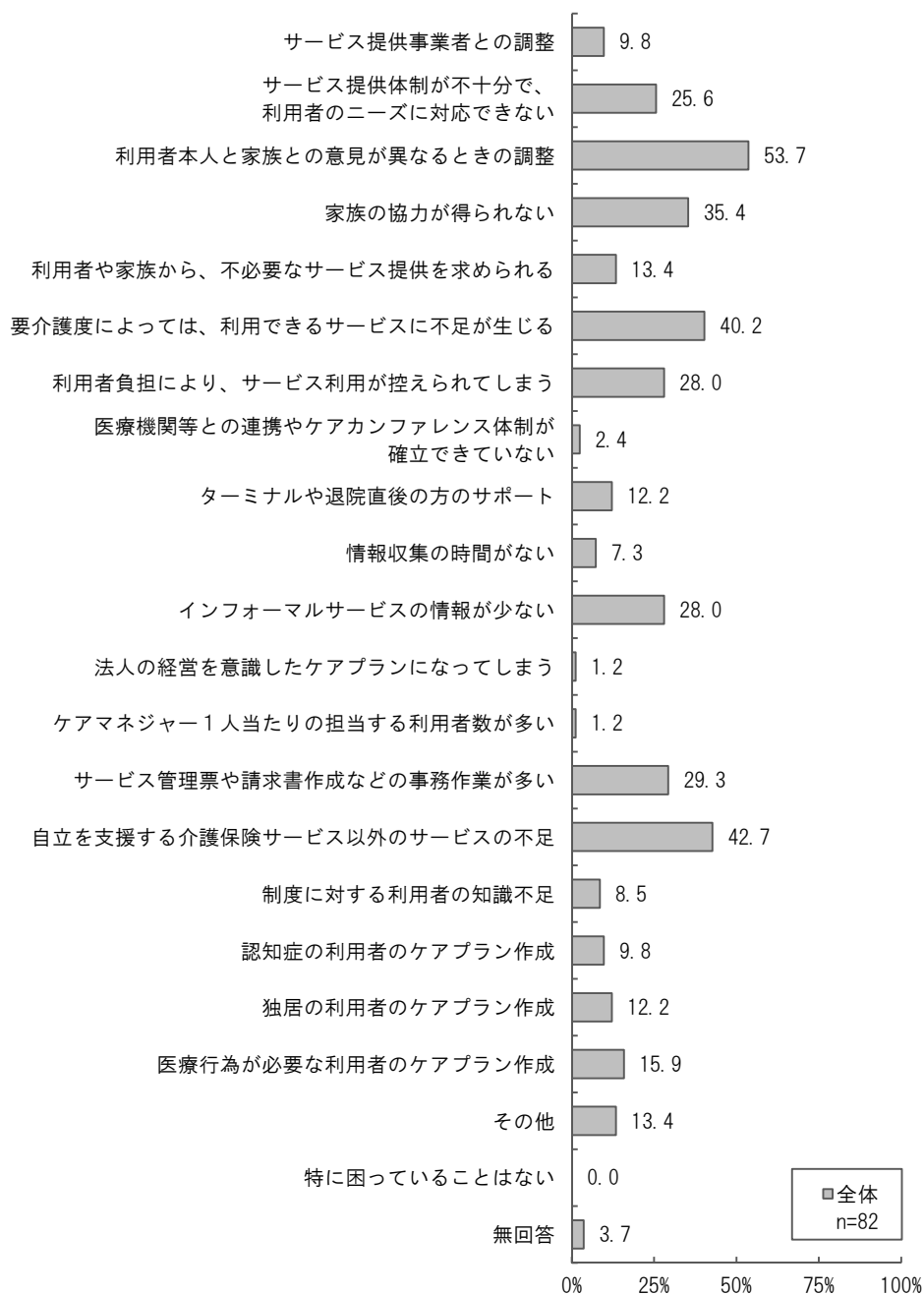


問7 ケアプランを立てる際、生活機能の状態のほかに気をつけていること



○ケアプラン作成に際し、困っていることをみると、「利用者本人と家族との意見が異なる
ときの調整」(53.7%)が最も高く、次いで「自立を支援する介護保険サービス以外のサ
ービスの不足」(42.7%)、「要介護度によっては、利用できるサービスに不足が生じる」
(40.2%)、「家族の協力が得られない」(35.4%)となっています。

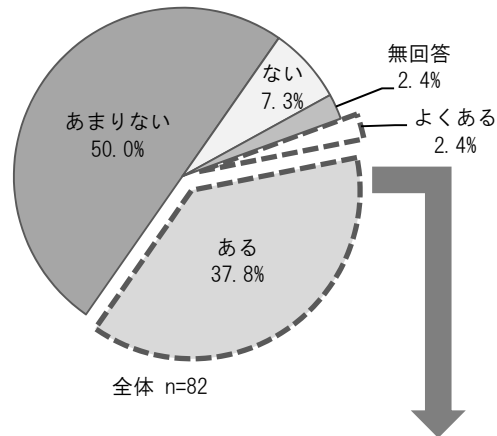
問8 ケアプラン作成に際し、困っていること



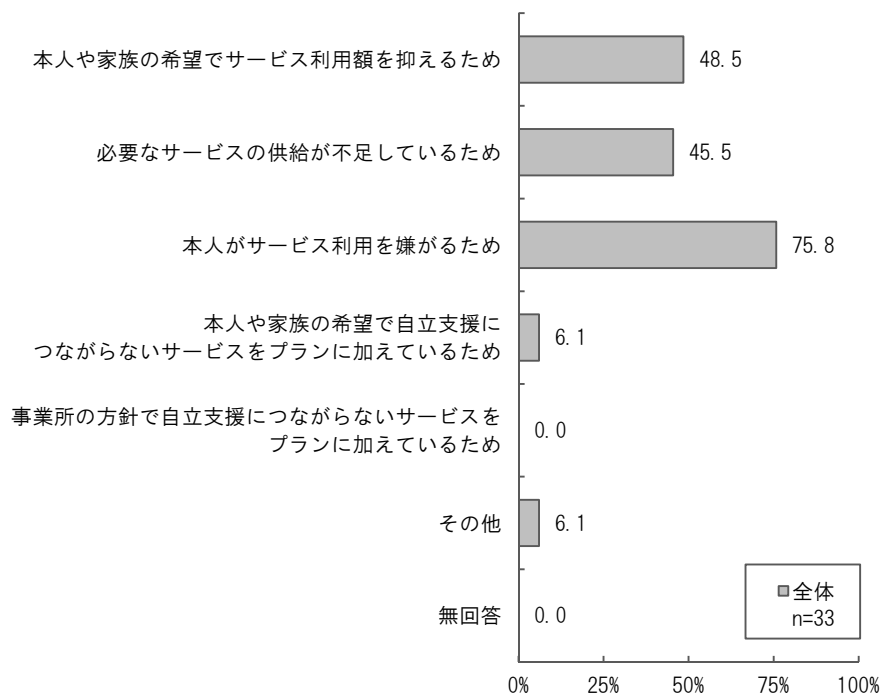
○作成したケアプランが要介護者等にあまり合っていないと思うことはあるかでは、「よくある」(2.4%)と「ある」(37.8%)を合わせた40.2%があると回答しています。

○ケアプランが要介護者等にあまり合っていないと思う理由をみると、「本人がサービス利用を嫌がるため」(75.8%)が最も高く、次いで「本人や家族の希望でサービス利用額を抑えるため」(48.5%)、「必要なサービスの供給が不足しているため」(45.5%)となっています。

問9 作成したケアプランが要介護者等にあまり合っていないと思うことはあるか



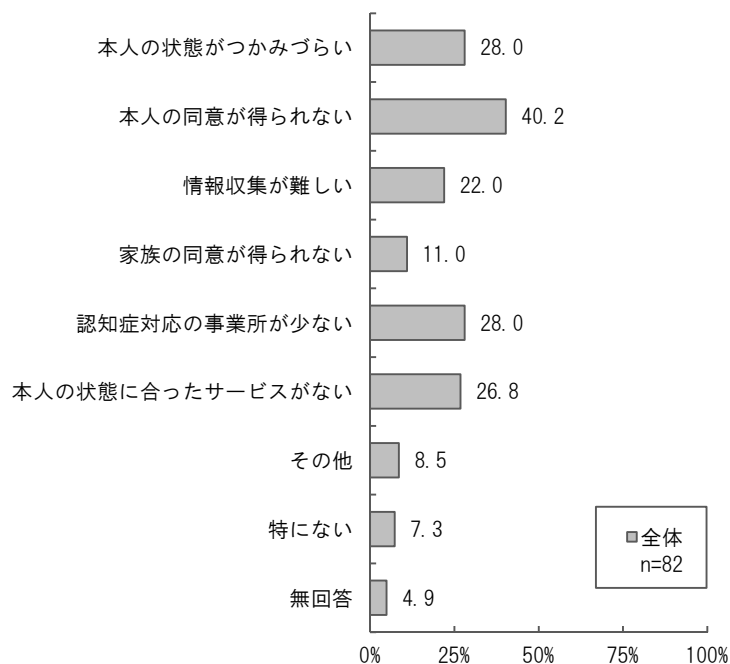
問9-1 ケアプランが要介護者等にあまり合っていないと思う理由



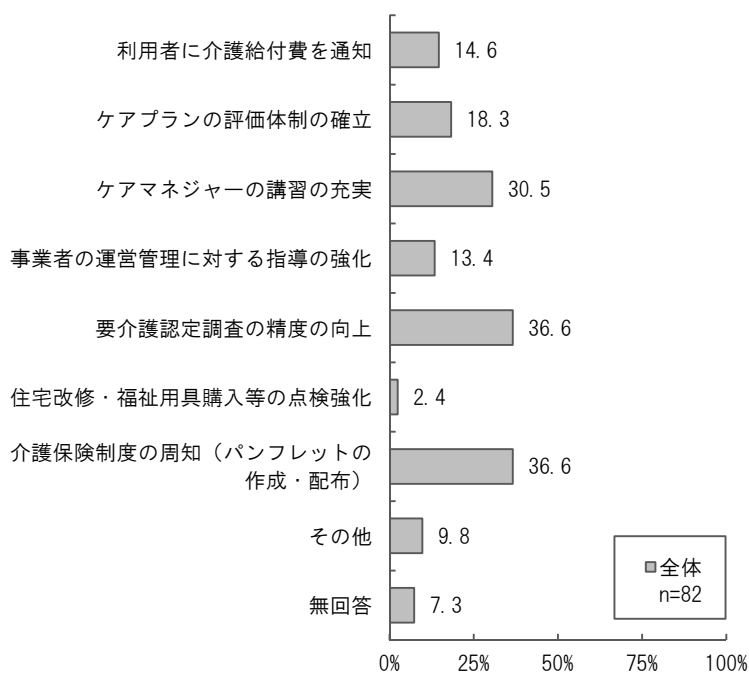
○ケアプランを作成する際に困難だと思われることをみると、「本人の同意が得られない」(40.2%)が最も高く、次いで「本人の状態がつかみづらい」「認知症対応の事業所が少ない」(各28.0%)、「本人の状態に合ったサービスがない」(26.8%)となっています。

○介護給付や予防給付の適正化に向けて、大切だと思うことをみると、「要介護認定調査の精度の向上」「介護保険制度の周知(パンフレットの作成・配布)」(各36.6%)が最も高く、次いで「ケアマネジャーの講習の充実」(30.5%)、「ケアプランの評価体制の確立」(18.3%)となっています。

問10 ケアプランを作成する際に困難だと思われること



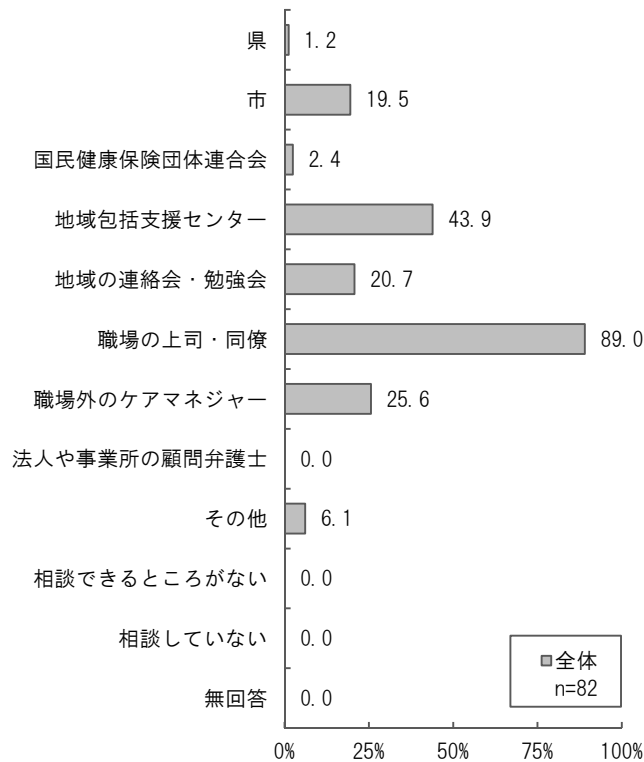
問11 介護給付や予防給付の適正化に向けて、大切だと思うこと



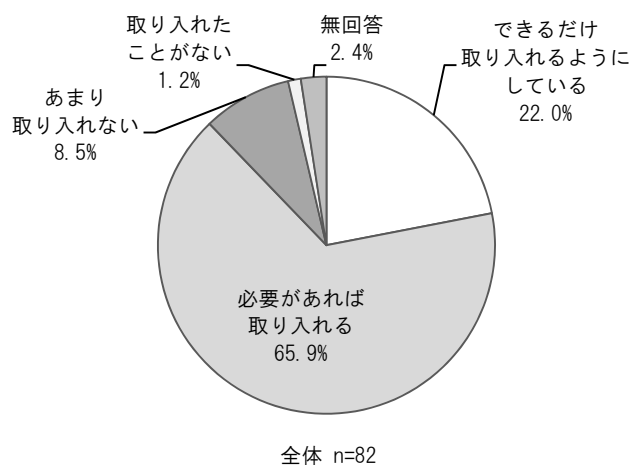
○ケアプランに関して悩んだときの相談先をみると、「職場の上司・同僚」(89.0%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(43.9%)、「職場外のケアマネジャー」(25.6%)となっています。

○ケアプランに介護保険サービス以外のサービスを取り入れるかをみると、「必要があれば取り入れる」(65.9%)が最も高く、「できるだけ取り入れるようにしている」(22.0%)、「あまり取り入れない」(8.5%)、「取り入れたことがない」(1.2%)となっています。

問12 ケアプランに関して悩んだときの相談先



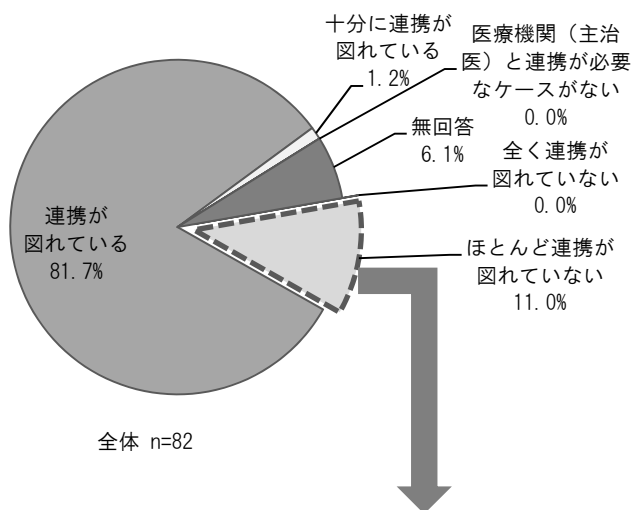
問13 ケアプランに介護保険サービス以外のサービスを取り入れるか



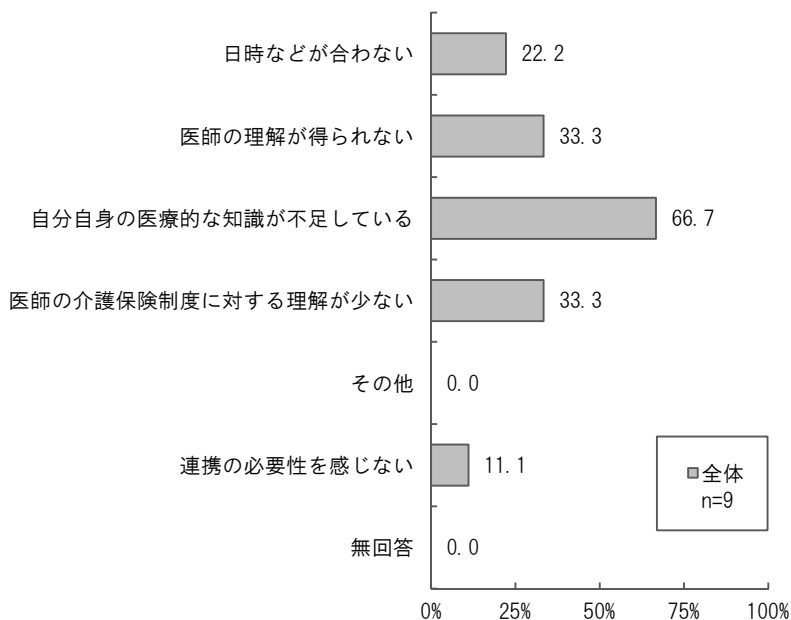
○医療機関（主治医）との連携についてみると、「連携が図れている」が8割以上となっている一方で、「ほとんど連携が図れていない」が約1割いる状況です。

○医療との連携が図れていない理由では、「自分自身の医療的な知識が不足している」（66.7%）が最も多く、次いで「医師の理解が得られない」「医師の介護保険制度に対する理解が少ない」（各33.3%）となっています。

問14 医療機関（主治医）との連携が必要だと思われるケースでは、実際に連携が図れているか



問14-1 医療との連携が図れていない理由

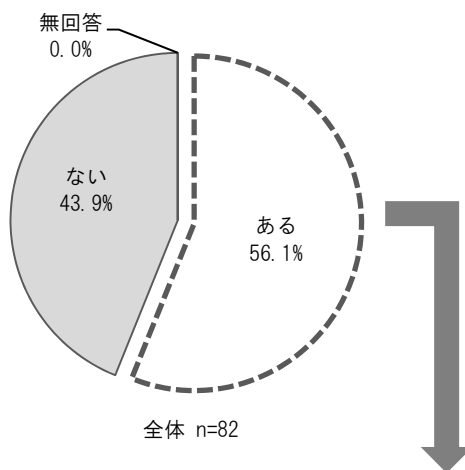


3 高齢者虐待について

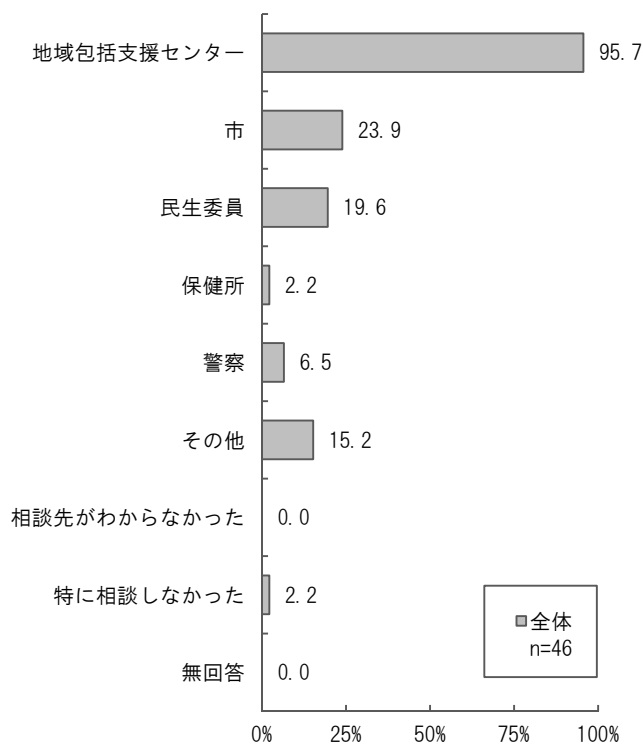
○家庭内における高齢者虐待の事例を経験（担当）したことがあるかみると、「ある」（56.1%）、「ない」（43.9%）となっています。

○高齢者虐待をどこに相談したかをみると、「地域包括支援センター」（95.7%）が最も高く、「市」（23.9%）、「民生委員」（19.6%）となっています。

問15 家庭内における高齢者虐待の事例を経験（担当）したことがあるか

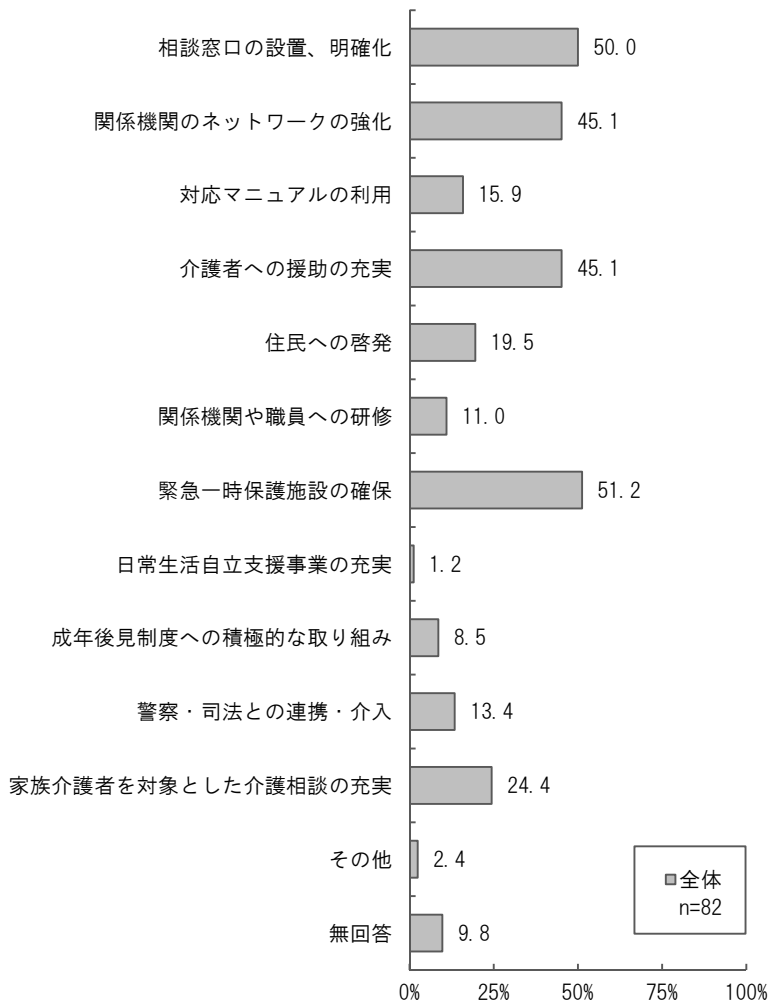


問15-1 高齢者虐待をどこに相談したか



○高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みをみると、「緊急一時保護施設の確保」(51.2%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置、明確化」(50.0%)、「関係機関のネットワークの強化」「介護者への援助の充実」(各45.1%)となっています。

問16 高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組み



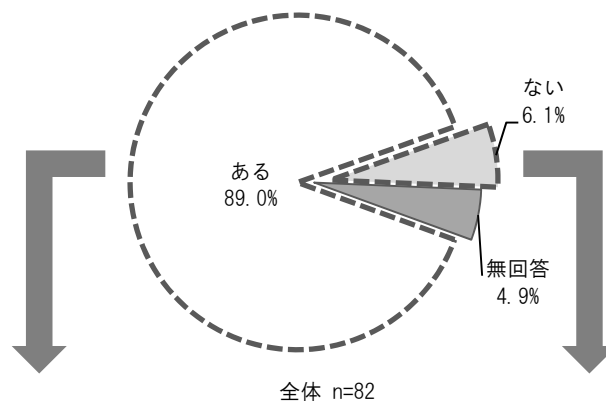
4 地域包括支援センターについて

○地域包括支援センターに相談をしたことがあるかをみると、「ある」が約9割を占めています。

○地域包括支援センターに相談した内容をみると、「処遇困難ケースの相談」(71.2%)が最も高く、次いで「虐待事案の相談」(49.3%)、「権利擁護(成年後見など)」(30.1%)となっています。

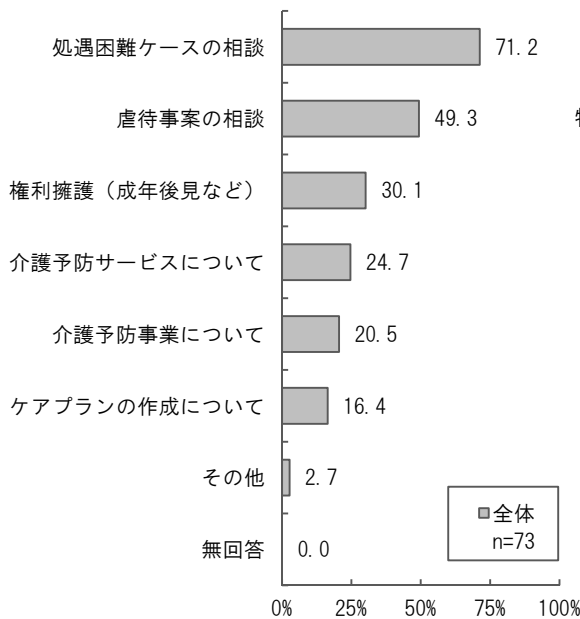
○地域包括支援センターに相談したことがない理由をみると、「特に相談することはないから」(60.0%)、「相談しても解決しないから」(20.0%)となっています。

問17 地域包括支援センターに相談をしたことがあるか



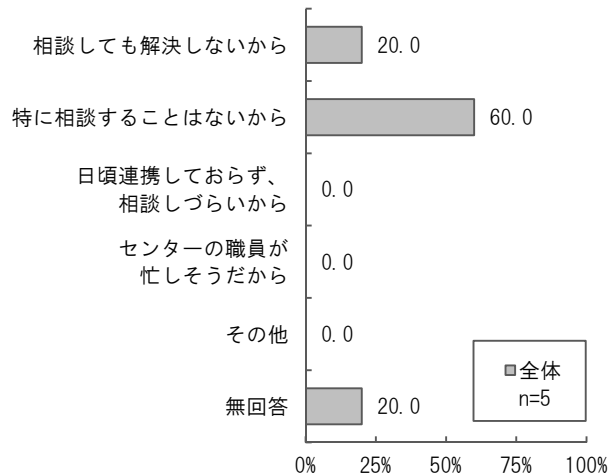
問17-1 相談した内容

【問17において「1. ある」に回答の方】



問17-2 相談したことがない理由

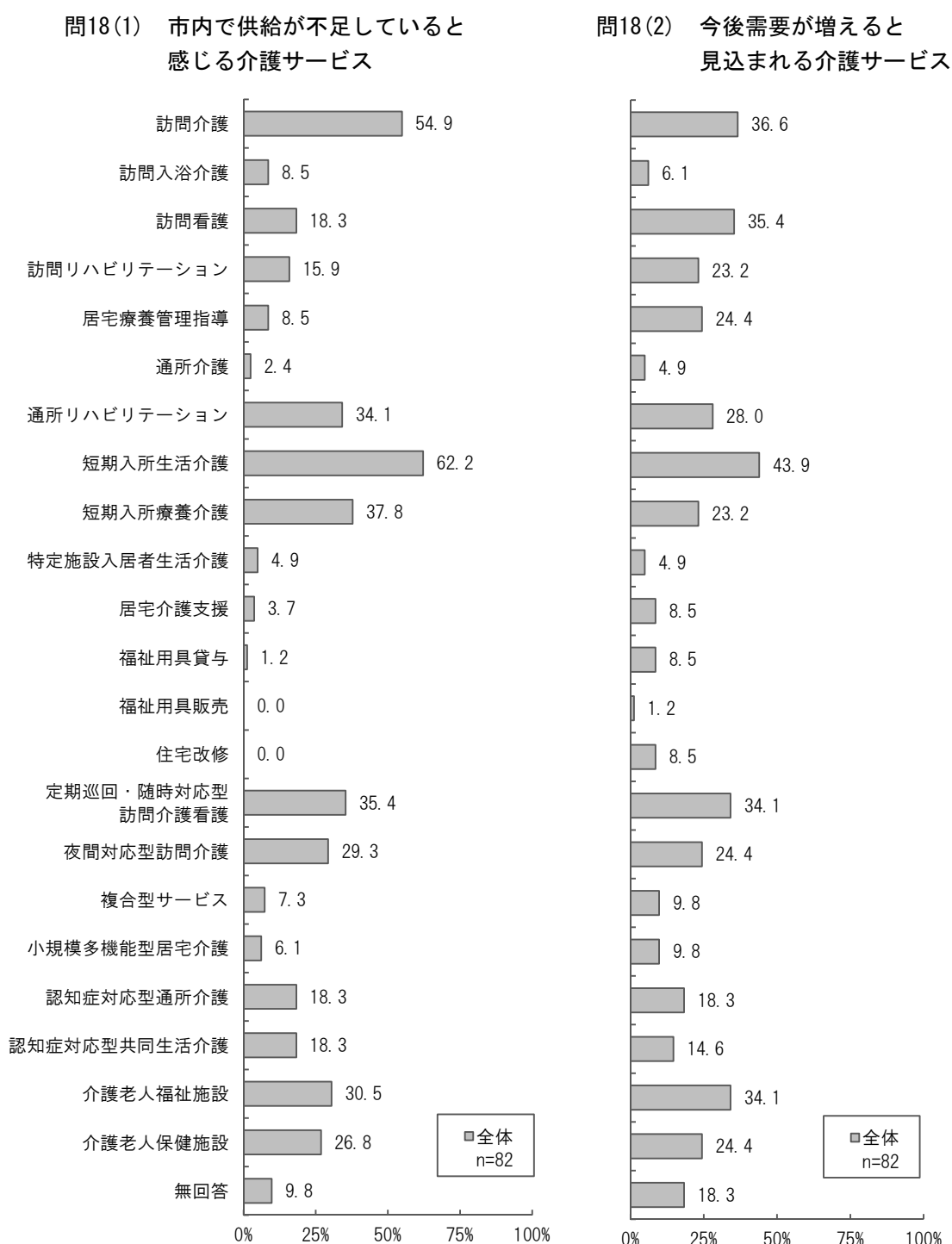
【問17において「2. ない」に回答の方】



5 サービスについて

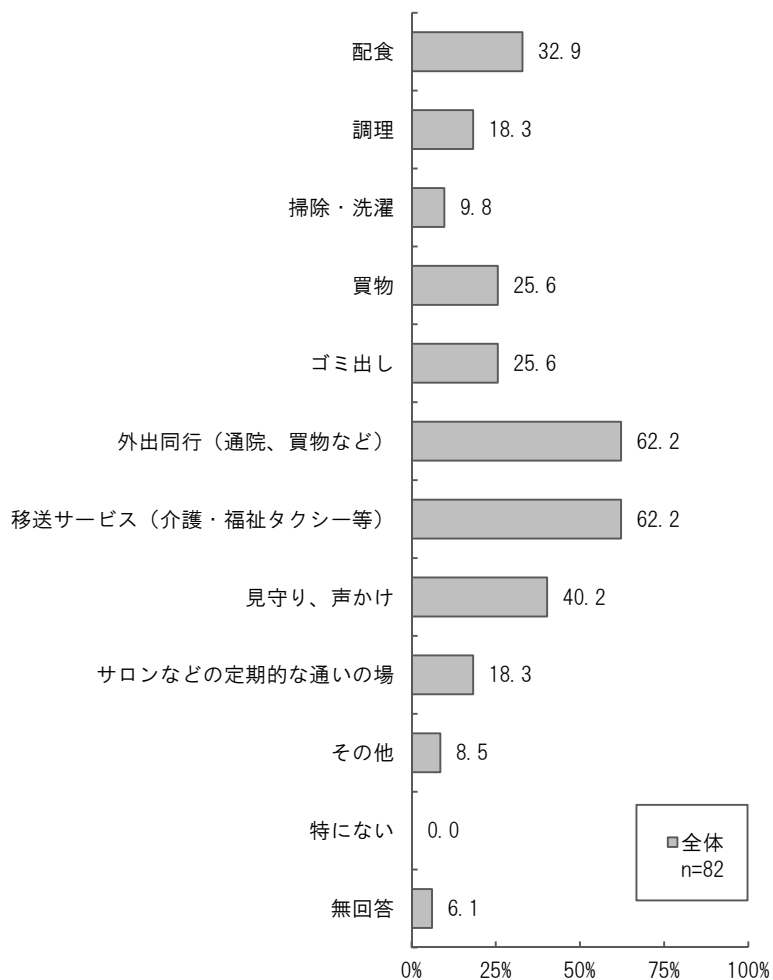
○市内で供給が不足していると感じる介護サービスをみると、「短期入所生活介護」(62.2%)が最も高く、次いで「訪問介護」(54.9%)、「短期入所療養介護」(37.8%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(35.4%)、「通所リハビリテーション」(34.1%)となっています。

○今後需要が増えると思込まれる介護サービスをみると、「短期入所生活介護」(43.9%)が最も高く、次いで「訪問介護」(36.6%)、「訪問看護」(35.4%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「介護老人福祉施設」(各34.1%)となっています。



○今後、高齢者の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービスについてみると、「外出同行（通院、買物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（各62.2%）が最も高く、次いで「見守り、声かけ」（40.2%）、「配食」（32.9%）となっています。

問19 今後、高齢者の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス

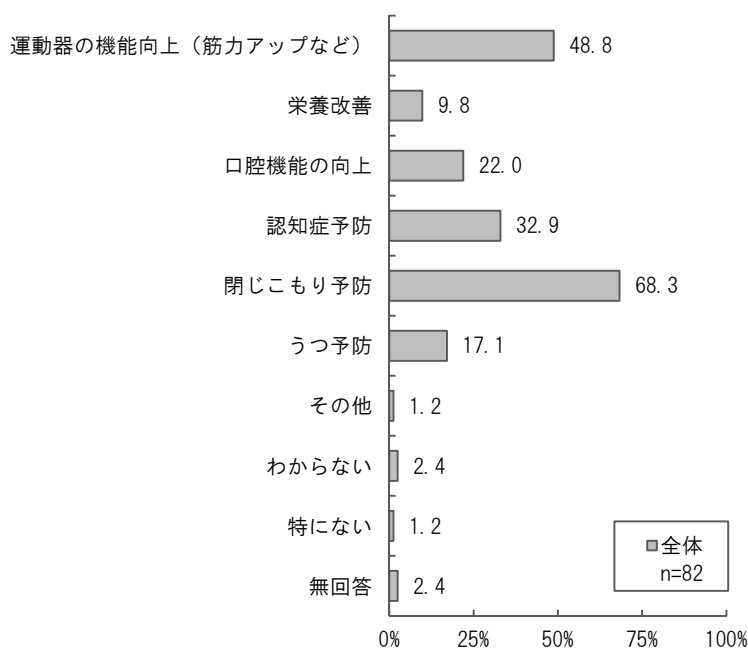


6 今後について

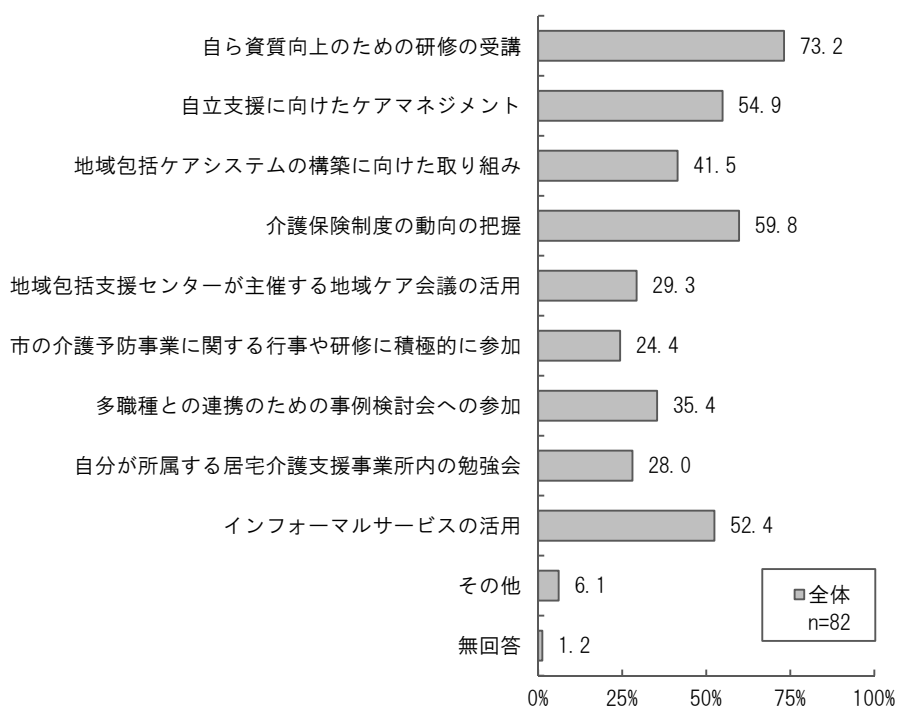
○今後、充実させるべきだと思う介護予防事業をみると、「閉じこもり予防」(68.3%)が最も高く、次いで「運動器の機能向上(筋力アップなど)」(48.8%)、「認知症予防」(32.9%)となっています。

○ケアマネジャーとして今後、自分が取り組むべきことをみると、「自ら資質向上のための研修の受講」(73.2%)が最も高く、次いで「介護保険制度の動向の把握」(59.8%)、「自立支援に向けたケアマネジメント」(54.9%)となっています。

問20 今後、充実させるべきだと思う介護予防事業



問21 ケアマネジャーとして今後、自分が取り組むべきこと



第7章

日常生活圏域別地域分析

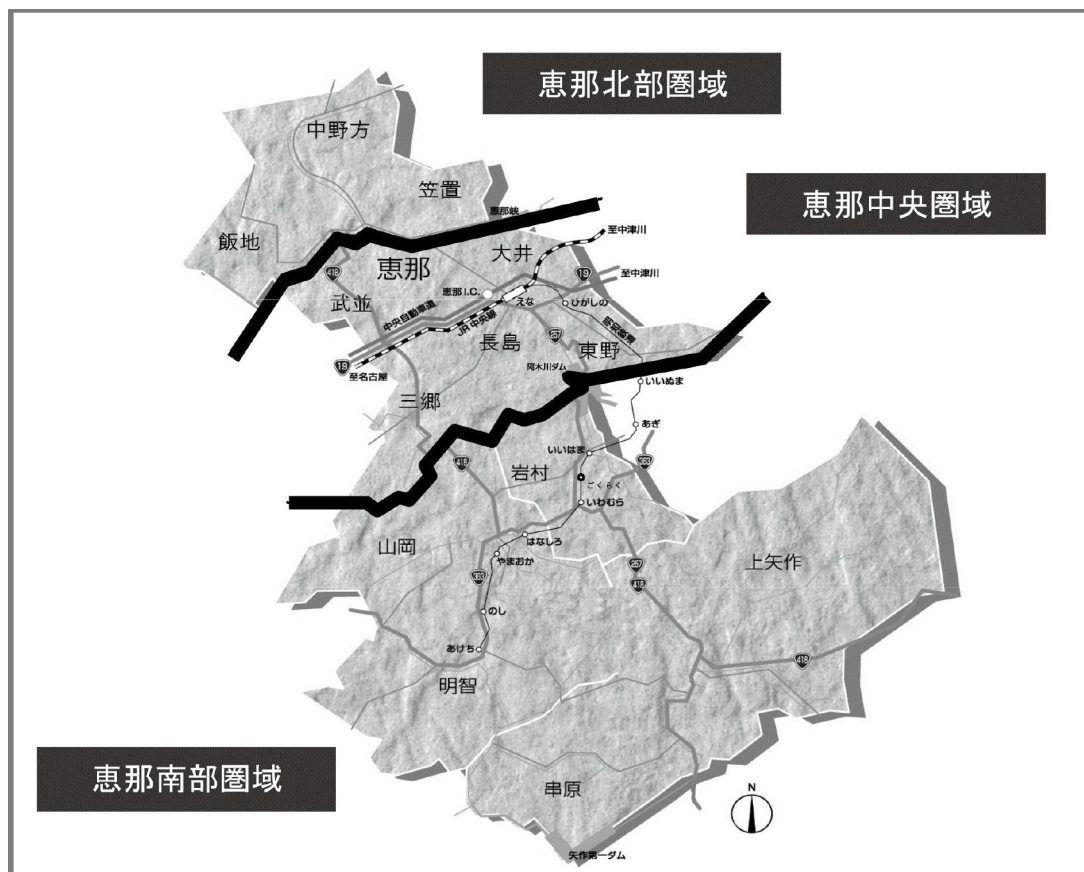
第7章 日常生活圏域別地域分析

第7章は調査結果から3つの日常生活圏域別に市全域と比較しながら、高齢者の健康自立度や生活実態、地域の活動やたすけあいの状況など、各圏域の地域特性を分析しました。

日常生活圏域名	総人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	前期高齢者 (人)	後期高齢者 (人)	後期高齢者 比率(%)
市全域	49,852	17,079	34.3	7,838	9,241	18.5
恵那中央	29,707	8,947	30.1	4,258	4,689	15.8
恵那北部	3,375	1,421	42.1	641	780	23.1
恵那南部	16,770	6,711	40.0	2,939	3,772	22.5

日常生活圏域名	一般高齢者 (人)	要支援 認定者 (人)	要介護 認定者 (人)	認定率 (%)	重度認定者 (要介護 3～5) (人)	重度認定者 認定率 (%)
市全域	14,146	506	2,427	17.2	1,158	6.8
恵那中央	7,376	256	1,315	17.6	629	7.0
恵那北部	1,172	33	216	17.5	94	6.6
恵那南部	5,598	217	896	16.6	435	6.5

※上記の数値は令和元年11月30日現在

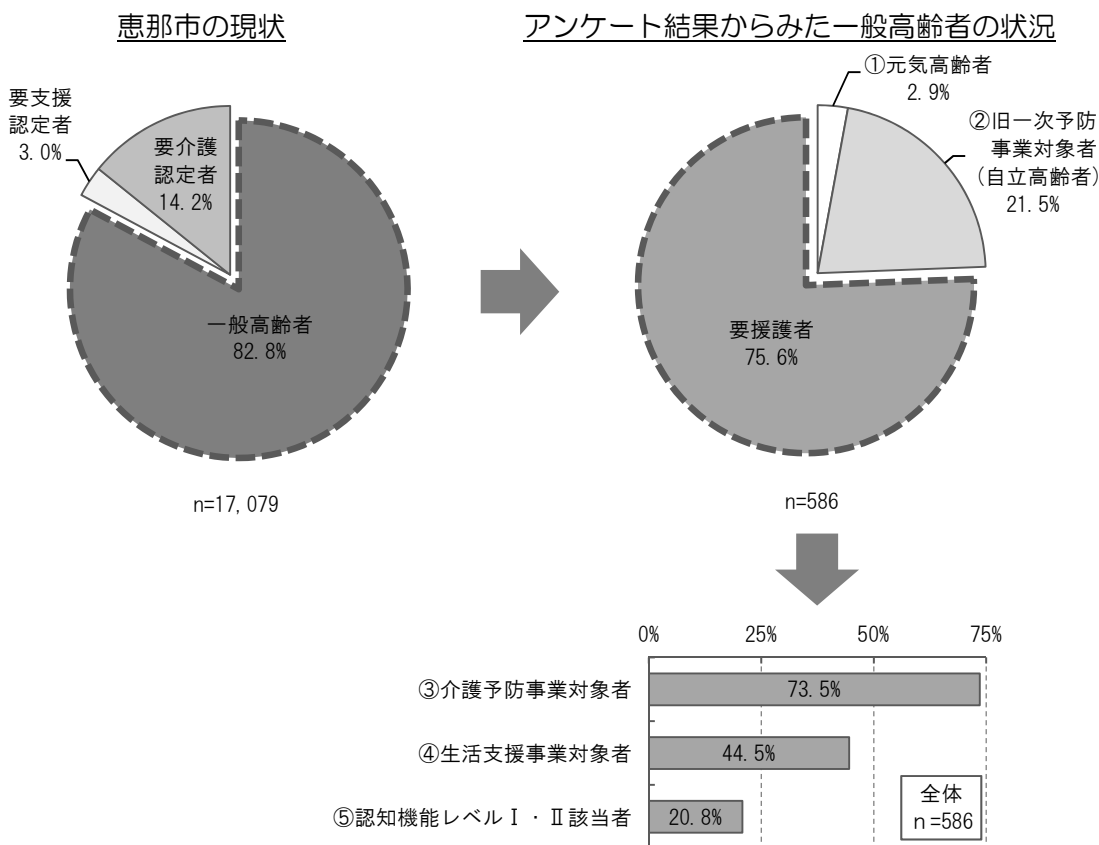


1 “5つの高齢者像”からみた地域分析

本市における令和元年11月現在の認定者数は2,933人（認定率17.2%）となり、認定者を除いた一般高齢者数は14,146人と高齢者人口の約8割を占めています。

また、調査結果から高齢者像別に出現率をみると、要援護者は75.6%、旧一次予防事業対象者は21.5%、元気高齢者は2.9%となっています。

図 7.1 高齢者像別出現率

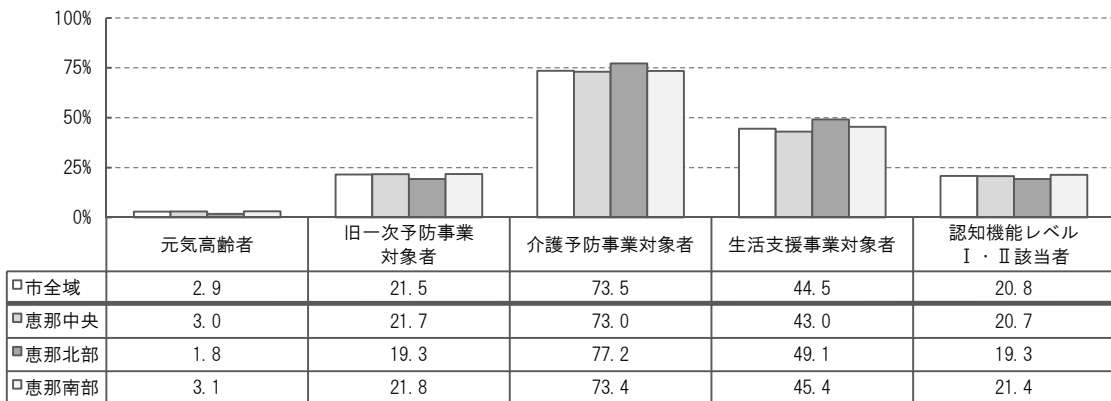


※介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者には重複があります。

※「旧一次予防事業対象者」…一般高齢者から元気高齢者や要援護者（介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者）を除いた高齢者です。

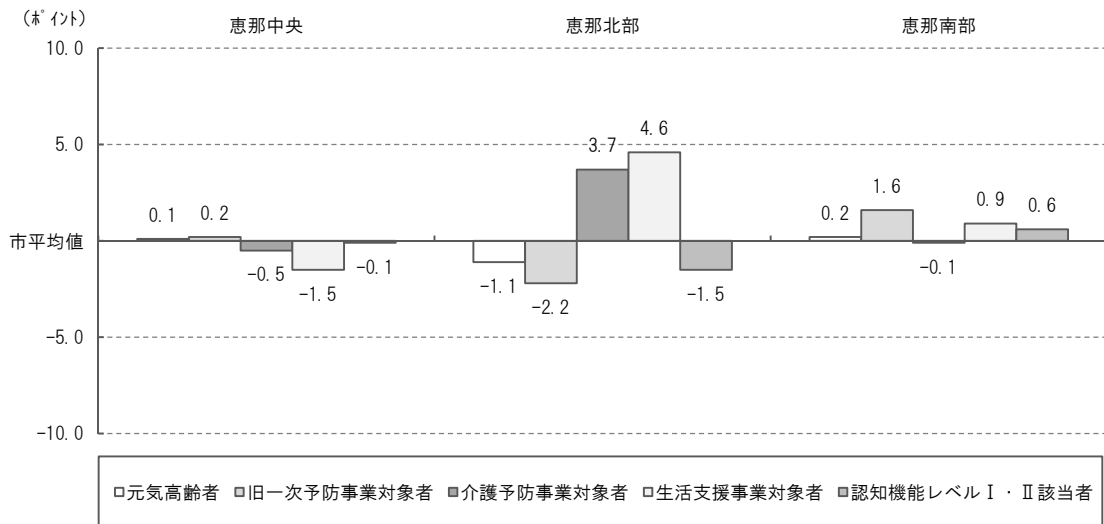
- 一般高齢者において5つの高齢者像別出現率の地域差をみると、元気高齢者では市平均値に比べて「恵那中央」「恵那南部」圏域で高く、「恵那北部」圏域で低くなっています。
- 旧一次予防事業対象者では「恵那中央」「恵那南部」圏域で市平均値より高く、「恵那北部」圏域で低くなっています。
- 要援護者をみると、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者では「恵那北部」で市全域より突出して高くなっています。

図 7.2 5つの高齢者像別出現率



※「旧一次予防事業対象者」…ここでは、一般高齢者全体から元気高齢者や要援護者（介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベル I・II 該当者）を除いた高齢者です。

図 7.3 5つの高齢者像別出現率の地域差



※市全域の出現率を市平均値（0.0）とします。

2 介護予防・日常生活支援総合事業に関する出現率と地域差

(1) 介護予防事業対象者の状況

○介護予防事業対象者の出現率の地域差をみると、一般高齢者、要支援者ともに「恵那北部」圏域で市平均値より高く、「恵那中央」圏域で低い状況となっています。

図 7.4 介護予防事業対象者出現率

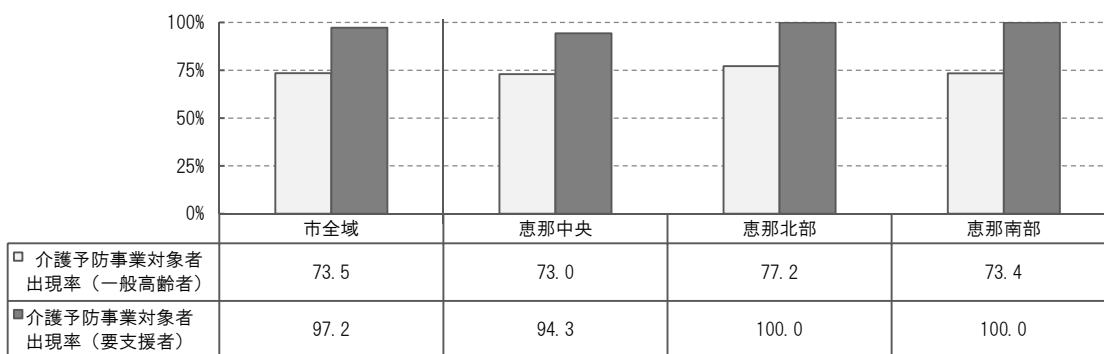
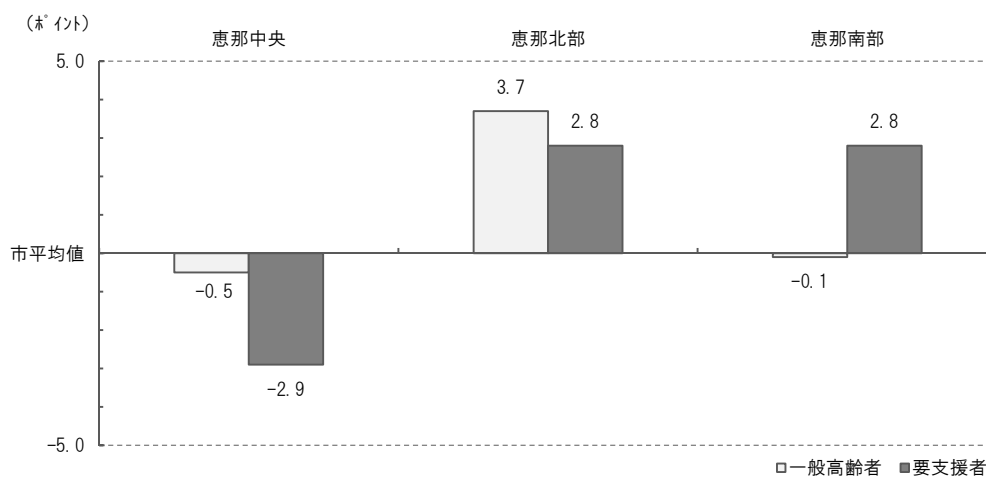


図 7.5 介護予防事業対象者出現率の地域差



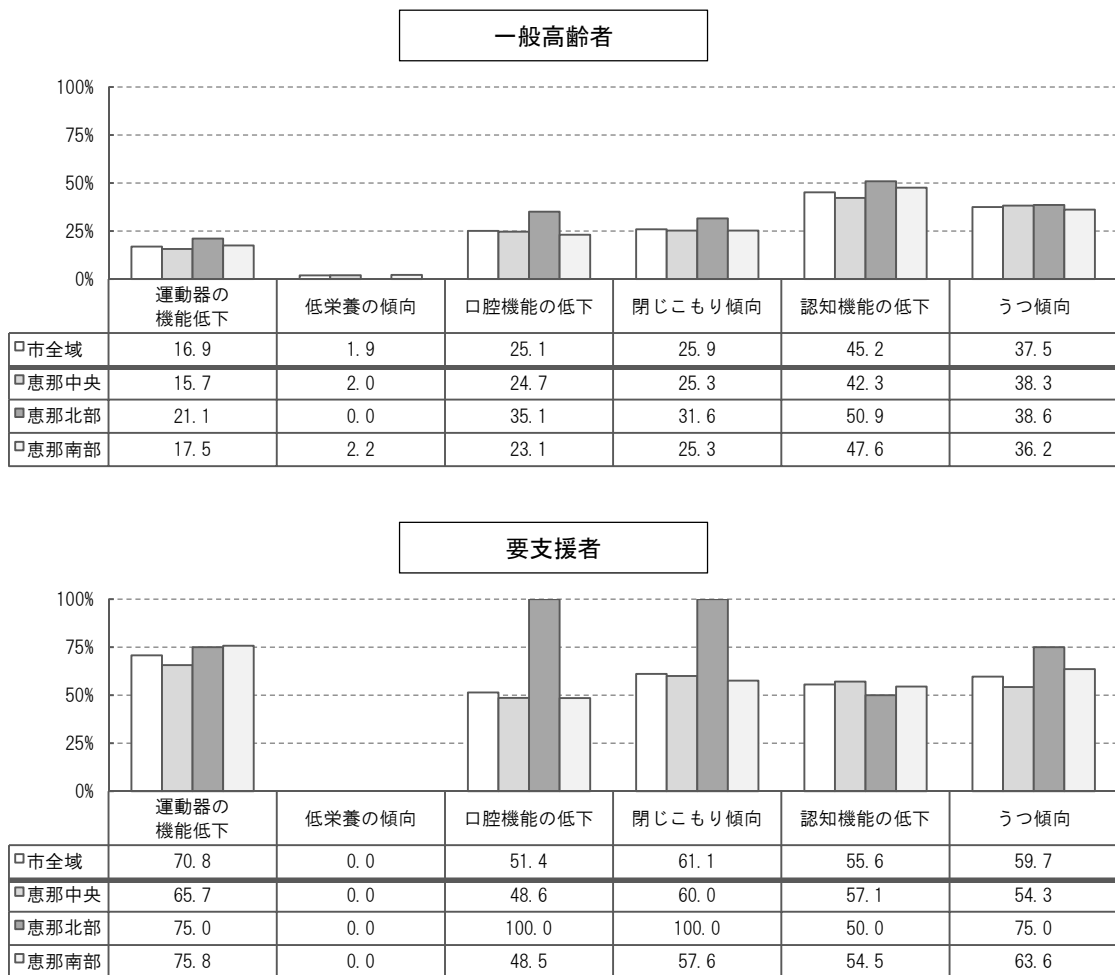
(2) リスクに該当する高齢者の状況

○各リスク該当高齢者の出現率をみると、一般高齢者の市全域では認知機能の低下(45.2%)が最も高く、次いでうつ傾向(37.5%)、閉じこもり傾向(25.9%)、口腔機能の低下(25.1%)、運動器の機能低下(16.9%)、低栄養の傾向(1.9%)となっています。

○要支援者の市全域では運動器の機能低下(70.8%)が最も高く、次いで閉じこもり傾向(61.1%)うつ傾向(59.7%)、認知機能の低下(55.6%)、口腔機能の低下(51.4%)となっています。なお、低栄養の傾向はありません。

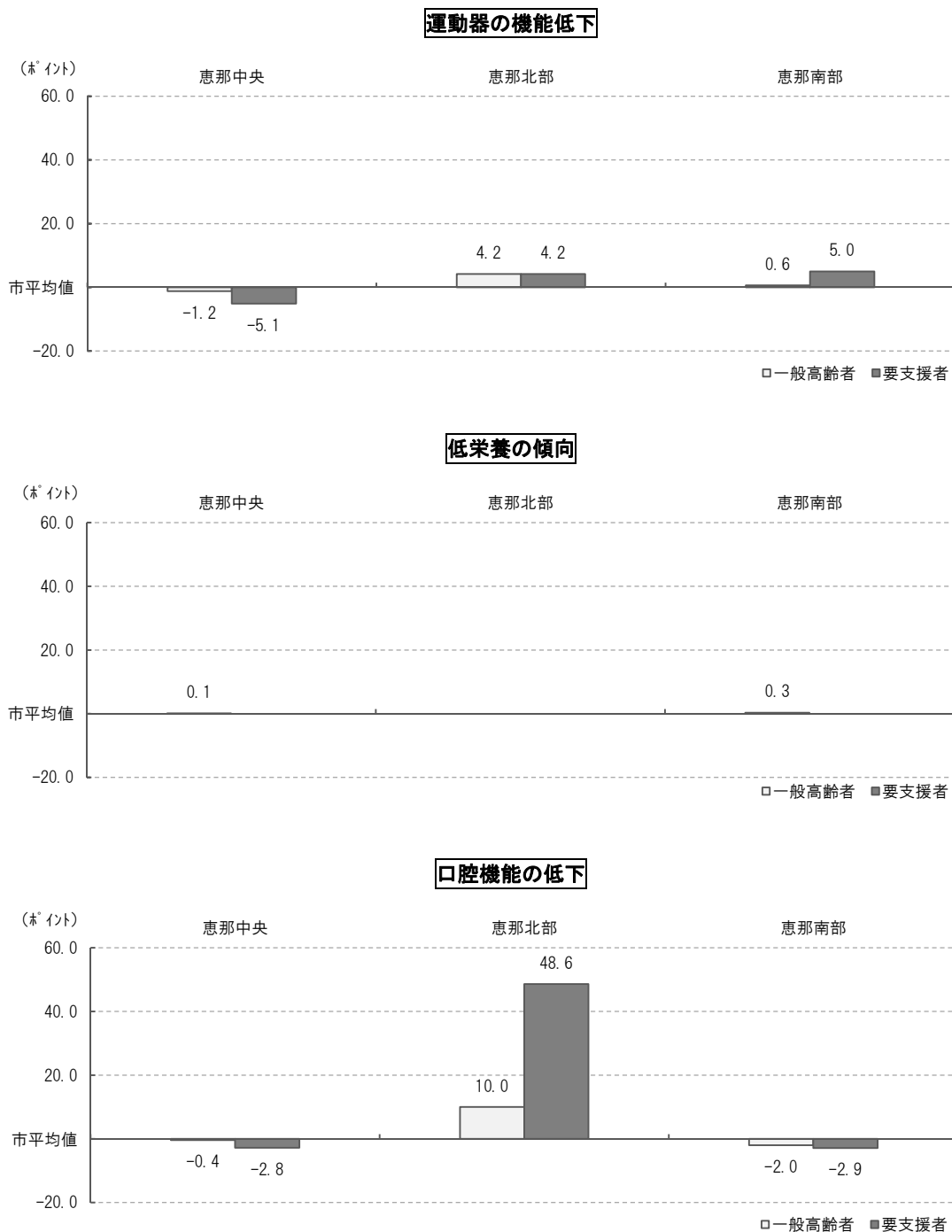
○圏域別にみると、「恵那北部」圏域の要支援者では口腔機能の低下、閉じこもり傾向、うつ傾向のリスクで出現率が市全域を上回り、特にうつ傾向では市全域より15.3^{ポイント}高くなっています。

図 7.6 リスクに該当する高齢者の出現率



- 出現率の地域差をリスクごとにみると、運動器の機能低下リスクでは一般高齢者、要支援者ともに「恵那北部」「恵那南部」が市平均値より高くなっています。
- 低栄養の傾向リスクでは、一般高齢者の「恵那中央」「恵那南部」圏域で市平均値よりわずかに高くなっています。
- 口腔機能の低下リスクでは、要支援者の「恵那北部」圏域で突出して高くなっています。

図 7.7 リスク者出現率の地域差

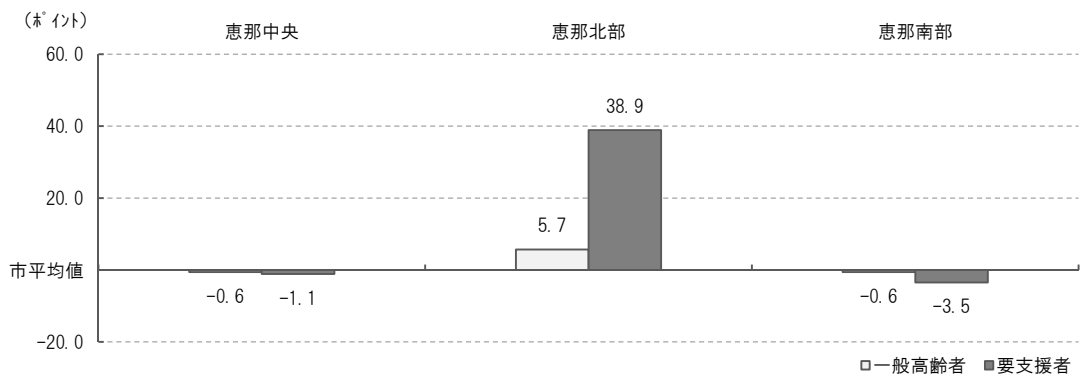


○閉じこもり傾向リスクでは、一般高齢者、要支援者ともに「恵那北部」圏域が市平均値を上回っています。特に要支援者の「恵那北部」圏域は突出して高くなっています。

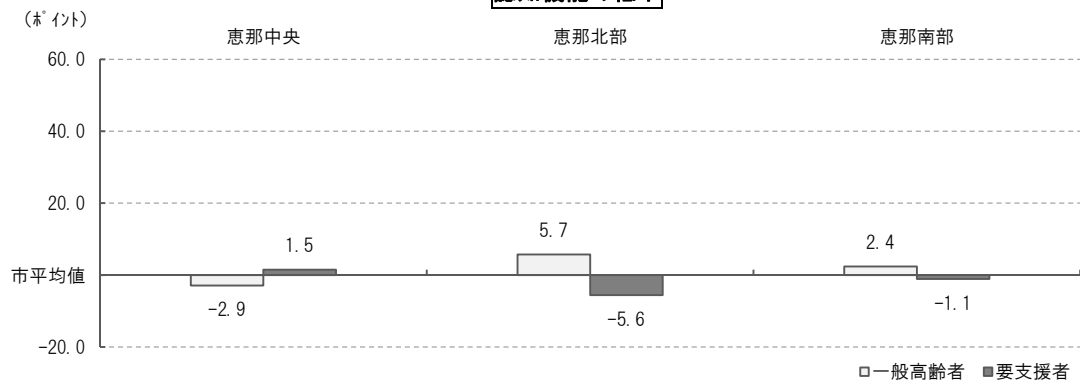
○認知機能の低下リスクでは、一般高齢者の「恵那北部」「恵那南部」圏域が、要支援者では「恵那中央」圏域が市平均より高くなっています。

○うつ傾向リスクでは、要支援者の「恵那北部」圏域が突出して高くなっています。

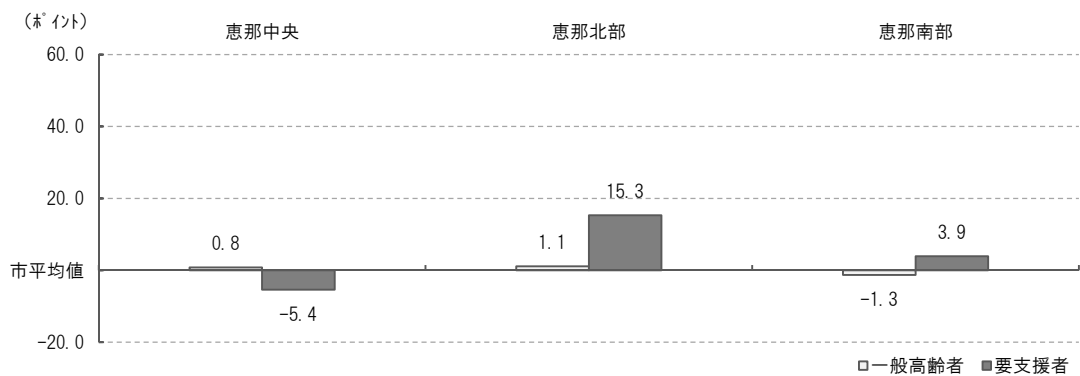
閉じこもり傾向



認知機能の低下



うつ傾向



(3) 生活支援事業対象者の状況

○生活支援事業対象者の出現率の地域差をみると、一般高齢者では「恵那北部」「恵那南部」圏域が、要支援者では「恵那中央」圏域で市平均値より高くなっています。一方、要支援者の「恵那北部」圏域では突出して低くなっています。

図 7. 8 生活支援事業対象者出現率

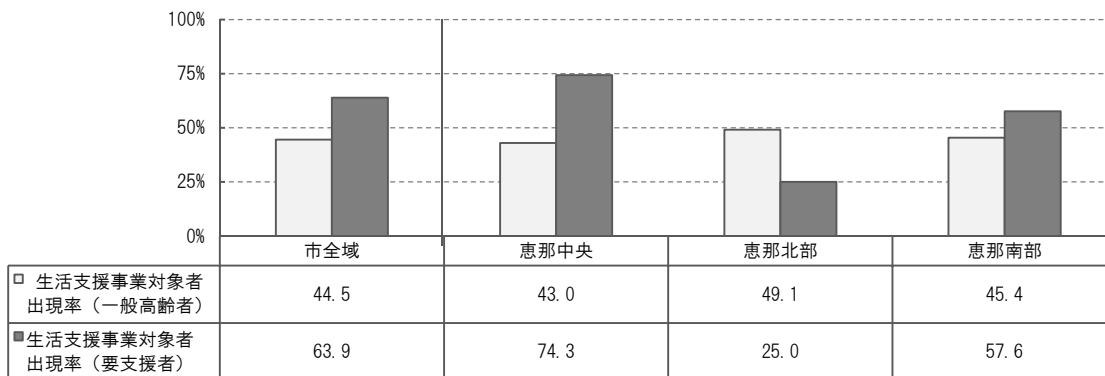
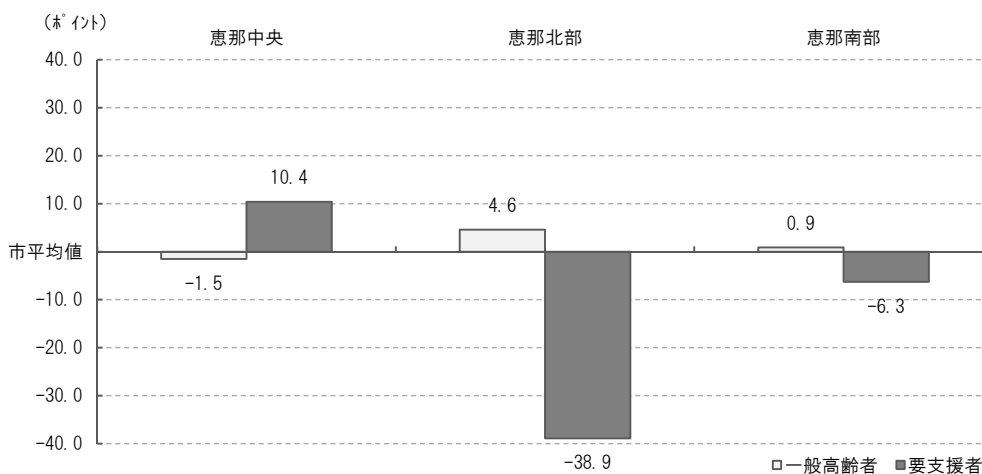


図 7. 9 生活支援事業対象者出現率の地域差



(4) 生活支援を担う元気高齢者の状況

○元気高齢者の出現率をみると、「恵那中央」「恵那南部」圏域で市平均値よりわずかに高くなっています。

図 7.10 元気高齢者出現率

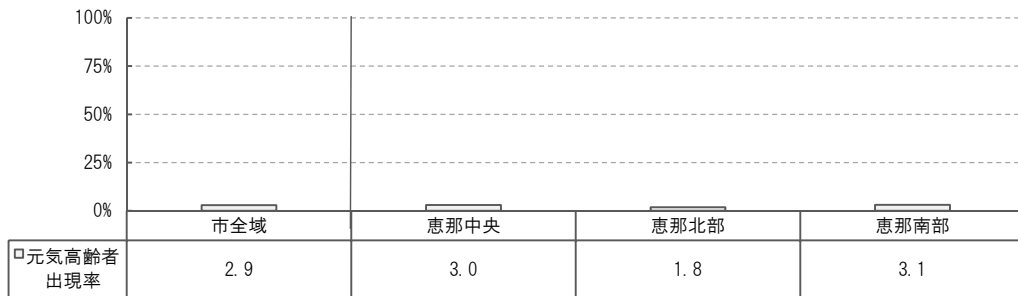
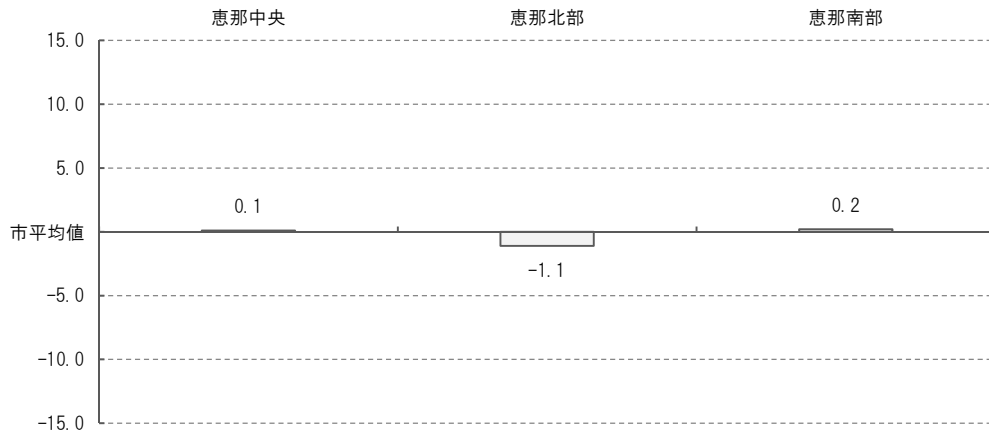


図 7.11 元気高齢者出現率の地域差



3 認知症高齢者に関する出現率と地域差

(1) 認知機能レベル I・II 該当者の状況

○認知機能レベル I・II に該当した高齢者の出現率の地域差をみると、一般高齢者では「恵那南部」圏域が、要支援者では「恵那北部」「恵那南部」圏域が市平均値より高くなっています。

図 7.12 認知機能レベル I・II 該当者の出現率

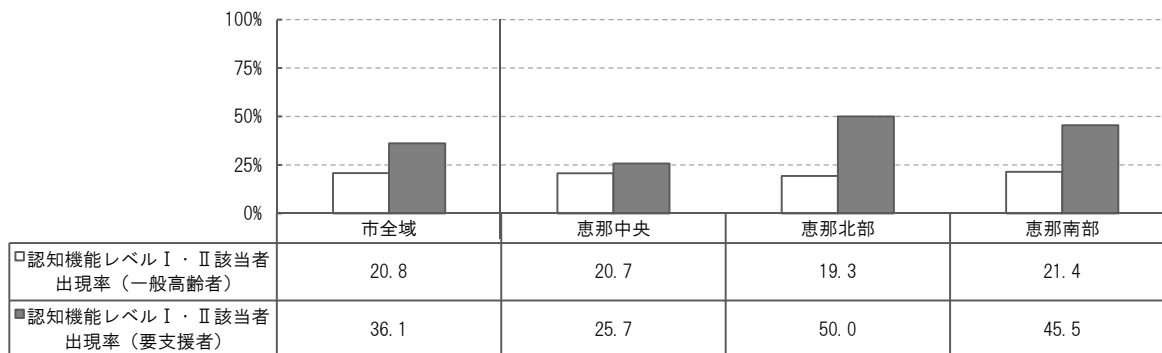
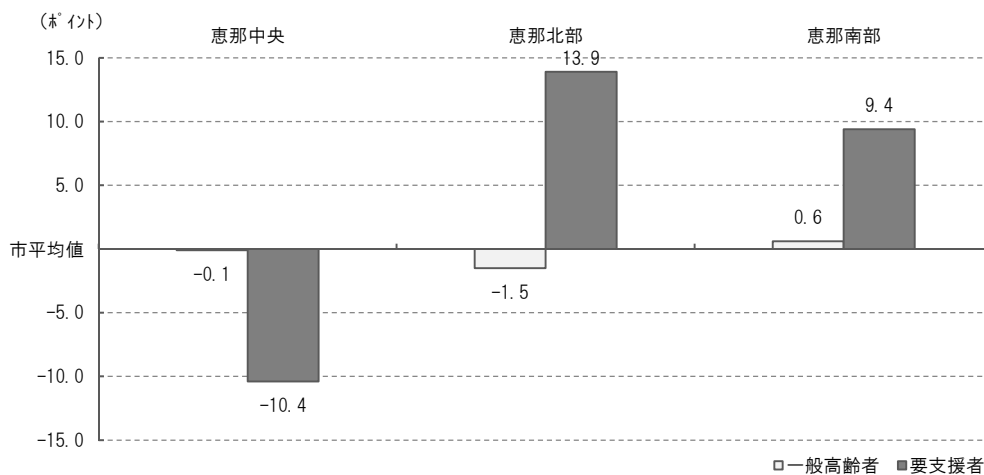


図 7.13 認知機能レベル I・II 該当者出現率の地域差



4 在宅医療・介護の推進

(1) 認定者の状況

○認定データにおいて、恵那市に住民票がある要支援・要介護者（2,933人）の構成比をみると、「要介護3～5」の重度認定者が6.8%、「要介護2」が3.3%、「要介護1」が4.1%となっています。

○介護度別認定率を圏域別でみると、「恵那中央」圏域では「要支援2」「要介護2」「要介護3」「要介護4」、「恵那北部」圏域では「要介護1」「要介護2」「要介護4」「要介護5」、「恵那南部」圏域では「要支援1」「要介護5」、で市全域より高くなっています。

図 7.14 地域の介護度別認定者数

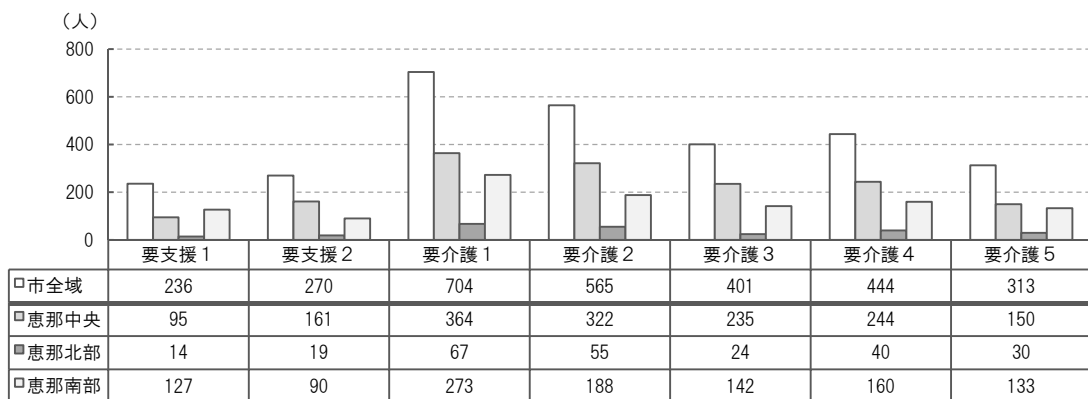
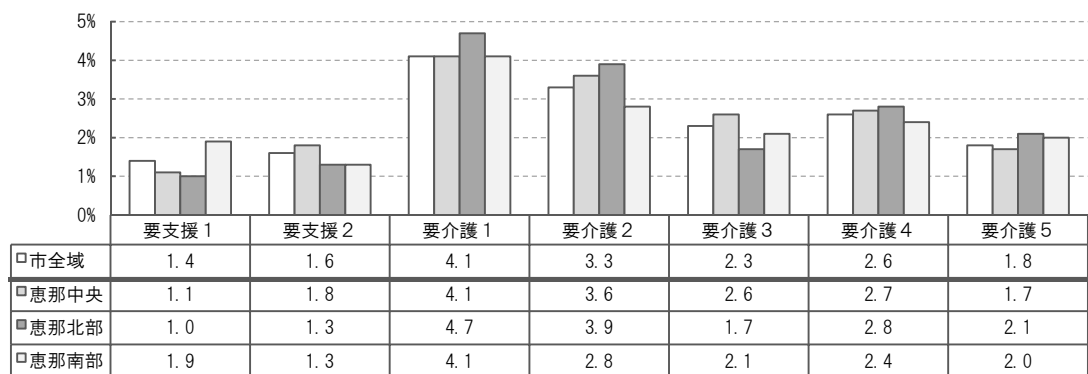


図 7.15 地域の介護度別認定率

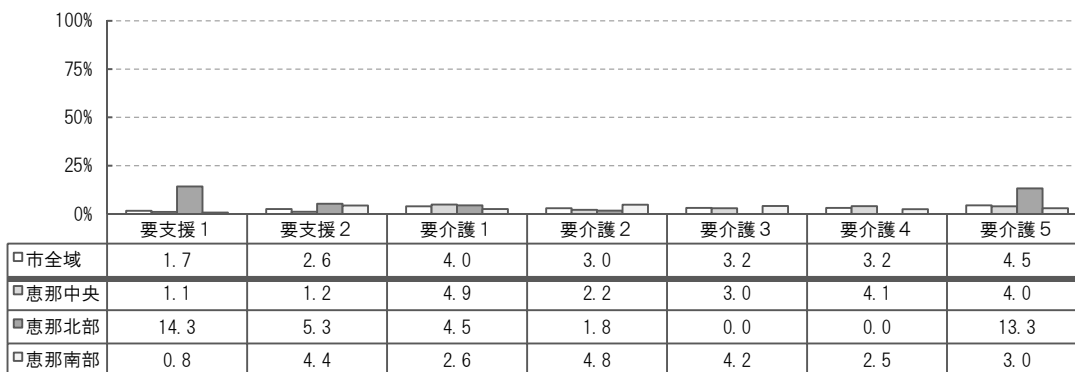


(2) 在宅医療に関するニーズ

○訪問診療を利用している要介護者の出現率をみると、市全域で「要介護5」(4.5%)が最も高く、次いで「要介護1」(4.0%)、「要支援3」「要介護4」(各3.2%)となっています。

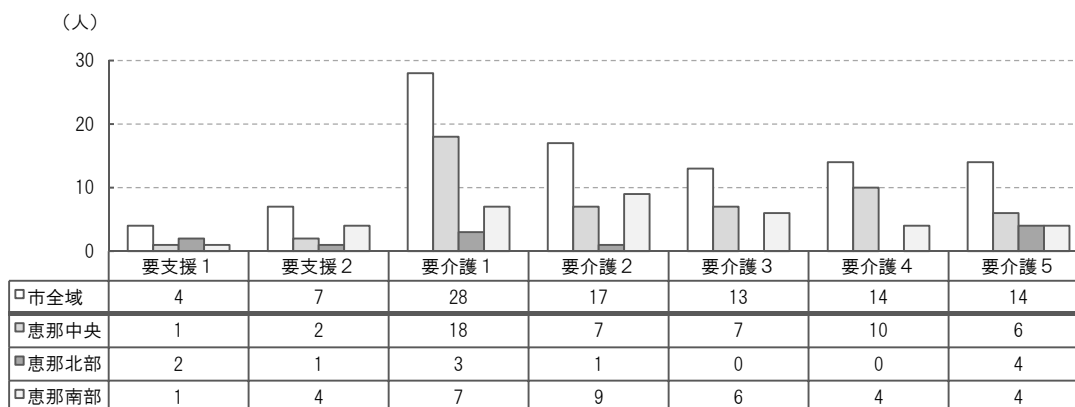
○圏域別にみると、「恵那北部」圏域で「要支援1」「要介護5」が10.0%を超え高くなっています。

図 7.16 訪問診療を利用している要介護者の出現率



○利用者の推計人数をみると、市全域では「要介護1」(28人)が最も高く、次いで「要介護2」(17人)、「要介護4」「要介護5」(各14人)、「要介護3」(13人)の順となっています。

図 7.17 訪問診療を利用している要介護者数(推計)

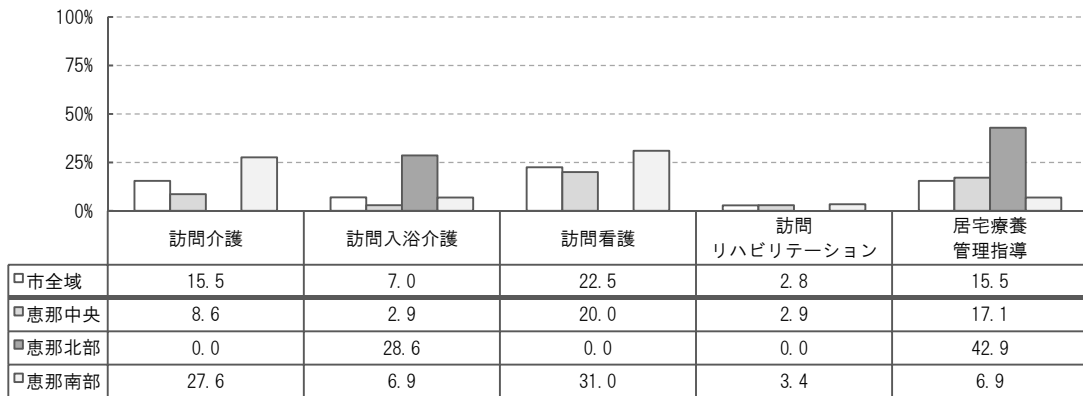


(3) 訪問診療の利用状況

○訪問診療利用者が利用する訪問系サービスの状況をみると、市全域では「訪問看護」(22.5%)、「訪問介護」「居宅療養管理指導」(各15.5%)、「訪問入浴介護」(7.0%)「訪問リハビリテーション」(2.8%)となっています。

○圏域別にみると、訪問介護は「恵那南部」圏域、訪問入浴介護は「恵那北部」圏域、訪問看護は「恵那南部」圏域、訪問リハビリテーションは「恵那中央」「恵那南部」圏域、居宅療養管理指導は「恵那中央」「恵那北部」圏域で市全域より高くなっています。

図 7.18 訪問診療利用者の訪問系介護サービス利用割合



5 介護離職の要因と問題軽減

(1) 家族介護者の介護離職の状況

○介護者の離職状況をみると、市全域では「介護離職者」が8.3%、転職者を含む「継続就労者」が28.5%となっており、後者が上回っています。

○圏域別にみると、介護離職者では「恵那中央」圏域、継続就労者では「恵那北部」「恵那南部」圏域で市全域を上回っています。また、全ての圏域で継続就労者が介護離職者を上回っています。

○介護離職者が介護している方の状態をみると、市全域では「要介護3～5」が28.2%、「認知症高齢者」が51.4%で、後者が上回っています。

○圏域別でみると、「要介護3～5」「認知症高齢者」ともに「恵那南部」圏域で市全域を上回っています。

図 7.19 介護者の離職状況

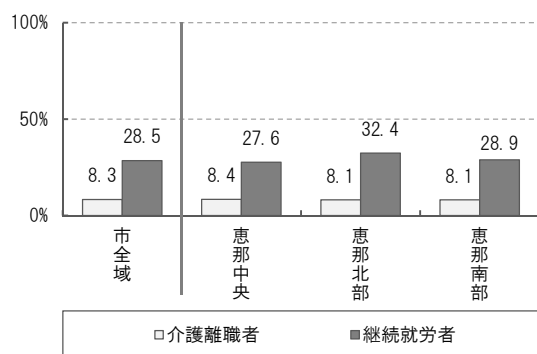
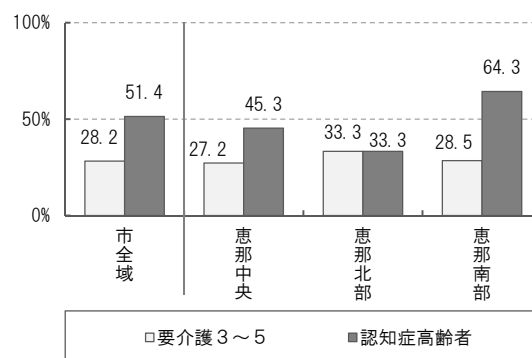


図 7.20 離職者が介護する要介護者の状態



※介護離職者：問 23 で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方の割合

継続就労者：①問 23 で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計

○介護離職者が介護している方の世帯状況を見ると、市全域では「その他世帯」が半数を超えています。（圏域別は該当者が少ないためコメントを省略）

○就労している介護者の今後の仕事と介護の両立についてみると、市全域では「(何とか) 続けていける」(70.9%)、「続けていくのは、難しい」(18.7%)となっています。

○圏域別にみると、恵那北部圏域を除く全圏域で、市全域と同様の傾向となっています。

図 7.21 離職者が介護する要介護者の世帯状況

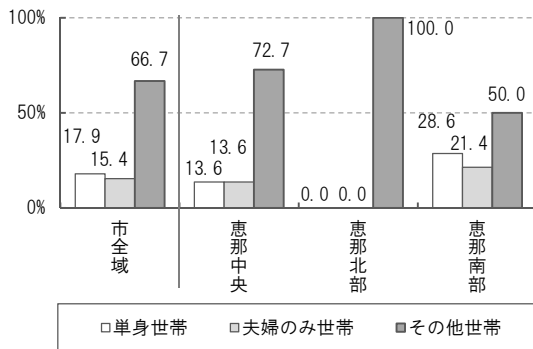
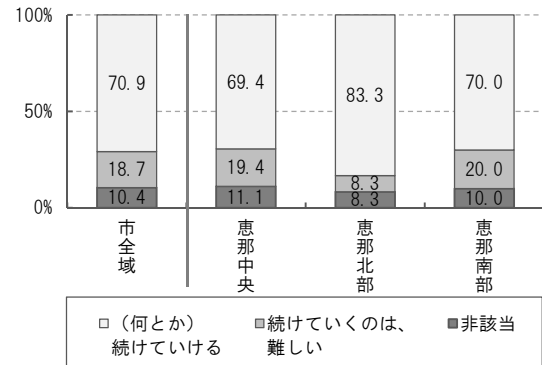


図 7.22 就労している介護者の今後の仕事と介護の両立の可否



※「就労している介護者」とは、問 24 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人をさします。

※「(何とか)」続けていける」は、問 24-3 で「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した割合、「続けていくのは、難しい」は、同設問で「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と回答した割合です。

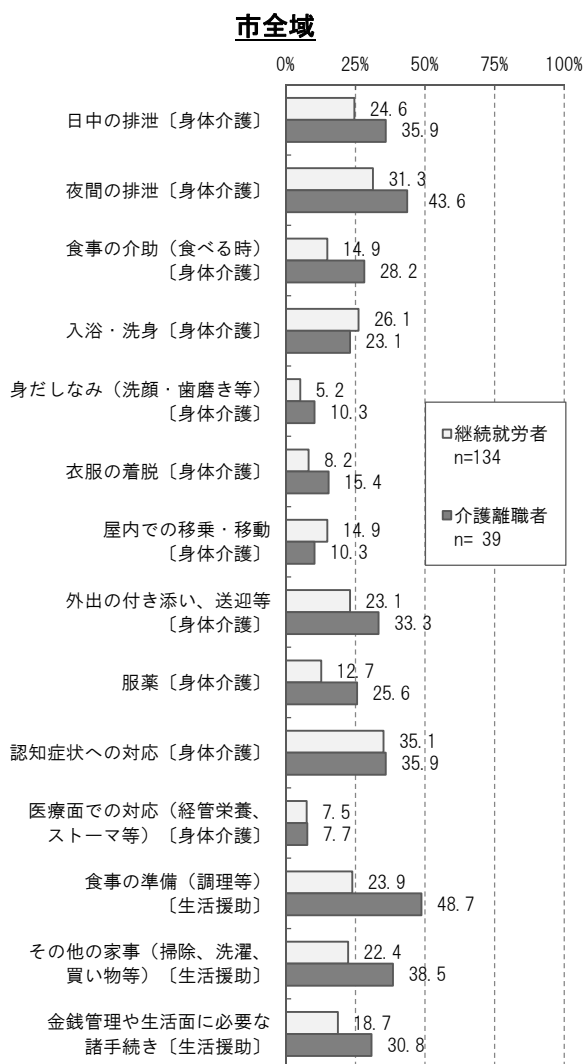
(2) 家族介護者の介護状況

○主な介護者が現在の生活を今後も続けていくうえで不安に思う介護等をみると、市全域では介護離職者が「食事の準備（調理等）」（48.7%）、「夜間の排泄」（43.6%）、継続就労者が「認知症状への対応」（35.1%）、「夜間の排泄」（31.3%）でそれぞれ高くなっています。

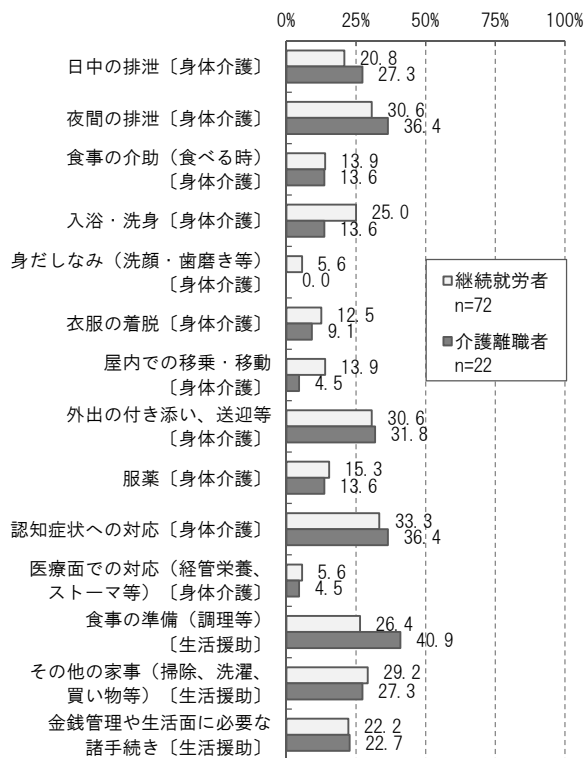
○圏域別にみると、継続就労者では「恵那中央」圏域で「認知症状への対応」（33.3%）、「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」（各30.6%）、「恵那北部」圏域で「認知症状への対応」（50.0%）、「恵那南部」圏域で「認知症状への対応」（34.0%）、「夜間の排泄」（32.0%）「日中の排泄」（30.0%）となっており、全ての圏域で「認知症状への対応」が上位に挙がっています。

（圏域別の介護離職者は該当者が少ないためコメントを省略）

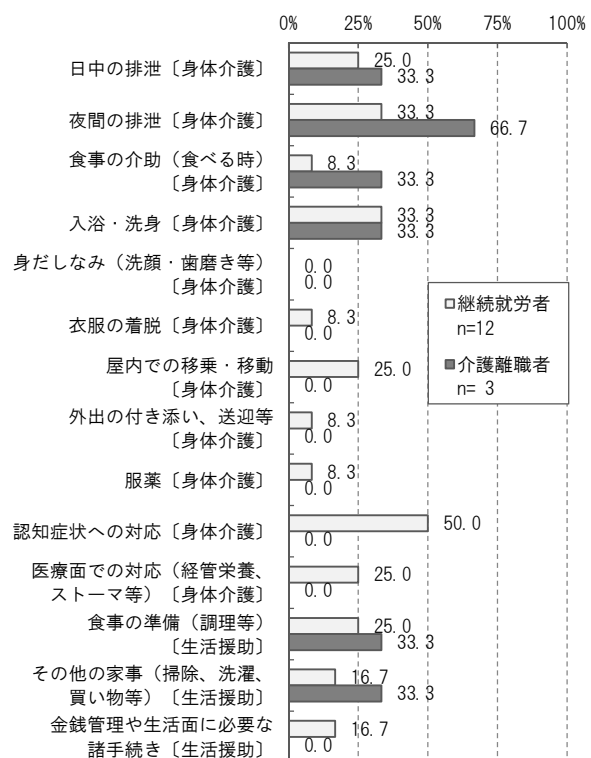
図 7.23 主な介護者が不安に思う介護等



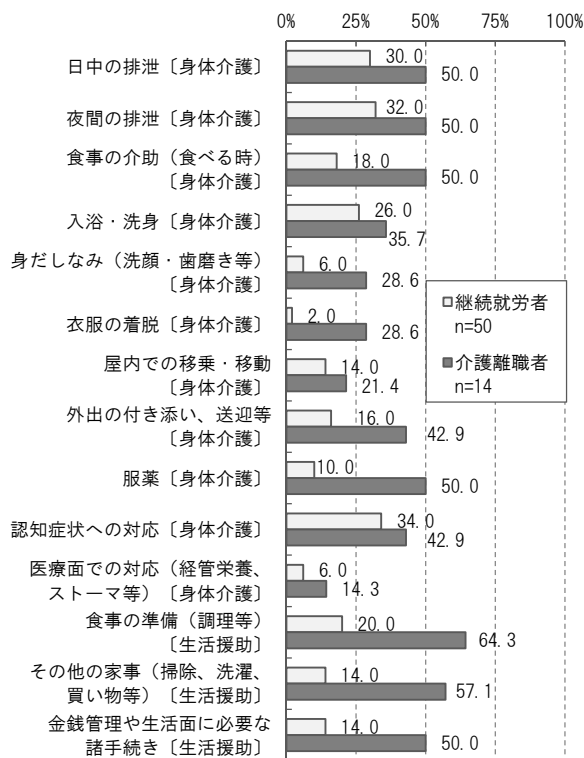
恵那中央



恵那北部



恵那南部



(3) 介護給付サービス利用状況

○介護離職者が介護している方のサービス利用状況をみると、市全域では「訪問系のみ」(5.1%)、「訪問系を含む」(12.8%)「通所系・短期系のみ」(15.4%)となっています。(圏域別は介護離職者が少数のためコメントを省略)

○継続就労者が介護している方のサービス利用状況は「恵那北部」「恵那南部」圏域で「訪問系を含む」が市全体を上回っています。

○就労している介護者で両立を継続できると回答した方のサービス利用状況は、全ての圏域で「訪問系を含む」の利用割合が高くなっています。

○上記の方の訪問系サービスの利用日数をみると、市全域では「1～10日」が41.4%、「11～20日」が37.9%、「21日以上」が20.7%となっており、「恵那中央」圏域も同様の傾向が見られます。

(「恵那北部」圏域は対象者が少数のためコメントを省略)

図 7.24-1 要介護者のサービス利用状況 (介護離職者)

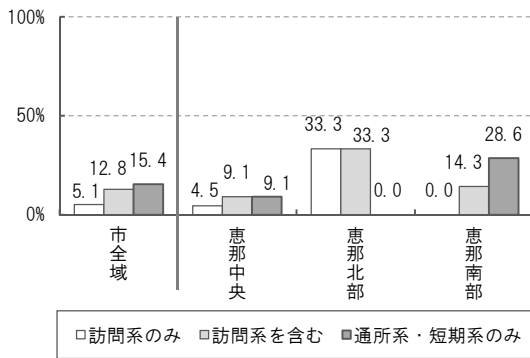
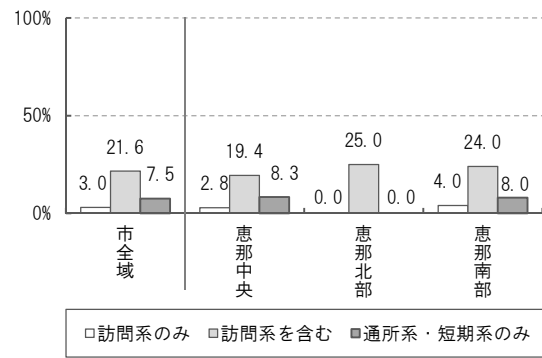


図 7.24-2 要介護者のサービス利用状況 (継続就労者)



※介護離職者：問 23 で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方の割合

※継続就労者：①問 23 で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 24 で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計

図 7.25 要介護者のサービス利用状況 (今後も両立できる介護者)

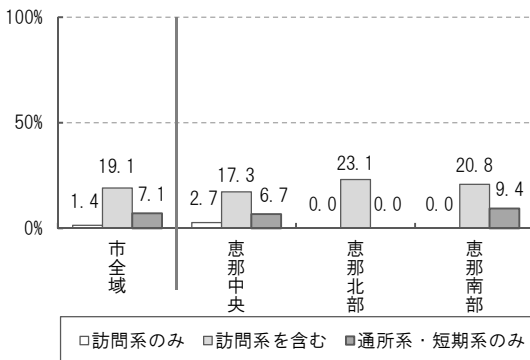
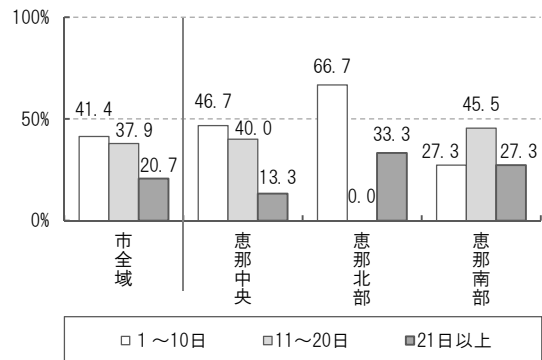


図 7.26 訪問系サービスの利用日数 (今後も両立できる介護者)



6 住まいのニーズ

(1) 認定者の施設入所意向

- 認定者の介護施設等への入所意向割合を介護度別にみると、市全域では「要介護5」「要介護4」での入所意向が5割以上を超え高くなっています。
 - 圏域別にみると、「恵那中央」圏域では「要介護3」「要介護4」「要介護5」が、「恵那南部」圏域では「要介護3」が市全域より高くなっています。
 - 施設入所意向のある要介護者の推計人数をみると、市全域では「要介護4」で200人を超えているものの、「要介護1」「要介護2」でも200人に近くとなっています。
 - 圏域別では、「恵那中央」圏域で「要介護4」「要介護3」、「恵那南部」圏域で「要介護1」「要介護2」で多くなっており、「恵那南部」圏域では介護度で入所意向のある方が多いことがうかがえます。
- (「恵那北部」圏域は対象者が少数のためコメントを省略)

図 7.27 認定者の介護施設等への入所意向割合

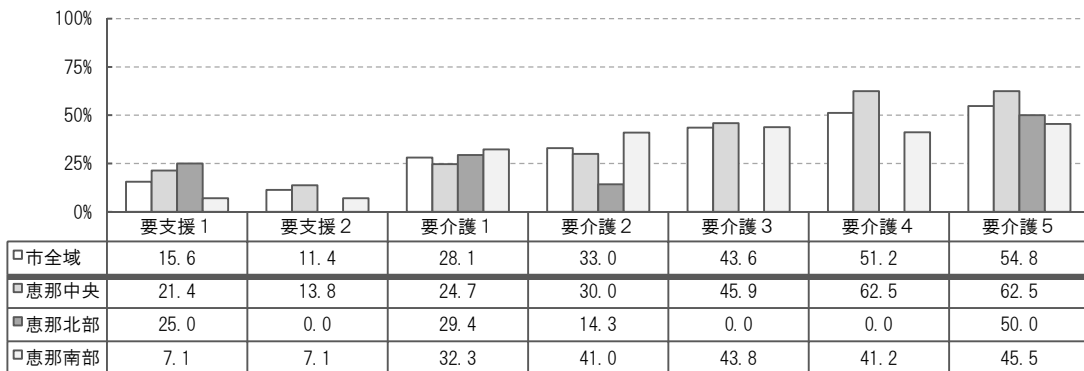
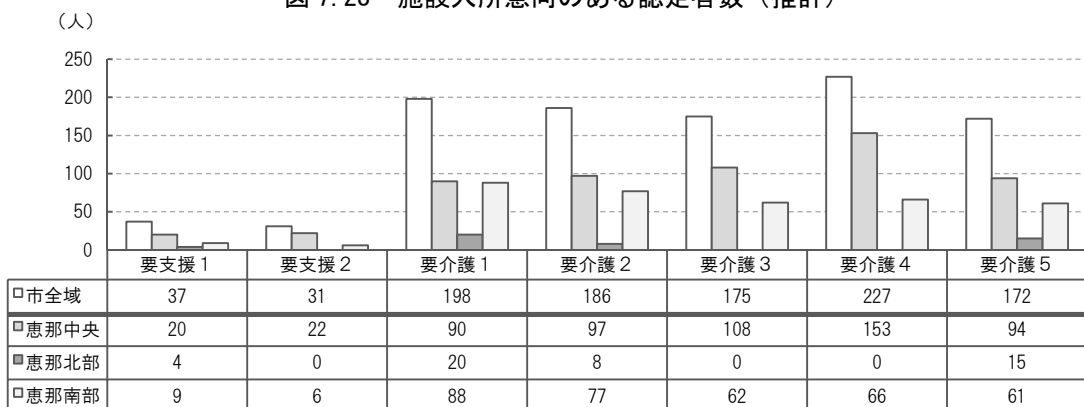


図 7.28 施設入所意向のある認定者数（推計）



- 世帯類型別にみると、市全域では「単身世帯」「夫婦のみ世帯」で高くなっています。
 - 圏域別にみると、「単身世帯」「夫婦のみ世帯」ともに「恵那南部」圏域で10.5ポイント・5.5ポイント市全域より上回っています。「恵那中央」「恵那北部」圏域では全ての世帯類型で市全域より低くなっています。
 - また、訪問系サービスの利用状況別の施設入所意向をみると、市全域では「訪問系含む」が高く、「恵那中央」圏域では「通所系・短期系のみ」で市全域より13.5ポイント上回っています。
- （「恵那北部」圏域は回答数が少ないためコメントを省略）

図 7.29 要介護者の世帯類型別施設入所希望

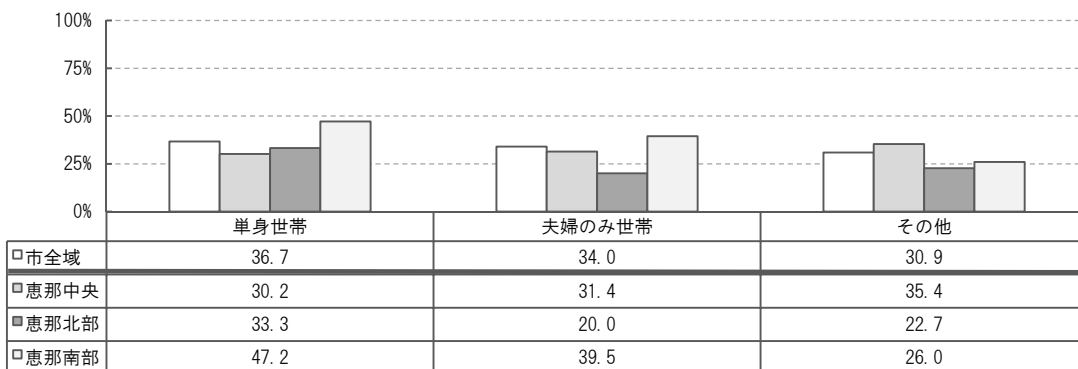
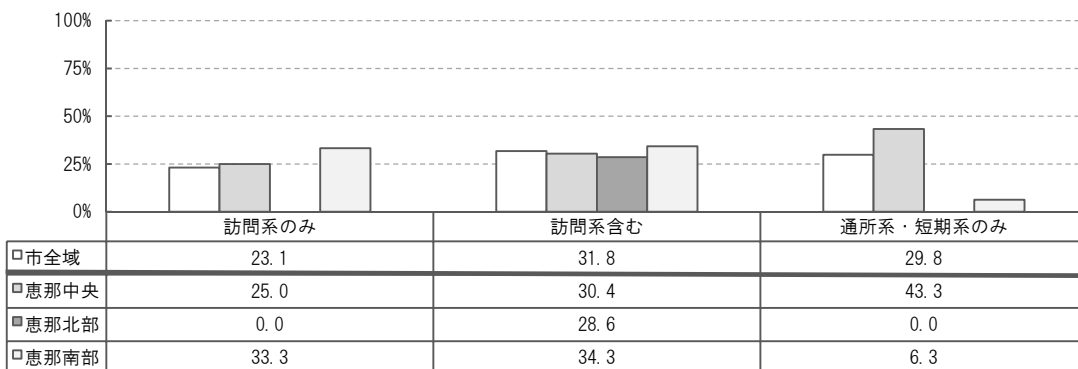


図 7.30 要介護者のサービス利用状況別施設入所希望



7 地域資源等の把握

(1) 地域活動への参加意向状況

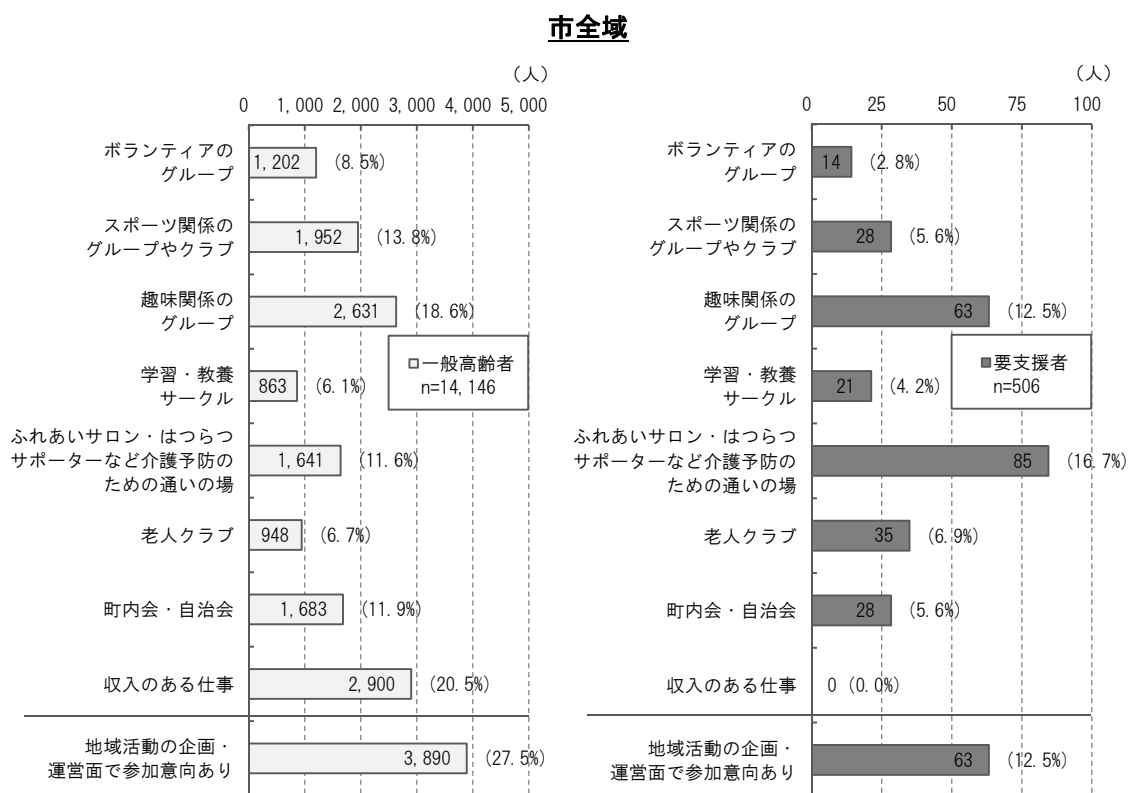
○一般高齢者の地域活動への参加意向状況をみると、市全域では「収入のある仕事」「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」の順に20.5～13.8%の方々が参加し、「恵那北部」圏域を除く全ての圏域で順位の前後はあるものの上位3位までは同じ活動項目となっています。

○市全域の要支援者では「ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場」(16.7%)「趣味関係のグループ」(12.5%)の順に参加され、「恵那北部」圏域を除く全ての圏域で、上位2位までは同じ活動項目となっています。

○一般高齢者の支援活動の企画・運営面での参加意向を圏域別にみると、「恵那北部」圏域(29.8%)「恵那南部」圏域(29.7%)が市全域(27.5%)より高く、要支援者では「恵那中央」圏域(14.3%)市全域(12.5%)より高くなっています。

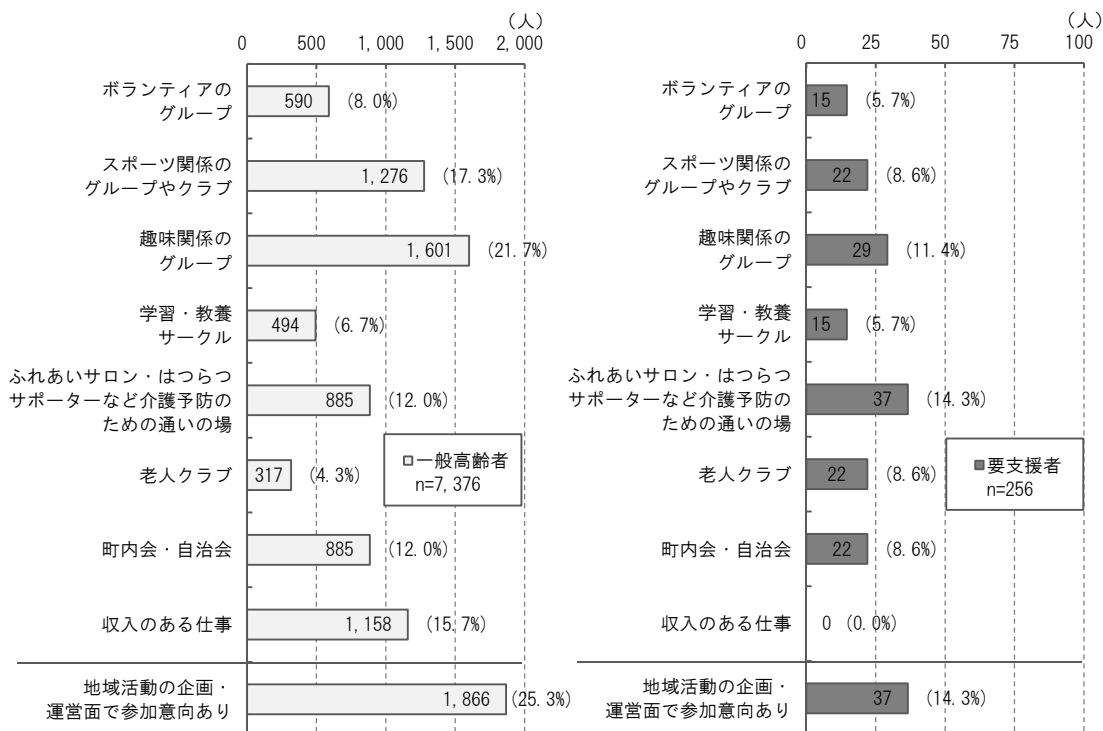
(「恵那北部」圏域は回答数が少ないためコメントを省略)

図 7.31 高齢者の活動状況と企画運営支援意向 (推計)

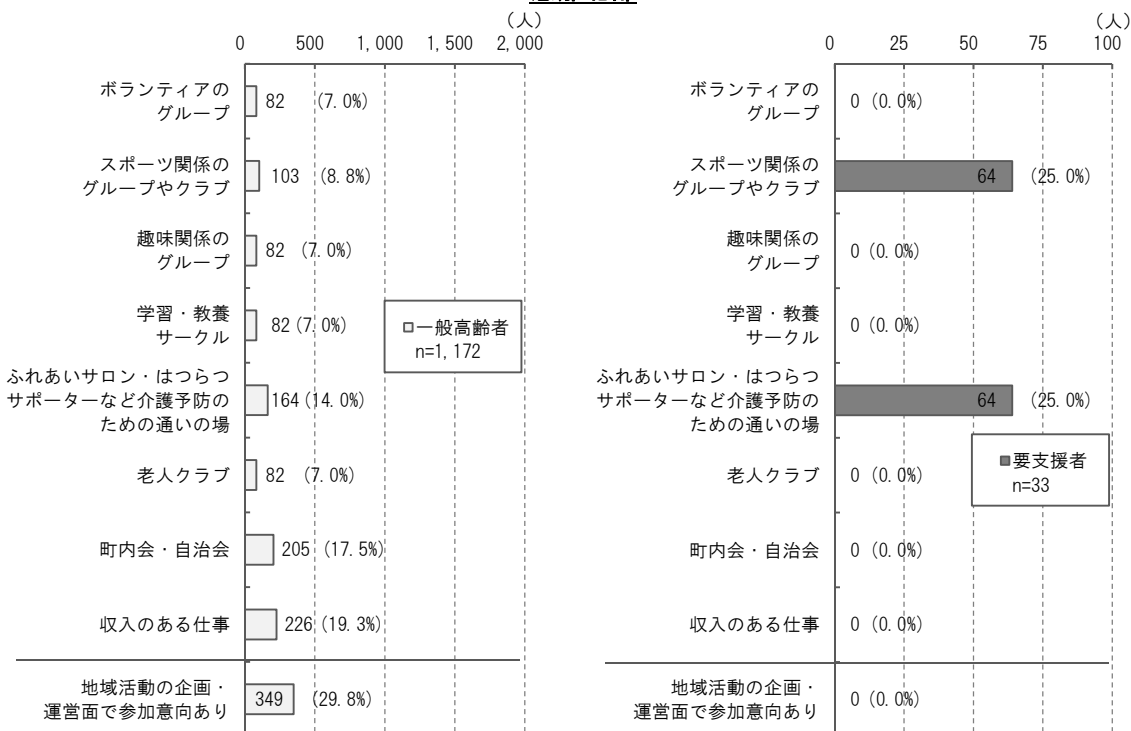


※問 55①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問 57 地域活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」に回答した割合です。

恵那中央

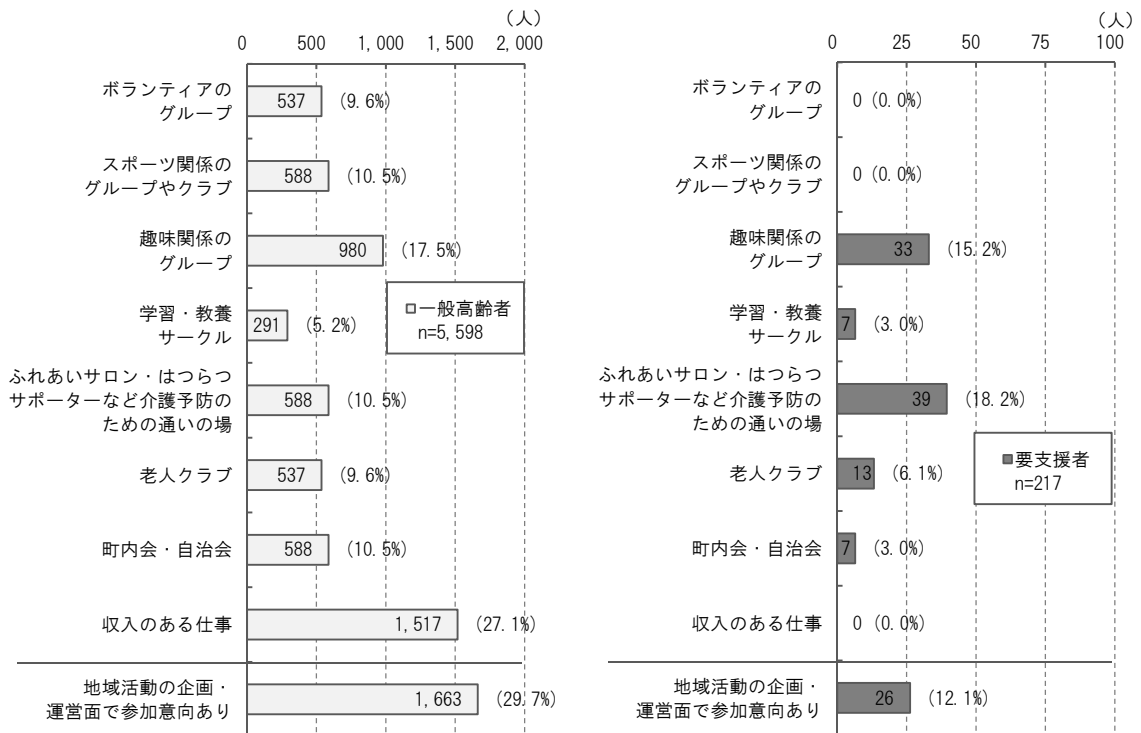


恵那北部



※問 55①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問 57 地域活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」に回答した割合です。

恵那南部



※問 55①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤ふれあいサロン・はつらつサポーターなど介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問 57 地域活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」に回答した割合です。

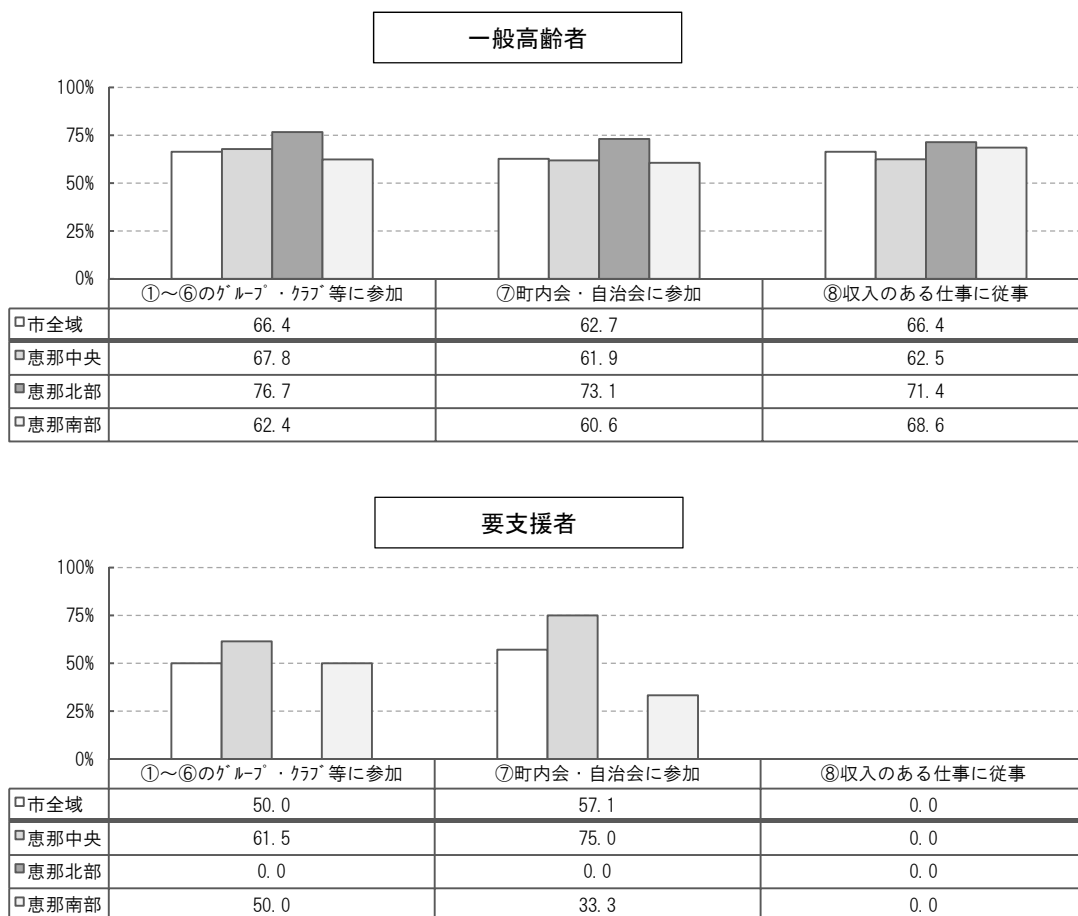
(2) 社会参加と生きがい

○一般高齢者が参加している地域活動の種類別に生きがい感をみると、市全域では「①～⑥のグループ・クラブ等」「⑧収入のある仕事」「⑦町内会・自治会」の順に66.4～62.7%の方々が生きがいを感じていると回答しています。

○圏域別にみると、一般高齢者では「恵那中央」圏域は「①～⑥のグループ・クラブ等」、「恵那北部」圏域は全ての活動で、「恵那南部」圏域は「⑧収入のある仕事」で市全域より高くなっています。

(要支援者は回答数が少ないためコメントを省略)

図 7.32 地域活動参加者が生きがいを感じている割合

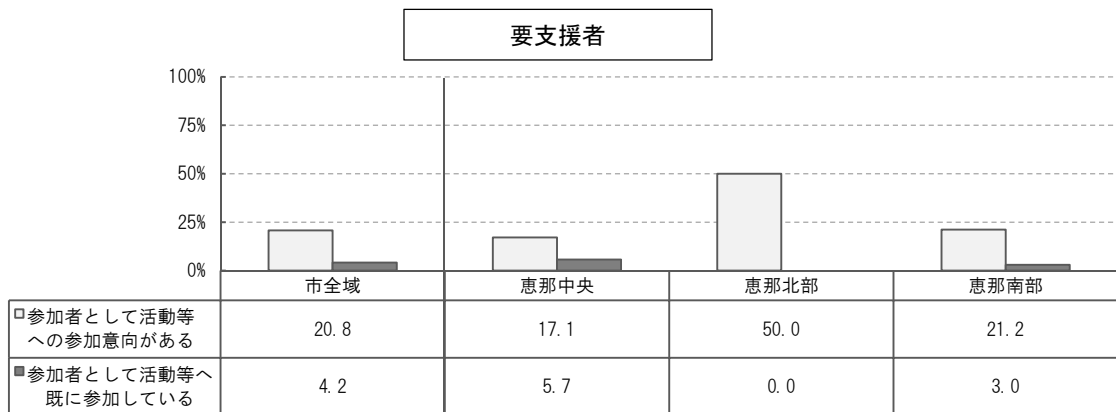
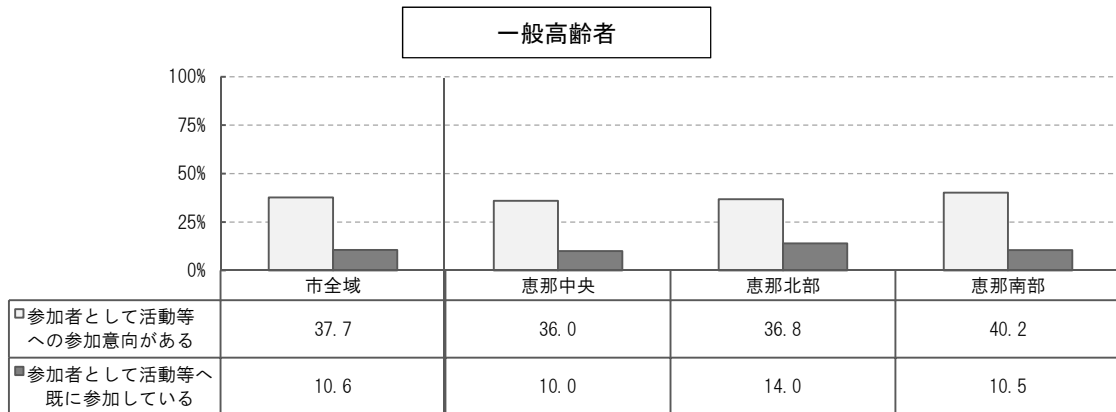


○一般高齢者の地域活動に対する参加意向をみると、「参加者として活動等への参加意向がある」では「恵那南部」圏域（40.2%）で市全域（37.7%）より高くなっています。

○また、「参加者として活動等へ既に参加している」では「恵那北部」圏域（14.0%）が市全域（10.6%）より高くなっています。

（要支援者は回答数が少ないためコメントを省略）

図 7.33 地域活動に参加者としての参加意向

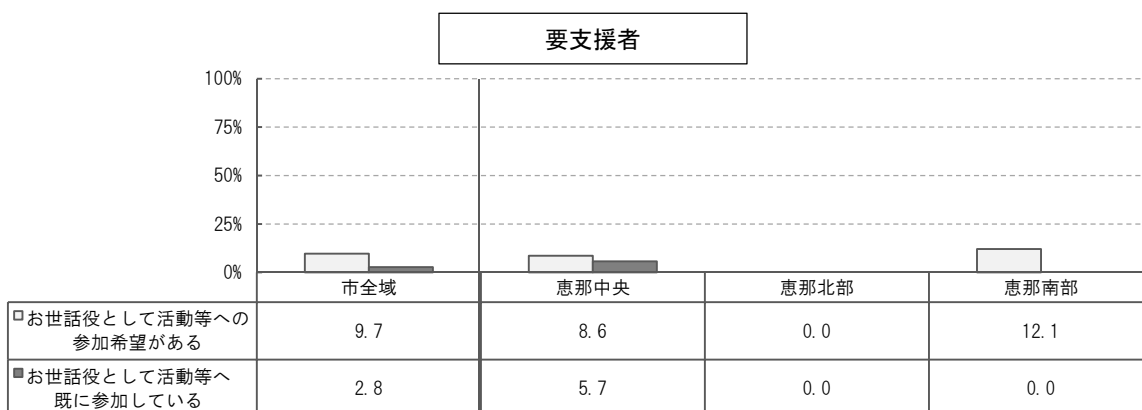
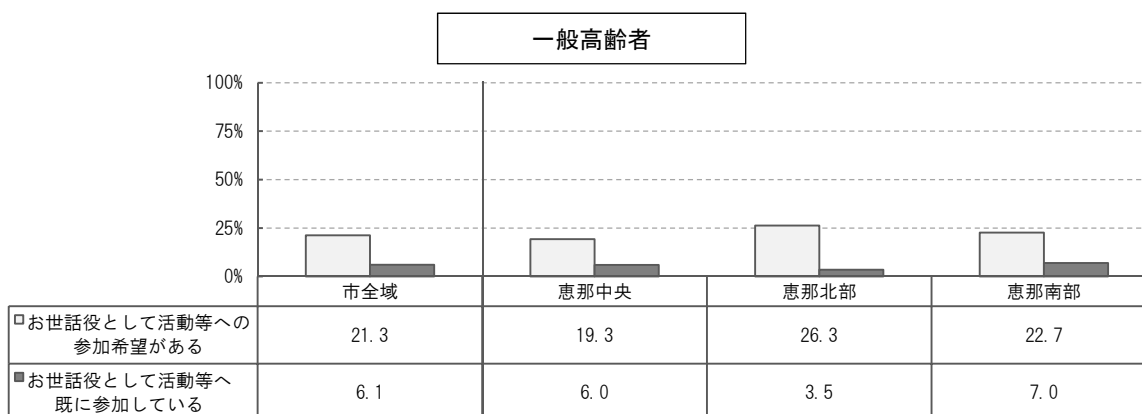


○一般高齢者の地域活動に対する参加意向をみると、「お世話役として活動等への参加希望がある」では「恵那北部」圏域（26.3%）、「恵那南部」圏域（22.7%）で市全域（21.3%）より高くなっています。

○また、「お世話役として活動等へ既に参加している」では「恵那南部」圏域（7.0%）が市全域（6.1%）より高くなっています。

（要支援者は回答が少ないためコメントを省略）

図 7.34 地域活動にお世話役としての参加意向



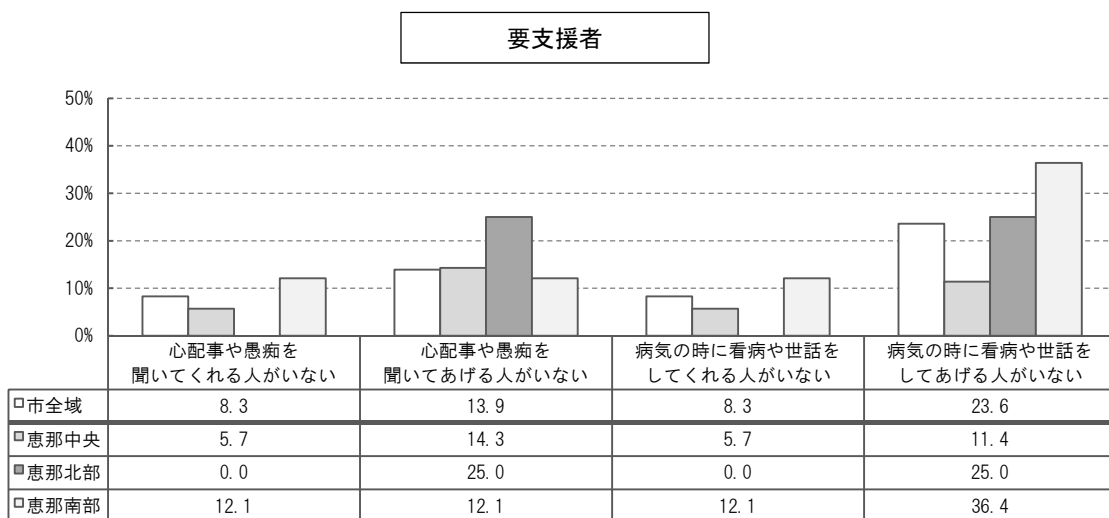
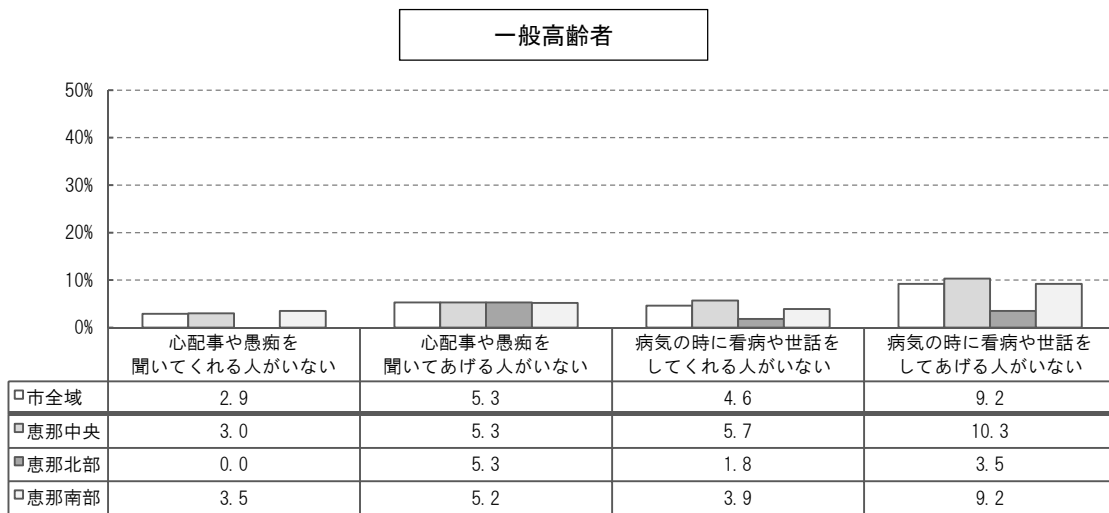
○たすけあいの状況をみると、市全域では一般高齢者は「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」(9.2%)が最も高く、次いで「心配事や愚痴を聞いてあげる人がいない」(5.3%)、「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」(4.6%)、「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない」(2.9%)となっています。

○要支援者では「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」(23.6%)が最も高く、次いで「心配事や愚痴を聞いてあげる人がいない」(13.9%)となっています。

○圏域別にみると、「恵那中央」圏域では「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない」、「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」、「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいない」、「恵那南部」圏域では「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない」で市全域より高くなっています。

(要支援者は回答が少ないためコメントを省略)

図 7.35 たすけあいの状況



※問 58~61 で、「そのような人はいない」と回答した割合です。

8 高齢者の公共交通機関の利用状況

○外出する際の公共交通機関の利用率をみると、市全域では一般高齢者は15.4%、要支援者は12.5%となっています。

○圏域別にみると、一般高齢者では「恵那北部」圏域が、要支援者では「恵那中央」圏域で市全域より高くなっています。

○公共交通利用者数の推計人数をみると、市全域では一般高齢者が約2,100人、となっており「恵那中央」圏域で最も高くなると予測されます。

図 7.36 高齢者の公共交通利用率

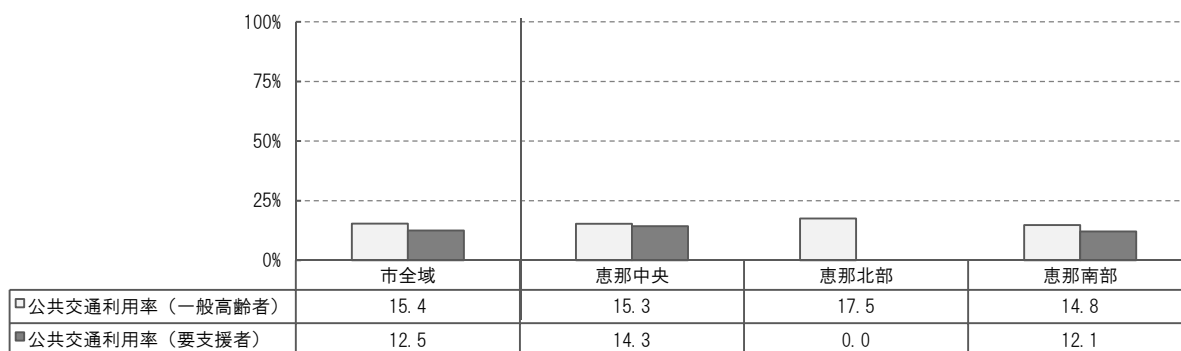


図 7.37 高齢者の公共交通利用率の地域差

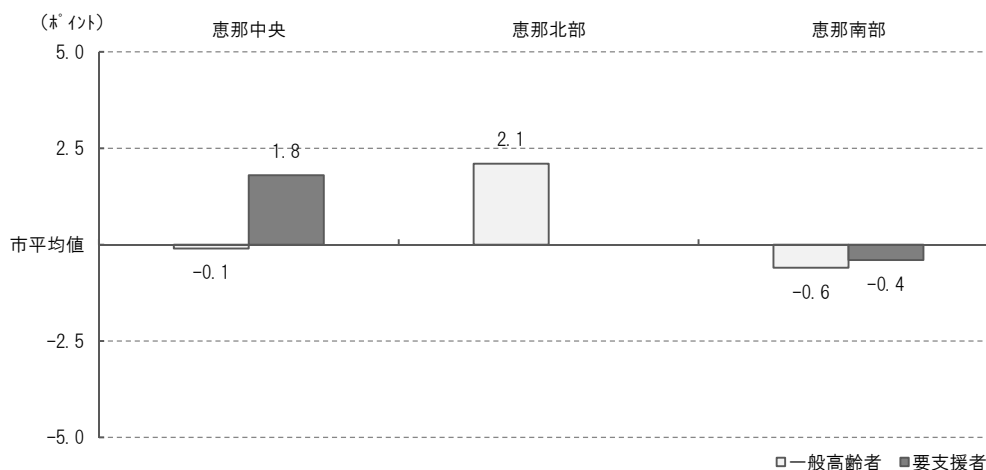
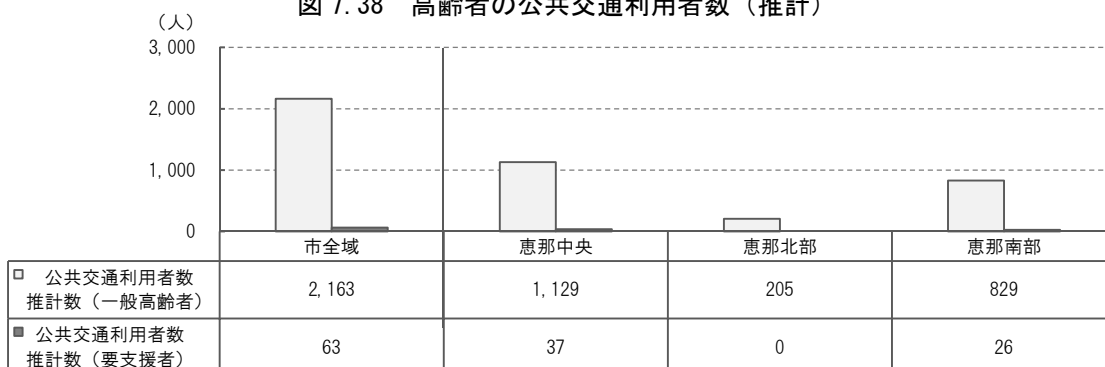


図 7.38 高齢者の公共交通利用者数（推計）



9 健康について

(1) 高齢者の健康感や幸福感

① 一般高齢者の主観的健康感

○一般高齢者の主観的健康感をみると、市全域では「まあよい」(66.9%)が最も高く、次いで「あまりよくない」(19.1%)、「とてもよい」(8.5%)となり、圏域別でも同様の傾向となっています。

○また、主観的健康感で「あまりよくない」と「よくない」の合計を圏域別にみると、「恵那中央」「恵那南部」圏域で市全域より高く、「恵那北部」圏域で低くなっています。

図 7.39 主観的健康感

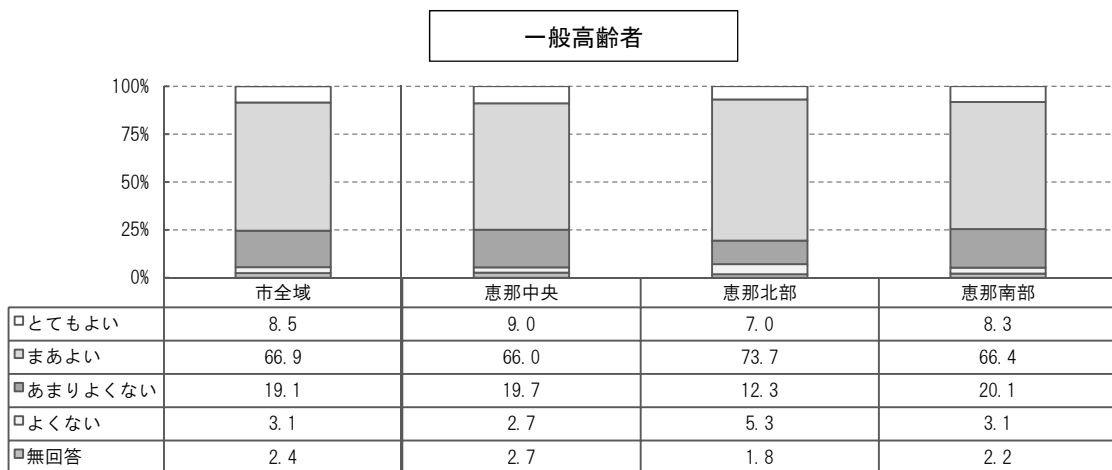
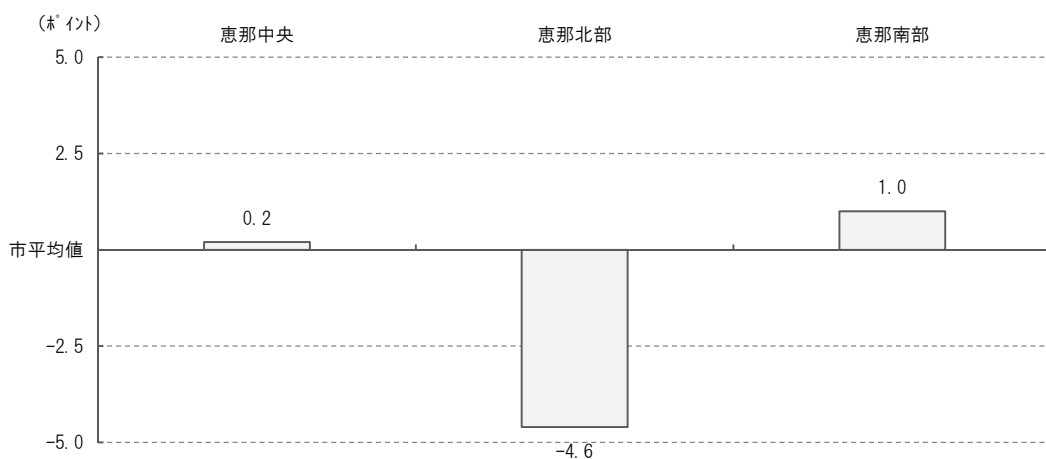


図 7.40 主観的健康感（「あまりよくない」＋「よくない」）の地域差



② 主観的幸福感

○主観的幸福感の平均点数をみると、市全域では一般高齢者が7.0点、要支援者が6.9点となっています。

○圏域別でみると、一般高齢者では「恵那北部」圏域、要支援者では「恵那中央」「恵那北部」圏域で市平均より高くなっています。

図 7.41 主観的幸福感（平均点数）

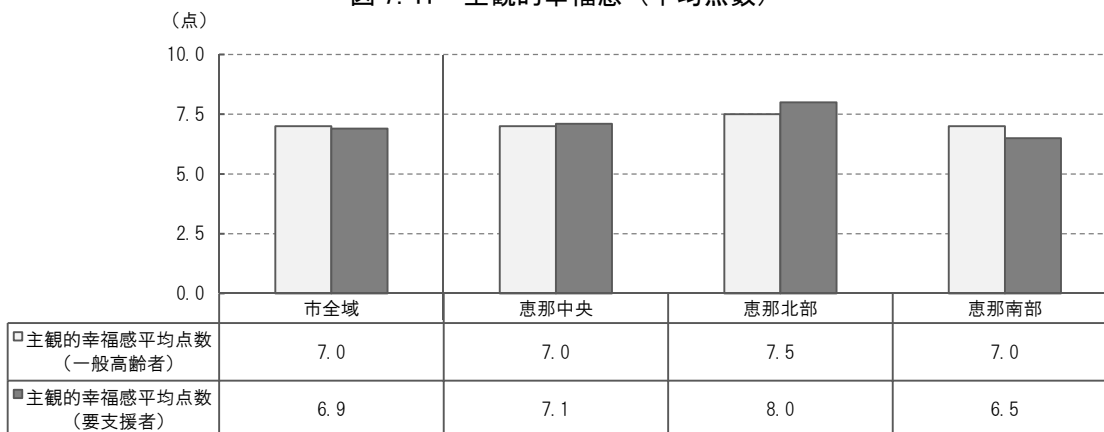
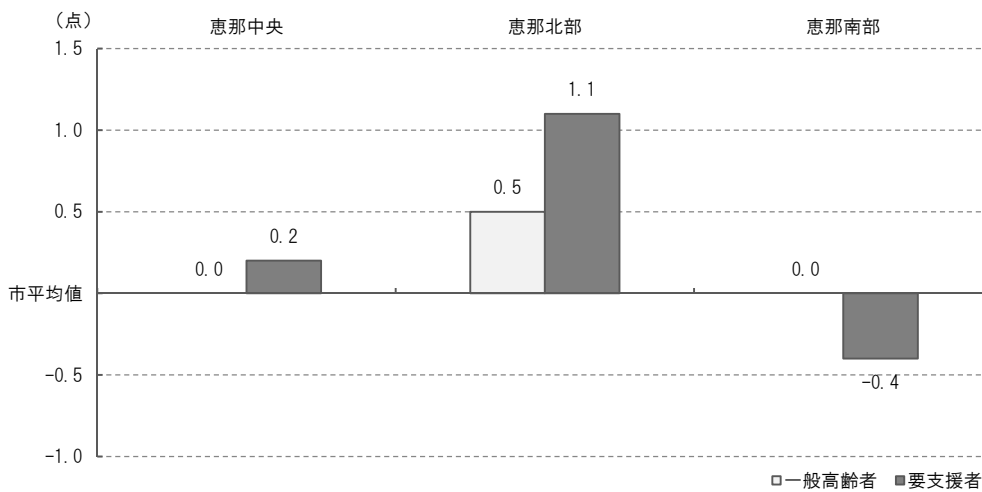


図 7.42 主観的幸福感の地域差



(2) 誰かとともに食事をする頻度

○誰かとともに食事をする頻度をみると、市全域では一般高齢者は「毎日ある」(52.6%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(19.1%)、「年に何度かある」(10.8%)となり、「恵那中央」「恵那南部」圏域でほぼ同様の傾向となっています。

○市全域の要支援者では「毎日ある」(41.7%)が最も高く、次いで「週に何度かある」「月に何度かある」(各16.7%)となり、「恵那中央」「恵那南部」圏域でほぼ同様の傾向となっています。

(恵那北部圏域は回答数が少ないためコメントを省略)

○一方、「ほとんどない」と回答した割合は市全域では、一般高齢者が5.5%、要支援者が9.7%となり、地域差をみると一般高齢者は「恵那南部」圏域、要支援者は「恵那中央」圏域で、市平均値より高くなっています。

(恵那北部圏域は回答数が少ないためコメントを省略)

図 7.43 誰かとともに食事をする頻度

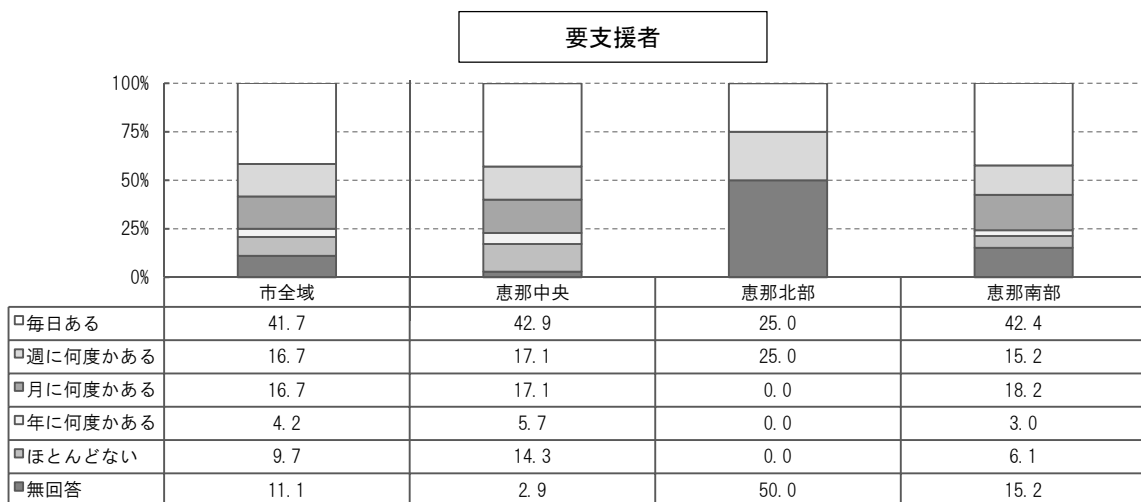
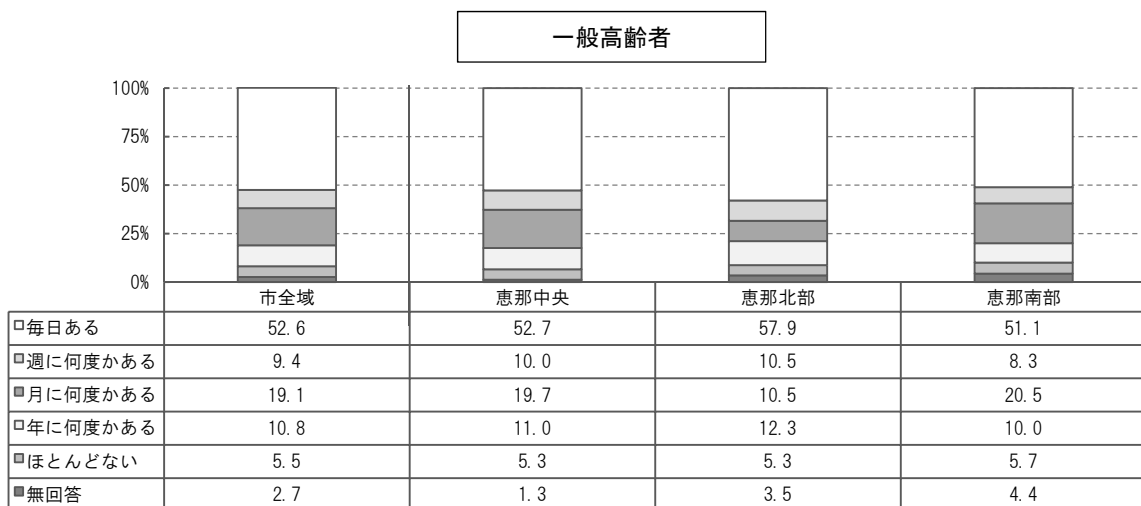
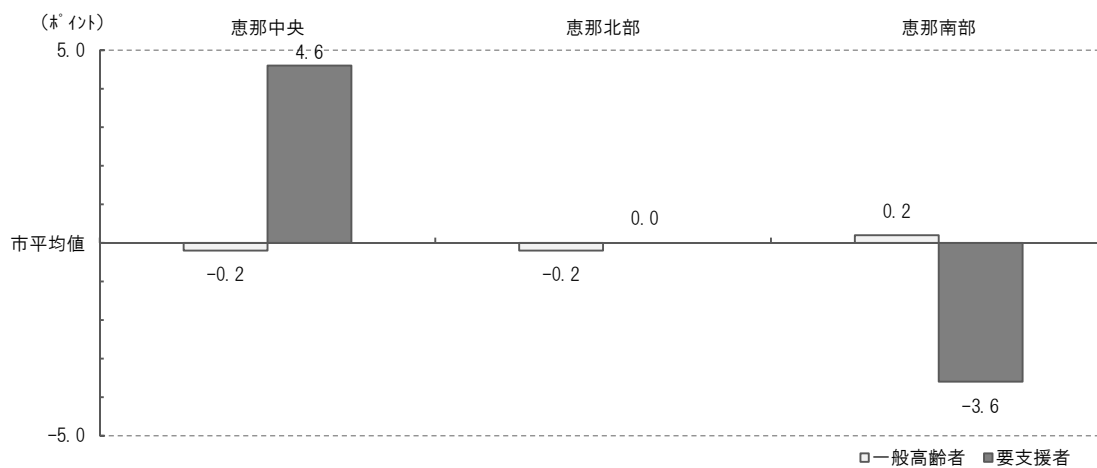


図 7.44 誰かとともに食事をしない回答者の地域差



※問 30 で、「ほとんどない」に回答した割合の差です。

資料編

資料編

1 電算処理の判定条件等

集計等の電算処理にあたっては、以下の判定条件に基づいて行いました。

■高齢者像の判定条件（該当設問に無回答があれば、「判定できず」とする）

項 目	判定条件
<p>元気高齢者</p> <p>※要支援・要介護認定者を除く65歳以上の高齢者のうち、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、軽度認知機能障害対象者に該当していない、健康で元気に暮らしている65～74歳（前期高齢者）の方を称しています。</p>	<p>●要支援・要介護認定者以外 and</p> <p>●介護予防事業対象者以外 and</p> <p>●生活支援事業対象者以外 and</p> <p>●軽度認知機能障害該当者以外and</p> <p>●74歳以下 and</p> <p>●問66で「1. とてもよい」に回答</p>
<p>旧一次予防事業対象者</p> <p>※要支援・要介護認定者を除く65歳以上の高齢者のうち、元気高齢者、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、軽度認知機能障害該当者に該当していない方を称しています。</p>	<p>●要支援・要介護認定者以外 and</p> <p>●元気高齢者以外 and</p> <p>●介護予防事業対象者以外 and</p> <p>●生活支援事業対象者以外 and</p> <p>●軽度認知機能障害該当者以外</p>
<p>介護予防事業対象者</p> <p>※旧二次予防事業対象者。 要支援・要介護認定者を除く65歳以上の高齢者のうち、要支援又は要介護状態になるおそれがあると判定された方を称しています。</p>	<p>●「運動器の機能低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」「閉じこもり傾向」「認知機能の低下」「うつ傾向」「虚弱」リスク判定のいずれかの該当者</p>
<p>生活支援事業対象者</p> <p>※下記①②に該当する高齢者を称します。 ①要支援認定者のうち基本チェックリストの7つの基準のいずれかに該当した方 ②65歳以上高齢者のうち基本チェックリストの7つの基準のいずれかに該当した方</p>	<p>①要支援認定者 and</p> <p>●問4で「1. 1人暮らし」or「2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」or問4-1で「1. よくある」に回答 or ②介護予防事業対象者 and</p> <p>●問4で「1. 1人暮らし」or「2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」に回答 or問4-1で「1. よくある」に回答</p>
<p>軽度認知機能障害該当者 （認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当）</p> <p>※認知機能の障害程度がレベルⅠ（境界域）・レベルⅡ（軽度）に該当した高齢者を称し、認知症の予防効果が見込める軽度認知機能障害該当者として位置づけています。</p>	<p>●CPS（認知機能尺度、認知機能障害の程度）を用いたリスク判定で「レベルⅠ」「レベルⅡ」に該当した方</p>

■リスクの判定条件

項 目		判定条件
虚弱	該当	・ 10点以上
	非該当	・ 0点以上9点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
運動器の機能低下	該当	・ 3点以上
	非該当	・ 0点以上2点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
口腔機能の低下	該当	・ 2点以上
	非該当	・ 0点以上1点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
低栄養の傾向	該当	・ 2点
	非該当	・ 0点以上1点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
閉じこもり傾向	該当	・ 1点
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 判定設問に無回答があった場合
認知機能の低下	該当	・ 1点
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 判定設問に無回答があった場合
うつ傾向	該当	・ 1点以上
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合

■虚弱の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問9	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」：1点
問10	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問11	15分位続けて歩いていますか	
問12	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または 「2. 1度ある」：1点
問13	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」：1点
問14	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または 「2. 週1回」：1点
問15	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または「2. 減っている」：1点
問23	身長（ ）cm 体重（ ）kg	BMI<18.5：1点
問24	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」：1点
問25	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問26	口の渇きが気になりますか	
問29	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」：1点
問32	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」：1点
問35	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「3. できない」：1点
問36	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「3. できない」：1点
問39	自分で預貯金の出し入れをしていますか	
問33	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」：1点
問34	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」：1点
問44	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」：1点
問45	家族や友人の相談にのっていますか	

※10点以上：該当 0点以上9点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

※問35、問36、問39の判定について、国判定では「2. できるけどしていない」or「3. できない」が1点となりますが、高齢者の実情により沿った判定とするため、判定条件を上記のとおりとしています。

■運動器の機能低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問9	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」：1点
問10	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問11	15分位続けて歩いていますか	
問12	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または 「2. 1度ある」：1点
問13	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」：1点

※3点以上：該当 0点以上2点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■口腔機能の低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問24	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」：1点
問25	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問26	口の渇きが気になりますか	

※2点以上：該当 0点以上1点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■低栄養の傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問23	身長（ ）cm 体重（ ）kg	BMI<18.5：1点
問29	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」：1点

※2点：該当 0点以上1点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■閉じこもり傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問14	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または 「2. 週1回」：1点

※1点：該当 0点：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■認知機能の低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問32	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」：1点

※1点：該当 0点：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■うつ傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問 68	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」：1点
問 69	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	

※1点以上：該当 0点：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■IADL（手段的自立度）の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問 35	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」：1点
問 36	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 37	自分で食事の用意をしていますか	
問 38	自分で請求書の支払いをしていますか	
問 39	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

※5点：問題なし 4点：やや低い 0～3点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

■社会参加（知的能動性）の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問 40	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」：1点
問 41	新聞を読んでいますか	
問 42	本や雑誌を読んでいますか	
問 43	健康についての記事や番組に関心がありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

※判定条件の設問に無回答が1項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

■社会参加（社会的役割）の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問 44	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」：1点
問 45	家族や友人の相談にのっていますか	
問 46	病人を見舞うことができますか	
問 47	若い人に自分から話しかけることがありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

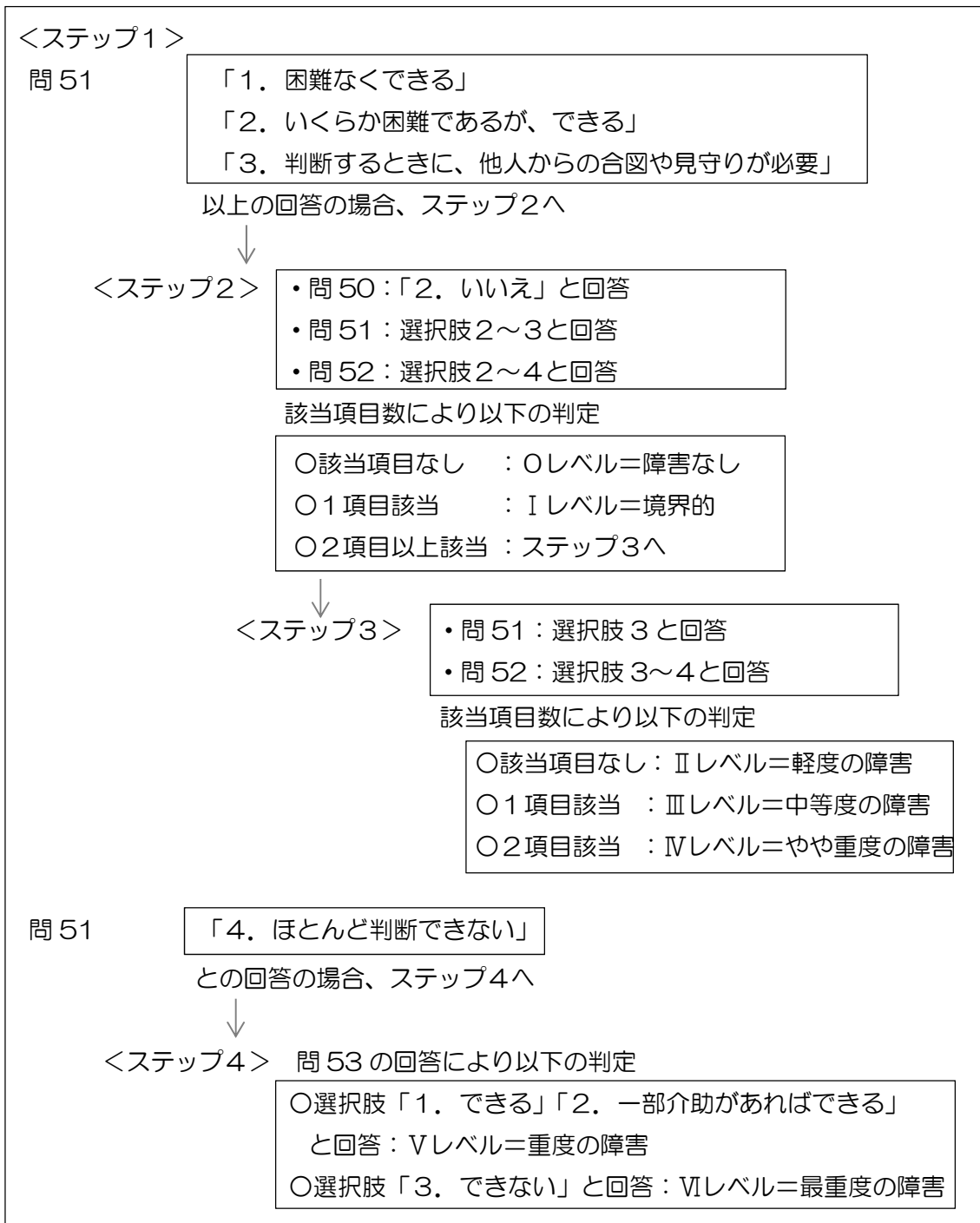
※判定条件の設問に無回答が1項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

■老研指標総合評価

※IADL（手段的自立度）、社会参加（知的能動性）、社会参加（社会的役割）の合計点

11点以上：問題なし 9～10点：やや低い 8点以下：低い

■CPS（軽度認知機能障害）判定ルール



※レベルⅢ～Ⅵ：障害あり、レベルⅠ～Ⅱ：やや障害あり、レベル0：障害なし
 ※判定条件の設問に無回答が1項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

**恵那市第8期高齢者福祉計画・
介護保険事業計画策定のための
実態調査結果報告書**

発行日 令和2年3月

発行元 恵那市 高齢福祉課 介護保険係

住所 〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1

連絡先 TEL：0573-26-2111

FAX：0573-25-7294

URL：<https://www.city.ena.lg.jp>